



東北大学

ISSN 2185-6990

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告 9  
仙台城跡北方武家屋敷地区  
第 15 地点  
第 1 分冊



仙台城跡北方武家屋敷地区第 15 地点 (BK15)  
北東から青葉山方面を望む

東北大学埋蔵文化財調査室

2023







東北大学埋蔵文化財調査室調査報告 9  
仙台城跡北方武家屋敷地区  
第15地点  
第1分冊

東北大学埋蔵文化財調査室

2023





1. 近現代の盛土等除去状況-4層確認状況(上が北:2012年7月11日撮影)



2. 4層除去、5層分布状況(上が北:2012年12月19日撮影)



3. 調査最終段階状況（上が北：2014年12月19日撮影）



4. AL-23区北壁土層断面(南から)



## 序

本報告書は、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』の9冊目として、川内北キャンパスにおける課外活動施設新営工事に伴い実施した、仙台城跡北方武家屋敷地区第15地点の調査成果をまとめたものです。

今回報告する仙台城跡北方武家屋敷地区第15地点の調査は、2012年度から開始されましたが、震災復旧事業、震災復興事業に伴う調査を先行して進める必要があったため、たびたび中断を余儀なくされました。また、この第15地点の調査面積は、当調査室にとっては最大面積となるもので、それに伴い多種多様な遺構や膨大な数の遺物が出土しました。このような事情があり、2015年1月まで調査を継続する必要がありました。

その後の報告書刊行作業についても、大量のデータと遺物の整理作業には時間がかかります。また、他の調査地点の整理作業や新たな発掘調査と並行しながら本調査地点の整理作業をすることになり、なかなか進展しませんでした。毎年継続的に作業を重ね、ようやく遺構の事実記載を中心とした遺構編を第1分冊として刊行することになりました。今後、遺物と考察を含めた第2分冊を刊行する予定となっています。

調査の実施から報告書の刊行まで、大学内外の関係機関の御協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼申し上げますとともに、本書で報告されるデータが各方面で活用されることを望むものです。

東北大学埋蔵文化財調査室

室長 鹿又喜隆

## 例 言

1. 本調査報告は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査室が2012～2015年度に行った仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点の調査成果のうち遺構をまとめた第1分冊である。遺物及び考察については、第2分冊にて詳述する予定である。
2. 報告する遺跡と略号、調査期間、調査担当者は以下のとおりである。

遺跡と略号：仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区 (BK15)

調査期間：本 体 2012年5月14日～2015年1月26日 (途中で中断期間あり)  
外 構 2016年1月12日～2月22日 (確認調査)

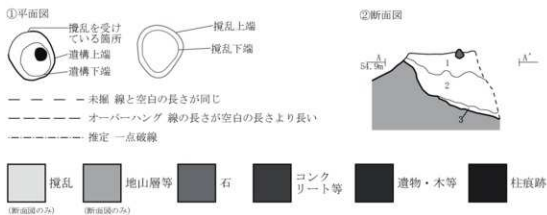
調査面積：本体1,503.2㎡、関連区68.0㎡

調査担当者：菅野智則、柴田恵子、石橋 宏 (2015年度)、藤沢 敦 (2012～2014年度)  
大久保弥生 (技術補佐員 :2013年度)、田中則和 (技術補佐員 :2014年度)
3. 調査・整理作業は、東北大学埋蔵文化財調査室が行った。
4. 本報告の編集・執筆は、菅野智則が担当した。英文作成は、グリーン野百合が行った。
5. 本調査区名の正式な名称は、仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点であるが、本文中では省略して武家屋敷地区第15地点と表記する。
6. これまでに、本調査の概要は「年次報告」2012～2015、「平成25年度宮城県遺跡調査成果発表会」(宮城県考古学会主催、2013年12月7日開催)にて公表してきた。それらの内容より、本報告書の内容が優先する。
7. 発掘調査および整理・本報告書作成にあたっては、以下の方々や関係機関から御指導・御協力を賜った。記して感謝申しあげる (敬称略)。なお、所属については当時の所属を表記した。

仙台市教育委員会、宮城県教育委員会、東北大学大学院文学研究科考古学研究室、  
阿子島香・鹿又喜隆 (東北大学)、松本秀明 (東北学院大学)、早田 勉 (火山医考古学研究所)
8. 出土遺物・調査記録は、東北大学埋蔵文化財調査室で保管・管理している。

## 凡 例

1. 図1・2の背景の元図は、国土地理院発行の1万分の1地形図（『青葉山』）を使用した。また、図1の地形区分は、仙台市科学館1985『仙台市地形区分図』をもとにしている。図3-1の空中写真は、太平洋戦争末期米軍撮影偵察写真（米国国立公文書館所蔵、国土地理院提供）1945（昭和20）年5月24日撮影のものである。図3のほかの地形図と図4・5の絵図・地形図の出典は、それぞれに示した。また、図7で使用している川内北地区の地形測量図は、仙台市教育委員会作成の「仙台城跡地形図」（縮尺500分の1）を使用している。
2. 挿図・写真等の方位、縮尺等は、それぞれに示した。
3. 引用・参考文献は、巻末にまとめた。また、本文中で当室が刊行した報告書類を引用する際には、下記のように略した。  
 例 『東北大学埋蔵文化財調査年報』1 … 『年報』1  
 『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2008 … 『年次報告』2008  
 『東北大学埋蔵文化財調査報告』1 … 『調査報告』1
4. 元号と西暦の表記は、通常は「西暦（元号）年」（例えば「2015（平成27）年」）と表記する。ただし、その章で近世・近代が主体となる場合は、「元号（西暦）年」（例えば「天明6（1786）年」）と表記する。
5. 挿図中の表記は、特に指示しないものについては、以下の通りである。これら以外については、それぞれに表記している。



# 目次

巻頭カラー図版	(4) 遺物の取り上げについて	18
序	(5) 整理作業	18
例言	第Ⅲ章 基本層序と時期区分	30
凡例	1. 基本層序	30
目次	2. 関連区の調査	40
図目次	3. 遺構の時期比定と段階区分	40
表目次	第Ⅳ章 検出遺構	43
写真図版目次	1. 3層上面の遺構	43
第Ⅰ章 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区の 立地と歴史	2. 4・5層上面の遺構 (Ⅳ期)	43
1. 仙台城と周辺武家屋敷の立地	(1) 4層上面の遺構 (Ⅳb期)	43
2. 仙台城と仙台城下の武家屋敷	(2) 5層上面の遺構 (Ⅳa期)	43
(1) 仙台城の歴史	3. 江戸時代の遺構 (Ⅰ～Ⅲ期)	51
(2) 仙台城周辺の武家屋敷の変遷	(1) 遺構の数	51
3. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区における これまでの調査	(2) Ⅰ期の遺構	52
	(3) Ⅱ期の遺構	82
	(4) Ⅲ期の遺構	122
第Ⅱ章 調査の方法と経過	4. 江戸時代以前の遺構	142
1. 調査地点の位置と調査に至る経緯	5. 小結	144
2. 調査の方法と経過	引用・参考文献	145
(1) 発掘調査の経過	英文要旨	146
(2) 記録方法	写真図版	147
(3) 遺構の名称について	報告書抄録	

# 図目次

図1 仙台城周辺の地形区分図	図18 主要遺構の重複関係 (1)	41
図2 仙台城と二の丸の位置	図19 主要遺構の重複関係 (2)	42
図3 川内地区周辺の地形	図20 近代の遺構	44
図4 川内地区周辺の絵図・地図 (1)	図21 4層遺構等分布状況	45
図5 川内地区周辺の絵図・地図 (2)	図22 4層関連の遺構 (1)	46
図6 川内北地区調査地点	図23 4層関連の遺構 (2)	47
図7 武家屋敷地区第15地点調査区配置図	図24 轍跡確認状況	48
図8 掘乱除去状況	図25 4・5層で確認された沢と溝	49
図9 調査区 (AL-列北壁) 東西土層断面	図26 5層遺構等分布状況	50
図10 調査区南北土層断面	図27 5層の遺構	51
図11 調査区 (18列東壁) 南北土層断面	図28 Ⅰa期の遺構分布状況	53
図12 調査区南壁・地山部土層断面	図29 Ⅰa期の遺構	55
図13 調査区 (AT-AR29区)・65・84・123号 遺構・1号池土層断面	図30 Ⅰa～Ⅰb期の遺構	56
図14 関連区調査状況	図31 Ⅰa～Ⅰc期の遺構 (1)	57
図15 掘乱除去後等高線分布状況 (北側拡張前)	図32 Ⅰa～Ⅰc期の遺構 (2)	58
図16 4層分布状況	図33 Ⅰa～Ⅰc期の遺構 (3)	59
図17 5層の分布状況	図34 Ⅰa～Ⅰc期の遺構 (4)	60
	図35 Ⅰa～Ⅱa期の遺構	61

図 36	I a ~ II e 期の遺構	61	図 76	II b 期の遺構分布状況	101
図 37	I a ~ III b 期の遺構	61	図 77	II b 期の遺構 (1)	102
図 38	I a ~ III c 期の遺構 (1)	62	図 78	II b 期の遺構 (2)	103
図 39	I a ~ III c 期の遺構 (2)	63	図 79	II c 期の遺構分布状況	105
図 40	I a ~ III c 期の遺構 (3)	64	図 80	II c 期の遺構 (1)	106
図 41	I b 期の遺構分布状況	66	図 81	II c 期の遺構 (2)	107
図 42	I b 期の遺構	67	図 82	II c ~ II d 期の遺構 (1)	108
図 43	I b ~ I c 期の遺構	68	図 83	II c ~ II d 期の遺構 (2)	109
図 44	I ~ II c 期の遺構	69	図 84	II c ~ III a 期の遺構	110
図 45	I b ~ III c 期の遺構	70	図 85	II c ~ III c 期の遺構	111
図 46	I c 期の遺構分布状況	71	図 86	II d 期の遺構分布状況	112
図 47	I c 期の遺構 (1)	72	図 87	II d 期の遺構	113
図 48	I c 期の遺構 (2)	73	図 88	II d ~ III a 期の遺構	115
図 49	I c 期の遺構 (3)	74	図 89	II d ~ III b 期の遺構	116
図 50	I c 期の遺構 (4)、I c ~ II a 期の遺構	75	図 90	II d ~ III c 期の遺構 (1)	117
図 51	I c ~ II b 期の遺構 (1)	76	図 91	II d ~ III c 期の遺構 (2)	118
図 52	I c ~ II b 期の遺構 (2)	77	図 92	II d ~ III c 期の遺構 (3)	119
図 53	I c ~ II b 期の遺構 (3)	78	図 93	II e 期の遺構分布状況	120
図 54	I c ~ II b 期の遺構 (4)	79	図 94	II e ~ III a 期の遺構	121
図 55	I c ~ II c 期の遺構 (1)	80	図 95	II e ~ III b 期の遺構 (1)	122
図 56	I c ~ II c 期の遺構 (2)	81	図 96	II e ~ III b 期の遺構 (2)	123
図 57	I c ~ II e 期の遺構	82	図 97	II e ~ III c 期の遺構	124
図 58	II a 期の遺構分布状況	83	図 98	III a 期の遺構分布状況	125
図 59	II a 期の遺構	84	図 99	III a ~ III b 期の遺構 (1)	126
図 60	II a ~ II b 期の遺構 (1)	85	図 100	III a ~ III b 期の遺構 (2)	127
図 61	II a ~ II b 期の遺構 (2)	86	図 101	III a ~ III c 期の遺構 (1)	128
図 62	II a ~ II c 期の遺構	87	図 102	III a ~ III c 期の遺構 (2)	130
図 63	II a ~ II d 期の遺構 (1)	88	図 103	III a ~ III c 期の遺構 (3)	131
図 64	II a ~ II d 期の遺構 (2)	89	図 104	III b 期の遺構分布状況	132
図 65	II a ~ II d 期の遺構 (3)	90	図 105	III b 期の遺構 (1)	133
図 66	II a ~ II d 期の遺構 (4)	91	図 106	III b 期の遺構 (2)	134
図 67	II a ~ II d 期の遺構 (5)	92	図 107	III b ~ III c 期の遺構	135
図 68	II a ~ II d 期の遺構 (6)	93	図 108	III c 期の遺構分布状況	136
図 69	II a ~ II e 期の遺構 (1)	95	図 109	III c 期の遺構 (1)	137
図 70	II a ~ II e 期の遺構 (2)	96	図 110	III c 期の遺構 (2)	139
図 71	II a ~ II e 期の遺構 (3)	97	図 111	III c 期の遺構 (3)	140
図 72	II a ~ II e 期の遺構 (4)	98	図 112	III c 期の遺構 (4)	141
図 73	II a ~ II e 期の遺構 (5)	99	図 113	江戸時代以前の遺構分布状況	142
図 74	II a ~ II e 期の遺構 (6)	100	図 114	江戸時代以前の遺構 (1)	143
図 75	II a ~ III a 期の遺構	100	図 115	江戸時代以前の遺構 (2)	144

## 表 目 次

表 1	仙台城と仙台城周辺武家屋敷の調査一覧 (1)	12	表 3	遺構名称対照表 (1)	19
表 2	仙台城と仙台城周辺武家屋敷の調査一覧 (2)	13	表 4	遺構名称対照表 (2)	20
			表 5	遺構名称対照表 (3)	21
			表 6	遺構属性表 (1)	21

表7	遺構属性表(2)	22
表8	遺構属性表(3)	23
表9	遺構属性表(4)	24
表10	遺構属性表(5)	25
表11	遺構属性表(6) -建物・柱列を構成するピット-	26
表12	遺構属性表(7)-ピット等その他の遺構-	27

表13	遺構属性表(8)-ピット等その他の遺構-	28
表14	遺構属性表(9)-ピット等その他の遺構-	29
表15	確認された層位	30
表16	遺構の数と時期	52

## 図 版 目 次

図版1	調査区空撮	149
図版2	近現代の盛土等除去状況-4層確認状況-	150
図版3	4層除去・5層確認状況	151
図版4	調査最終段階	152
図版5	30列南北ベルト土層断面1	153
図版6	30列南北ベルト土層断面2、AP・AQ-29・ 30区土層断面	154
図版7	21列南北ベルト土層断面1	155
図版8	21列南北ベルト土層断面2	156
図版9	AL列北壁土層断面1	157
図版10	AL列北壁土層断面2、調査南壁土層断面1	158
図版11	調査区南壁土層断面2	159
図版12	調査区西壁土層断面、関連1・2区調査状況	160
図版13	関連4・5区の遺構、4層関連の遺構1	161
図版14	4層関連の遺構2	162
図版15	4層関連の遺構3	163
図版16	4層関連の遺構4	164
図版17	4層関連の遺構5	165
図版18	4層関連の遺構6	166
図版19	5層関連の遺構1	167
図版20	5層関連の遺構2	168
図版21	I a期の遺構1	169
図版22	I a期の遺構2	170
図版23	I a-I b期の遺構、I a-I c期の遺構1	171
図版24	I a-I c期の遺構2	172
図版25	I a-I c期の遺構3	173
図版26	I a-I c期の遺構4	174
図版27	I a-I c期の遺構5	175
図版28	I a-I c期の遺構6、I a-II a期の遺構	176

図版29	I a-II e期の遺構、I a-III b期の遺構、 I a-III c期の遺構1	177
図版30	I a-III c期の遺構2	178
図版31	I a-III c期の遺構3	179
図版32	I a-III c期の遺構4	180
図版33	I a-III c期の遺構5	181
図版34	I a-III c期の遺構6、I b期の遺構1	182
図版35	I a-III c期の遺構7、I b期の遺構2	183
図版36	I b-I c期の遺構、I b-II c期の遺構1	184
図版37	I b-II c期の遺構2、I b-III c期の遺構	185
図版38	I c期の遺構1	186
図版39	I c期の遺構2	187
図版40	I c-II a期の遺構、I c-II b期の遺構1	188
図版41	I c-II b期の遺構2	189
図版42	I c-II b期の遺構3	190
図版43	I c-II b期の遺構4	191
図版44	I c-II c期の遺構1	192
図版45	I c-II c期の遺構2、I c-II e期の遺構1	193
図版46	I c-II e期の遺構2、II a期の遺構、II a- II b期の遺構1	194
図版47	II a-II b期の遺構2	195
図版48	II a-II b期の遺構3	196
図版49	II a-II b期の遺構4	197
図版50	II a-II b期の遺構5、II a-II c期の遺構1	198
図版51	II a-II c期の遺構2、II a-II d期の遺構1	199
図版52	II a-II d期の遺構2	200
図版53	II a-II d期の遺構3	201
図版54	II a-II d期の遺構4	202
図版55	II a-II d期の遺構5	203

図版 56	Ⅱ a-Ⅱ d 期の遺構 6	204	図版 83	Ⅱ d-Ⅲ c 期の遺構 3	231
図版 57	Ⅱ a-Ⅱ d 期の遺構 7	205	図版 84	Ⅱ d-Ⅲ c 期の遺構 4	232
図版 58	Ⅱ a-Ⅱ d 期の遺構 8	206	図版 85	Ⅱ d-Ⅲ c 期の遺構 5	233
図版 59	Ⅱ a-Ⅱ d 期の遺構 9、Ⅱ a-Ⅱ e 期の遺構 1	207	図版 86	Ⅱ d-Ⅲ c 期の遺構 6	234
図版 60	Ⅱ a-Ⅱ e 期の遺構 2	208	図版 87	Ⅱ d-Ⅲ c 期の遺構 7	235
図版 61	Ⅱ a-Ⅱ e 期の遺構 3	209	図版 88	Ⅱ e-Ⅲ a 期の遺構、Ⅱ e-Ⅲ b 期の遺構 1	236
図版 62	Ⅱ a-Ⅱ e 期の遺構 4	210	図版 89	Ⅱ e-Ⅲ b 期の遺構 2	237
図版 63	Ⅱ a-Ⅱ e 期の遺構 5	211	図版 90	Ⅱ e-Ⅲ b 期の遺構 3	238
図版 64	Ⅱ a-Ⅱ e 期の遺構 6	212	図版 91	Ⅱ e-Ⅲ b 期の遺構 4、Ⅱ e-Ⅲ c 期の遺構 1	239
図版 65	Ⅱ a-Ⅱ e 期の遺構 7	213	図版 92	Ⅱ e-Ⅲ c 期の遺構 2	240
図版 66	Ⅱ a-Ⅱ e 期の遺構 8、Ⅱ a-Ⅲ a 期の遺構、 Ⅱ b 期の遺構 1	214	図版 93	Ⅲ a-Ⅲ b 期の遺構 1	241
図版 67	Ⅱ b 期の遺構 2	215	図版 94	Ⅲ a-Ⅲ b 期の遺構 2	242
図版 68	Ⅱ b 期の遺構 4	216	図版 95	Ⅲ a-Ⅲ b 期の遺構 3	243
図版 69	Ⅱ b 期の遺構 4、Ⅱ e 期の遺構 1	217	図版 96	Ⅲ a-Ⅲ b 期の遺構 4、Ⅲ a-Ⅲ c 期の遺構 1	244
図版 70	Ⅱ e 期の遺構 2	218	図版 97	Ⅲ a-Ⅲ c 期の遺構 2	245
図版 71	Ⅱ e 期の遺構 3、Ⅱ e-Ⅱ d 期の遺構 1	219	図版 98	Ⅲ a-Ⅲ c 期の遺構 3	246
図版 72	Ⅱ e-Ⅱ d 期の遺構 2	220	図版 99	Ⅲ a-Ⅲ c 期の遺構 4	247
図版 73	Ⅱ e-Ⅱ d 期の遺構 3	221	図版 100	Ⅲ a-Ⅲ c 期の遺構 5、Ⅲ b 期の遺構 1	248
図版 74	Ⅱ e-Ⅱ d 期の遺構 4	222	図版 101	Ⅲ b 期の遺構 2	249
図版 75	Ⅱ e-Ⅲ a 期の遺構、Ⅱ e-Ⅲ c 期の遺構 1	223	図版 102	Ⅲ b 期の遺構 3	250
図版 76	Ⅱ e-Ⅲ c 期の遺構 2	224	図版 103	Ⅲ b 期の遺構 4、Ⅲ b-Ⅲ c 期の遺構 1	251
図版 77	Ⅱ e-Ⅲ c 期の遺構 3、Ⅱ d 期の遺構 1	225	図版 104	Ⅲ b-Ⅲ c 期の遺構 2、Ⅲ c 期の遺構 1	252
図版 78	Ⅱ d 期の遺構 2	226	図版 105	Ⅲ c 期の遺構 2	253
図版 79	Ⅱ d 期の遺構 3、Ⅱ a-Ⅲ a 期の遺構 1	227	図版 106	Ⅲ c 期の遺構 3	254
図版 80	Ⅱ a-Ⅲ a 期の遺構 2	228	図版 107	Ⅲ c 期の遺構 4	255
図版 81	Ⅱ d-Ⅲ b 期の遺構、Ⅱ d-Ⅲ c 期の遺構 1	229	図版 108	Ⅲ c 期の遺構 5	256
図版 82	Ⅱ d-Ⅲ c 期の遺構 2	230	図版 109	Ⅲ c 期の遺構 6、江戸時代以前の遺構 1	257
			図版 110	江戸時代以前の遺構 2	258





## 第 I 章 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区の立地と歴史

### 1. 仙台城と周辺武家屋敷の立地

仙台平野は、宮城県のおおむね中央部に位置し、西は奥羽脊梁山脈とそこから派生する丘陵地帯に接し、東は仙台湾に開いた平野である。狭義では、北は仙台市域北部の丘陵地帯、南は阿武隈川によって区切られる範囲を指す。仙台平野には、奥羽脊梁山脈に源を発した河川が西から東へ流下している。北から七北田川、広瀬川、名取川である。この中の広瀬川は、丘陵地帯を抜けて仙台平野に入ると、青葉山などの丘陵地の北東麓を流下し、やがて名取川に合流し、太平洋にそそいでいる。この広瀬川の両岸には、河岸段丘が発達している。河岸段丘は、高位から台ノ原段丘・上町段丘・中町段丘・下町段丘と分けられており、河岸段丘の間は段丘崖となっている。

仙台城は、宮城県仙台市青葉区川内および荒巻に所在する。現在の仙台市街地中心部から、広瀬川を西に渡った川内・青葉山地区に位置しており、市街地西部に張り出す青葉山丘陵の東縁辺と、その裾に広がる河岸段丘上に立地している（図1）。広瀬川が青葉山などの丘陵地の北東麓を流下しているため、広瀬川の南西側にあたる川内地区の河岸段丘はさほど広くない。一方、広瀬川の北東側には、広い河岸段丘面が連なっており、その東縁は活断層である長町一利府線によって画され、沖積平野に接している。仙台城下のほとんどの範囲は、この広瀬川北東側の河岸段丘上に位置している。現在の仙台市街地中心部も、この広瀬川の河岸段丘上に立地する。

仙台城の構成は、大きく本丸・二の丸・三の丸（東丸）に分かれる（図2）。本丸は広瀬川と竜の口溪谷に囲まれた標高115～138mの、青葉山の高位段丘面（青葉山Ⅲ面）に立地している（図1）。本丸の北西側に二の丸が、北東側に三の丸が配置されているが、本丸だけは一段高い高位段丘面に位置している。本丸の東側は、60m以上の断崖となっている。現在の広瀬川は、本丸の立地する丘陵からやや離れたところを流れている。しかし江戸時代には、広瀬川は大きく蛇行して、本丸東側の崖下までせまっていた。本丸の南側は、広瀬川の支流である竜の口溪谷の急崖で画されている。本丸は防御を重視し、このような急峻な地形を利用して造られている。

本丸の北側に広がる川内地区は、広瀬川によって形成された河岸段丘の中の、上町段丘面・中町段丘面・下町段丘面にあたる。二の丸は標高54～71mの上町段丘面に、三の丸は標高40m前後の下町段丘面に立地する。周辺の武家屋敷も、西側の標高の高い部分から広瀬川に向かって順に、上町段丘面・中町段丘面・下町段丘面に立地する。東北大学の川内北地区は、東側の一段低いグラウンド部分が中町段丘面にあたり、それ以外の区域は上町段丘面に相当する。

これらの河岸段丘を開析しつつ、広瀬川の支流が、西から東へ流れている。これらの支流のひとつである千貫沢が二の丸の北側を流れており、基本的に千貫沢をはきんで南側が二の丸地区、北側が二の丸北方武家屋敷地区となる。千貫沢は、標高差の大きい河岸段丘を横切る形で流下していることから、これらの段丘面を深く切り込んでいる。二の丸裏門から北に伸びる道路が千貫沢を渡るところに造られた千貫橋付近では、段丘面の標高が57m程度、千貫沢の沢筋の標高は46m程度である。千貫橋付近の段丘面と千貫沢の標高差は11mあまりになり、深くて急峻な沢筋となっている。大橋付近を流れる広瀬川の河原の標高は22m程度で、千貫橋付近の段丘面との標高差は、およそ35mとなる。また大手門の北側にも沢筋が残っており、仙台城の造営によって改変されていると思われるが、本来は急峻な沢筋であったと考えられる。

### 2. 仙台城と仙台城下の武家屋敷

#### (1) 仙台城の歴史

仙台城は、1600（慶長15）年から、仙台藩初代藩主である伊達政宗によって築城が開始された近世城郭である。その後、幾たびかの改変を受けつつ、幕末まで仙台藩の中核として機能していく。この仙台城は、本丸と二の丸

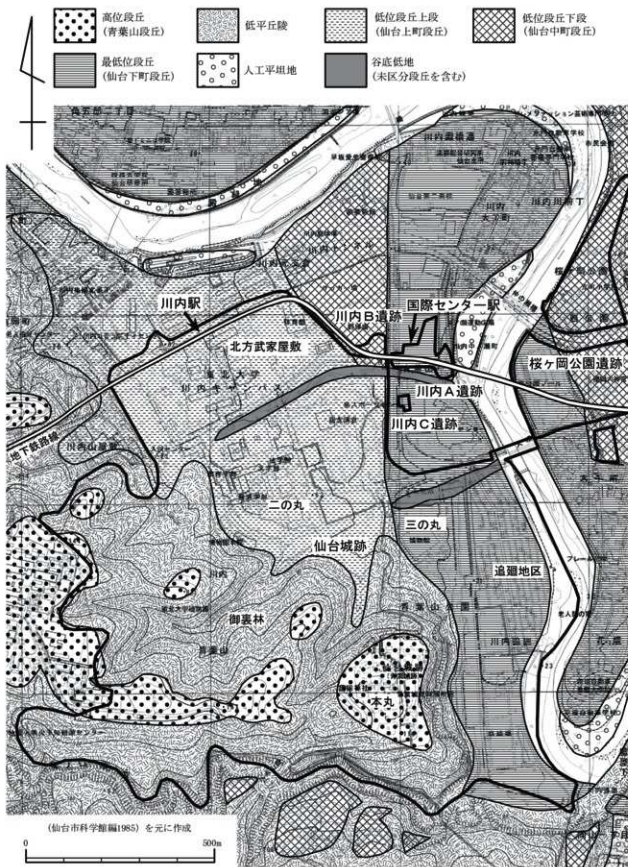


図1 仙台城周辺の地形区分図  
Fig.1 Topographical map around Sendai Castle

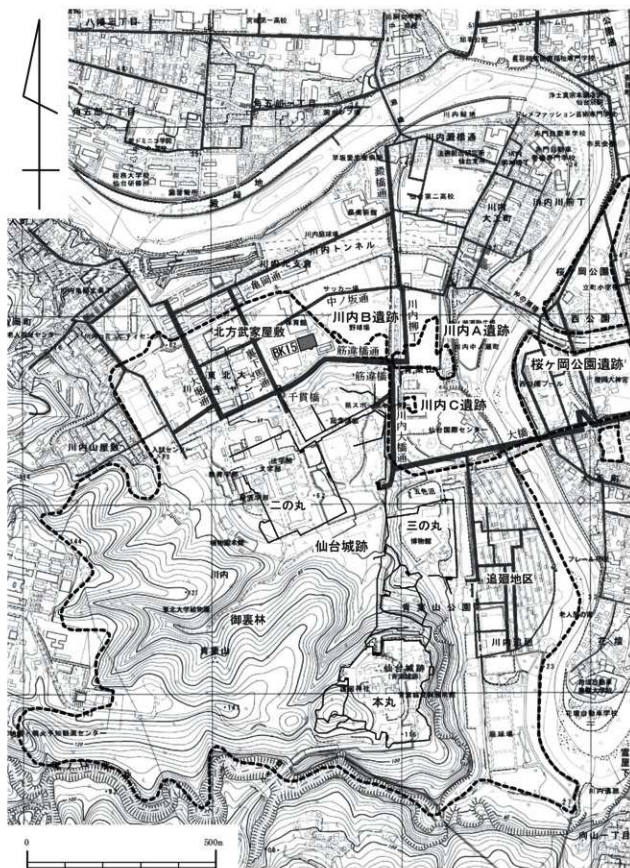


図2 仙台城と二の丸の位置  
 Fig.2 Distribution of Sendai Castle

の一部を除き、2003（平成15）年に国史跡に部分指定されている。

この伊達政宗による築城以前には、国分氏の千代城が存在したことが知られていたが、その実態は不明なままであった。1998（平成10）年の仙台市教育委員会による本丸石垣修復工事に伴う調査の際に、虎口・塀堀・平場・通路などの遺構が検出され、初めて国分氏の千代城の遺構の一端が明らかとなった（金森・渡部2009）。千代城は、文献記録や発掘調査成果の検討から、築城期は不明であるが、16世紀末の天正（1573～1592）年間頃に廃絶されたと考えられている。

伊達政宗によって造営された仙台城の本丸は、1602（慶長7）年には、土木工事にあたる普請がほぼ完成していたと考えられる。各種の観舎建築は継続中であつたと思われ、本丸の中心建物となる「大広間」は、1610（慶長15）年に完成したとされる。築城時に、本丸北側には石垣が築かれるが、石垣修復に伴う発掘調査によって、3時期に渡る変遷が明らかとなった。築城期のⅠ期石垣は、1616（元和2）年の地震で大きな被害を受け、Ⅱ期石垣が築かれる。Ⅱ期石垣も、1668（寛文8）年の地震で大きく崩壊し、現存するⅢ期石垣が造られたことが明らかとなっている（金森・渡部2009）。

仙台城が築城された時点での、本丸以外の施設を含めた仙台城の全体像は、必ずしも明らかではない。

後に三の丸（東丸）とされる区域では、仙台市教育委員会による発掘調査によって、政宗時代の茶室や四阿の可能性のある建物跡などが発見されている。池跡も検出されており、庭園が伴うものと推定されている（佐藤ほか1985）。本丸に付随した施設として、整備が進められていたと考えられる。

この段階では、二の丸は造られておらず、後に二の丸が造られる場所には、政宗の四男である伊達宗泰の屋敷があつたとの伝承がある。しかし、この伝承を検証できる資料はない。本丸の築造が進められた慶長（1596～1615）年間には、伊達宗泰は元服前の幼少期であり、この時期に伊達宗泰の屋敷が置かれていたと想定することは難しい。伊達宗泰の屋敷が置かれていたとしても、本丸築城期より遅れる可能性もある。また、他の重臣の屋敷が置かれていた可能性を示す史料もある。文献史料に残されていない、これら以外の屋敷が置かれた可能性も検討していく必要がある。いずれにせよ、二の丸第9地点（NM9）などの発掘調査では、江戸時代初頭に遡る遺構が検出されており、本丸築城期から、何らかの施設が置かれていたことは確実である（『年報』8・9）。

1620（元和6）年には、伝伊達宗泰屋敷の北側に、政宗の長女五郎八（いろは）姫の居館である「西屋敷」が造られる。五郎八姫は、伊達政宗の正室愛姫との間に生まれた長女で、1599（慶長4）年に徳川家康の六男忠輝と婚約し、1606（慶長11）年に輿入れする。しかし、1616（元和2）年に忠輝が、大阪夏の陣の際の遅参・怠戦と、家臣による旗本殺害に対する不謝罪を理由に改易され、伊勢国に配流されると、五郎八姫は政宗の江戸屋敷へ帰され、さらに1620（元和6）年には仙台に移ることとなった。この五郎八姫の、仙台における居所として造られたのが「西屋敷」である。1645（正保2）年の「奥州仙台城絵図」（正保絵図）に描かれており、東西102間、南北60間であったことが記されている。東側に門が描かれ、東向きに屋敷であったことが判る。二の丸第5地点（NM5）の調査では、西屋敷期の礎石建物跡などが発見されており、その西側に複雑な形態の池が連なる庭園が広がっていたことが判明している（『年報』6・7）。

伊達政宗は、1627（寛永4）年、仙台城下の南東側にあたる現在の仙台市若林区古城において、若林城を造営する。「仙台屋敷構」として幕府の許可を得たものであるが、周囲に堀と土塁をめぐらした城郭である。1628（寛永5）年に若林城が完成すると、政宗は国元では若林城を居城とし、仙台城に滞在するのは、儀式など特別な場合に限られるようになる。対照的に、後の二代藩主伊達忠宗は、国元では仙台城に滞在していた。この若林城の建物が、後の二の丸造営の際に、移築されていることが仙台藩の公式記録である「義山公治家記録」（巻之二、平編1974）に記されている。若林城跡の第5次調査と第8次調査で調査された1号建物跡が、仙台城二の丸を描いた「御二之丸御指図」に見られる「大台所」と一致することなどが明らかとなり、若林城の建物を仙台城二の丸に移築したという文献記録を裏付けることとなった（佐藤ほか2008・2010）。

伊達政宗は1636(寛永13)年に死去し、伊達宗宗が二代藩主となる。宗宗は、1638(寛永15)年に、伝伊達宗泰の屋敷跡に二の丸を造営する。二の丸が造られると、仙台藩の政治・諸儀式のほとんどは二の丸で行われるようになり、藩主の居所も二の丸へ移る。これ以降、二の丸が仙台城の実質的な中樞となり、この状態は幕末まで維持されていくこととなる。二の丸の造営とほぼ同じ頃に、三の丸(東丸)には、米蔵が置かれるようになったと考えられる。

1638(寛永15)年に二の丸が造営された時点では、五郎八郎の「西屋敷」が、二の丸の北隣に存続していた。五郎八郎が1661(寛文元)年に死去すると、もとの「西屋敷」は「天麟院様元御屋敷」と呼ばれ、蔵や作業所など、二の丸に附属する実務的な施設が置かれるように変化する。

17世紀末から18世紀初頭の元禄年間には、四代藩主伊達綱村によって、二の丸は大改造が施される。その際、もとの「西屋敷」の敷地は二の丸に取り込まれ、中奥がもとの「西屋敷」の範囲に大きく拡張された。仙台城では、藩主と御室の居住の場を「中奥」と呼んでいた。この改造によって、仙台城は完成した姿を迎えた。二の丸は、1804(文化元)年の火災でほぼ全焼する被害を受けつつも、従来通り再建され、幕末まで仙台城の中樞として維持されていく。

明治維新による新政府の成立と幕藩体制の崩壊により、仙台城も大きく変化する。仙台藩は奥羽越前藩同盟の中心として新政府に対抗するが、相次ぐ軍事的敗北の中で同盟は瓦解する。仙台藩は1868(慶応4・明治元)年9月に新政府に降伏謝罪し、12月には領地・領民をいったん取り上げられた上で、28万石を新たに拝領し存続が許された。1869(明治2)年の版籍奉還により、藩主伊達宗基が仙台藩知藩事となり、二の丸には藩の統治機関たる勤政庁が置かれた。1871(明治4)年の廃藩置県後は、仙台城が明治政府の管轄下に移り、二の丸には東北鎮台(後に仙台鎮台)が置かれる。本丸の建物は、明治の早い時期に取り壊されるが、二の丸の建物は鎮台本営として引き続き利用された。しかし1882(明治15)年の火災で、二の丸建物のほとんどが焼失してしまう。そして1886(明治19)年には仙台鎮台から陸軍第二師団に改称され、1888(明治21)年には正式に師団常備軍制度が施行され、敗戦まで続くこととなる。二の丸跡には師団司令部が置かれ、三の丸跡には陸軍倉庫が置かれていた。本丸跡には、1904(明治37)年に仙台招魂社(後の護国神社)が建てられ、戦没者を祀る場所へと変わる。1905(明治38)年には地形図が作成されている(図3-2)。今回報告する調査区近辺である川内北キャンパスは、「歩兵第二十九連隊營」と記載されており、方形配列された大規模な建物が建てられていたことがわかる。

1945(昭和20)年7月21日の仙台空襲の際には、仙台城の建物として最後まで残っていた大手門・脇櫓と兵門、師団の建物等消失もする(図3-3)。図3-1に、1945(昭和20)年5月24日に米軍によって撮影された空撮写真を示した。この写真には、師団司令部を始め、第二師団の建物が明瞭に写されている。仙台空襲は、このような情報収集が念入りに行われた後に実施された。第二次大戦敗戦後は、二の丸跡をはじめとする川内地区のかつての軍用地が、米軍の駐屯地であるキャンプ・センダイとなる(図3-4)。そして、1957(昭和32)年に米軍からの返還を受け、二の丸地区のほとんどは東北大学が使用し、一部は仙台市の公園となった(図3-5)。その後、大学による開発が進められているが、現在の道路などの区割りは、米軍期に造成されたものとはほぼ同じである。

## (2) 仙台城周辺の武家屋敷の変遷

仙台城下は、仙台城の造営と併行して、その建設が進められる。1601(慶長6)年正月11日に、仙台城の普請始めが行われ、同じ日に「御城下地形ノ絵図を以テ諸士等ノ屋敷割仰付ラル。」との記録が残されている(『貞山公治家記録』巻之二十一、平編1973)。この時以降、城下の建設が進められていったものと考えられる。江戸時代の地誌である『仙台萩』(阿刀田1930)には、1602(慶長7)年「二月朔日より五月五日までに、総て侍は



1. 川内地区周辺地形空撮 (1945(昭和20)年5月24日撮影)



2. 川内地区周辺地形図①  
(1905(明治38)年測量『仙臺南部』)



3. 川内地区周辺地形図②  
(1946(昭和21)年修正『仙台北西部』)



4. 川内地区周辺地形図③  
(1953(昭和28)年測量『仙台北部』)



5. 川内地区周辺地形図④  
(2007(平成19)年修正『青葉山』)

5=1/25,000

図3 川内地区周辺の地形

Fig.3 Topographical map around Kawauchi Campus

不及中、町人等迄、不残玉造郡岩手山の城より御在府を被移、莞をならべ城府繁昌す」と記されている。その戸数などは不明ながら、家臣団や町方をはじめ多数が移住したと見られている。仙台城下の範囲は、その後徐々に拡大し、それに伴い再配置が行われる場合もあったが、基本的な構成は踏襲される。川内地区は、一部の寺社と職人屋敷を除くと、侍屋敷として使われていた。今回の調査区は、このような屋敷地内に位置する。

仙台城下の様相を知ることができる基本的な資料は、城下絵図である。これらの城下絵図には、年代が近接するものもあるため、時期による変遷が判るように選択して、川内北地区周辺の部分を示したのが、図4・5である。道路の変化を見るため、明治時代の地図についても、併せて示しておいた。

仙台城下を描いた城下絵図で最も古い絵図は、1645（正保2）年の「奥州仙台城絵図」である（図4-1）。これは幕府提出用絵図のため、細かな屋敷割は記されていないが、仙台城の周辺には「侍屋敷」と記されており、この時点では武家屋敷が広がっていることが判る。これまでの川内北地区での調査でも、各所で江戸時代初期に遡る遺構や遺物が発見されており、この区域では江戸時代初期から屋敷地が整備されていったものと考えられる。

この正保絵図以降の藩政用絵図には、屋敷割が記され、人名が書き込まれたものが多くある。川内地区においては、大手門の周囲などに最も上級の家臣の屋敷が置かれ、それ以外の区域にも上級家臣の屋敷が多い。東北大学の川内北地区も、比較的上級の家臣の屋敷が置かれていた。川内地区全体の屋敷の様相については、「調査報告」1において、城下絵図をもとにした検討結果（澁谷2011）を掲載しているもので、詳細はそちらを参照していただきたい。

仙台城下絵図で、川内地区の道路の位置を見ると、正保絵図（図4-1）以降、1882（明治15）年の地図（図5-13）に至るまで、大きくは変化がないことが判る（「調査報告」1）。

二の丸と北方武家屋敷との境には、千貫沢とそれを広げた堀がある。この千貫沢や堀沿いに「筋違橋通」が東西に走っているが、それより北側には東西方向の道路としては「中ノ坂通」と「亀岡通」の2本がある。ところが現在は、千貫沢沿いの道路の北側には、東西方向の道路は1本だけである。現在のような道路は1893（明治26）年の地図（図5-14）において、初めて見られるようになる。これと同時に、大手門から北側へ伸びる道路も変更されている。大手門前から北へ伸びる道路は、もともとは、千貫沢を渡る筋違橋の北側で鉤の手状に屈曲していたが、この時にまっすぐ北へ伸びる道路へ変わっている。同様に、広瀬川を渡る大橋から大手門へいたる道路も、もとは大手門手前で屈曲していたのが、大橋からまっすぐ伸びる形に変わっている。1889（明治22）年の広瀬川の洪水によって木橋であった大橋が流失し、第二師団の要請で鉄橋が架けられることとなり、1892（明治25）年に竣工した際に、大橋から大手門へ至る道路が直線になった。川内北地区の道路がつけ替えられたのが、大橋鉄橋架橋と同時にどうかは確認できていないが、1888（明治21）年の第二師団の設置以降、一連の過程で川内地区の整備が進められていったものと考えて良いであろう。

明治時代の地図も、初期のものは、全てを正確に測量して作成されたものではない。ある程度信頼が置けるものは、1893（明治26）年の地図以降であるが、この段階では川内北地区周辺の道路は、変更された後である。変更以前の道路を正確に測量した地図は、確認できていない。したがって、絵図や明治時代初期の地図をもとに、江戸時代の道路を正確に復元することは難しい。南北方向の道路については、ある程度復元根拠がある。しかし東西方向の道路である「中ノ坂通」と「亀岡通」については、復元根拠が欠いており、正確な位置を復元することは難しい。このような限界を踏まえて、図2では、これまでの調査・検討の成果から、江戸時代の道路の位置を、現在の地図上に推定復元している。

### 3. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区におけるこれまでの調査

仙台城の考古学的調査は、本丸・二の丸・三の丸などの各地区において実施されている（表1・2、報告書等がある場合は表に記載した）。二の丸地区については、東北大学の施設整備事業などに先立ち、東北大学によ



1. 正保2(1645)年奥州仙台城絵図



2. 寛文4(1664)年仙台城下絵図



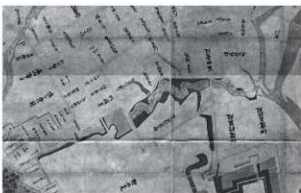
3. 寛文8・9(1668・69)年仙台城下絵図



4. 延宝6～8(1678～80)年仙台城下大絵図



5. 延宝9～天和3(1681～83)年仙台城下絵図



6. 元禄4・5(1691・92)年仙台城下五層井絵図



7. 享保9(1724)年以降仙台城下絵図

1・2・6 (小林監修1994)  
 3・4 (阿刀田1976: 第2版)  
 5・7 (吉岡編2005)

図4 川内地区周辺の絵図・地図(1)  
 Fig.4 Picture maps around the Kawauchi area (1)





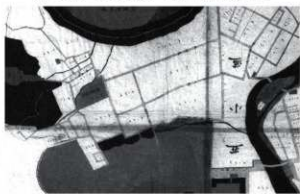
8. 宝暦10~明和3(1760~66)年 仙台下絵図



9. 天明6~寛政元(1786~89)年 仙台下絵図



10. 安政3~6(1856~59)年 安静補正改革仙府絵図



11. 明治8(1875)年 宮城県仙台町地引図



12. 明治13(1880)年 宮城県仙台区全区



13. 明治15(1882)年 仙台区及近傍村落之図



14. 明治26(1893)年 仙台市測量全図

9・10・14 (小林監修1994)  
8・11~13(吉岡編2005)

図5 川内地区周辺の絵図・地図(2)  
Fig.5 Picture maps around the Kawauchi area (2)

て調査が実施されてきた。三の丸地区では、仙台市博物館の建て替えに伴い、仙台市教育委員会による調査が実施されている。本丸地区では、石垣修復工事に伴う仙台市教育委員会による調査が、1997（平成9）年から実施され、多大な成果をあげるとともに、史跡指定への直接的な契機となった。2001（平成13）年度からは、文化庁の国庫補助を受けた遺構確認調査が仙台市教育委員会によって開始されている。

1978（昭和53）年、川内北地区のプール西側の排水管理設工事の際、石組の井戸などが発見された。この時、東北大学の文学部考古学研究室によって緊急の調査が行われたのが、仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区における最初の考古学的調査であった。しかしこの時は、既に掘削が実施された後に、露出した遺構の記録を作成する緊急の調査であったため、ごく部分的な調査にとどまらざるをえなかった。この時には、川内北地区は周知の遺跡の範囲内ではなく、新たに周知の遺跡として登録する措置もとられていない。

東北大学に埋蔵文化財調査委員会が1983（昭和58）年に設置され、構内遺跡の組織的な調査が開始されると、川内北地区についても遺跡が広がっている可能性に配慮し、必要な措置がとられるようになった。すなわち、施設建設が計画されている場所については試掘調査を行うとともに、営繕工事に際しては、立会調査を実施してきた。その結果、いくつかの調査において、江戸時代の遺構面が残存していることが明らかとなってきた。また、1986（昭和61）年度に調査を実施した二の丸地区第8地点（NM8）は、二の丸北側に東西に延びていた塚の、北側の岸の部分の調査であった。二の丸に伴う塚の調査のため、調査地点名称は二の丸地区の名称を採用したが、調査を実施した場所は川内北地区であった。これらの調査は、川内南地区が周知の遺跡である仙台北城跡の範囲内に含まれていたことから、周知の遺跡の隣接地という位置づけで、調査を実施していたものである。

これらの調査によって、川内北地区においても、江戸時代の遺構面が良好に残存していることが判明してきた。しかも、二の丸地区の遺構面から、途切れることなく、周辺の遺構面が連続して残っていることも明らかとなってきた。このような成果を受けて、仙台市教育委員会・宮城県教育委員会とも協議した結果、1993（平成5）年度に仙台北城跡の範囲を拡大する措置がとられた。川内北地区に江戸時代の遺構面が良好に残存していること、二の丸のすぐ北側に位置し、二の丸と密接に関連することから、仙台北城跡の一部として扱うこととなった。これにより川内北地区のほとんどが、周知の遺跡である仙台北城跡の範囲に含まれることとなった。

埋蔵文化財調査委員会から現在の埋蔵文化財調査室に至る、東北大学の構内遺跡調査組織による、二の丸北方武家屋敷地区における調査は、2023（令和5）年度までに第1～19地点の調査が実施されてきた（図6）。この内、1985（昭和60）年度に実施した第2地点（BK2）と第3地点（BK3）の調査は、結果的に立会調査で終了したため、欠番としている。したがって、17地点で調査が実施されていることとなる。

第1地点（BK1）は、2001（平成13）年度に調査を実施した第7地点と一部重なる区域で、1984（昭和59）年度に実施した試掘調査である。当時、課外活動施設の建設候補地であったため、江戸時代の遺構・遺物の有無を確認する目的で、2×2mの試掘調査区を3ヶ所設けて調査を行っている。その結果、東よりの調査区で、江戸時代の遺構面が残存していることが確認された。試掘調査実施後は、課外活動施設の建設場所が変更されたため、第7地点の調査が行われるまで、それ以上の調査は実施されなかった。

第4地点（BK4）は、1985（昭和60）年度に試掘調査を実施し、1994・95（平成6・7）年度に本調査を行った。試掘調査時には保健管理センターの建設予定地であったが、その後の計画見直しによって課外活動施設がこの地点に建設されることとなり、本調査を実施した。調査面積が1,143㎡となり、二の丸北方武家屋敷地区では、初めての大規模な調査となった。江戸時代の初頭から幕末に至る、多数の遺構が検出された。

第5地点（BK5）は、教養部学生実験施設（当時、現学生実験棟）にエレベーターを設置するのに伴い、1989（平成元）年度に実施した。40㎡という小規模な調査であったが、溝が検出されている。

1996（平成8）年度に実施した第6地点（BK6）は、給水管理設に伴う調査である。調査面積は15㎡と狭いが、比較的多くの遺構が検出されている。

2001（平成13）年度に実施した第7地点（BK7）は、マルチメディア教育研究棟新営に伴う調査である。調査を行った面積が810㎡と、まとまった規模の調査としては、第4地点に続く調査となった。礎石建物・掘立柱建物・掘立柱列や溝・井戸など、江戸時代の各時期の遺構が検出された。特筆されるものは、大規模なゴミ穴が検出され、様々な種類の遺物が大量に出土したことである。このゴミ穴からは、享保（1716～35）年間の年号が記されたものを含む、多数の荷札木簡が出土している。木簡の記載内容や、捨てられたゴミの内容から、堀をはさんだ二の丸地区のゴミが運び込まれて捨てられたものと考えられる。

第8地点（BK8）は、厚生会館前の上屋取設工事に伴い、2002（平成14）年度に調査を実施した。28.6㎡と小規模な調査であった。溝やピットなどが検出されている。

第9地点（BK9）は、課外活動施設（川内ホール）新営に伴い、2003（平成15）年度に調査を実施した。体育館西側の、グラウンドとの段差に近い区域での調査であった。363.5㎡とやや規模の大きな調査であったが、段丘崖にかかる区域での調査であったため、遺構密度はさほど高くなかった。小規模な石垣や溝、掘立柱列などが発見されている。

第10地点（BK10）は、学生実験棟改修に伴い、2006（平成18）年度に調査を実施した。建物の東側と、中庭の2ヶ所で調査を行った。建物東側の調査区は、第5地点の調査区に隣接し、溝・井戸などが検出されている。中庭の調査区では、道路側溝の可能性のある石垣が発見されている。

第11地点（BK11）と第12地点（BK12）は、仙台市高速鉄道東西線（以下、地下鉄東西線と略す）機能補償に係る調査である。第11地点は、サブアリーナ棟新営に伴うもので、調査面積は1,401㎡で、大規模な調査となった。掘立柱建物・溝・井戸や大規模に掘り込まれた遺構など、多数の遺構が検出された。第12地点は、屋外給排水管設備の迂回工事に伴うもので、遺構面まで掘削が及ぶ区域のみを調査したため、59.6㎡と小規模な調査であった。

第13地点（BK13）は、厚生会館増改築に伴う調査である。2008（平成20）年度に増築建物本体部分（774.8㎡）、翌2009（平成21）年度に付帯工事部分（44.85㎡）の調査を実施した。「筋違橋通」と「裏下馬通」の交差点の北東側に位置し、千貫沢の支流の沢や掘立柱建物・柱列・ピット・溝などが確認された。

第14地点（BK14）は、地下鉄東西線川内駅の駅前整備に伴う調査である。2011（平成23）年度から2015年度まで中断をはきみながら、合計972.8㎡の調査を行った。調査の結果、柱列・ピット・溝・井戸・池など多数の遺構が検出されている。特に池跡は、内部を区画する際の盛土上に敷いた筵状の敷物が遺存していた。盛土が崩れないよう工夫したと推定される。

第15地点（BK15）は、課外活動施設新営に伴う調査で、2012（平成24）年度から調査を実施した。本報告の調査である。震災復旧工事に伴う調査を最優先としながらその合間をぬって、2015（平成27）年度まで継続して調査を実施した。東北大学が実施した北方武家屋敷地区の調査では、合計1,571.2㎡と最大規模の調査となった。北東側の段丘崖下へ流れる沢や、溝、柱列などが検出された。

第16地点（BK16）は学生支援センター新設に伴い、2013（平成25）年度に調査を実施した。その調査面積は1,200㎡となった。調査地点は、千貫橋の北西側に位置し、堀の北岸と石組井戸を検出した。二の丸北側の堀は千貫沢の地形を利用したもので、江戸時代の絵図とも対応する。なお二の丸地区第8地点（NM8）の調査の際に同様堀の北岸が確認されている。

第17地点（BK17）は、北キャンパス屋外エレベーター設置その他工事に伴うもので、2021（令和3）年度に176㎡を対象として実施している。調査の結果、近世以前の土層等は全て削平されていることが判明したが、一部で、旧表土と考えられる土層、その下部から地山へと至る土層が確認された。これらの土層の時期を比定できる遺物は出土していないが、土層に含まれた炭化物の放射性炭素年代測定の結果から、縄文時代中期中葉（5層）、前期初頭～前葉（7層）の年代が想定されている。

第18地点(BK18)は、北キャンパステニスコート芝張替その他工事に伴うもので、2021(令和3)年度に284.5㎡を対象として実施している。調査の結果、近代建物の基礎の一部と考えられる円礫列、柱列等を確認した。これらの構造物は、旧第二師団期の建物と推定される。また、古い時代の遺構としては、埋土から近世の遺物が出土している井戸が確認されている。

第19地点(BK19)、災害復旧工事に伴うもので、崩れた擁壁部に関する調査であった。2021(令和3)年度に21.14㎡を対象として実施している。調査の結果、近代の盛土遺構と溝2基を確認した。盛土遺構・溝から近世・近代の遺物が確認されている。

一方、仙台市教育委員会による調査も、地下鉄東西線建設に伴う調査を中心に多数実施された。地下鉄東西線関係の本調査に先立ち、2004～2006(平成16～18)年度にかけて試掘調査が行われた。これらの試掘調査は、武家屋敷地区だけでなく、その東側の東北大学のグラウンド部分と仙台商業高等学校グラウンド跡地の区域、広瀬川を渡った対岸の西公園の区域でも、試掘調査が行われている。

これらの試掘調査の結果、仙台商業高等学校グラウンド跡地の一部が川内A遺跡、東北大学グラウンドの一部が川内B遺跡、広瀬川を渡った対岸の西公園部分が桜ヶ岡公園遺跡として、新たに周知の遺跡として遺跡登録がなされ、記録保存のための調査が行われるようになった。

仙台市教育委員会による地下鉄東西線建設に先立つ調査は、2005(平成17)年度の川内A遺跡から始まり、二の丸北方武家屋敷地区では2006～2009(平成18～21)年度にかけて、川内B遺跡では2008・2009(平成20・21)年度に調査が行われている。桜ヶ岡公園遺跡では、2007・2008(平成19・20)年度に調査が行われている。これら、地下鉄東西線建設に伴う調査以外にも、仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区では雨水幹線の移設工事、桜ヶ岡公園遺跡では西公園の再整備に伴い、2015・2016・2019年度に調査が行われている。この桜ヶ岡公園遺跡では、2018(平成30)年度には共同住宅に建設に伴い武家屋敷地内の調査が行われている。また、2014(平成26)年度には市の施設建設に伴う試掘調査が川内A遺跡の南側で行われ、新たに川内C遺跡として遺跡登録された。

武家屋敷地と関連するところでは、仙台北城三の丸地区の東側の追廻地区にて、青葉山公園整備計画に基づいた公園便施設や庭園などを設置する計画で検討が進められてきた。この公園整備事業の推進にあたって、埋蔵文化財の確認を目的として、2006～2008(平成18～20)年度に遺構確認調査が実施され、さらに2012(平成24)年度から2014(平成26)年度にかけて追廻公園センター建築計画に伴う遺構確認調査も行われている。この調査により、仙台藩重臣の片倉家屋敷の一端が明らかにされている。

表1 仙台城と仙台北城周辺武家屋敷の調査一覧(1)  
Tab.1 List of Excavations at Sendai Castle and Samurai Residences around Sendai Castle (1)

年度	仙台市調査	東北大学調査		
		二の丸地区	二の丸北方 武家屋敷地区	仙台市調査(周辺武家屋敷) 二の丸北方 武家屋敷地区 その他の 周辺武家屋敷
1974 昭和49	・二の丸(東北大学文系厚生施設)緊急調査			
1978 昭和52			・プール脇排水管緊急調査(考古学研究室)	
1982 昭和57		・第1地点試験		
1983 昭和58	・三の丸博物館新築(76棟)	・第1地点(年報1) ・第2地点(年報1) ・第3地点(年報1)		
1984 昭和59		・第4地点(1987年度継続)	・第1地点試験	
1985 昭和60		・第5地点試験 ・第6地点(年報3)	・第4地点試験	
1986 昭和61		・第7地点(年報4) ・第8地点(年報4)		
1987 昭和62		・第4地点(年報5) ・第5地点(継続)		
1988 昭和63		・第5地点(年報6)		
1989 平成1		・第5地点付部部(年報7) ・第9地点試験	・第5地点(年報7)	
1990 平成2		・第9地点(年報8)		
1991 平成3		・第10地点(年報9)		
1992 平成4		・第11地点試験 ・第12地点試験 ・第13地点(年報10)		

＊仙台市教育委員会が発行した報告書は、仙台市文化財調査報告書のシリーズ番号で示した。  
＊東北大学埋蔵文化財調査室・調査研究センターが発行した報告書は、二重括弧を外した。

表2 仙台城と仙台城周辺武家屋敷の調査一覧(2)

Tab.2 List of Excavations at Sendai Castle and Samurai Residences around Sendai Castle (2)

年度	仙台市調査	東北大学調査		仙台市調査(周辺武家屋敷)	
		二の丸地区	二の丸北方 武家屋敷地区	二の丸北方 武家屋敷地区	その他の 周辺武家屋敷
1993	平成5		・第12地点(年報11)		
1994	平成6		・第14地点(年報11)		
1995	平成7		・第15地点(年報12)	・第4地点(継続)	
1996	平成8	・本丸1次石垣修復確認調査(継続)	・第6地点(年報14)		
1997	平成9	・本丸1次石垣修復確認調査(継続)	・第16地点(年報15)		
1998	平成10	・本丸1次石垣修復確認調査(継続)	・第17地点試験		
1999	平成11	・本丸1次石垣修復確認調査(継続)			
2000	平成12	・本丸1次石垣修復確認調査(継続)			
2001	平成13	・本丸1次石垣修復確認調査(継続) ・第1次大広間1次、第2次清水門 (299集)		・第7地点(年報19)	
2002	平成14	・本丸1次石垣修復確認調査(継続) ・第3次大藤土土手掘、第4次栗 櫓、第5次本丸大広間2次(264集)		・第8地点(年報20)	
2003	平成15	・本丸1次石垣修復確認調査(継続) ・第6次全城分布(271集) ・第7次大広間3次、第8次登城 路、第9次広瀬川護岸(270集)		・第9地点(年報21)	
2004	平成16	・中門・清水門復旧整備(299集) ・第10次大広間4次、第11次広瀬川 護岸・武倉輪船石(285集)			・東西掘試験 (289集) ・川内A(東西掘試験:289集) ・桜+岡公園116-1次(289集)
2005	平成17	・清水門復旧整備(299集) ・登城路1次(306集) ・第12次大広間5次、第13次三の丸 1次、第14次広瀬川護岸・中門石垣 (297集)			・東西掘試験 (302集) ・桜+岡公園117-1次(302集) ・川内A(東西掘:312集)
2006	平成18	・追廻地区1次(330集) ・第15次大広間6次、第16次三の丸 2次(330集)	・第10地点(年報24) ・第11地点(継続)	・東西掘(342集)	・川内A・川内B(東西掘試 験:316集)
2007	平成19	・追廻地区2次(330集) ・第17次大広間7次、第18次三の丸 3次、第19次本丸北西石垣(320集)	・第11地点(調査報告1) ・第12地点(調査報告1)	・東西掘(336集)	・桜+岡公園119-1次(384+ 403集) ・桜+岡公園2次(318集)
2008	平成20	・追廻地区3次(330集) ・第20次大広間8次、第1次追廻櫓 敷1次、第22次本丸北西石垣(348 集)	・第13地点(本体:調査報 告2)	・東西掘(402集)	・川内B(東西掘:385集) ・桜+岡公園120-1次(384集) ・桜+岡公園3次(335集)
2009	平成21	・登城路2次(354集) ・第23次追廻櫓敷2次、第24次大広 間追加、第25次広瀬川護岸5集(374 集)	・第13地点(付帯:調査報 告2)	・東西掘(402集) ・第2次(336集)	・川内A(東西掘:402集) ・桜+正公園121-1次(403集)
2010	平成22	・第26次追廻櫓敷3次(395集)		・東西掘(401集)	・川内B(東西掘:401集) ・桜+岡公園4次(374集) ・桜+正公園122-1次(403集)
2011	平成23		・第14地点(継続)		
2012	平成24	・東日本大震災復旧事業(継続) ・追廻地区4次(444集)	・第14地点(継続) ・第15地点(継続)		
2013	平成25	・東日本大震災復旧事業(継続) ・追廻地区5次(444集)	・第18地点(試験) ・第15地点(継続)	・隔取地区(427 集)	・川内C遺跡1次(427集)
2014	平成26	・東日本大震災復旧事業(継続) ・追廻地区6次(444集)	・第18地点(調査報告6)	・第14地点(継続) ・第15地点(本報告)	
2015	平成27	・東日本大震災復旧事業(継続)	・第14地点(調査報告7)		・桜+岡公園127-5次(487集)
2016	平成28	・東日本大震災復旧事業(451集) ・第27次追廻櫓敷4次(461集)			・桜+岡公園128-5次(487集)
2017	平成29	・第28次追廻櫓敷5次、第29次三の 丸土塁3次(471集)			
2018	平成30	・第28次追廻櫓敷6次、第31次三の 丸土塁4次(479集)			・桜+岡公園6次(488集)
2019	令和1	・第2次登城路跡3次、第33次三の 丸土塁5次、第34次清水門北側石垣 測量3次(485集)			・桜+岡公園11-5次(487集)
2020	令和2	・第33次登城路4次、第36次三の丸 土塁6次、第37次次文下石垣測量2 次(493集)	・第19地点(年次報告 2020)		
2021	令和3	・第38次登城路5次、第39次三の丸 土塁7次、第40次堀戻下1次、第41 次清水門石垣測量2次・東門西側石 垣測量(500集)		・第17~18地点(年次報 告2021)	

\*仙台市教育委員会が刊行した報告書は、仙台市文化財調査報告書のシリーズ番号で示した。  
\*東北大学埋蔵文化財調査室・調査研究センターが刊行した報告書は、二重鉤括弧を外した。

## 第Ⅱ章 調査の方法と経過

### 1. 調査地点の位置と調査に至る経緯

本調査地点は、川内北キャンパスの課外活動施設の新営に伴い1994～1995年度に実施した武家屋敷地区第4地点（BK 4：『年次報告』13）の調査区の北西側に隣接する（図6）。このBK 4地点の調査では、江戸時代の各時期にわたる多数の遺構が検出され、遺物も多数出土している。

川内北地区の東半部には、厚生施設や課外活動施設が置かれている。その中の屋外プールが置かれていた場所を利用して、屋内プールが入る課外活動施設を新たに建設する工事が計画されていた。そして、東日本大震災によって、片平地区などの課外活動施設が被害を受け、一部は使用できなくなった。この状況の中で、従来から懸案であった、片平地区の老朽化した課外活動施設を川内地区へ移転するために、学内予算を財源に新たな施設を建設することとなった。

この新施設建設の方針が、2011年度末になって急遽具体化したため、2012年5月から調査を開始した。ただし、震災復旧のための平成23年度補正予算による事業も同時に進行することから、震災復旧工事に伴う調査を最優先しながら、その合間を縫って課外活動施設新営に伴う調査を実施した。最終的に2015年度の外構工事に伴う調査により、全ての発掘調査が終了した（図7）。この経過と概要については、『年次報告』2012～2015に随時報告している。

### 2. 調査の方法と経過

#### （1）発掘調査の経過

2012年度は、既存のプールの解体工事が4月に実施されるため、5月当初から調査を実施することとなった。重機によって、明治時代以降の盛土を除去し、手掘りによる精査に移行した。なお、北側5m幅については、車両通路を確保する必要から、当初の掘削範囲からは除外し、追加で掘削することとした。

1～3層は重機で除去し、4層上面段階から精査を行った。7月11日には、4層上面段階でのラジコンヘリによる空撮および写真測量を実施した。その後、4層の掘り下げを一部行った段階で、震災復旧事業に伴う高沢芦ノ口遺跡第9次調査（TM 9）、青葉山E遺跡第9次調査（AOE 9）を実施するため、7月末で作業は中断することとなった。作業中断の期間には、米軍時代の給水管など、作業の支障となる施設の撤去作業などを、この期間を利用して行った。

11月より作業を再開し、12月19日には、4層を除去した段階でのラジコンヘリによる空撮および写真測量を実施した。その後、一部に先行トレンチを設けて、5層の堆積状況などを確認した。また、北側の未着手部分の調査を行うため、調査区の南東隅と非常階段の部分については、大型の上巻を利用して埋め戻し、その上面に碎石を敷きならして車両通路とした。この埋め戻した区域は、4層を除去した段階で地山上面が露出しており、地山上面での遺構分布を確認した段階で埋め戻している。これらの作業を実施した段階で2012年12月の作業は終了し、1・2月は厳寒期のため手掘り精査の作業は中断した。

精査中断中の2月に、北側の未着手部分の重機による追加掘削を行った。3月当初より手掘りによる精査を再開し、この北側拡張部分の調査に取りかかった。北側拡張部分の4層上面・5層上面の記録については、遺構はわずかと想定されたことから、平面図は手作業で作成し、写真は地上から斜め俯瞰で撮影することとした。4層上面段階については3月8日、5層上面段階は3月15日に、写真撮影を行っている。その後、当初掘削部分も含めて、5層の掘り下げに取りかかり、その途中で2012年度の作業は終了した。

2013年度には、4月から5月にかけて、他の調査の合間に5層の掘り下げの作業を進めた。5層の掘り下げ

2022年度までの発掘調査地点

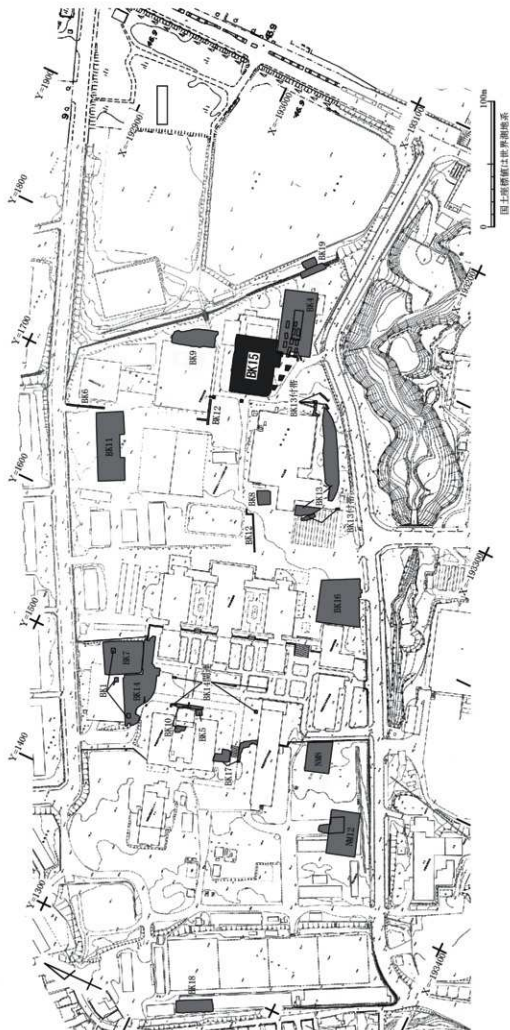


図6 川内北地区調査地点  
Fig.6 Excavation point in the Kawuchi-Kita area

が終了した5月28日には、ラジコンヘリにより北側の一段低くなっている範囲の空撮と写真測量を行った。これによって、調査区全域で地山面まで掘り下げが達したこととなった。これ以降は、地山面から掘り込んでいる江戸時代の遺構の精査を進めることとなったが、6月から11月は、調査区を維持しておく作業以外は、ほぼ作業は行えなかった。武家屋敷地区第16地点(BK16)の調査がほぼ終了した後、12月より本格的な作業を再開した。12月と3月は、江戸時代の遺構の精査を行ったが、厳寒期の1月と2月は、ごく部分的な作業を実施しただけにとどまる。江戸時代の遺構の精査は、翌2014年度に継続して実施することとなった。

2014年度は、仙台城跡二の丸地区第18地点(NM18)の調査に専念するため一時中断となり、6月から再開することとなった。再開後は、順次北側から遺構を精査し、一部を残しつつも、10月18日には現地説明会を実施した。この現地説明会には100人程が参加し、盛況であった。現地説明会終了後は、残された区画の精査を再開し、南側張り出し部以外の調査を終え、12月19日に空撮測量を行った。南側張り出し部は、建物本体工事区域に接する電気配管理設工事区域の一部であり、今回合わせて調査を実施することとした区画である。この南側張り出し部では、遺構などが密集していたため時間を必要としたが、2015年1月26日には本体部の調査は終了となった。そして、2016年1・2月にかけて、課外活動施設の外構工事に伴う立会調査を実施し、すべての作業を完了させた。

## (2) 記録方法

本調査では、当室で学内に設置していた測量基準点(日本測地系)を国土地理院提供「TKY2JGD WEB版」を用いて日本測地系から世界測地系に変換した上で使用した。平面直角座標系は、X系である。この値を国土地理院から提供されている「PatchJGD\_HV」に、座標補正パラメータファイル「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」を用いて変換した値を図7に示した。

調査にあたっては、BK4調査区のグリッド配置を延長する形で調査グリッドを設定した(図7)。このグリッドは、北から17°20'西偏している。BK4調査区のグリッドは、南北方向が北からA~Iと命名されていたが、本調査時にそれぞれ頭にBを付け加え、BA~BI区とした。そして、本調査区は北からAE~AT区とし、BK4調査区のBA区に接続する形とした。また、東西方向は、BK4調査区東端部を1とし、西に向けて数字を増やす形とした。本調査区は15~32の範囲内収まる。なお、北東端のAE-33区は、武家屋敷第12地点(BK12:「調査報告」1)の4区東端部となる。

また、2012年度調査では全て手作業で各種図面を作成していたが、2014年7月からは株式会社CUBIC製遺構実測支援システム「遺構くん」を導入し、土層断面図作成、簡略的な平面図作成に利用した。2012年7月11日、12月19日、2013年5月28日、2014年4月29日、12月19日には、国際文化財株式会社へ委託して、空中写真測量と空撮写真による写真測量を行った。

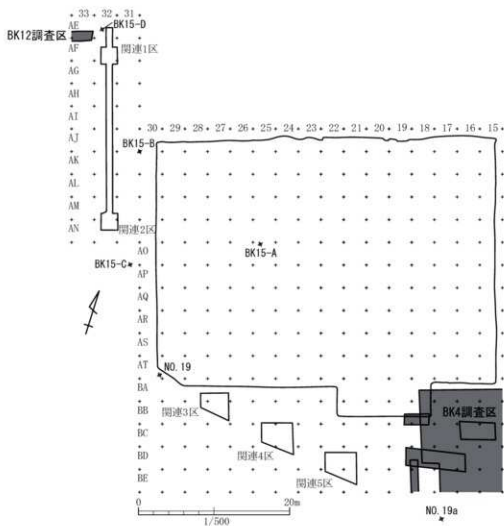
記録写真は、35mmフィルムによるカラーリバーサルとモノクロを基本として使用し、デジタル写真も同じカットで撮影した。空中写真撮影では、6×6のカラーリバーサルとモノクロ写真を撮影し、デジタル写真も同じカットで撮影している。

## (3) 遺構の名称について

近世遺跡の調査においては、多種多様な遺構が検出される。その際、井戸の様に遺構の詳しい機能まで判明する場合もある一方で、そのほとんどは形状のみしか判明しない遺構もある。さらに、今回の調査地点では掘削が著しく、全体の形状さえも不明な遺構が多数存在した。そのため、調査現場では、主に形状と規模から「遺構」、「溝」、「ピット」という名称を使用し、調査を進めた。そのほかの遺構には、「杭」があった。

「遺構」は、比較的大きい掘り方を有するもので、その形状は様々である。従来「土坑」としてきた遺構も、この「遺





世界測地系

	X座標	Y座標	Z座標
NO. 19	-193,091.394	1,739.154	56.657
NO. 19a	-193,098.450	1,780.418	55.750
BK15-A	-193,070.922	1,746.713	54.725
BK15-B	-193,063.997	1,727.833	56.759
BK15-C	-193,078.636	1,731.096	56.637
BK15-D	-193,050.053	1,718.291	56.660

補正後座標\*

	X座標	Y座標	Z座標
NO. 19	-193,092.2631	1,742.2885	56.471
NO. 19a	-193,099.3196	1,783.5540	55.563
BK15-A	-193,071.7915	1,749.8478	54.538
BK15-B	-193,064.8663	1,730.9674	56.372
BK15-C	-193,079.5050	1,734.2303	56.451
BK15-D	-193,050.9221	1,721.4251	56.473

\* 国土地理院提供「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震補正パラメータ (tohokutaiheiyosok12011.par および tohokutaiheiyosok12011\_k.par Ver. 4.0, 0009)」により補正

図7 武家屋敷地区第15地点調査区配置図  
Fig.7 Layout of the excavation site at BK15

構」の範囲に含めた。柱穴と想定できるような土坑を「ビット」と呼称した。今回の調査では、当初は「遺構」として調査を進めたが、柱痕跡が明瞭に認められ、その後の整理段階で建物の柱を構成する場合もあった。このような場合は、整理の段階で「ビット」に命名し直している。また、逆の場合もあった。

この「ビット」については、建物や柱列を構成することが調査時に判明している場合でも、ビット番号として各区で通し番号を現地付けた。川内地区での調査の場合、遺構が複雑に重なり合うと、現場での検討では、組み合う全ての柱穴を確認できない場合が多い。調査後の図面整理の過程で、建物跡や柱列を確認している場合が多数を占める。現地で組み合わせることが判明したものについて柱番号を付すと、その後に同じ建物跡などを構成す

ることが判明したピットの番号と、柱番号が前後するが生じる。整理後に柱番号を付け直すとは、現地での呼称との間で混乱をきたしかねない。そのため、現地で付ける遺構名称は、ピット番号に統一し、建物跡や柱列を構成するピットについては、図面整理後に柱番号を新たに付けた。また、建物・柱列などを構成しないピットに関しては、報告書のボリュームの問題から一覧表での提示と全体図での図示のみとした。

今回、調査現場や整理作業において使用した遺構名称は、表3～5に示した通りである。遺物注記等の作業は、「現場名称」で行っており、その後の整理作業の段階には「整理名称」を使用し、本報告にあたり「確定名称」へと変更した。これらの遺構の属性等は表6～14にまとめた。

#### (4) 遺物の取り上げについて

当調査室での調査では、江戸時代に遡る可能性がある遺物については、全て採集することを基本方針としている。また、瓦については、一定の基準を設けて現地で選別を行った。瓦は、江戸時代のもので、明治以降のものを識別することが、破片の場合ほとんど不可能なものも多い。そこで、1層・覆乱出土の瓦については、長さ×幅の判明するもの、軒瓦、刻印や線刻のあるもの、その他特殊なものについては採集するという基準を設けている。刻印や線刻の有無などについては、土壌が付着したままでは判別が難しいので、現地で土壌をおおよそ落とした上で、上記の基準に当てはまる資料のみを収集している。

#### (5) 整理作業

当調査室での整理作業と報告書刊行については、経費は全学的基盤経費として、毎年度ほぼ一定した額が措置されている。調査の事業量は年度により多寡があるため、大きな滞りをきたすことなく調査報告書を作成できるよう、各年度に実施する整理作業を平均化して計画的に実施することとしている。そのため、特定の年度だけ報告書の頁数が増大し、印刷費が大きくなることは、他の事業費を圧迫することとなり難しい。そこで、北方武家屋敷地区第15地点に関する報告は2分冊に分け、第1分冊を遺構の事実記載を中心とした遺構編とし2023年度に刊行することとした。遺物整理が終了次第、第2分冊遺物・考察編を刊行する予定である。

武家屋敷地区第15地点の出土遺物は、整理作業前の段階で110箱であった。現在までに、遺物の洗浄・注記作業、種類ごとの分類・接合・集計・抽出作業等を進めた。今後、各遺物の実測図作成とデジタルトレース作業・観察表作成・写真撮影などを行う予定となっている。各年度の作業内容については、それぞれ「年次報告」にて報告している。これらの遺物の整理作業の経過・内容等の詳細については、第2分冊にて報告したい。

表3 遺構名称対照表(1)  
Tab.3 Collation table of the feature names(1)

現場名称	整理名称	確定名称	段階	現場名称	整理名称	確定名称	段階
なし	個別ビット番号	1号建物	IIc~II d	70号遺構	70号遺構	70号遺構	Ia~IIa
なし	個別ビット番号	2号建物	IIIa~IIIb	71号遺構	71号遺構	71号遺構	IIIc
なし	個別ビット番号	3号建物	IIIb	72号遺構	1号倉	1号倉	Ic~IIb
なし	個別ビット番号	1号柱列	Ia	73号遺構	73号遺構	73号遺構	IIIa~IIIb
なし	個別ビット番号	2号柱列	IIa~IIe	74号遺構	74号遺構	74号遺構	IIIc
なし	個別ビット番号	3号柱列	IIc~IIIc	75号遺構	75号遺構	75号遺構	Ia~I b
なし	個別ビット番号	4号柱列	II d~IIe	76号遺構	76号遺構	76号遺構	Ia~I c
1号遺構	1号遺構	戻状遺構	IIIc	77号遺構	77号遺構	77号遺構	Ia
2号遺構	2号遺構	2号遺構	II d~IIIc	78号遺構	78号遺構	78号遺構	I b~I c
3号遺構	3号遺構	3号遺構	II d~IIIc	79号遺構	79号遺構	79号遺構	I c
4号遺構	4号遺構	4号遺構	Ic~IIc	80号遺構	1号建物柱10	1号建物柱10	IIc~II d
5号遺構	5号遺構	5号遺構	Ic~IIc	81号遺構	81号遺構	81号遺構	IIc~IIIa
6号遺構	6号遺構	6号遺構	IIc	82号遺構	82号遺構	82号遺構	II d~IIIa
7号遺構	7号遺構	7号遺構	Ic~IIb	83号遺構	83号遺構	83号遺構	I b
8号遺構	8号遺構	8号遺構	Ic~IIc	84号遺構	84号遺構	84号遺構	I b
9号遺構	9号遺構	9号遺構	IIc	85号遺構	85号遺構	85号遺構	IIIa~IIIb
10号遺構	10号遺構	10号遺構	IIc	86号遺構	86号遺構	86号遺構	II d~IIIb
11号遺構	11号遺構	11号遺構	IIc~IIIb	87号遺構	87号遺構	87号遺構	II d~IIIb
12号遺構	12号遺構	12号遺構	IIIb	88号遺構	88号遺構	88号遺構	IIc~IIIa
13号遺構	13号遺構	13号遺構	IIa~IIc	89号遺構	89号遺構	89号遺構	IIIb~IIIc
14号遺構	14号遺構	14号遺構	II d~IIIa	90号遺構	90号遺構	90号遺構	IIIa~IIIb
15号遺構	15号遺構	15号遺構	II d~IIIa	91号遺構	91号遺構	91号遺構	IIa~II b
16号遺構	16号遺構	16号遺構	IIIa~IIIc	92号遺構	欠番	-	-
17号遺構	17号遺構	17号遺構	IIa~IIe	93号遺構	93号遺構	93号遺構	IIc~IIIa
18号遺構	18号遺構	18号遺構	IIc	94号遺構	94号遺構	94号遺構	IIIa~IIIc
19号遺構	19号遺構	19号遺構	IIc~IIIc	95号遺構	95号遺構	95号遺構	IIa~II c
20号遺構	20号遺構	20号遺構	IIc	96号遺構	96号遺構	96号遺構	IIb
21号遺構	21号遺構	21号遺構	IIb	97号遺構	97号遺構	97号遺構	IIa
22号遺構	22号遺構	22号遺構	IIc~IIIb	98号遺構	98号遺構	98号遺構	II d~IIIb
23号遺構	23号遺構	23号遺構	江戸以前	99号遺構	99号遺構	99号遺構	IIa~II c
24号遺構	24号遺構	24号遺構	IIIc	100号遺構	100号遺構	100号遺構	I b~IIIc
25号遺構	25号遺構	25号遺構	IIa~IIc	101号遺構	101号遺構	101号遺構	IIIa~IIIc
26号遺構	26号遺構	26号遺構	Ia~IIIc	102号遺構	102号遺構	102号遺構	Ia~I b
27号遺構	27号遺構	27号遺構	II d	103号遺構	103号遺構	103号遺構	IIc~IIIb
28号遺構	28号遺構	28号遺構	IIa~IIc	104号遺構	104号遺構	104号遺構	Ia~IIIb
29号遺構	29号遺構	29号遺構	Ia~IIIc	105号遺構	105号遺構	105号遺構	江戸以前
30号遺構	30号遺構	30号遺構	IIc	106号遺構	106号遺構	106号遺構	I b
31号遺構	31号遺構	31号遺構	Ia~IIIc	107号遺構	107号遺構	107号遺構	IIIb~IIIc
32号遺構	32号遺構	30号漢	IIc~IIIb	108号遺構	108号遺構	108号遺構	Ia
33号遺構	33号遺構	30号漢	IIc~IIIb	109号遺構	109号遺構	109号遺構	I b~II c
34号遺構	34号遺構	34号遺構	Ia~IIIc	110号遺構	110号遺構	110号遺構	I b~II c
35号遺構	35号遺構	35号遺構	IIIa~IIIa	111号遺構	111号遺構	111号遺構	IIc~II d
36号遺構	36号遺構	36号遺構	IIIb~IIIc	112号遺構	112号遺構	112号遺構	Ic~II d
37号遺構	37号遺構	37号遺構	IIIa~IIIc	113号遺構	1号柱列2	1号柱列2	Ia
38号遺構	38号遺構	38号遺構	IIa~IIc	114号遺構	114号遺構	114号遺構	Ia
39号遺構	39号遺構	39号遺構	IIIa~IIIc	115号遺構	115号遺構	31号漢	Ia~IIIc
40号遺構	40号遺構	40号遺構	IIIc	116号遺構	1号柱列1	1号柱列1	Ia
41号遺構	41号遺構	41号遺構	IIc~IIIc	117号遺構	117号遺構	117号遺構	IIb
42号遺構	42号遺構	42号遺構	IIa~IIc	118号遺構	118号遺構	118号遺構	IIa~II c
43号遺構	43号遺構	43号遺構	IIIa~IIIc	119号遺構	119号遺構	119号遺構	Ia~I b
44号遺構	44号遺構	44号遺構	Ic~IIc	120号遺構	120号遺構	120号遺構	江戸以前
45号遺構	45号遺構	45号遺構	IIIa~IIIc	121号遺構	121号遺構	121号遺構	江戸以前
46号遺構	46号遺構	46号遺構	IIa~IIc	122号遺構	122号遺構	122号遺構	Ia~II c
47号遺構	47号遺構	47号遺構	IIa~IIc	123号遺構	123号遺構	123号遺構	Ia
48号遺構	48号遺構	48号遺構	IIIc	124号遺構	124号遺構	124号遺構	江戸以前
49号遺構	49号遺構	49号遺構	IIa~IIc	125号遺構	欠番	-	-
50号遺構	50号遺構	50号遺構	Ia~IIIc	1号漢	1号漢	1号漢	IIa~IIIa
51号遺構	51号遺構	51号遺構	II d	2号漢	2号漢	2号漢	Ic~II c
52号遺構	欠番	-	-	3号漢	3号漢	3号漢	Ia~IIIc
53号遺構	欠番	-	-	4号漢	4号漢	4号漢	IIa~II d
54号遺構	54号遺構	54号遺構	IIa~IIe	5号漢	5号漢	5号漢	IIa~II d
55号遺構	欠番	-	-	6号漢	6号漢	6号漢	IIa~II d
56号遺構	56号遺構	56号遺構	IIIa~IIIc	7号漢	7号漢	7号漢	I b~I c
57号遺構	57号遺構	57号遺構	IIIa~IIIc	8号漢	8号漢	8号漢	IIa~II d
58号遺構	58号遺構	58号遺構	IIIa~IIIc	9号漢	9号漢	9号漢	IIa~II d
59号遺構	ビット134	ビット134	IIIa~IIIc	10号漢	10号漢	10号漢	IIa~II d
60号遺構	60号遺構	60号遺構	IIc~IIIb	11号漢	11号漢	11号漢	Ia~I c
61号遺構	61号遺構	61号遺構	IIb	12号漢	125号遺構	125号遺構	Ia~IIIc
62号遺構	62号遺構	62号遺構	IIIc	13号漢	13号漢	13号漢	Ia~I c
63号遺構	2号建物	2号建物	IIIa~IIIb	14号漢	14号漢	14号漢	IIa~II c
64号遺構	64号遺構	64号遺構	II d	15号漢	15号漢	15号漢	I b~I c
65号遺構	65号遺構	65号遺構	IIa~IIc	16号漢	16号漢	16号漢	I b~I c
66号遺構	2号建物	2号建物	IIIa~IIIb	17号漢	17号漢	17号漢	IIa~II d
67号遺構	67号遺構	67号遺構	IIa~IIc	18号漢	18号漢	18号漢	IIa~II b
68号遺構	68号遺構	68号遺構	Ia	19号漢	19号漢	19号漢	Ic
69号遺構	69号遺構	69号遺構	II d	20号漢	2号柱列1	2号柱列1	IIa~II c

表4 遺構名称対照表(2)  
Tab.4 Collation table of the feature names(2)

現場名称	整理名称	確定名称	段階	現場名称	整理名称	確定名称	段階
21号溝	21号溝	21号溝	Ⅱa~Ⅱb	ビツ68	2号柱列柱3	2号柱列柱3	Ⅱa~Ⅱe
22号溝	22号溝	22号溝	Ⅱc~Ⅲc	ビツ69	2号柱列柱4	2号柱列柱4	Ⅱa~Ⅱe
23号溝	23号溝	23号溝	Ⅲc	ビツ70	2号柱列柱2	2号柱列柱2	Ⅱa~Ⅱe
24号溝	24号溝	24号溝	Ⅲc	ビツ71	2号柱列柱10	2号柱列柱10	Ⅱa~Ⅱe
25号溝	25号溝	25号溝	Ⅲc	ビツ72	2号柱列柱11	2号柱列柱11	Ⅱa~Ⅱe
26号溝	26号溝	25号溝に統合	Ⅲc	ビツ73	ビツ73	ビツ73	Ⅰa~Ⅰc
27号溝	27号溝	27号溝	Ⅲc	ビツ74	ビツ74	ビツ74	Ⅰa~Ⅲc
28号溝	28号溝	28号溝	Ⅲc	ビツ75	2号柱列柱12	2号柱列柱12	Ⅱa~Ⅱe
29号溝	29号溝	29号溝	Ⅲc	ビツ76	ビツ76	ビツ76	Ⅰa~Ⅰc
ビツ1	ビツ1	ビツ1	Ⅳb	ビツ77	ビツ77	ビツ77	Ⅰa~Ⅲc
ビツ2	ビツ2	ビツ2	Ⅲa~Ⅲc	ビツ78	ビツ78	ビツ78	Ⅰa~Ⅲc
ビツ3	ビツ3	ビツ3	Ⅰb~Ⅲc	ビツ79	ビツ79	ビツ79	Ⅱd~Ⅲc
ビツ4	ビツ4	ビツ4	Ⅰa~Ⅲa	ビツ80	1号建物柱4	1号建物柱4	Ⅱc~Ⅱd
ビツ5	ビツ5	ビツ5	Ⅰa~Ⅱb	ビツ81	3号柱列柱3	3号柱列柱3	Ⅱa~Ⅲc
ビツ6	ビツ6	ビツ6	Ⅰa~Ⅲc	ビツ82	ビツ82	ビツ82	Ⅱd~Ⅲc
ビツ7	ビツ7	ビツ7	Ⅰa~Ⅲc	ビツ83	ビツ83	ビツ83	Ⅱa~Ⅱb
ビツ8	ビツ8	ビツ8	Ⅲa~Ⅲc	ビツ84	1号建物柱1	1号建物柱1	Ⅱc~Ⅱd
ビツ9	ビツ9	ビツ9	Ⅱa~Ⅲc	ビツ85	ビツ85	ビツ85	Ⅰa~Ⅲb
ビツ10	ビツ10	ビツ10	Ⅰa~Ⅱe	ビツ86	4号柱列柱2	4号柱列柱2	Ⅲc
ビツ11	ビツ11	ビツ11	Ⅰa~Ⅲc	ビツ87	欠番	-	-
ビツ12	ビツ12	ビツ12	Ⅰa~Ⅲc	ビツ88	ビツ88	ビツ88	Ⅰa~Ⅲc
ビツ13	欠番	-	-	ビツ89	ビツ89	ビツ89	Ⅰa~Ⅲc
ビツ14	ビツ14	ビツ14	Ⅰa~Ⅲc	ビツ90	欠番	-	-
ビツ15	ビツ15	ビツ15	Ⅰa~Ⅲc	ビツ91	ビツ91	ビツ91	Ⅰa~Ⅱe
ビツ16	ビツ16	ビツ16	Ⅰa~Ⅲc	ビツ92	ビツ92	ビツ92	Ⅰa~Ⅱe
ビツ17	ビツ17	ビツ17	Ⅰa~Ⅲc	ビツ93	ビツ93	ビツ93	Ⅲc
ビツ18	ビツ18	ビツ18	Ⅰa~Ⅱe	ビツ94	ビツ94	ビツ94	Ⅰa~Ⅱe
ビツ19	3号建物柱3	3号建物柱3	Ⅲb	ビツ95	1号建物柱11	1号建物柱11	Ⅱc~Ⅱd
ビツ20	ビツ20	ビツ20	Ⅰa~Ⅲc	ビツ96	ビツ96	ビツ96	Ⅰa
ビツ21	ビツ21	ビツ21	Ⅱa~Ⅲc	ビツ97	1号建物柱5	1号建物柱5	Ⅱc~Ⅱd
ビツ22	3号建物柱1	3号建物柱1	Ⅲb	ビツ98	ビツ98	ビツ98	Ⅰa~Ⅱb
ビツ23	3号建物柱5	3号建物柱5	Ⅲb	ビツ99	ビツ99	ビツ99	Ⅱd~Ⅲc
ビツ24	ビツ24	ビツ24	Ⅰa~Ⅲc	ビツ100	ビツ100	ビツ100	Ⅰa~Ⅲc
ビツ25	ビツ25	ビツ25	Ⅱa~Ⅲa	ビツ101	ビツ101	ビツ101	Ⅰa~Ⅲc
ビツ26	ビツ26	ビツ26	Ⅰa~Ⅲa	ビツ102	ビツ102	ビツ102	Ⅰa~Ⅲc
ビツ27	欠番	-	-	ビツ103	ビツ103	ビツ103	Ⅰa~Ⅲc
ビツ28	3号建物柱2	3号建物柱2	Ⅲb	ビツ104	ビツ104	ビツ104	Ⅰa~Ⅲc
ビツ29	ビツ29	ビツ29	Ⅰa~Ⅲb	ビツ105	1号建物柱7	1号建物柱7	Ⅱc~Ⅱd
ビツ30	3号建物柱4	3号建物柱4	Ⅲb	ビツ106	1号建物柱8	1号建物柱8	Ⅱc~Ⅱd
ビツ31	ビツ31	ビツ31	Ⅰa~Ⅲc	ビツ107	ビツ107	ビツ107	Ⅱa~Ⅱb
ビツ32	ビツ32	ビツ32	Ⅱa~Ⅲc	ビツ108	1号建物柱6	1号建物柱6	Ⅱc~Ⅱd
ビツ33	ビツ33	ビツ33	Ⅱe~Ⅲa	ビツ109	1号建物柱9	1号建物柱9	Ⅱc~Ⅱd
ビツ34	ビツ34	ビツ34	Ⅲa~Ⅲc	ビツ110	ビツ110	ビツ110	Ⅰc
ビツ35	ビツ35	ビツ35	Ⅲa~Ⅲb	ビツ111	4号柱列柱1	4号柱列柱1	Ⅲc
ビツ36	ビツ36	ビツ36	Ⅱc	ビツ112	ビツ112	ビツ112	Ⅲc
ビツ37	ビツ37	ビツ37	Ⅲa~Ⅲc	ビツ113	4号柱列柱3	4号柱列柱3	Ⅲc
ビツ38	ビツ38	ビツ38	Ⅱe	ビツ114	ビツ114	ビツ114	Ⅱc~Ⅲc
ビツ39	ビツ39	ビツ39	Ⅱa~Ⅱc	ビツ115	ビツ115	ビツ115	Ⅱd~Ⅲc
ビツ40	ビツ40	ビツ40	Ⅱa~Ⅱc	ビツ116	1号建物柱2	1号建物柱2	Ⅱc~Ⅱd
ビツ41	126号遺構	126号遺構	Ⅰa~Ⅲb	ビツ117	1号建物柱3	1号建物柱3	Ⅱc~Ⅱd
ビツ42	ビツ42	ビツ42	Ⅰa~Ⅲc	ビツ118	ビツ118	ビツ118	Ⅱb
ビツ43	ビツ43	ビツ43	Ⅰa~Ⅲb	ビツ119	ビツ119	ビツ119	Ⅰa~Ⅲc
ビツ44	ビツ44	ビツ44	Ⅰa~Ⅲc	ビツ120	ビツ120	ビツ120	Ⅲc
ビツ45	ビツ45	ビツ45	Ⅱd~Ⅲc	ビツ121	ビツ121	ビツ121	Ⅱc~Ⅱe
ビツ46	ビツ46	ビツ46	Ⅱd~Ⅲc	ビツ122	ビツ122	ビツ122	Ⅱc~Ⅲc
ビツ47	3号柱列柱1	3号柱列柱1	Ⅱa~Ⅲc	ビツ123	ビツ123	ビツ123	Ⅰa~Ⅰb
ビツ48	ビツ48	ビツ48	Ⅱd~Ⅲc	ビツ124	ビツ124	ビツ124	Ⅰa~Ⅲc
ビツ49	ビツ49	ビツ49	Ⅰa~Ⅲc	ビツ125	ビツ125	ビツ125	Ⅰa~Ⅲc
ビツ50	3号柱列柱2	3号柱列柱2	Ⅱa~Ⅲc	ビツ126	ビツ126	ビツ126	Ⅰa~Ⅲc
ビツ51	ビツ51	ビツ51	Ⅰc~Ⅲc	ビツ127	ビツ127	ビツ127	Ⅱa~Ⅱe
ビツ52	ビツ52	ビツ52	Ⅰc~Ⅲc	ビツ128	ビツ128	ビツ128	Ⅰb~Ⅲc
ビツ53	ビツ53	ビツ53	Ⅰc~Ⅲc	ビツ129	ビツ129	ビツ129	Ⅰb~Ⅲc
ビツ54	ビツ54	ビツ54	Ⅰa~Ⅱd	ビツ130	欠番	-	-
ビツ55	ビツ55	ビツ55	Ⅱd~Ⅲc	ビツ131	ビツ131	ビツ131	Ⅰa~Ⅲc
ビツ56	ビツ56	ビツ56	Ⅰc~Ⅱc	ビツ132	ビツ132	ビツ132	Ⅰa~Ⅲc
ビツ57	ビツ57	ビツ57	Ⅰa~Ⅲc	ビツ133	ビツ133	ビツ133	Ⅱd~Ⅲc
ビツ58	2号柱列柱7	2号柱列柱7	Ⅱa~Ⅱe	杭1	杭1	杭1	Ⅳb
ビツ59	ビツ59	ビツ59	Ⅰa~Ⅰc	杭2	杭2	杭2	Ⅳb
ビツ60	2号柱列柱13	2号柱列柱13	Ⅱa~Ⅱe	杭3	杭3	杭3	Ⅳb
ビツ61	ビツ61	ビツ61	Ⅲa~Ⅲc	杭4	杭4	杭4	Ⅳb
ビツ62	2号柱列柱14	2号柱列柱14	Ⅱa~Ⅱe	杭5	杭5	杭5	Ⅳb
ビツ63	ビツ63	ビツ63	Ⅱa~Ⅱe	杭6	杭6	杭6	Ⅳb
ビツ64	2号柱列柱6	2号柱列柱6	Ⅱa~Ⅱe	杭7	杭7	杭7	Ⅳb
ビツ65	2号柱列柱5	2号柱列柱5	Ⅱa~Ⅱe	杭8	杭8	杭8	Ⅳb
ビツ66	2号柱列柱8	2号柱列柱8	Ⅱa~Ⅱe	杭9	杭9	杭9	Ⅳb
ビツ67	2号柱列柱9	2号柱列柱9	Ⅱa~Ⅱe	杭10	杭10	杭10	Ⅳb

表5 遺構名称対照表(3)  
Tab.5 Collation table of the feature names(3)

現場名称	整理名称	確定名称	段階
杭11	杭11	杭11	IVb
杭12	杭12	杭12	IVb
杭13	杭13	杭13	IVb
杭14	杭14	杭14	IVb
杭15	杭15	杭15	IVb
杭16	杭16	杭16	IVb
杭17	欠番	-	-
杭18	杭18	杭18	IVb
杭19	杭19	杭19	IVb
杭20	杭20	杭20	IVb
杭21	杭21	杭21	II a~ II d
杭22	杭22	杭22	II a~ II d
杭23	杭23	杭23	II a~ II d
杭24	杭24	杭24	II a~ II d
杭25	欠番	-	-
杭26	欠番	-	-
杭27	杭27	杭27	IVb
楕状遺構	楕状遺構	楕状遺構	IVa
集石1	集石1	1号集石遺構	IVb
集石2	集石2	2号集石遺構	IVb
集石3	欠番	-	-
集石4	集石4	4号集石遺構	IVa
焼土分布	焼土分布	炭化物・焼土分布1	IVb
焼土分布	焼土分布	炭化物・焼土分布2	IVb
炭化物分布	欠番	-	-
炭化物分布	炭化物分布	炭化物・焼土分布4	IVb
炭化物分布	炭化物分布	炭化物・焼土分布5	IVa
炭化物分布	炭化物分布	炭化物・焼土分布6	IVa
竈	竈	竈	IVb

表6 遺構属性表(1)  
Tab.6 Attribute table of the features (1)

遺構名	区名	時期	段階	確認面	規模			軸角度	間数(南北×東西)	間尺	重複する遺構の新古	
					面積(m <sup>2</sup> )	長軸(m)	短軸(m)				古い	新しい
1号建物	AS-AT-23~27	18世紀中葉-18世紀後葉	II c- II d	地山	-	11.84	4.36	91.22、	4×12	6尺3寸	68・70・75・79・91号遺構	
2号建物	AS-AT24~26、BA-24・25	19世紀初頭-19世紀前葉	III a- III b	地山	5.36	7.70、3.63	0.36、0.43	89.94、4.78	3×8	3尺5寸、3尺2寸	ビット109、62・75・78・91号遺構	23・24号溝、62号遺構
3号建物	AM~AO-28・29	19世紀前葉	III b	地山	-	-	-	82.04	2×2	6尺	35号遺構	48号遺構
1号柱列	BA-20	17世紀前葉	I a	地山	-	2.38	-	86.77	1	6尺5寸		
2号柱列	AO~BA-18、AT-17	18世紀	II a- II e	地山	-	17.59	-	175.55	11	5尺	19号溝	
3号柱列	AQ~AS-29	18世紀末葉以降	II e- III c	地山	-	7.61	-	172.17	2	12尺		
4号柱列	AR-25~27	19世紀中葉以降	III c	地山	-	-	-	79.86	2	9尺3寸	27号溝	

\*「規模」は残存部位から計測した。

\*「軸角度」は、南北方向の西側への傾きで示した。従来の表記だとN-角度-Wとなる。

表7 遺構属性表(2)  
Tab.7 Attribute table of the features (2)

遺構名	区名	確認面	形状	規模				時期	段階	重複する遺構の新古		備考
				面積 (㎡)	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)			古い	新しい	
沢状遺構	AJ~AM-16~18	地山	楕円形	58.26	12.36	6.52	2.70	19世紀中葉以前	I a-III c	24号遺構, 11号溝		2号遺構下部溝, 10-13-14号溝と接続
1号池	AR・AS-27~29, AT-27	地山	不整形長方形	32.20	7.92	5.05	1.30	17世紀後葉-18世紀初葉	I c-II b	19号溝, 83-84号遺構	ビット50-53, 56-81, 82-94, 69号遺構	18-22号溝と接続
2号遺構	AJ-21-22, AK~AL17~30, AM-19-20	地山	溝状	100.04	35.86	1.03-5.76	0.82	18世紀後葉-19世紀中葉	II d-II c	4-10号遺構	125号遺構	2号遺構下部溝と接続
3号遺構	AJ・AK-26-27	地山	円形	3.26	2.52	1.92	0.64	18世紀後葉-19世紀中葉	II d-III c	25号遺構		2号遺構と接続
4号遺構	AJ-21~24, AK23	地山	楕円形	10.45	6.81	2.16	0.28	17世紀後葉-18世紀中葉	I c-II c	ビット5	2-5号遺構	6号遺構と接続, 2号溝と接続?
5号遺構	AJ・AK-23	地山	三角形	1.36	1.96	1.21	0.17	17世紀後葉-19世紀中葉	I c-II c		2号遺構	4号遺構と接続
6号遺構	AJ-23-24, AK-23~25	地山	不整形円形	8.55	4.33	3.22	0.34	18世紀中葉	II c	7号遺構	2号遺構	4号遺構と接続
7号遺構	AJ・AK-24-25	地山	長方形?	5.72	2.81	2.74	0.32	17世紀後葉-18世紀初葉	I c-II b		2-6号遺構	
8号遺構	AL・AM-21~23, AL-24	地山	楕円形	23.22	8.67	3.68	0.40	17世紀後葉-18世紀中葉	I c-II c	10号遺構	2-9号遺構	
9号遺構	AL-23~25	地山	不整形長方形	4.85	3.98	1.74	0.24	18世紀中葉	II c	8号遺構	2号遺構	10号遺構と接続
10号遺構	AL-23	地山	不整形長方形	0.82	1.42	0.95	0.08	18世紀中葉	II c		2号遺構, 8号遺構	9号遺構と接続
11号遺構	AM・AN-21	地山	不整形長方形	1.86	1.58	1.42	0.09	18世紀後半-19世紀前半	II c-III c			
12号遺構	AM-22-23, AN-22~24	地山	不整形長方形	12.55	5.72	3.17	0.27	19世紀初葉	III b			
13号遺構	AN-23-24	地山	不整形円形	1.50	1.58	1.13	0.43	18世紀初葉-19世紀初葉	II a-II c		14号遺構	
14号遺構	AM・AN-23-24	地山	不整形楕円形	5.85	2.72	2.51	0.44	18世紀後葉-19世紀初葉	II d-III a	ビット4, 13号遺構		15号遺構と接続
15号遺構	AL・AM-24	地山	楕円形	2.02	1.95	1.22	0.12	18世紀後葉-19世紀初葉	II d-III a			14号遺構と接続
16号遺構	AM-25	地山	円形	0.43	0.95	0.64	0.21	19世紀	III a-III c			
17号遺構	AN-25	地山	楕円形	1.00	1.57	0.91	0.35	18世紀	II a-II c	ビット10		
18号遺構	AL-26	地山	円形	0.96	1.48	0.76	0.46	18世紀中葉	II c		2号遺構	
19号遺構	AM-25-26, AN-25	地山	円形	4.17	2.63	2.02	0.20	18世紀後半-19世紀	II c-III c			
20号遺構	AL-25-26	地山	長方形	5.82	3.72	2.01	0.38	18世紀中葉	II c	30号遺構	2号遺構	
21号遺構	AM-26-27	地山	方形	3.85	2.97	1.71	0.24	18世紀初葉	II b		30号遺構	
22号遺構	AL・AN-19-20	地山	長方形	15.16	5.23	4.05	0.44	18世紀末葉-19世紀初葉	II e-III b	ビット29-40-41, 51号遺構	ビット34-37, 2号遺構	
23号遺構	AM-18-19, AN-19	地山	楕円形	1.20-2.77	1.51-2.45	1.00-1.41	1.22	縄文	江戸以前		ビット29	
24号遺構	AL-18-19, AM-18	地山	不整形楕円形	6.60	3.52	2.74	0.54	19世紀中葉	III c	ビット30-40-43		沢状遺構, 2号遺構
25号遺構	AK-26	地山	円形	0.46	1.39	0.93	0.30	18世紀初葉-19世紀初葉	II a-II c			3号遺構
26号遺構	AK-25-26	地山	楕円形?	0.06	0.45	0.17	0.11	不明	I a-III c			
27号遺構	AJ・AK-28	地山	長方形	3.53	2.46	1.73	0.23	18世紀後葉	II d		ビット8-9, 1号溝	2号遺構と接続
28号遺構	AK-26	地山	楕円形	0.43	1.07	0.51	0.15	18世紀	II a-II c			
29号遺構	AJ・AK-26	地山	楕円形?	0.16	0.98	0.23	0.15	不明	I a-III c			
30号遺構	AL・AM-25-26	地山	楕円形	1.93	2.45	0.83	0.38	18世紀中葉	II c	21号遺構		20号遺構
31号遺構	AJ-26-27	地山	楕円形?	0.24	1.07	0.30	0.14	不明	I a-III c			
34号遺構	AL-28-29	地山	不明	0.21	0.82	0.49	0.45	不明	I a-III c			
35号遺構	AM・AN-28	地山	方形	0.39	1.00	0.89	0.21	18世紀-19世紀初葉	II a-III a			3号建物柱3
36号遺構	AM-27-28, AN-27	地山	楕円形?	0.53	1.51	0.45	0.30	19世紀初葉-19世紀中葉	III b-III c	38号遺構		
37号遺構	AM・AN-27	地山	楕円形	1.63	2.22	1.02	0.23	19世紀前半	III a-III c	38号遺構		41号遺構と埋土15共通
38号遺構	AL-28, AM-27-28	地山	長方形	10.11	5.94	2.50	0.25	18世紀	II a-II c	ビット18		36-37号遺構
39号遺構	AN-26-27	地山	不整形円形	0.40	0.91	0.56	0.13	19世紀	III a-III c	47号遺構		
40号遺構	AJ・AK-27	地山	楕円形	1.02	1.62	0.72	0.15	19世紀中葉	III c	32号遺構		

\*「規模」は残存部位から計測した。

表8 遺構属性表(3)  
Tab.8 Attribute table of the features (3)

遺構名	区名	確認面	形状	規模				時期	段階	重複する遺構の新古		備考
				面積 (㎡)	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)			古い	新しい	
41号遺構	AM-27,AN-27-28	地山	不整長方形	1.43	2.18	0.97	0.18	18世紀末葉-19世紀前半	Ⅱe-Ⅲc	4号溝		37号遺構と埋土が共通
42号遺構	AN-A0-27	地山	円形	1.72	1.47	1.46	0.45	18世紀	Ⅱa-Ⅱc			
43号遺構	AN-27,A0-27-28	地山	不整円形?	1.19	1.78	0.97	0.41	19世紀	Ⅲa-Ⅲc	44号遺構		
44号遺構	AN-A0-27	地山	長方形	1.55	1.74	1.29	0.31	17世紀後葉-18世紀	Ⅰc-Ⅱc		43号遺構	
45号遺構	AN-26,A0-26-27	地山	槽円形	4.81	3.88	2.16	0.68	19世紀	Ⅲa-Ⅲc	44-46・47号遺構,5号溝		
46号遺構	AN-26	地山	不明	0.38	1.19	0.46	0.41	18世紀	Ⅱa-Ⅱc		45号遺構	
47号遺構	AN-26-27	地山	円形	0.53	0.90	0.84	0.27	17世紀-18世紀	Ⅰa-Ⅱc		39-45号遺構	
48号遺構	AN-A0-29-30	地山	不整方形	5.02	3.55	2.36	0.60	19世紀中葉	Ⅲc	6-9号溝,3号建物柱4	1号築石遺構	
49号遺構	AM-AN-30	地山	槽円形?	0.29	1.21	0.36	0.58	18世紀	Ⅱa-Ⅱc			
50号遺構	AM-18-19,AN-19	地山	不整方形	0.43	1.16	0.48	0.19	不明	Ⅰa-Ⅲc		22号遺構	
51号遺構	AM-19-20	地山	円形	0.97	1.12	1.07	0.34	18世紀後葉	Ⅱd		22号遺構	
54号遺構	AP-AQ-23	地山	方形	0.71	0.97	0.80	0.54	18世紀	Ⅲa-Ⅱc			
56号遺構	AO~BA-15-16	地山	長槽円形	46.60	17.69	3.64	0.76	19世紀前半	Ⅲa-Ⅲc			
57号遺構	AO-AP-19	地山	槽円形	2.67	2.05	1.64	0.48	19世紀前半	Ⅲa-Ⅲc		58号遺構	
58号遺構	AP-19	地山	槽円形	0.58	1.08	0.75	0.10	19世紀前半	Ⅲa-Ⅲc	57号遺構		
60号遺構	AQ-27-28	地山	円形	1.41	1.33	1.15	0.80	18世紀末葉-19世紀前半	Ⅱe-Ⅲb			
61号遺構	AT-26,BA-26-27	地山	不明	1.42	4.55	1.03	0.98	18世紀前葉	Ⅱb	ビット96,68-70-75号遺構		
62号遺構	AS-AT-26-27	地山	長方形	2.51	1.92	1.42	0.76	19世紀中葉	Ⅲc	19号溝,75号遺構	2号建物	
64号遺構	AT-BA-28-29	地山	長方形	5.40	2.74	2.56	0.72	18世紀後葉	Ⅱd	68-69-83号遺構	ビット79	
65号遺構	AT-29	地山	不明	0.43	1.01	0.63	0.34	18世紀	Ⅱa-Ⅱc	123号遺構		
67号遺構	BA-29	地山	不明	0.15	0.69	0.40	0.22	18世紀	Ⅱa-Ⅱc			
68号遺構	AT-BA-27-28	地山	方形?	6.76	3.30	2.67	0.40	17世紀前葉	Ⅰa		61-64-83号遺構,1号建物柱4	
69号遺構	AS-AT-28-29	地山	不整槽円形	3.81	3.83	1.73	0.21	18世紀後葉	Ⅱd	1号池,83-84号遺構	ビット55	
70号遺構	AT-BA-26	地山	不明	1.19	2.60	0.94	0.23	18世紀初期以前	Ⅰa-Ⅱa		61号遺構,1号建物柱5	
71号遺構	AT-24-25	地山	方形	3.56	2.19	1.86	0.31	19世紀中葉	Ⅲc			23号溝に接続
73号遺構	AT-BA-23	地山	槽円形	1.14	1.39	0.95	0.70	19世紀初期-前葉	Ⅲa-Ⅲb	80号遺構	25号溝	
74号遺構	AQ-24	地山	不整方形	2.48	1.89	1.57	0.50	19世紀中葉	Ⅲc			
75号遺構	AS-AT-25-26,BA-26	地山	不整長方形	5.22	4.10	3.05	0.32	17世紀前葉-17世紀中葉	Ⅰa-Ⅰb	ビット96	ビット107,23-24号溝,61-62-79号遺構,1号建物柱5-6,2号建物	
76号遺構	AT-22	地山	方形?	0.36	1.06	0.45	0.55	17世紀後半以前	Ⅰa-Ⅰc			
77号遺構	AT-22	地山	槽円形	1.04	1.20	1.10	0.32	17世紀初期	Ⅰa			
78号遺構	AS-AT-24-25	地山	正方形	1.70	1.45	1.45	0.33	17世紀中葉-末葉	Ⅰb-Ⅰc		23号溝-71号遺構,3号建物	
79号遺構	AT-BA-25-26	地山	円形	1.30	1.58	1.09	0.23	17世紀後葉	Ⅰc	75号遺構	ビット83-107,1号建物柱6	
81号遺構	AQ-AR-24-25	地山	槽円形	5.71	3.46	2.14	0.54	18世紀中葉-19世紀初期	Ⅱc-Ⅲa	19号溝	28号溝	88号遺構
82号遺構	AR-AS-24	地山	不正方形	3.03	3.02	1.63	0.41	18世紀後葉-19世紀初期	Ⅱd-Ⅲa	19号溝,91号遺構	25-26号溝	
83号遺構	AS-AT-27~29	地山	長方形	14.64	7.06	2.67	0.58	17世紀中葉	Ⅰb	68号遺構	ビット82,64-69-72-94号遺構	
84号遺構	AS-AT-29	地山	円形?	5.05	2.45	2.29	0.21	17世紀中葉	Ⅰb	83-123号遺構	69-72号遺構	
85号遺構	AQ-AR-21	地山	槽円形?	1.07	1.48	1.08	0.25	19世紀初期-前葉	Ⅲa-Ⅲb			
86号遺構	AR-21-22	地山	不整円形?	1.38	2.45	0.82	0.38	18世紀後葉-19世紀初期	Ⅱd-Ⅲa	97号遺構,32号溝		87号遺構と同一か
87号遺構	AQ-22	地山	槽円形	0.29	1.26	0.33	0.30	18世紀後葉-19世紀初期	Ⅱd-Ⅲa	88号遺構		86号遺構と同一か
88号遺構	AQ-22-23,AR-23	地山	槽円形?	2.65	1.82	1.54	0.40	18世紀中葉-19世紀初期	Ⅱc-Ⅲa			81号遺構と同一か

\*「規模」は残存部位から計測した。

表9 遺構属性表(4)  
Tab.9 Attribute table of the features (4)

遺構名	区名	確認面	形状	規模				時期	段階	重複する遺構の新古		備考
				面積(m <sup>2</sup> )	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			古い	新しい	
89号遺構	AQ-22	地山	楕円形	1.67	1.69	1.23	0.80	19世紀前半-中葉	Ⅲb-Ⅲc	87-88-93号遺構		
90号遺構	AQ-21	地山	楕円形	2.72	2.40	1.43	0.30	19世紀初期-前葉	Ⅲa-Ⅲb	93号遺構		
91号遺構	AR・AS-23・24	地山	方形?	10.75	3.63	3.45	0.70	18世紀初期-前葉	Ⅱa-Ⅱb	19号溝、119号遺構	25-26号溝、82号遺構、1号埴物柱12、2号埴物	
93号遺構	AQ-21・22	地山	不整楕円形	2.17	1.68	1.42	0.46	18世紀末葉-19世紀初期	Ⅱe-Ⅲa		89-90号遺構	
94号遺構	AR・AS-19・20	地山	方形	2.12	1.53	1.50	0.22	19世紀前半	Ⅲa-Ⅲc	19号溝、95-32号溝		
95号遺構	AS-19	地山	楕円形	1.90	1.99	1.36	0.70	18世紀前半	Ⅱa-Ⅱc		94号遺構	
97号遺構	AR・AS-21・22	地山	不整楕円形	13.32	4.47	4.14	0.50	18世紀初期	Ⅱa	19号溝	ビット118、86号遺構、32号溝	
98号遺構	AT-21・22、BA-20~22	地山	楕円形	9.99	3.90	3.26	0.48	18世紀後葉-19世紀前葉	Ⅱd-Ⅲb	ビット132、116号遺構	ビット133	
99号遺構	BB-21	地山	円形	1.87	1.63	1.46	1.04	18世紀	Ⅱa-Ⅱc	118号遺構		
100号遺構	AT-19	地山	楕円形	1.70	1.72	1.23	0.10	17世紀後半以降	Ⅰb-Ⅲc	102号遺構		
101号遺構	AT・BA-19・20	地山	楕円形	1.48	1.84	1.12	0.29	19世紀前半	Ⅲa-Ⅲc	111・113号遺構		
102号遺構	AT-19	地山	円形	0.96	1.15	1.03	0.26	17世紀前葉	Ⅰa-Ⅰb		ビット128、100号遺構	
103号遺構	AT-19・20	地山	長方形	2.68	1.86	1.59	0.20	18世紀末葉-19世紀前葉	Ⅱe-Ⅲb	104号遺構		
104号遺構	AS・AT-20	地山	不整方形	1.14	1.52	1.02	0.13	19世紀前葉以前	Ⅰa-Ⅲb		103号遺構	
105号遺構	AQ-29	地山	楕円形	0.91	1.29	0.88	1.02	縄文	江戸以前		18号溝	
106号遺構	AT-20	地山	長方形	1.00	1.22	0.84	0.28	17世紀中葉	Ⅰb			
107号遺構	BA-19・20	地山	楕円形	4.02	2.45	1.87	0.32	19世紀前葉-中葉	Ⅲb-Ⅲc	109・111・112・114・117号遺構		
108号遺構	BA-20	地山	長方形	0.78	1.53	0.56	0.26	17世紀前葉	Ⅰa		ビット129	
109号遺構	BA-18・19、BB-19	地山	長方形	0.74	2.28	0.47	0.47	17世紀後半-18世紀前半	Ⅰb-Ⅱc		107号遺構	
110号遺構	BB-18-19	地山	長方形?	1.09	1.28	1.00	0.48	17世紀後半-18世紀前半	Ⅰb-Ⅱc			
111号遺構	AT・BA-19	地山	楕円形	2.50	2.35	1.28	0.80	18世紀中葉-18世紀後葉	Ⅱc-Ⅱd	112・114・117号遺構	101-107号遺構	
112号遺構	AT~BB-19	地山	長方形	6.05	5.79	1.65	0.72	17世紀末葉-18世紀初期	Ⅰc-Ⅱa		107-111・117号遺構	
114号遺構	BA-19・20、BB-20	地山	長方形	1.13	2.33	0.58	0.30	17世紀前葉	Ⅰa		107-111・113-117号遺構	
117号遺構	BA・BB-19・20	地山	楕円形	3.37	2.80	1.35	0.78	18世紀前葉	Ⅱb	112・114号遺構	107-111号遺構	
118号遺構	BA・BB-21、BB-20	地山	楕円形	1.88	1.87	1.17	0.20	18世紀	Ⅱa-Ⅱc		99号遺構	
119号遺構	AS-24	地山	楕円形?	0.78	1.40	0.78	0.53	17世紀初期-17世紀中葉	Ⅰa-Ⅰb		19号溝、91号遺構	
120号遺構	AN・AO-19	地山	不整方形	3.07	2.18	1.90	0.86	17世紀以前	江戸以前		10号溝	風倒木か
121号遺構	AN・AO-20	地山	方形	0.65	1.13	0.87	0.50	17世紀以前	江戸以前			風倒木か
122号遺構	BB-20・21	地山	不明	-	-	-	0.10	18世紀以前	Ⅰa-Ⅱe		99号遺構	断面図のみに記載
123号遺構	AT-29	地山	不明	0.42	1.37	0.52	0.10	17世紀前葉	Ⅰa		65-84号遺構	
124号遺構	AP・AQ-28・29	地山	不整方形	1.87	2.32	1.27	0.52	17世紀以前	江戸以前		ビット115	
125号遺構	AM-18-19	地山	不整楕円形	0.17	0.78	0.28	0.08	不明	Ⅰa-Ⅲc			
126号遺構	AL・AM-18・19	地山	不整方形	0.55	1.18	0.61	0.14	19世紀前葉以前	Ⅰa-Ⅲb		22号遺構	

\*「規模」は残存部位から計測した。



表10 遺構属性表(5)  
Tab.10 Attribute table of the features (5)

遺構名	区名	確認面	規模				軸角度	時期	段階	重複する遺構の新古		備考
			面積 (㎡)	長軸・全長 (m)	短軸 (m)	深さ (m)				古い	新しい	
1号溝	AJ-28, AK-27-28	地山	2.25	2.94	0.94	0.08	176.61	18世紀末葉~19世紀初頭	IIc-IIa	27号遺構		
2号溝	AJ-21	地山	0.08	0.43	0.21	0.12	179.83	17世紀後葉~18世紀中葉	Ic-IIc		2号遺構	4号遺構と接続
3号溝	AM-AN-21	地山	0.88	2.20	0.40	0.05	179.67	不明	Ia-IIc			
4号溝	AN-26-27	地山	0.29	0.92	0.32	0.15	81.51	18世紀初頭~後葉	IIa-IId		41号遺構	
5号溝	AO-26	地山	0.68	3.37	0.32	0.42	170.1	18世紀初頭~後葉	IIa-IId		45号遺構	10号溝と接続
6号溝	AL-30, AL~AP-29, AP-28	地山	11.47	11.81	0.99	0.57	160.53	18世紀初頭~後葉	IIa-IId	7-8号溝	ビット21・28・33・38	10号溝と接続
7号溝	AL-AM-29-30	地山	3.46	3.88	1.21	0.80	41.96, 165.7	17世紀後半	Ib-Ic		6号溝	
8号溝	AN-28-29	地山	0.78	1.33	0.45	0.22	92.01	18世紀初頭~後葉	IIa-IId		ビット25, 6号溝	
9号溝	AO-AP-29-30	地山	3.01	7.67	1.25	0.94	169.98	18世紀初頭~後葉	IIa-IId		ビット32, 48号遺構	10号溝と接続
10号溝	AN-17~23, AO-21~28, AP-24~29	地山	57.89	37.32	1.46-2.36	0.94	77.29	18世紀初頭~後葉	IIa-IId	ビット48-54		5-6-9-14・18号溝と接続, 17号溝と同時期
11号溝	AM-15-16	地山	1.38	2.80	0.70	1.05	79.62	17世紀	Ia-Ic		14号溝	
13号溝	AN~BA-16-17	地山	31.95	20.56	1.67-1.18	0.92	1.72	17世紀前葉~末葉 (OK4ではIa期-Ib期)	Ia-Ic		14・19号溝	状況遺構・10号溝と接続
14号溝	AM-AN-15-16, AO-15	地山	13.73	4.30	2.17-4.73	1.00	114.59	18世紀	IIa-IIe	11-13号溝	ビット2, 53号遺構	状況遺構・10号溝と接続
15号溝	AJ~AL-15	地山	3.59	4.45	1.10	0.62	167.38	17世紀後半~18世紀前半	Ib-IIc	16号溝		
16号溝	AK~AL-15	地山	2.14	4.39	0.92	0.57	176.32	17世紀後半~18世紀前半	Ib-IIc		15号溝	
17号溝	AN-AO-22-23	地山	3.44	5.27	0.53-1.18	0.35	76.44	18世紀初頭~後葉	IIa-IId			10号溝と同時期
18号溝	AP~AR-29	地山	5.14	3.94	1.22	1.04	175.02	18世紀初頭~前葉	IIa-IIb	105号遺構	ビット46-47・115, 21-22号溝	10号溝, 1号溝と接続
19号溝	AR-17~19, AR-AS-20~27	地山	57.94	29.60	1.73-3.37	0.90	84.4	17世紀後葉	Ic	13号溝, 119号遺構	2号柱列柱7, ビット84-114・116-117・120-122, 24-28号溝, 62-72-81・82-91-94-97号遺構, 32号溝	
21号溝	AQ-28-29	地山	0.83	1.17	1.13	0.18	92.9	18世紀初頭~前葉	IIa-IIb		ビット45-46, 22号溝	18号溝と接続か
22号溝	AQ~AR-29	地山	0.46	2.18	0.19	0.10	164.74	18世紀中葉以降	IIc-IIc	18号溝	ビット46, 72号遺構	
23号溝	AT-23~26	地山	4.30	7.07	0.85	0.34	87.44	19世紀中葉	IIIc	ビット105-110, 66-75-78-80号遺構	ビット93	24号溝と接続
24号溝	AS-AT-25-26, BA-26	地山	4.29	5.81	1.02	0.34	18.14	19世紀中葉	IIIc	66-75号遺構, 19号溝		23号溝と接続
25号溝	AR-24-25, AS-23-24-25, AT-BA-23	地山	6.29	8.74	0.63	0.28	164.85	19世紀中葉	IIIc	ビット117, 73-80-82-91号遺構, 19号溝	ビット120	
27号溝	AQ~AR-25	地山	4.25	5.32	0.69-1.41	0.35	5.5	19世紀中葉	IIIc	19-28-29号溝	4号柱列柱3	
28号溝	AQ~AR-25	地山	0.90	3.25	0.33	0.14	70.94	19世紀中葉	IIIc	19号溝, 81号遺構	ビット112, 27号溝	
29号溝	AQ-25	地山	0.29	0.88	0.38	0.15	97.56	19世紀中葉	IIIc		27号溝	
30号溝	AJ~AK-27-28	地山	2.25	3.14	1.26	0.22	176.24	18世紀末葉~19世紀前葉	IIc-IIb		2-40号遺構	
31号溝	BB-19-20	地山	0.32	1.56	0.31	0.06	112.61	不明	Ia-IIc			
32号溝	AR-19~22, AS-21-22	地山	19.95	10.26	2.59	0.76	84.55	18世紀前葉	IIb	19号溝, 97号遺構	ビット118・121-122, 86-94号遺構	

\*「規模」は残存部位から計測した。

\*「軸角度」は、南北方向の西側への傾きで示した。従来の表記だとN-角度となる。

表11 遺構属性表(6)-建物・柱列を構成するピット-  
Tab.11 Attribute table of the features (6) - Pits comprising buildings and rows of pillars

遺構名	旧遺構番号	区名	確認面	規模				時期	段階	重複する遺構の新古		
				面積(m <sup>2</sup> )	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			古い	新しい	
1号建物	柱1	ピット84	AS-27	72号遺構	0.38	0.74	0.70	0.20	18世紀中葉-後葉	II c-II d	1号池、19号溝	
	柱2	ピット116	AS-25-26	地山	0.21	0.57	0.47	0.32			19号溝	
	柱3	ピット117	AS-24	地山	0.30	0.71	0.51	0.22			19号溝	25号溝
	柱4	ピット80	AT-27	68号遺構	0.25	0.57	0.54	0.46			68号遺構	
	柱5	ピット97	AT-26	70号遺構	0.07	0.50	0.16	0.42			70-75号遺構	61号遺構
	柱6	ピット108	AT-25-26	地山	0.28	0.64	0.49	0.44			75-79号遺構	23号溝
	柱7	ピット105	AT-25	地山	0.30	0.67	0.57	0.30			23号遺構	
	柱8	ピット106	AT-24	地山	0.54	0.93	0.66	0.60			ピット110	23号遺構
	柱9	ピット109	AT-24	地山	0.23	0.60	0.51	0.44				66号遺構、23号溝
	柱10	80号遺構	AT-23	地山	0.83	1.87	0.59	0.40				23-25号溝、73号遺構
	柱11	ピット95	AS-AT-23	地山	0.26	0.74	0.44	0.46				91号遺構
3号建物	柱1	ピット22	AN-29	地山	0.17	0.47	0.44	0.25	19世紀前葉	III b		
	柱2	ピット28	AM-AN-29	地山	0.25	0.68	0.52	0.36			6号溝	
	柱3	ピット19	AM-AN-28	地山	0.13	0.45	0.31	0.27			35号遺構	
	柱4	ピット30	AO-29	地山	0.10	0.38	0.30	0.16				
	柱5	ピット23	AO-28-29	地山	0.18	0.54	0.44	0.32				48号遺構
1号柱列	柱1	116号遺構	BA-20	地山	0.94	1.63	0.63	0.34	17世紀前葉	I a		ピット133、98号遺構
	柱2	113号遺構	BA-20	地山	1.09	1.60	0.77	0.30			114号遺構	101号遺構
2号柱列	柱1	20号溝	AO-18	地山	0.64	1.55	0.44	0.15	18世紀	II a-II e		
	柱2	ピット70	AO-AP-18	地山	0.37	0.78	0.45	0.09				
	柱3	ピット68	AP-18	地山	0.36	0.65	0.63	0.08				
	柱4	ピット69	AP-AQ-18	地山	0.10	0.39	0.29	0.12				
	柱5	ピット65	AQ-18	地山	0.17	0.52	0.43	0.25				
	柱6	ピット64	AQ-AR-18	地山	0.39	0.90	0.43	0.12				
	柱7	ピット58	AR-18	地山、18号溝	0.37	0.89	0.50	0.19				19号溝
	柱8	ピット66	AR-AS-18	地山	0.03	0.34	0.12	0.08				
	柱9	ピット67	AS-18	地山	0.43	0.87	0.57	0.43				
	柱10	ピット71	AS-AT-18	地山	0.58	0.88	0.87	0.39				
	柱11	ピット72	AT-17-18	地山	0.69	1.00	0.69	0.26				
	柱12	ピット75	AT-BA-18	地山	0.07	0.45	0.19	0.17				ピット76
	柱13	ピット60	AS-18	地山	0.07	0.33	0.25	0.04				
	柱14	ピット62	AS-AT-18	地山	0.28	0.69	0.50	0.46				ピット63
3号柱列	柱1	ピット47	AQ-29	地山、18号溝	0.22	0.59	0.52	0.32	18世紀末葉以降	II e-III c	18号溝	
	柱2	ピット50	AR-29	72号遺構	0.06	0.31	0.25	0.11			1号池	
	柱3	ピット81	AS-29	72号遺構	0.30	0.76	0.46	0.25			1号池	
4号柱列	柱1	ピット111	AR-27	地山	0.05	0.34	0.22	0.19	19世紀中葉以降	III c		
	柱2	ピット86	AR-26	地山	0.11	0.40	0.32	0.34				
	柱3	ピット113	AR-25	地山	0.08	0.34	0.26	0.13			27号溝	

\*2号建物は布疋りの基礎構造であるため、この表には記載していない。

表12 遺構属性表(7)-ビット等その他の遺構-  
Tab.12 Attribute table of the features (7) - Other features including pits

遺構名	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新古	
					古い	新しい
ビット1	AN-25	4b層	幕末-明治初頭	IVb		
ビット2	AM-A0-16	地山	19世紀	Ⅲa-Ⅲc	14号溝、53号遺構	
ビット3	AL-AM-24	地山	不明	I b-Ⅲc		
ビット4	AM-24	地山	19世紀初頭以前	I a-Ⅲa		14号遺構
ビット5	AK-21・22	地山	18世紀前葉以前	I a-II b		4号遺構
ビット6	AN-25	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット7	AJ-26	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット8	AK-28	地山	18世紀末葉以降	Ⅱe-Ⅲc	ビット9、27号遺構	
ビット9	AK-28	地山	18世紀末葉以降	Ⅱe-Ⅲc	27号遺構	ビット8
ビット10	AN-25	地山	18世紀以前	I a-II e		17号遺構
ビット11	AK-29	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット12	AK-29	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット14	AK-29	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット15	AL-28	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット16	AJ-26	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット17	AN-27・28	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット18	AM-27	地山	18世紀以前	I a-II e		38号遺構
ビット20	AN-26・27	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット21	AL-29	地山	18世紀末葉以降	Ⅱe-Ⅲc	6号溝	
ビット24	A0-28・29	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット25	AN-28	地山	18世紀末葉-19世紀初頭	Ⅱe-Ⅲa	8号溝	
ビット26	AN-A0-28	地山	19世紀初頭以前	I a-Ⅲa		
ビット29	AM-AN-19	地山	19世紀前葉以前	I a-Ⅲb	23号遺構	22号遺構
ビット31	A0-28	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット32	A0-29	地山	18世紀初頭以降	Ⅱa-Ⅲc	9号溝	
ビット33	AN-29	6号溝	18世紀末葉-19世紀初頭	Ⅱe-Ⅲa	6号溝	
ビット34	AM-19	地山・22号遺構	19世紀初頭以降	Ⅲa-Ⅲc	22号遺構	
ビット35	AK-19	地山	19世紀初頭-前葉	Ⅲa-Ⅲb		2号遺構
ビット36	AK-18・19	地山	18世紀中葉	Ⅱc		2号遺構
ビット37	AM-19	22号遺構	19世紀初頭以降	Ⅲa-Ⅲc	22号遺構	
ビット38	AM-29	6号溝	18世紀末葉	Ⅱe	6号溝	
ビット39	AL-AM-18	地山	18世紀前半	Ⅱa-II e		24号遺構、ビット40
ビット40	AL-18・19	地山	18世紀前半	Ⅱa-II e	ビット39	22号遺構、24号遺構
ビット42	AN-18	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット43	AM-18	地山	19世紀前葉以前	I a-Ⅲb		24号遺構
ビット44	AP-23	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット45	AQ-29	地山	18世紀後葉以降	Ⅱd-Ⅲc	21号溝	
ビット46	AQ-29	地山	18世紀後葉以降	Ⅱd-Ⅲc	21・22号溝	
ビット48	AP-24・25	地山	18世紀末葉以降	Ⅱe-Ⅲc	10号溝	
ビット49	AQ-29・30	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット51	AS-29	1号池跡	17世紀後葉以降	Ⅱc-Ⅲc	1号池	
ビット52	AS-29	1号池跡	17世紀後葉以降	Ⅱc-Ⅲc	1号池	
ビット53	AS-29	1号池跡	17世紀後葉以降	Ⅱc-Ⅲc	1号池	
ビット54	AN-19	地山	18世紀後葉以前	I a-II d		10号溝
ビット55	AT-29	69号遺構	18世紀後葉以降	Ⅱe-Ⅲc	69号遺構	
ビット56	AR-29	1号池跡	17世紀後葉以降	Ⅱc-Ⅲc	1号池	
ビット57	AP-16	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット59	AT-17	地山	17世紀	I a-I c		
ビット61	AS-18	地山	19世紀	Ⅲa-Ⅲc	59号遺構	
ビット63	AS-18	地山	18世紀	Ⅱa-II e		ビット62
ビット73	AS-AT-17	地山	17世紀	I a-I c		
ビット74	A0-AP-17	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット76	AT-18	地山	17世紀	I a-I c		2号柱列柱12
ビット77	AP-AQ-28	地山	不明	I a-Ⅲc		
ビット78	AR-28	地山	不明	I a-Ⅲc		

表13 遺構属性表(8)-ピット等その他の遺構-  
Tab.13 Attribute table of the features (8) - Other features including pits

遺構名	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新古	
					古い	新しい
ピット79	AT-BA-28	64号遺構	18世紀末葉以降	II e-III c	64号遺構	
ピット82	AT-27	83号遺構	18世紀後葉以降	II d-III c	1号池、83号遺構	
ピット83	AT-BA-25	79号遺構	18世紀初頭-前葉	II a-II b	79号遺構	
ピット85	AR-26	地山	19世紀前葉以前	I a-III b		
ピット88	AR-26	地山	不明	I a-III c		
ピット89	AQ-24	地山	不明	I a-III c		
ピット91	BA-25	地山	17世紀-18世紀	I a-II e		
ピット92	AT-BA-24	地山	17世紀-18世紀	I a-II e		
ピット93	AT-25	地山・23号溝	19世紀中葉以降	III c	23号溝	
ピット94	AT-BA-24	地山	17世紀-18世紀	I a-II e		
ピット96	BA-25・26	地山	17世紀前葉	I a		61・75号遺構
ピット98	AT-26・27	地山	18世紀前葉以前	I a-II b		
ピット99	AR-25	地山	18世紀後葉以降	II d-III c	ピット112	
ピット100	AT-21	地山	不明	I a-III c		
ピット101	AT-21	地山	不明	I a-III c		
ピット102	AT-21・22	地山	不明	I a-III c		
ピット103	AT-21	地山	不明	I a-III c		ピット104
ピット104	AT-21	地山	不明	I a-III c	ピット103	
ピット107	AT-25	地山	18世紀初頭-前葉	II a-II b	75・79号遺構	23号遺構
ピット110	AT-24	地山	17世紀後葉-末葉	I c		ピット106、23号溝
ピット112	AR-25	地山	19世紀中葉以降	III c	28号溝	ピット99
ピット114	AS-26	地山	18世紀初頭以降	II c-III c	19号溝	
ピット115	AQ-29	地山	18世紀後葉以降	II d-III c	18号溝、124号遺構	
ピット118	AR-22	地山	18世紀前葉	II c	97号遺構、32号溝	
ピット119	AS-20・21	地山	不明	I a-III c		
ピット120	AS-24	地山	19世紀中葉以降	III c	19号溝、26号溝	
ピット121	AR-20	地山	18世紀中葉-末葉	II c-II e	19・32号溝	
ピット122	AR-19・20	地山	18世紀中葉以降	II c-III c	19・32号溝	
ピット123	AR-AS-19	地山	17世紀前葉-17世紀中葉	I a-I b		
ピット124	AP-19・20	地山	不明	I a-III c		
ピット125	AP-19・20	地山	不明	I a-III c		
ピット126	AP-20	地山	不明	I a-III c		
ピット127	BA-18	地山	18世紀	II a-II e		
ピット128	AT-19	地山	17世紀後半以降	I b-III c	102号遺構	
ピット129	BA-20	地山	17世紀中葉以降	I b-III c	107号遺構	
ピット131	BB-20	地山	不明	I a-III c		
ピット132	BA-21	地山	19世紀前葉以前	I a-III b		98号遺構
ピット133	AT-BA-20・21	地山	18世紀後葉以降	II d-III c	98・116号遺構	
ピット134	AS-18	地山	19世紀	III a-III c		ピット61
杭1	AM-25	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭2	AM-25	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭3	AN-26	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭4	AN-25	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭5	AM-24	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭6	AM-24	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭7	AM-24	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭8	AL-24	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭9	AN-23	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭10	AP-27	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭11	AK-20	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭12	AK-20	4層	幕末-明治初頭	IVb		
杭13	AK-20	地山	幕末-明治初頭	IVb		
杭14	AK-19	地山	幕末-明治初頭	IVb		
杭15	AK-19	地山	幕末-明治初頭	IVb		
杭16	AK-29	ピット11	幕末-明治初頭	IVb		
杭18	AN-28・29	地山	幕末-明治初頭	IVb		
杭19	AM-29	6号溝	幕末-明治初頭	IVb	6号溝	

表14 遺構属性表(9)-ピット等その他の遺構-  
Tab.14 Attribute table of the features (9) - Other features including pits

遺構名	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新古	
					古い	新しい
杭20	AN-23	12号遺構	幕末-明治初頭	IVb	12号遺構	
杭21	AP-29	地山 (10号溝底面)	18世紀初頭-後葉	II a-II d		
杭22	AP-29	地山 (10号溝底面)	18世紀初頭-後葉	II a-II d		
杭23	AP-29	地山 (10号溝底面)	18世紀初頭-後葉	II a-II d		
杭24	AP-29	地山 (10号溝底面)	18世紀初頭-後葉	II a-II d		
杭27	AS-27	4層	幕末-明治初頭	IVb		
橋状遺構	AK-20	5層	幕末-明治初頭	IVa		
1号集石遺構	AN-29	4b1層中	幕末-明治初頭	IVb	48号遺構	
2号集石遺構	AO-29	4層中	幕末-明治初頭	IVb		
4号集石遺構	AR-AS-16・17	地山	幕末-明治初頭	IVa		
炭化物・焼土分布1	AN-22	4層	幕末-明治初頭	IVb		
炭化物・焼土分布2	AL-22	4層	幕末-明治初頭	IVb		
炭化物・焼土分布3	AN-20・21	4層	幕末-明治初頭	IVb		
炭化物・焼土分布4	AO-AP-18・19	4層	幕末-明治初頭	IVb		
炭化物・焼土分布5	AM-AN-15・16	地山	幕末-明治初頭	IVa		
炭化物・焼土分布6	AN-20・21	5層	幕末-明治初頭	IVa		
竈	AR16・17・28・29・30、 AS17・22・24・28・29、 AT17・26・28、BA18・26、 BB-20・21	地山	幕末-明治初頭	IVb		

### 第三章 基本層序と時期区分

#### 1. 基本層序 (表 15)

調査区の基本層序は、大きく5層に分かれる。調査時には、広い調査範囲を複数年度に分けて実施したことから、統一した層名を設定することが難しいため、便宜的な層名を用いて調査を行った。その後の整理時に、層名等を整理し統一した。

1・2層：第二師団期以降の現在に至る時期の整地層・表土層である。掘削は重機で行っている。

3層：大きめの黄褐色粘土ブロックを含む近代の造成土である。厚く平らに盛土を行っており、この面を掘り込んで第二師団の建物基礎等が構築される。この層は、隣接するBK4地区における2・3層に対応する。なお、この場において師団期の建物が地図等で確認できるのは明治26(1893)年『仙台市測量全図』からであるので、それ以前に整地された層といえる。この層までを除去した状況を、図8・15に示した。

4層：おおむね灰褐色を呈するシルト土層で、出土遺物やこれまでの調査成果から明治維新後に屋敷が取り壊された後の土層と推定できる。隣接するBK4地区における4層に対応する。4a～4e層に細分できるが、4b層以外は遺構埋土等の凹みに堆積した部分的な土層となる。把握できた各層の分布を図16に示した。4a・4e層は北西側に位置し、4b層や遺構の凹みに分布する。4d・4e層は個別遺構の凹みに堆積した局地的な土層であるため、図16の分布図には示していない。4b層はほぼ調査区全体に広がるため、調査の際の基本層となった。

5層：調査区北側に分布するにふい黄褐色を呈する整地層である(図17)。2号遺構近辺では含有物の違いから5a～5eの3層に細分しているが、基本的には同一の層である。上面で確認された遺構は少ない。出土遺物等から屋敷取り壊し後に、北側の一段低い部分を埋めて、ほぼ平坦にしたものと考えられ、4層に近い時期の整地層と推定している。

表15 確認された層位  
Tab.15 Identified stratigraphy

現場名称		報告名称		備考	
南側	北側				
1層		1・2層	現代の 整地層	1層 現代のアスファルト・砕石層	
2層	1層			2層 現代の盛土層	
3層	2層	3層	第二師 団期の 盛土	3a層	
	3上(3a)層			3b層	
	3b層			3c層	
	3c層			3d層	
	3d層			3e層	
	3下(3e)層		3f層	1号遺構上部の壁跡堆積土	
4層	4-1層	4層	明治期 の盛土	4a層	
	4-2a層			4a1層と4a2層の上下関係は不明。4b層上面の凹みに堆積した土層	
	4-2層			4b1層	
	4-2c層			4b2層	
	-			4b3層	
	4-2e・f層		4c層	4b1・4b2層は4b3層より上。調査区全域に広がる礎層。AP29・30区付近が分布の境となる。	
A層	-		4d層	遺構上の凹みに堆積	
B層	-		4e層		
-	5層	5層	明治期 の盛土	5a層	
				4-2d層	この上部に焼土・炭化物遺構が分布
				5b層	溝上部に堆積、5b層と一連のもの
				5c層	
地山層		6層	地山層	6層	

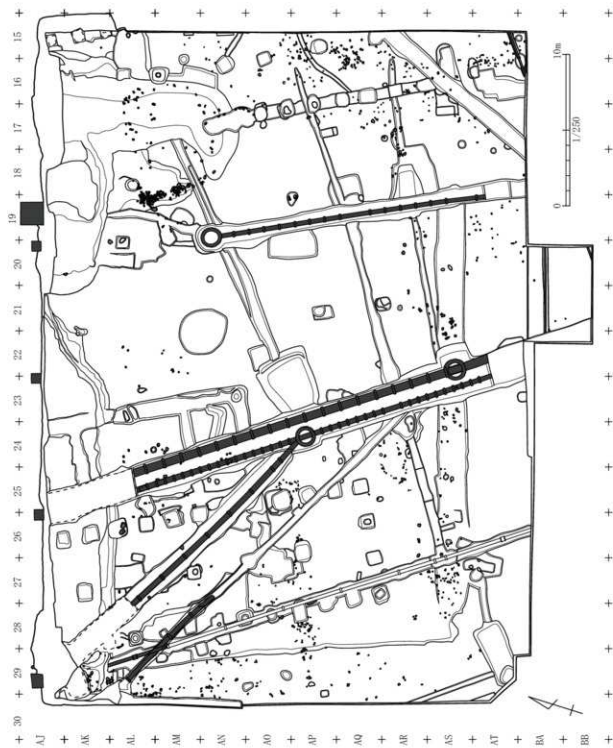


图8 扰乱除去状况  
Fig.8 Disturbance removal

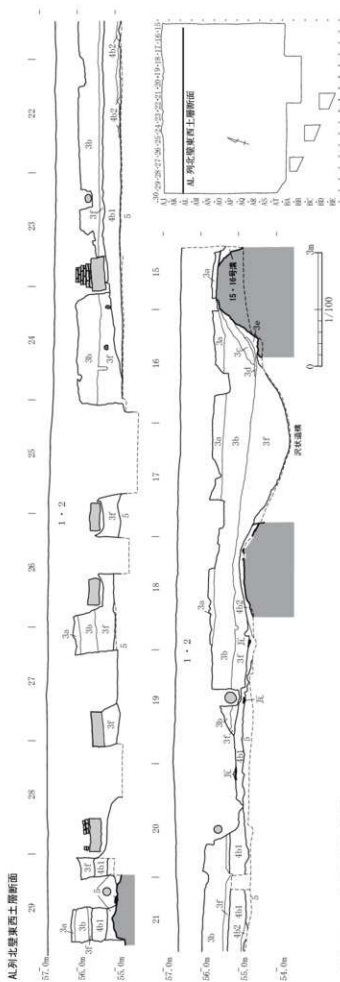
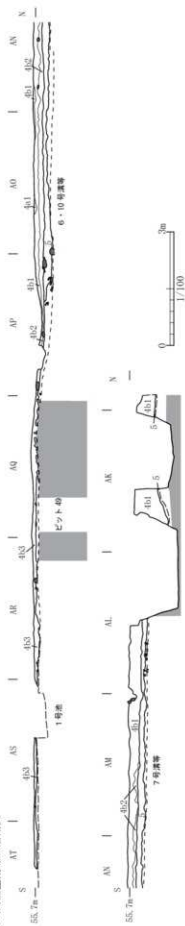


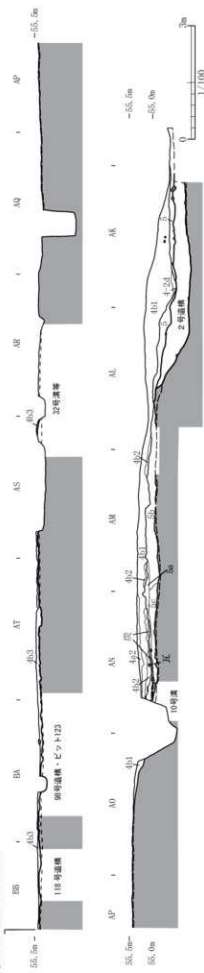
図9 調査区(AL列北壁)東西土層断面  
Fig. 9 Cross section of the east-west soil layer (Colum-Al, north wall)



①30 刈西野南北土層断面



②21 刈東野南北土層断面



③AP30 区南北土層断面

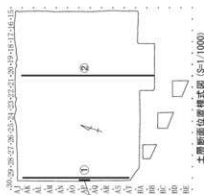
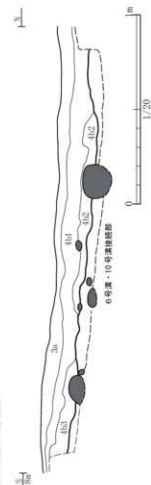


図10 調査区南北土層断面

Fig.10 Cross section of the north-south soil layer

①18 列東壁南北土階剖面

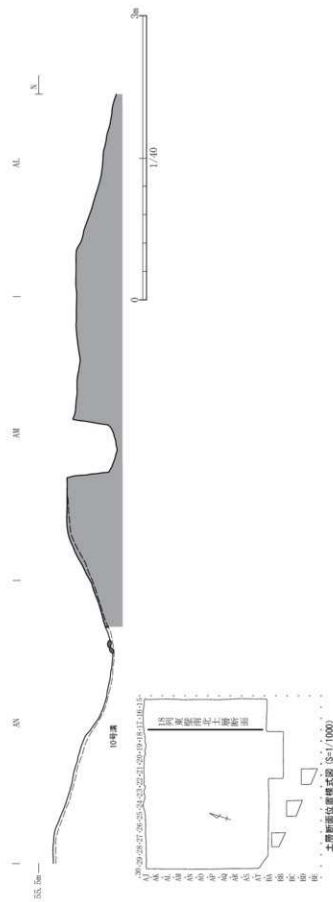
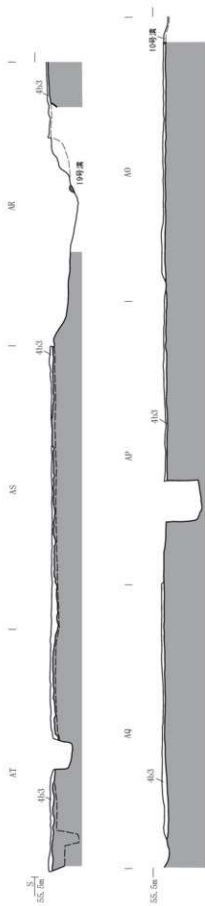
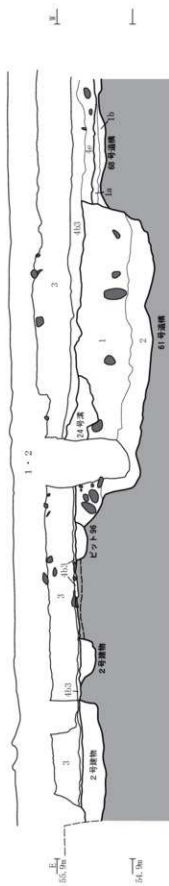


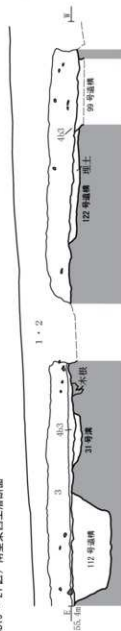
圖11 調查區(18列東壁)南北土階剖面

Fig. 11 Cross section of the north-south soil layer (row-18 east wall)

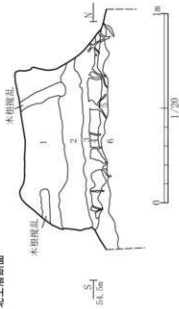
①調査区 (B424 ~ 27区) 南壁土層断面



②調査区 (B819 ~ 21区) 南壁東西土層断面



③AN20区南北土層断面



- 1 10RB5.6 黄褐色 粘土 粘性强 しまり強 大きい木相入る 白色粘土を覆状に含む 酸化鉄・マンガン粒を含む
- 2 10RB5.8 黄褐色 粘土 粘性强 しまり強 細目状に灰色粘土が入る (サシタック) 白色粘土を覆状に1層より多く含む 木相によると考えられる灰色粘土も多く分布する
- 3 10RB5.8 黄褐色 粘土 粘性强 しまり強 細目状の灰色粘土がより発達する 4・5層まで到達する 白色粘土を2層と同程度に覆状に含む
- 4 10RB.6 褐色 粘土 粘性强 しまり強 白色粘土を覆状に含む 固い粘土層
- 5 10RB.6 褐色 砂質粘土 粘性强 しまり強 マンガン粒を多く含む 4層よりかなり厚く分布する
- 6 10RB.6 黄褐色 砂 粘性强 しまり強 マンガン粒に堆積する砂層 上部にマンガン層を含む場所もある かなり固くしめる

122号遺物粘土  
10RB.6に多い黄褐色 シルト 粘性强 しまり中  
鉄分、径2-3mm程度の炭化物を僅かに含む

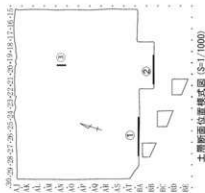
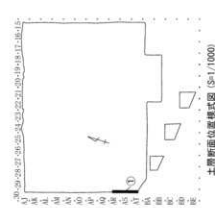
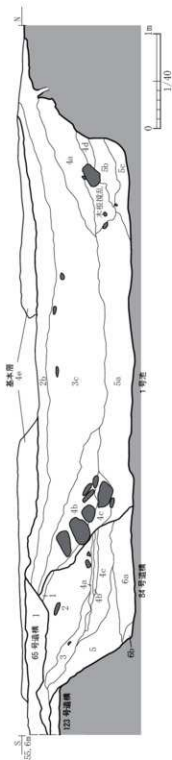


図12 調査区南壁・北山部土層断面

Fig.12 Cross section of the south wall and natural ground

①調査区 (AT-AR29区)・65・84・123号遺構・1号池土層断面図

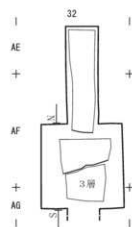


土層断面位置標尺図 (S-1/1000)

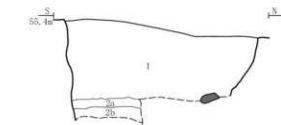
- 65号遺構  
図13 65号遺構埋土1層と同じ
- 1号池  
72号遺構AR~AT-29区南北土層断面 (図53-③) に基本的に対応する  
29・34・4b・5a~5c AR~AT-29区南北土層断面 (図53-③) と同じ  
4a AR~AT-29区南北土層断面 (図53-③) 4a層に相当する 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色を含む  
4c AR~AT-29区南北土層断面 (図53-③) 4c層に相当する赤やオレンジ化する 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土粒を多く含む  
4d 10YR3/3 に近い黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色粘土ブロックを含む
- 84号遺構  
1 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 粗分、白色土粒を含む  
2 10YR6/8 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄褐色土を多く含む  
3 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土粒、粘分を僅かに含む  
4 灰黄褐色粘土を主体とする層 灰化物や明黄褐色粘土ブロックの混入程度等の違いから粗分した  
4a 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 記載なし  
4b 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 粗1cm程度の灰化物を多く含む  
4c 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土を含む  
4d 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土粒を粗かに含む  
5 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 粗1cm程度の灰化物を多く含む  
6 黄褐色の粘土層 灰化物の混入から粗分した  
6a 2-35Y1 黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土粒を僅かに含む  
6b 2-35Y1 黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土粒を粗かに含む  
6c 2-35Y1 黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土粒を粗かに含む
- 123号遺構  
1 10YR2/3 黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強 黄褐色粘土小ブロックを粗かに含む

図13 調査区 (AT-AR29区)・65・84・123号遺構・1号池土層断面  
Fig.13 Cross section of the Features in the excavation site (AT-AR section 29)

①関連1区平面図



②関連1区西壁南北土層断面



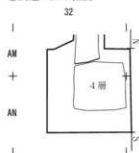
基本層

1 現代の盛土等

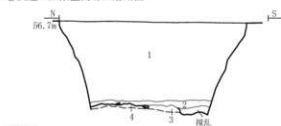
2a H10YR3/4 暗褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 径1-3cm程の円礫を少量含む 径1-2mmの炭化物を多く含む 白色・黄色土粒を少量含む 褐色粘土ブロックを斑状に少量含む 木根がやや多い

2b H10YR4/3 におい黄褐色 シルト 粘性強 しまり中 径1-3mmの炭化物を少量含む 黄色粘土ブロックを斑状に少量含む 径1-10cm程の円礫を少量含む 木根を多く含む

③関連2区平面図



④関連2区東壁南北土層断面



基本層

1 現代の盛土等

2 H10YR4/3 におい黄褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 径1-2mmの白色土粒子を多く含む 径1-5mmの炭化物をやや多く含む 東側はグライ化し灰褐色

3 H10YR4/2 灰黄褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 径1-2mmの白色土粒を少量含む 上面に径3mm程の礫を少量含む

4 H10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 粘性強 しまり強 径1-10cm程の粘土ブロックを斑状に多く含む 径1-5cmの円礫を多く含む

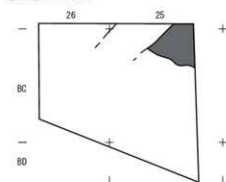
視乱部 H10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄色粘土ブロックを斑状に多く含む

⑤関連区における土層の対応

基本層	関連1区基本層	関連2区基本層	備考
1・2層	1層	1層	現代の整地層
3層	2a・2b層	2・3層	近代の盛土
4層	3層	4層	明治期の盛土



⑥関連4区平面図



⑦関連5区平面図

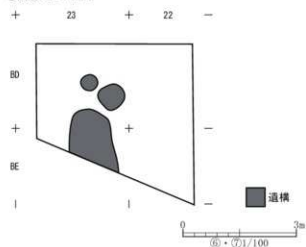


図14 関連区調査状況

Fig.14 Research in the related area

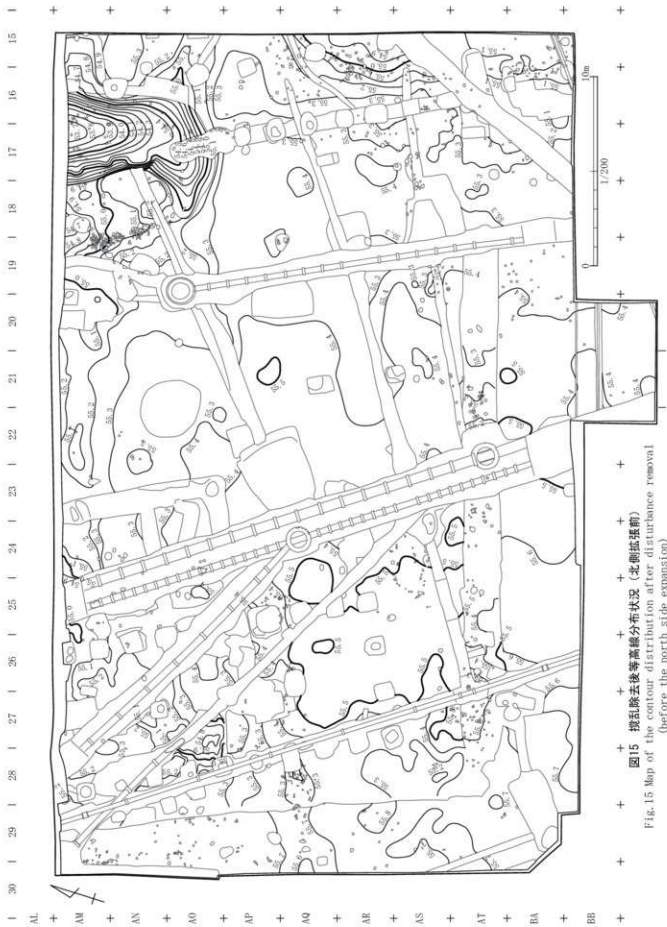
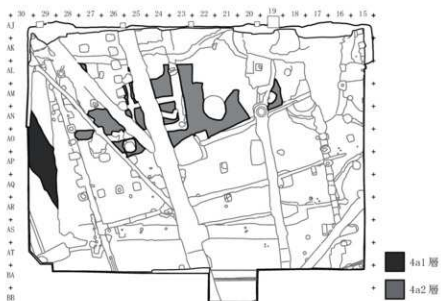
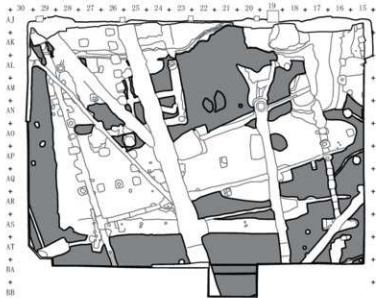


图15 扰乱除去後等高線分布狀況 (北側拡張前)  
 Fig.15 Map of the contour distribution after disturbance removal  
 (before the north side expansion)

①4a 層の分布状況



②4b 層の分布状況



③4c 層の分布状況

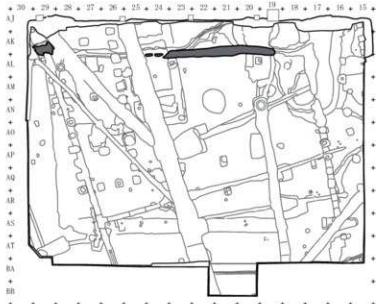


図16 4層分布状況  
Fig.16 Distribution of layer-4



図17 5層の分布状況  
Fig.17 Distribution of layer-5

## 2. 関連区の調査

外構工事に伴い本体調査区とは別に数か所の調査を行っている(図14)。本体調査区西側に位置する関連1・2区では、基本層4層相当の土層を確認した時点で調査は終了している。本体調査区南側に位置する関連3～5区では、4・5層に伴うような土層は確認できず、1～3層を除去した時点で地山層を確認している。その土層面では、遺構が確認されている。これ以上の掘削は行わないこととして、範囲等を記録して調査を終了させた。

## 3. 遺構の時期比定と段階区分

近世以前と考えられる遺構は、地山面上面で若干確認している。また、4・5層上面で確認された遺構も多くはない。これらの遺構は、検出層位・出土遺物等から幕末～明治前半期の遺構と判断できる。

主体となる江戸時代の遺構は、遺構出土遺物や遺構同士の重複関係(図18・19)等からⅠ～Ⅲ期の3時期に区分でき、おおむねⅠ期17世紀、Ⅱ期18世紀、Ⅲ期19世紀となる。この遺物による時期比定は、埋土最下層の遺物を重視している。さらに、各時期を細分した段階を設定している。この細分段階は、遺構の重複関係及び配置状況から区分したものであり、基本的には各段階に初頭～末葉までの時期名称を付けている。ただし、各段階が短時間で変遷した可能性も否定できない。なお、4層上面の遺構の時期をⅣb期、同様に5層上面の遺構の時期をⅣa期とした。



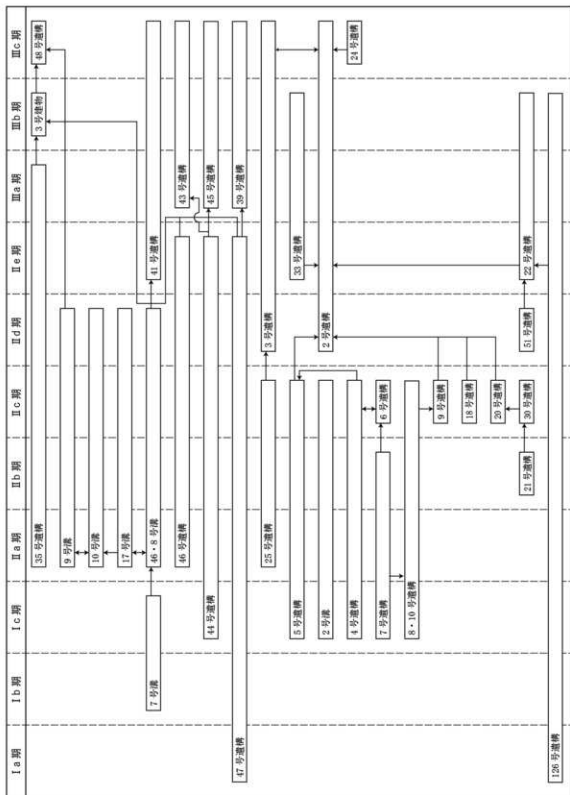


図18 主要選構の重複関係 1

Fig.18 New and old relationship of the main features (1)

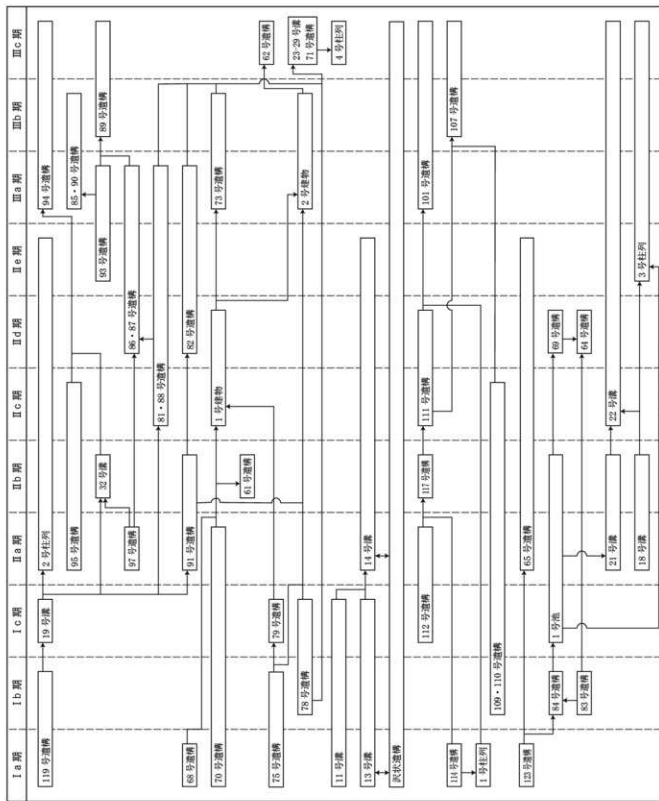


図19 主要遺構の重複関係2

Fig. 19 New and old relationship of the main features (2)

## 第IV章 検出遺構

### 1. 3層上面の遺構

3層上面の遺構としては、建物2基、柱列2基、防空壕跡1基の合計5基を確認している（図20）。

1号建物（近代）は方形の掘込の中に玉石を詰め、礎石を乗せるものである（図20、巻頭カラー図版4）。東西幅約7.3m程で、南北方向は調査区外へと伸びる。中心部にも柱列を有する。2号建物（近代）は、布掘りした範囲に玉石を入れ、その上にコンクリートの基礎を構築した上で、レンガを組み壁とする頑丈な構造となる。確認できている範囲内での東西幅は1号建物とほぼ同規模である。同様の基礎が北壁にも認められ、2号建物の一部である可能性もある。なお、重複関係から1号建物より2号建物の方が新しい。

調査区東側でも同様の基礎を確認しているが、建物として組み合わせるかどうかが不明なため、単に基礎列とした。1号基礎列とした基礎は、1号建物と同様に方形の掘込に玉石を詰める構造である。2号基礎列は、玉石を並べた後にコンクリートの基礎を形成するものであるが、2号建物とは異なりそのコンクリートは薄い。なお、この2号基礎列の基礎下部にある江戸時代の遺構（13号溝）が、荷重により変形している事例が見受けられた（図34-①）。

その他には、調査区南西部にて防空壕を確認している。同様の防空壕は、BK14地点等の複数の地点でも確認されている（『調査報告』7）。

### 2. 4・5層上面の遺構（IV期）

#### （1）4層上面の遺構（IVb期：図21）

4層上面の遺構には、ピット1基、集石遺構3基、杭20基（図21）、沢跡、溝跡、轍跡がある。

ピットは柱痕跡が認められ、周囲に礫を詰めて根固めするものである（図22-③）。1・2号集石遺構は、下部に土坑を有するものでどちらも床面に段があり、礫を充填して柱を据えていた痕跡と考えられる（図22-①・②）。柱を抜くなどした後に充填していた礫を集めたものと推定できる。これらの遺構は、何かしらの柱列や建物を構成すると思われるが、その他の同時期のピットが周辺には認めらず不明である。4号集石遺構（図22-④）は、とくに礫が集まっている部分について遺構として認定したものであるが、13号溝埋土上の凹み部に礫が集められたものと判断した。

轍跡は、調査区南半にて認められた（図21・24）。これは幅2～3cm程度の細い線状の痕跡であり、その単位を捉えることはできなかったが、密集して確認することができることから、轍痕跡と判断した。おおむね、調査区南東部では北西-北東方向、調査区中央南部では東西方向、調査西部では南北あるいは北西-北東方向の痕跡となる。

沢・溝跡は調査区北端で認められた（図25-①）。沢は調査区北西端から北側へと湾曲しながら東へ伸び、AK20・19区付近で池状となる。そこから、東側の沢へ直接注ぐルートと、南東方向へ一度回り込んでから沢へと至る2つのルートがある。地面標高のあり方（図15）等からすると基本的に、直接注ぐルートにて沢へと排水されていたものと考えられるが、池部分がオーバーフロー等した場合、南東方向を迂回して沢へと注ぐような状態であった可能性がある。また、池状部分にある杭11～15は、この池状部分と関連があるものと推測できるが、具体的な機能は不明である。

#### （2）5層上面の遺構（IVa期：図26）

5層上面で確認された遺構には、沢跡・溝跡のほか、炭化物・焼土遺構、畝状遺構等がある。

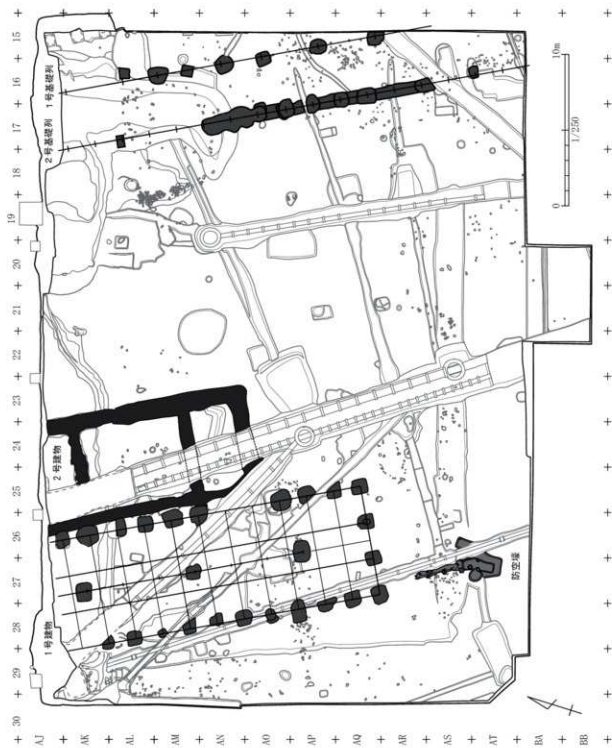


図20 近代の遺構  
Fig. 20 Modern Features

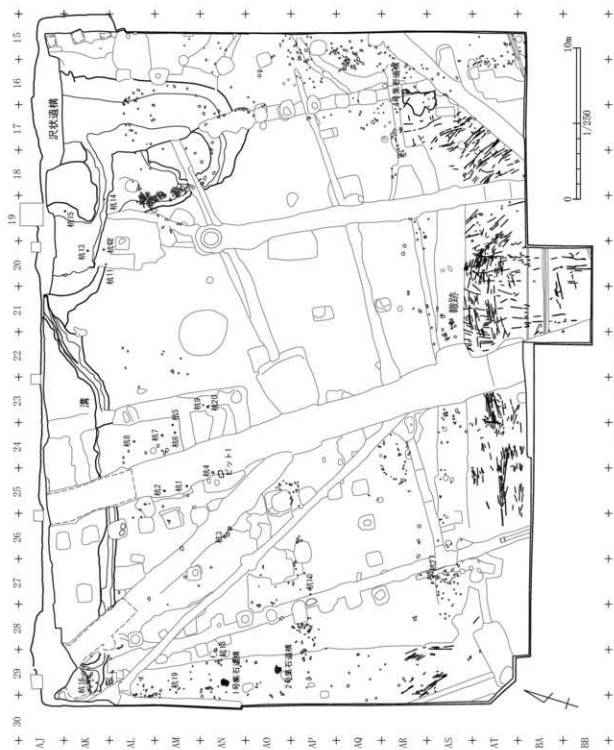
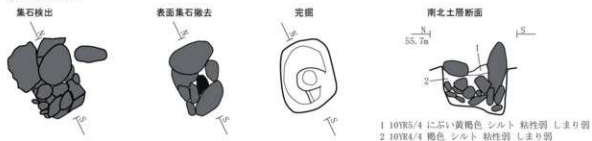


图21 4层遗迹等分布状况  
Fig. 21 Distribution of the layer-4 features

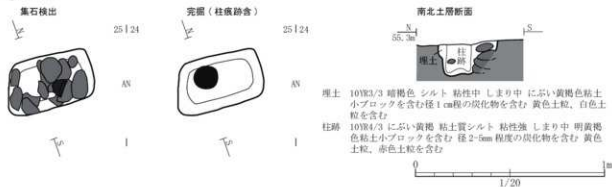
① 1号集石遺構



② 2号集石遺構



③ ビット 1



④ 4号集石遺構

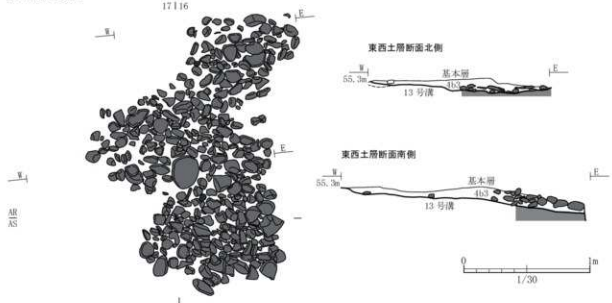


図22 4層関連の遺構 1  
Fig.22 Features related to layer-4 (1)

⑤杭1～9・20分布状況

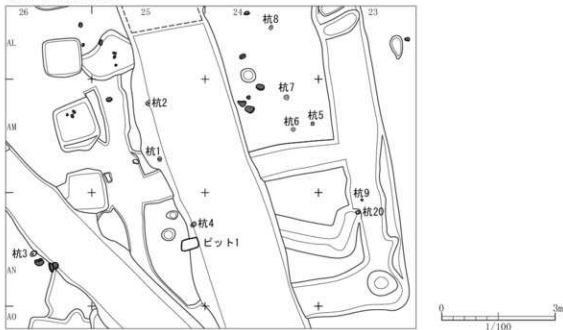


図23 4層関連の遺構 2  
Fig. 23 Remains related to layer-4 (2)

溝跡は、IV b 期と同様に調査区北西端から東側へと直線的に伸びる（図 25-②）。AK20・19 区付近で池状となることは同様であるが、溝が直線的に伸びるため直接的に沢へと排水することが可能となっている。ちょうど池へ至る溝部分には、木材により簡単な橋がかけられていた（図 27-①）。

畝状遺構は、溝の北側にて確認できた遺構である（図 25）。とくに遺物等は確認されていない。炭化物・焼土遺構は調査区北半にて 5 基確認した（図 27-③～⑦）。焼土・炭化物が集中していることから確認することができ、焼土・炭化物のあり方からすると現地にて何かを焼却した痕跡と考えられる。なお、遺構として認定はしなかったが、調査区を東西に走る 10 号溝埋土上部に礫が集中していた（図 26）。これは、意図的であるかどうか不明であるが、遺構埋土上の凹みに堆積したものと考えられる。

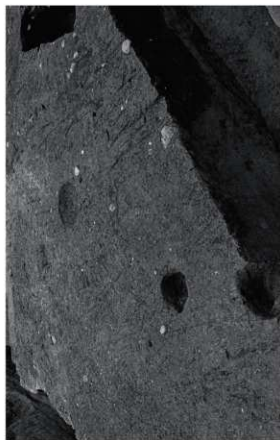
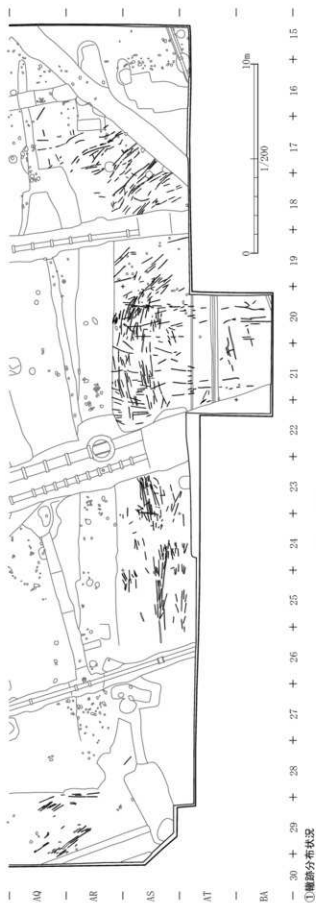


図24 横筋確認状況

Fig. 24 Identification of rut traces



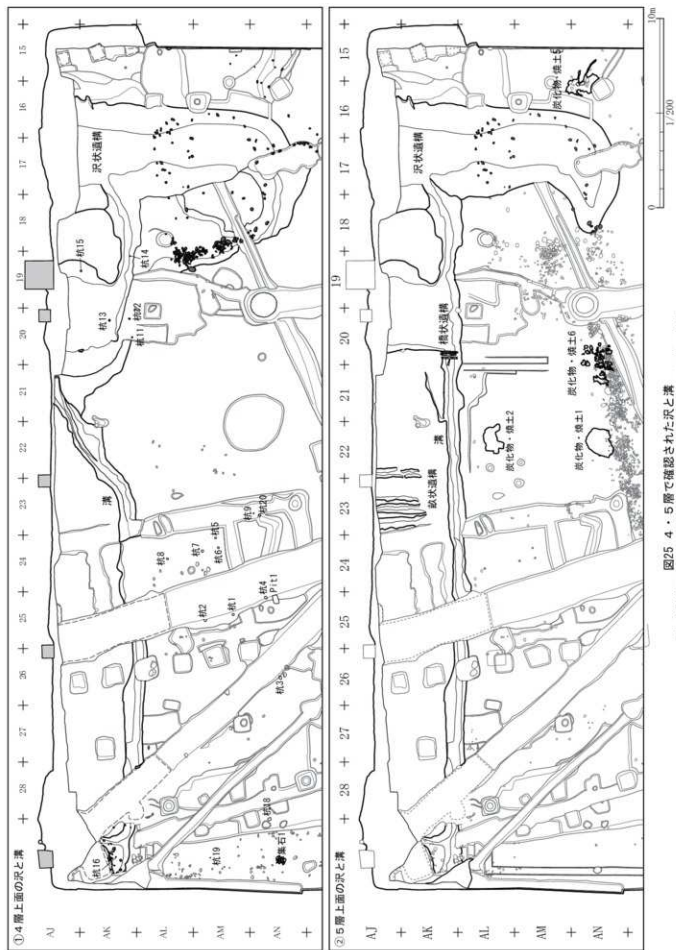


図25 4・5層で確認された沢と溝  
Fig. 25 Streams and ditches identified in layer-4 and 5



图26 5层遗物分布状况

Fig. 26 Distribution of the layer-5 features

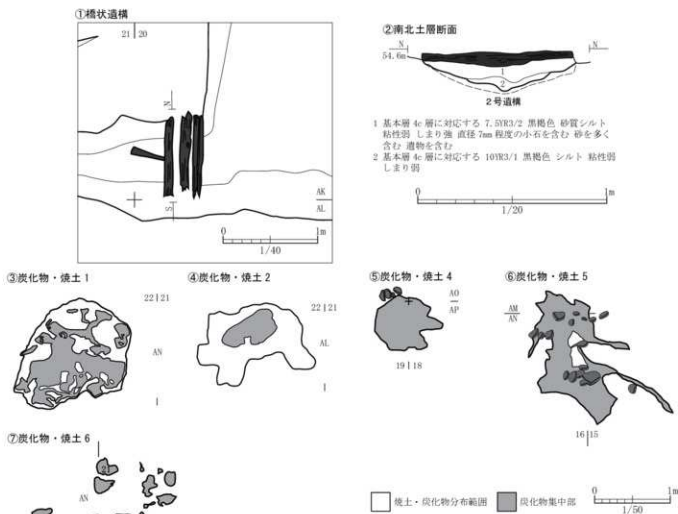


図27 5層の遺構  
Fig. 27 Features of layer-5

### 3. 江戸時代の遺構 (I～III期)

#### (1) 遺構の数

本調査で確認されたI～III期の遺構は、総数240基である(表16)。早期の遺構は少なく、大体の遺構は複数の時期にまたがるものである。時期が複数にまたがる遺構は、沢や溝跡等の実際に複数の時期に渡って機能していた遺構もあるが、ピット等の小規模な遺構は出土遺物がなく、遺構の重複関係もない場合は時期が限定できないことによるものである。その中で、I a期～III c期と最大限に幅広く時期比定されている遺構は、実質的には時期不明の遺構である。

遺構数では、遺構とピットとそれぞれ105基、93基と大多数を占める。建物と柱列を構成する柱(38基)を含めると、ピットの数は遺構より多少多くなる程度となる。これまでの当室による本遺跡の調査では、ピットの数が圧倒的の大多数となる場合がほとんどであるが、本調査区では遺構の割合も多い。また大規模な溝が多いことも本調査区の特徴であるといえる。

以下では、各時期ごとに遺構について評述するが、複数時期にまたがる遺構の場合、最も古い時期の項に記載する。また、詳細なデータは属性表(表6～14)に記載してある。

表16 遺構の時期と数  
Tab.16 Number and period of the features

	建物	柱列	沢伏	池伏	遺構	溝	ピット	杭	総計	
I a		1			5		1		7	36
I a-I b					3		1		4	
I a-I c					1	2	3		6	
I a-II a					1				1	
I a-II b							2		2	
I a-II d							1		1	
I a-II e					2		5		7	
I a-III a							2		2	
I a-III b					2		4		6	
I a-III c			1		6	2	30		39	
I b					3				3	13
I b-I c					1	1			2	
I b-II c					2	2			4	
I b-III c					1		3		4	
I c					1		1		2	15
I c-II a					1	1			2	
I c-II b			1		1				2	
I c-II c					3	1			4	
I c-II e					1				1	
II a					1				1	39
II a-II b					1	2	2		5	
II a-II c					3		2		5	
II a-II d						7		4	11	
II a-II e		1			11	1	2		15	
II a-III a					1				1	
II a-III c							1		1	
II b					3	1			4	
II c					6		2		8	22
II c-II d	1				1				2	
II c-II e							1		1	
II c-III a					2				2	
II c-III c					2	1	6		9	
II d					4				4	18
II d-III a					5				5	
II d-III b					1				1	
II d-III c					2		6		8	
II e							1		1	17
II e-III a					1	1	2		4	
II e-III b					3	1			4	
II e-III c		1			1		6		8	
III a-III b	1				3		1		5	20
III a-III c					10		5		15	
III b	1				1				2	5
III b-III c					3				3	
III c		1			6	6	3		16	16
総計	3	4	1	1	105	29	93	4	240	

(2) I期の遺構

・I a期 (図28)

【1号柱列】(図29-①~③) BA-20区に位置する1間のみの柱列である。その1間の寸法は6尺5寸であるこ

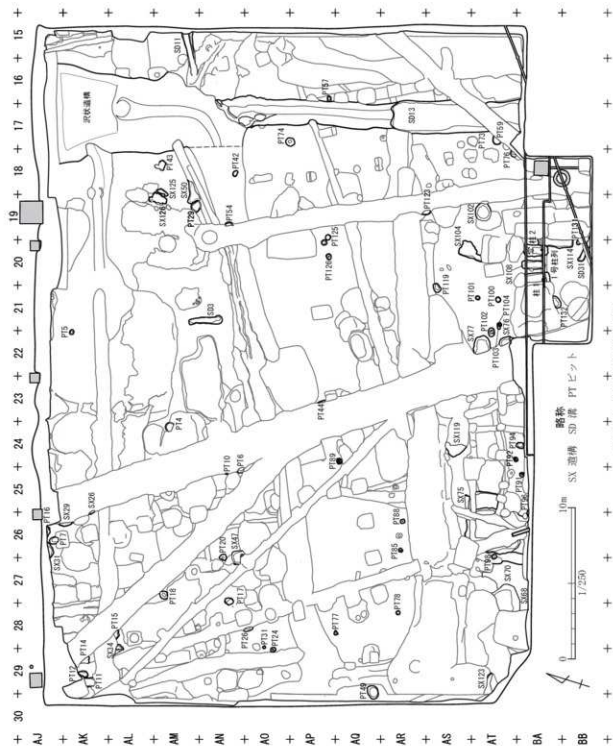


図28 1a期の遺構分布状況

Fig. 28 Distribution of features in phase 1a

とから、I a期の柱列とした。その南北の軸角度は、ほぼ東西方向に水平となり、86.77°西偏する。この柱列の東西方向は、その後遺構や視乱などにより削平されているため、どの程度伸びるのか不明である。確認できた全長は2.38mである。

柱1・2ともに、長軸約1.6m、短軸約1m程度の規模となる長方形の掘り方を有する。その壁は垂直気味に立ち上がる。掘方の南側に寄せて柱痕跡が残る。柱1と2の間にある108号遺構もほぼ同規模・同形態となるが、柱痕跡は確認されていない。

【68号遺構】(図29-④・⑤) AT-BA-27-28に位置する規模の大きな遺構である。その規模は残存部分だけで6.76m、長軸長3.30m、短軸長2.67mほどある。東壁は緩やかに立ち上がる。西側には段を有し、その部分は大きく凹む。その先は後の時期の遺構により削平されている。埋土は4層に分かれ、2層が凹み部に堆積し、1層は広く全体に堆積している。

【77号遺構】(図29-⑥・⑦) AT-22区に位置する楕円形の遺構である。半分は視乱によって削平されている。壁は緩やかに立ち上がる。その規模は、長軸長1.20m、短軸長1.10mとなる。埋土は1層のみである。

【108号遺構】(図29-⑧・⑨) BA-20区に位置し、1号柱列の柱1・2の間にある。長方形を呈し、長軸長1.53m、短軸長0.56mとなる。先述のように柱痕跡は確認されていない。埋土は底面付近の土層と2層ある。

【114号遺構】(図29-⑩・⑪) BA-19-20、BB-20区に位置し、BB-BA-20区の1号柱列柱2より古い遺構である。長軸長2.33m、短軸長0.58mとなり、同じ長方形の1号柱列柱1・2や108号遺構より大きい。埋土は1層のみである。

【123号遺構】(図13、図29-⑫) 調査区西南端のAT-29区に位置する。その大部分は他の遺構等に削平されている。確認できた規模は、長軸長1.37m、短軸長0.52mである。埋土は1層のみである。

#### ・I a期～I b期の遺構

【75号遺構】(図30-①・②) AS-AT-25-26、BA-26区に位置する規模の大きな遺構である。残存箇所の規模は5.22mあり、長軸長4.10m、短軸長3.05m程の方形を呈する。床面には緩やかな凹凸がある。埋土は大きく3層に分かれる。西側を視乱により削平されているが、その反対側の70号遺構(I a-II a期)も、規模・床面・埋土の状況から同一の遺構の可能性はある。その場合、70号遺構もI a-I b期の遺構となる。

【102号遺構】(図30-⑤・⑥) AT-19区に位置する円形の遺構である。規模は0.96mで直径1m程度である。埋土は底面に堆積した土層を含む2層のみである。

【119号遺構】(図30-③・④) AS-24区に位置する遺構であるが、北・東部を新しい遺構に削平されている。残存している規模は0.78mで、西壁に段を有する。深さは52cmほどあり、埋土は5層に分かれる。

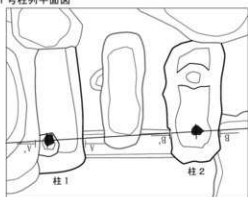
#### ・I a～I c期の遺構

【76号遺構】(図31-①・②) AT-22区に位置する遺構である。その西半分は削平されているが、方形を呈するものと推定できる。規模は0.36mで、埋土は4層確認している。

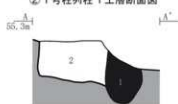
【11号溝】(図31-③・④) AM-15-16区に位置する幅0.70m程の溝で、西側で沢と合流し、東側は調査区外へと伸びる。軸角度は79.62°西偏する。床面と側面に礫を並べ、その中に礫を充填させた上で、さらに蓋石を置く構造となっている。その構造から沢へ排水する暗渠として利用されていたものと推定できる。

【13号溝】(図31-⑤～④) AN～BA-16-17区に位置し、幅1.67～2.18m程で南北に伸びる溝である。軸角度は1.72°西偏する。AQ・AP-17区近辺では、埋土上部に礫の集中が認められた(図32-②)。南側埋土上部北側で沢状遺構に接続し、南側は調査区外へと伸びBK4調査区へと続く。この13号溝は、BK4の1号溝と同一の溝である。

①1号柱列平面図



②1号柱列柱1土層断面図



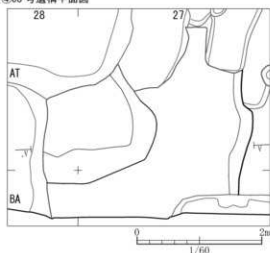
- 1 10YR5/2 灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱  
しまり弱 明黄褐色粘土小ブロック、  
鉄分を含む
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性  
中 しまり中 明黄褐色粘土ブロックを  
底状に含む 白・黄色土粒、径 2-3 mm  
程の炭化物を極僅かに含む

③1号柱列柱2土層断面図

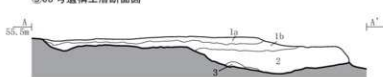


- 1 10YR4/1 褐灰色 砂質シルト 粘性強  
しまり強 褐色砂を底状に多く含む 径  
3 mm程の炭化物を少量含む
- 2 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しま  
り強 黒褐色土を底状に多く含む 赤色  
土粒、白色土粒を極僅かに含む
- 3 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり中  
黒色土を僅かに含む 汚れた地山

④68号遺構平面図



⑤68号遺構土層断面図



- 1 下部に黄色粘土部分が増えることから細分した
- 1a 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを  
底状に多く含む 径 5-10 mmの炭化物を僅かに含む 鉄分を含む
- 1b 10YR7/4 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 褐灰色土を含む
- 2 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色粘土ブロックを含む 黄色土粒、白色  
土粒、径 1 cm程の炭化物を含む
- 3 10YR7/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 褐色土を僅かに含む

⑥77号遺構平面図

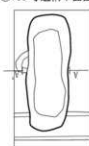


⑦77号遺構土層断面図

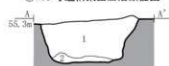


- 1 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しま  
り中 明黄褐色粘土小ブロックを底状  
に含む 径 5-10 mmの炭化物、白色土粒・  
黄色土粒を含む 径 3-10 cmの礫を含む

⑧108号遺構平面図

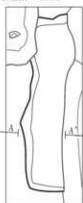


⑨108号遺構東西土層断面図



- 1 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 明黄  
褐色粘土ブロックを僅かに含む 径 1 cm程の炭化  
物を僅かに含む
- 2 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 黒褐  
色土を僅かに含む

⑩114号遺構平面図



⑪114号遺構土層断面図



- 1 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘  
性中 しまり中 明黄褐色粘土小ブ  
ロックを僅かに含む 径 5 mm程の炭  
化物を極僅かに含む

⑫123号遺構平面図



土層断面図・土層注記は、図 13  
に含まれる

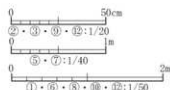
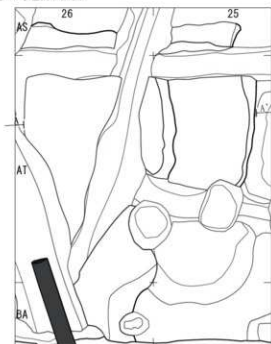


図 29 Ia期の遺構  
Fig. 29 Features of phase Ia

①75号遺構平面図



②75号遺構土層断面図



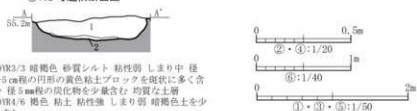
1 土質の違いから細分した 1b層の方が明るい

- 1a 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土粒を僅かに含む 炭化物を少量含む 白色粒を多く含む  
 1b 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土粒がブロックをやや多く含む 白色粒を含む 炭化物を僅かに含む  
 2 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土ブロックを多く含む 褐色土ブロックを含む 白色粒を含む 炭化物を僅かに含む  
 3 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 に近い黄褐色土が僅かに混じる 地山層がくすんだような層 マンガン粒を含む

⑤102号遺構平面図



⑥102号遺構断面図



- 1 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 径 1-5 cm程の円形の黄色粘土ブロックを密に多く含む 径 5 mm程の炭化物を少量含む 均質な土層  
 2 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり弱 暗褐色土を少量含む

図30 1a～1b期の遺構

Fig.30 Features of phase I a～I b

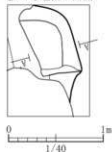
また、AR-17区近辺で19号溝（I c期）と接続する。この19号溝接続部以北では、13号溝の埋土は4層に別れ、それぞれレンズ状に堆積する。19号溝接続部以南では、一段低くなると共に、全体的に幅が広くなり、埋土も細かく細分することができる。また、床面に掘削時の工具痕が認められた（図33-①）。一段低くなった部分に埋土3層が堆積した後に、19号溝と接続する。このタイミングで火山灰が堆積しており、埋土3層上面で面的に広がる。また、AQ17区中央で認められた19号溝接続部北側の2層の堆積状況（図33-⑤）からすると、3・4層の堆積と、1・2層の堆積には時間差が認められることから、13号溝の埋土1・2層は19号溝接続後の埋土と推定できる。

#### ・I a～II a期の遺構

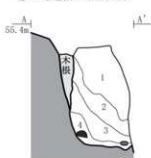
【70号遺構】（図35） AT・BA-26区に位置するやや規模の大きい遺構である。長軸長2.60m、短軸長0.94m程であり、南側に段を有し、床面には緩やかな凹凸がある。埋土は2層に分かれる。形態や埋土の特徴から東側の視乱を



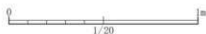
①76号遺構平面図



②76号遺構土層断面図

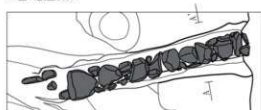


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性なし しまり強 黄褐色土・暗褐色土ブロックが多く混じる炭化物を少量含む
- 2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土粒を僅かに含む以外均質な層 下部はややグレイ化する
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 暗褐色土を少量含む炭化物を僅かに含む
- 4 10YR4/1 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 にぶい黄褐色土ブロックを含む

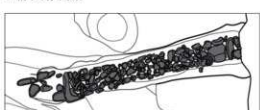


③11号溝平面図

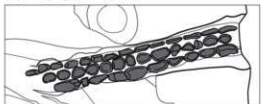
a. 蓋石設置状況



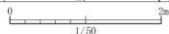
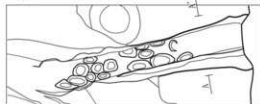
b. 溝中礫分布状況



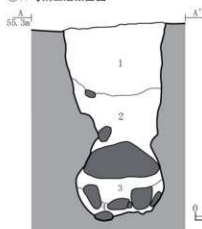
c. 物石・底石設置状況



d. 完掘



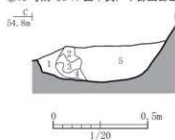
④11号溝土層断面図



- 1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり強 にぶい黄褐色土小ブロック・黒褐色土小ブロックを炭状に非常に多く含む 風化した小礫を僅かに含む
- 2 10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり弱 黒褐色土小ブロック・明黄褐色土小ブロック・明黄褐色土小ブロックを炭状に多く含む
- 3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 暗褐色粘土を層状に含む
- 4 10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 底面、側面に石の形に合わせて固めて石を据えている 隙間に地山由来の扁平な小円礫を一部入れる この小円礫以外の混入物はほとんどない



⑤13号溝 (AP17区中央) 下部凹部土層断面図



- 1 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 マンガン粒・鉄粒を多く含む 地山土であるが、やや白くやわらかい
- 2 10YR3/5 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強 径3cm程の礫を僅かに含む 径3-10mm程の地山ブロックを炭状に含む 13号溝 AP17区南側土層断面3層に相当するが、粘土に近い
- 3 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 灰色土を少量炭状に含む
- 4 2層と同じ
- 5 AP17区南側土層断面4層と同じ

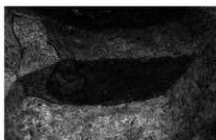
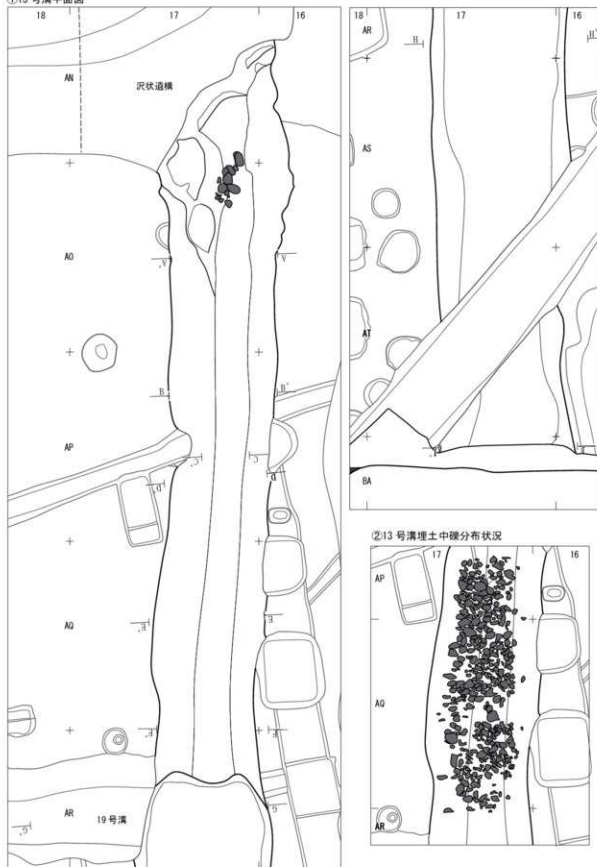


図31 Ia~Ic期の遺構 1  
Fig. 31 Features of phase Ia - Ic(1)

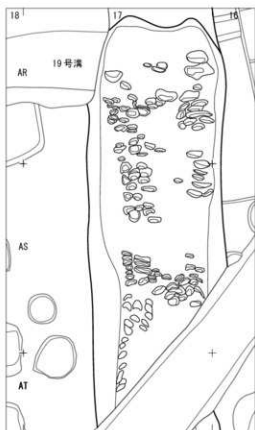
①13号溝平面図



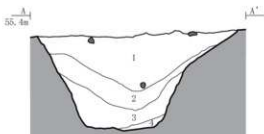
0 1/60 2m

図32 Ia~Ic期の遺構 2  
Fig. 32 Features of phase Ia - Ic (2)

⑬13号溝掘削断面

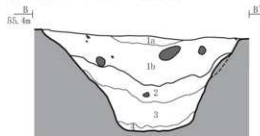


⑬13号溝 (A017区中央) 土層断面図



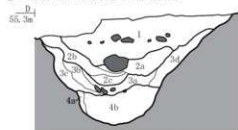
- 1 10YR4/3 ぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり強 径1-3 cm程の円礫を少量含む 黒色土と黄色土を斑状に細かに含む 部分的に黒色土、黄色土を層状に含む
- 2 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり中 1層の黒色土・黄色土を斑状に少し含む 部分的にグライ化し灰土となる
- 3 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 膠礫には黄色粘土ブロックを含む 部分的に灰色の砂を少量含む
- 4 10YR5/4 ぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 灰褐色粘土を層状に含む 地山由来の土層

⑬13号溝 (AP17区中央) 土層断面図



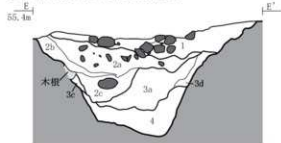
- 1 A017区中央土層断面1層と同じであるが、黒色土の比率が高い層を1a層として区分した

⑬4号溝 (AP17区南側) 土層断面図



- 1 A017区中央土層断面1層と同じ
- 2 A017区中央土層断面2層と同じだが、細かな土層の違いから2a-2c層に細分した
- 2a A017区中央土層断面2層と同じ
- 2b 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり中 径3mmほどの黒色土・黄色土の円形ブロックを斑状に多く含む 塵土1と類似が薄い
- 2c 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性弱 しまり中 径5mm程の黄色粘土ブロックを少量含む 下部はややグライ化する
- 3 基本的にはA017区中央土層断面3層と同じだが、細かな土質の違いから2a-2d層に細分した
- 3a 10YR4/3 ぶい黄褐色 粘土 粘性中 しまり弱 鉄分を斑状に多く含む 底部に径3cm程の礫を含む
- 3b A017区中央土層断面3層と特徴は同じ 黒色土と黄色土の円形ブロックを少量含む 下部はややグライ化する
- 3c 10YR4/4 褐色 粘土 粘性弱 しまり強 地山の黄色粘土ブロックを多量に含む 上部には黒色土を斑状に含む 崩落土層
- 3d 10YR4/3 ぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 地山の黄色粘土ブロックを少量含む
- 4 A017区中央土層断面4層と同じであるが、細かな特徴の違いから、4a層と4b層に細分した
- 4a 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 灰色土を少量斑状に含む
- 4b A017区中央土層断面4層と同じだが、東側に地山ブロックを多く含む

⑬13号溝 (A017区中央) 土層断面図



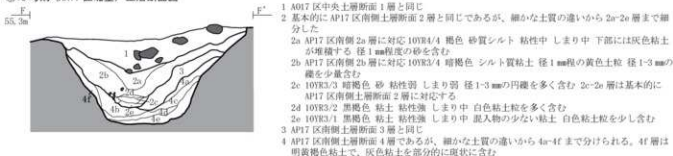
- 1 A017区中央土層断面1層と同じ
- 2 AP17区南側土層断面2層と同じで、2a-2c層に細分した
- 3 基本的にAP17区南側土層断面3層と同じであるが、3b層は存在しない
- 4 AP17区南側土層断面4層と同じ



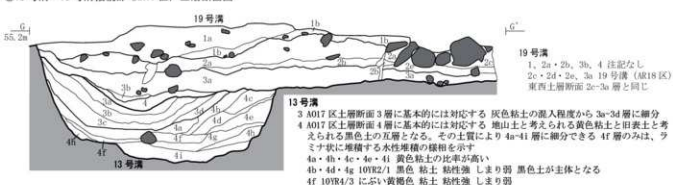
図33 1a～1c期の遺構3

Fig.33 Features of phase 1a - 1c (3)

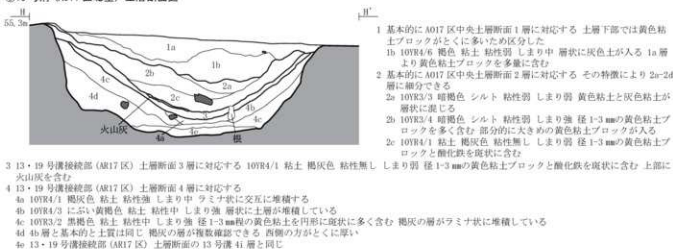
⑬13号溝 (AR17区北壁) 土層断面図



⑬13号溝・19号溝接続部 (AR17区) 土層断面図



⑬13号溝 (AS17区北壁) 土層断面図



⑬13号溝 (AT17区南壁) 土層断面図

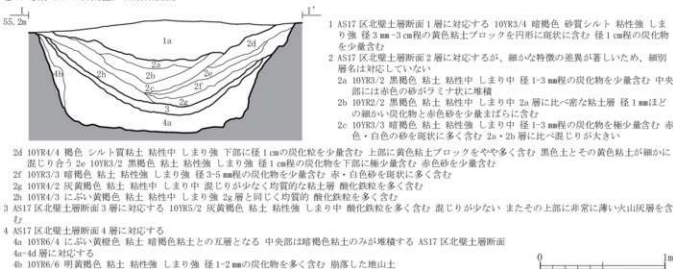


図34 1a~1c期の遺構4  
 Fig.34 Features of phase 1a~1c (4)

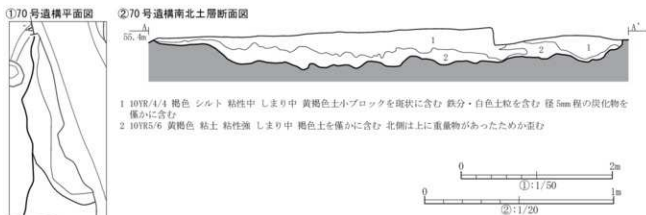


図35 I a～II a期の遺構

Fig.35 Features belonging to phase I a-II a

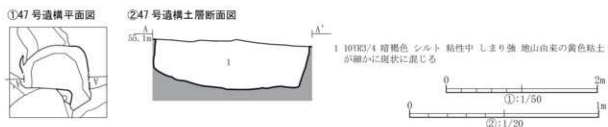


図36 I a～II e期の遺構

Fig.36 Features of phase I a - II e

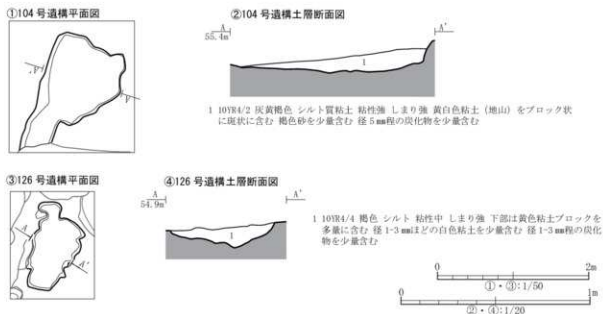


図37 I a～III b期の遺構

Fig.37 Features of phase I a - III b

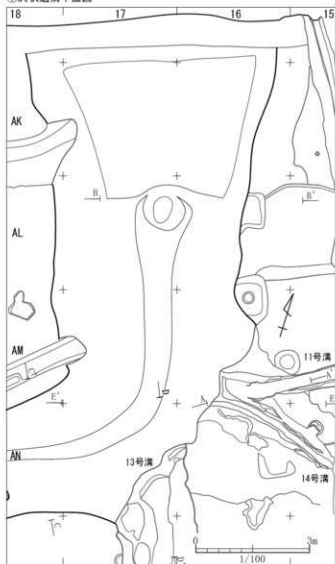
扶んで対岸にある75号遺構と同一の可能性が高い。その場合、時期はI a期～I b期となる。

・I a～II e期の遺構

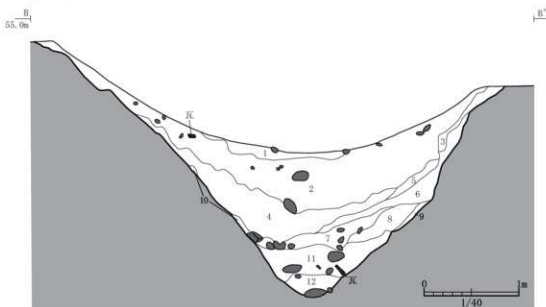
【47号遺構】(図36) AN-26-27区に位置するほぼ四角形の遺構である。残存規模は0.53㎡であり、大きくはない。埋土は1層のみである。

【122号遺構】(図12-②) 調査区南端BB-20-21区で断面のみで確認した浅い遺構である。形状は不明である。

①沢伏遺構平面図



④沢伏遺構 (AL16-17区) 北壁土層断面図



②沢伏遺構土層注記

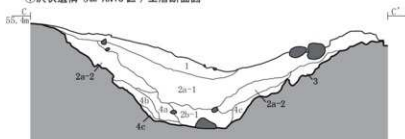
- 1 10YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 有機物を僅かに含む 華大の礫をやや多く含む 酸化鉄を斑に少量含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまりやや強 直径3cm程の礫を少量含む 瓦・石を僅かに含む 炭化物粒を僅かに含む 直径3cm程の粘土質の地山を僅かに含む
- 3 10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 炭化物粒を極僅かに含む
- 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強 酸化鉄を斑に少量含む 直径3-5cmの粘土ブロックを僅かに含む 直径3cm程の礫を僅かに含む
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり弱 直径3cm程の粘土地山ブロックを下層にやや多く含む 直径1cm程の礫を僅かに含む 酸化鉄を斑にやや多く含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまりやや強 径1-3cmの礫を非常に多く含む
- 7 2.5Y4/2 暗灰黄色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり中 華大の礫を多く含む
- 8 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 マンガン粒を斑に多く含む
- 9 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強 砂を少量含む 直径1cmの礫を僅かに含む
- 10 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強 直径1cmの礫を多く含む
- 11 2.5Y4/2 暗灰黄色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり弱 礫を非常に多く含む 陶器・瓦を少量含む
- 12 2.5Y4/1 黄灰色 砂 粘性なし しまり弱 人頭大の礫を少量含む

③沢伏遺構・11号溝・14号溝接続部土層断面図

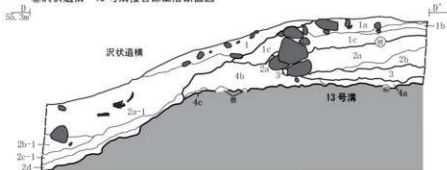


図38 Ia~IIIc期の遺構 1  
Fig. 38 Features of phase Ia~IIIc(1)

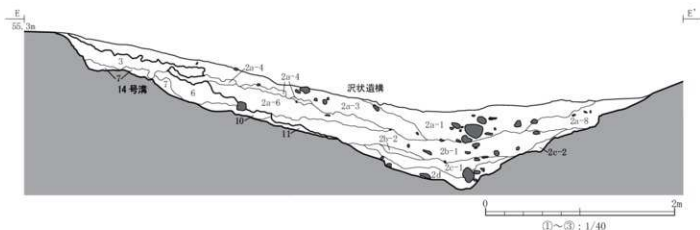
①沢伏遺構 (AM・AN18区) 土層断面図



②沢伏遺構・13号溝接合部土層断面図



③沢伏遺構・14号溝接合部土層断面図



沢伏遺構

- 1 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土ブロックを含む 径1cm程の炭化物を含む 鉄分を含む 地点により黄色粘土ブロックの混入程度が変化する
- 2 褐色を主体とした土層 2b層では小さい礫等を含むことが多くなる 2c層は砂や礫を含むようになり、2d層は2c層よりさらに多くなる。地点により混入物の程度等から相分した
- 2a-1 7.5YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 径1-2cm程の炭化物を含む 径2-5cmの礫を含む 黄色土粒を含む
- 2a-2 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色土小ブロックを全体に含む 径2-3mmの炭化物を僅かに含む
- 2a-3 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 こぶし大の礫を少量含む 炭化物粒を僅かに含む 比較的均質な層
- 2a-4 10YR5/4 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 地山土に近い黄褐色部分も含む それ以外の混入物はほとんどない
- 2a-5 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土粒・暗褐色土粒を含む 小礫を少量含む
- 2a-6 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土粒をやや多めに含む 炭化物を少量含む 礫を僅かに含む
- 2a-7 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 11号溝埋土起源と思われる黄褐色土粒・暗褐色土粒を多く含む 小礫を少量含む
- 2a-8 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物を少量含む 小礫を少量含む 比較的均質な層
- 2b-1 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり弱 径1cm程の炭化物を僅かに含む 黄色土粒を含む こぶし大・人頭大の礫を含む 地点によっては暗褐色・暗褐色土粒も僅かに含む
- 2b-2 10YR5/4 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土粒を多く含む
- 2c-1 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 地山起源の砂が混じる 礫を含む 炭化物を少量含む 黄褐色土粒を僅かに含む
- 2c-2 10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 地山起源の砂を多く含む層 小礫を僅かに含む
- 2d 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 地山起源の砂がやや多く混じる 礫を多く含む 13層より砂・礫とも多くなる
- 3 AM・AN18区土層断面のみに認められる 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色土・褐色土を含む
- 4 AM・AN18区土層断面のみに認められる 4a-4cに区分した 4a・4b層は3層と類似する
- 4a 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄色土粒を含む
- 4b 7.5YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄褐色土ブロックを含む
- 4c 10YR5/6 黄褐色 砂 粘性なし しまり中 褐色粘土をうすい層状に含む

図39 Ia～IIIc期の遺構 2

Fig. 39 Features of phase Ia ~ IIIc (2)

①26号遺構平面図



②26号遺構土層断面図

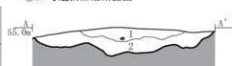


1 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性中 しまり強 地山由来の粘土ブロックを下部に含む 径 3-5mm程の炭化物をごく僅かに含む

③29号遺構平面図



④29号遺構土層断面図

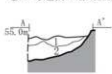


1 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性強 しまり強 径1-5mm程の炭化物を多量に含む  
2 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 地山由来の黄色粘土ブロックを底状に含む 径1-2mm程の炭化物を少量含む

⑤31号遺構平面図



⑥31号遺構土層断面図



1 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 粘性中 しまり強 黄色粘土ブロックを底状に含む 径1-5mmの炭化物を少量含む  
2 10YR5/8 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 径5mm程の灰色粘土を底状に含む

⑦34号遺構平面図

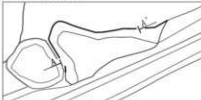


⑧34号遺構土層断面図



1 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 明黄褐色土ブロックを含む 鉄分を含む

⑨50号遺構平面図



1 10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 径1-3mm程の炭化物を少量含む 径3-5cmの礫を少量含む  
2 10YR6/8 明黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 灰色粘土ブロックを僅かに含む

⑩125号遺構平面図



⑪125号遺構土層断面図

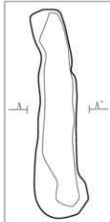


1 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性中 しまり強 径1-3cm程の礫を少量含む 黄色の砂をブロックで多く含む

⑫50号遺構土層断面図



⑬3号溝平面図

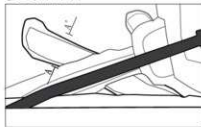


⑭3号溝土層断面図



1 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり中 炭化物を少量含む 粘土 (10YR5/4) を底状に少量含む

⑮31号溝平面図



⑯31号溝土層断面図



1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色粘土ブロックを僅かに含む 径2-3mmの炭化物を断僅かに含む 黄色土粒を僅かに含む



図40 I a~IIIc期の遺構 3  
Fig.40 Features of phase I a~IIIc (3)



・I a～III b期の遺構

【104号遺構】(図37-①・②) AS・AT-20区に位置する不整形の遺構である。規模は1.14㎡で、埋土は1層のみである。

【126号遺構】(図37-③・④) AL・AM-18・19区に位置する不整形の遺構である。規模は、面積0.55㎡、長軸長1.18m、短軸長0.61mとなる。埋土は1層のみである。形が不整形で床面は凹凸していることから、凹みに堆積した土層等の遺構ではない可能性もある。

・I a～III c期の遺構

【沢状遺構】(図38・39) AJ～AM-16～18区に位置する沢状の遺構であり、調査区北側に排水を行っていたものと考えられる。最大幅は北側部で12.36m程となる。埋土は12層に分かれ、礎や遺物等を含む。底面は地山の礫層となる。I期以前は不明であるが、この遺構は3層によって盛土されるまでは機能していたと考えられる。北側で、10～14号溝と接続する。

【26号遺構】(図40-①・②) AK-25・26区に位置する遺構で、大部分は掘乱によって削平されている。残存している規模は、長軸長0.45m、短軸長0.17m程度である。埋土は1層のみである。

【29号遺構】(図40-③・④) AJ・AK-26区に位置する遺構で、26号遺構と同様に掘乱により大部分が削平されている。残存している規模は、長軸長0.98m、短軸長0.23mである。埋土は2層に分かれ、床面には緩やかな凹凸がある。

【31号遺構】(図40-⑤・⑥) AJ-26・27区に位置する遺構で、北半分以上が調査区外に伸びる。残された形状から楕円形を呈する可能性が高い。残存している規模は、長軸長1.07m、短軸長0.30mとなる。埋土は2層に分かれ、床面から壁に向かって緩やかに立ち上がる。

【34号遺構】(図40-⑦・⑧) AL-28・29区に位置し、その大部分を他の遺構や掘乱によって削平される。残存している規模は、長軸長0.82m、短軸長0.49mとなる。底面には凹凸があり、底面からやや急に立ち上がる。埋土は1層のみである。

【50号遺構】(図40-⑨・⑩) AM-18・19、AN-19区に位置する遺構で、ビット129と隣接する不整形の遺構である。残存している規模は、長軸長1.16m、短軸長0.48m程である。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は2層確認した。

【125号遺構】(図40-⑪・⑫) AM-18・19区に位置する不整形楕円形の遺構である。その規模は、長軸長0.78m、短軸長0.28mとなる。埋土は1層のみである。

【3号溝】(図40-⑬・⑭) AM・AN-21区に位置する南北方向の溝である。規模は全長2.2m、幅0.4mとなり、東へ0.63°傾く。非常に浅く、埋土は1層のみで、壁は緩やかに立ち上がる。

【31号溝】(図40-⑮・⑯) BB-19・20区に位置する北西-南東方向の溝で、調査区外へと伸びる。確認できた長さは1.56m、幅0.31mとなる。長軸方向は軸は112.61°西偏する。壁は垂直に立ち上がり、埋土は1層のみである。

・I b期の遺構 (図41)

【83号遺構】(図42-①～③) 調査区南西側のAS・AT-27～29区に位置する規模の大きな長方形の遺構である。面積14.64㎡、長軸長7.06m、単軸長2.67mとなる。四方を他の遺構と重複している。西側を同時期の84号遺構に切られている。床面は緩やかに湾曲しており、壁も緩やかに立ち上がる。埋土は4層あり、水平に堆積する。

【84号遺構】(図13、図42-④) AS・AT-29区、83号遺構の西側に位置する。83号遺構と重複し、本遺構の方が新しい。西側は調査区外に伸び、北側は池状遺構に削平される。規模は5.05㎡ある。床面は平らで、壁面

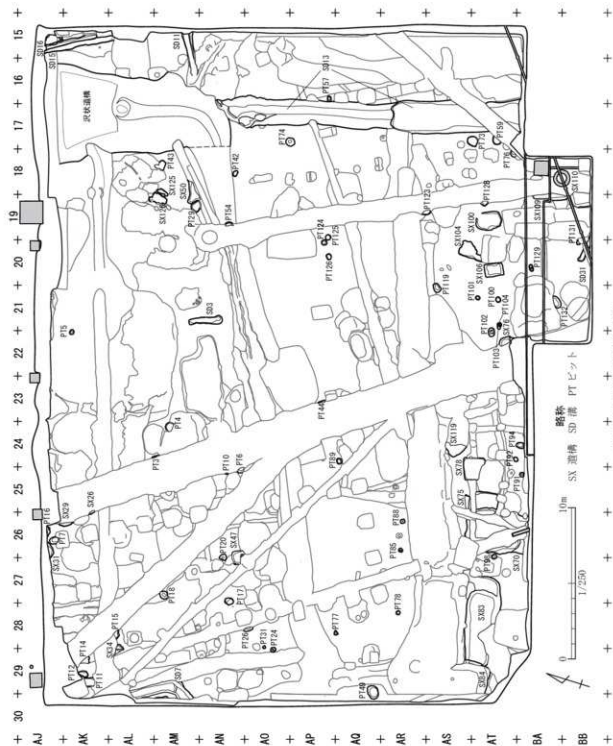
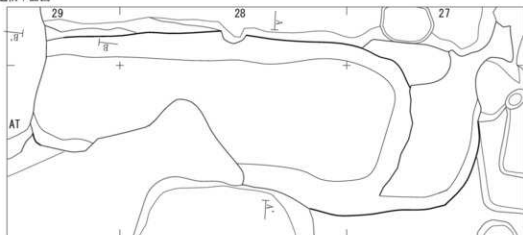


Fig.41 Distribution of features in phase Ib

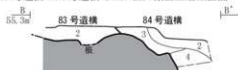
①83号遺構平面図



②83号遺構 (AS・AT28区) 南北土層断面図



③83号遺構・84号遺構 (AS29区) 東西土層断面図



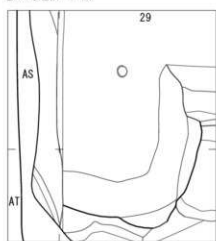
## 83号遺構

- 1 10TR5/8 黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 褐灰色土を含む 径5mm程の炭化物を僅かに含む
- 2 10TR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強 黄褐色粘土粒を僅かに含む 径5mm程の炭化物を僅かに含む 鉄分を含む
- 3 10TR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 砂をワミナ状に含む部分がある鉄分を含む 明黄褐色粘土粒を僅かに含む
- 4 10TR6/4 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土を含む

## 84号遺構

- 2~4 調査区西壁土層断面84号遺構 (図13) 2~4層と同じ

④84号遺構平面図



⑤106号遺構平面図



⑥106遺構土層断面図



- 1 10TR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土小ブロックを塊状に含む 白色土粒、マンガンを含む 径2-5mm程の炭化物を僅かに含む

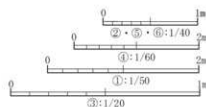


図42 I b期の遺構

Fig. 42 Features in phase Ib

はやや急に立ち上がる。深さは約1m程あり、その埋土は6層に分かれる。

【106号遺構】(図42-⑤・⑥) AT-20区に位置する長方形の遺構である。面積はちょうど1.00㎡で、長軸長1.22m、短軸長0.84mとなる。床面には東西に緩やかな凹みがあり、壁はやや急に立ち上がる。埋土は1層のみである。

## ・I b～I c期の遺構

【78号遺構】(図43-①・②) AS-AT-24・25区に位置する1.45m四方の正方形の遺構である。面積は1.70㎡である。床面は多少に凹凸はあるが平で、壁は垂直に立ち上がり箱状となる。埋土は床面付近の堆積土(2・3層)のほ

①78号遺構平面図



②78号遺構土層断面図

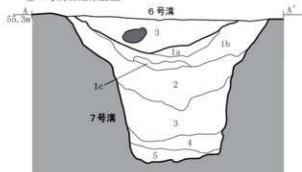


- 1 10YR5/4 に近い黄褐色 シルト 粘性なし しまり強 黄褐色土ブロック、土粒を多く含む炭化物を含む 白色粒を含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 砂 粘土質シルト 粘性中 しまり中 砂と粘土質シルトが混じる 小円礫を含む 黄褐色土小ブロックを少量含む
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中

③7号溝平面図



④7号溝土層断面図



- 1 明黄褐色粘土ブロックを含む 径1cm程の炭化物を僅かに含む 土質の違いから1a-1c層に細分できる
- 1a 10YR7/2 に近い黄褐色 シルト質砂 粘性弱 しまり弱
- 1b 10YR6/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
- 1c 10YR7/6 明黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
- 2 7号溝 (AL・AM29・30区) 東西土層断面2a-2c層に相当する 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土ブロックを含む 径1cmの炭化物を僅かに含む
- 3 7号溝 (AL・AM29・30区) 東西土層断面3層に相当する 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり中 褐色 粘土を低状、ブロック状に僅かに含む
- 4 7号溝 (AL・AM29・30区) 東西土層断面4層に相当する 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 粘土と砂の互層
- 5 7号溝 (AL・AM29・30区) 東西土層断面5層に相当する 2.5Y4/1 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中

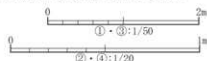


図43 I b～I c期の遺構  
Fig.43 Features in phase I b・I c

か、全体を埋め戻した1層に分かれる。

【7号溝】(図43-③・④) AL・AM-29・30区に位置し、逆「く」の字状となる溝跡である。全長3.46mであり、最大幅は1.21m程となる。南側は41.96°西偏し、北側は165.7°西偏する。底面はほぼ平らで幅46cm程度となる。壁は底面から急に立ち上がり、上部で広がる。東側で6号溝(Ⅱa-Ⅱd期)と重複しており、6号溝のほうが新しい。

#### ・I b～Ⅱc期の遺構

【109号遺構】(図44-①・②) BA-18・19、BB-19区に位置する長方形と推定される遺構である。西半を擾乱により削平されている。その規模は、長軸長2.28m、短軸長0.47mとなる。深さは0.46m程あり、埋土は底面近くの2層と、その大部分を占める人為的な埋土である1層に分かれる。床面は緩やかに湾曲し、壁はやや急に立ち上がる。

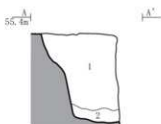
【110号遺構】(図44-③・④) BB-18・19区に位置する長方形を呈すると推定される遺構である。北側にある109号遺構と同様に西半を擾乱によって削平されている。確認できた規模は長軸長1.28m、短軸長1.00mとなる。

①109号遺構平面図



- 1 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 明黄褐色粘土を底状に含む 径5mm程の炭化物を僅かに含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 鉄分を僅かに含む

②109号遺構土層断面図

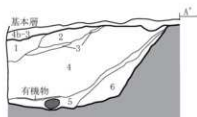


③110号遺構平面図

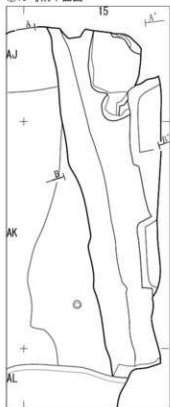


- 1 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 記載なし
- 2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄色土粒、径2mm程の炭化物を僅かに含む
- 3 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 記載なし
- 4 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 黄褐色粘土粒を底状に多く含む 径2mm程の炭化物を極僅かに含む
- 5 10YR4/1 褐色 粘土 粘性強 しまり中 埋土5層上面に灰化した繊維状の有機物が一面に広がる
- 6 10YR6/2 に近い黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色粘土粒を底状に多く含む 径2mm程の炭化物を極僅かに含む

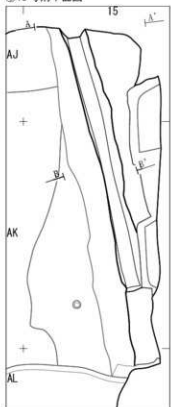
④110号遺構土層断面図



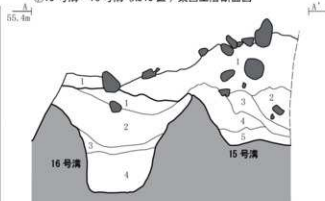
⑤15号溝平面図



⑥16号溝平面図



⑦15号溝・16号溝 (AJ15区) 東西土層断面図



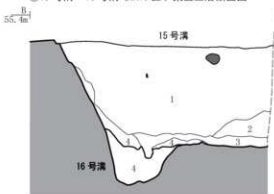
15号溝

- 1 AK15区土層断面1層と同じ
- 2 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性中 しまり強 径5mm-6cm程の礫をやや多く含む 黄色・白色の細やかな粘土ブロックを底状に含む
- 3 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり中 径5mm程の白色・黒褐色の粘土ブロック多く含む
- 4 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 地山由来の白色粘土を僅かに含む 径1mm程の炭化物を少量含む
- 5 10YR6/4 に近い黄褐色 粘土 粘性中 しまり強 径1-5mm程の炭化物を少量含む

16号溝

- 1 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 径1-3mm程の炭化物を少量含む
- 2 10YR4/6 褐色 シルト 粘性中 しまり中 径2cmほどの黄色粘土ブロックを極少量含む 埋土3に近い 黒褐色土を層状に含む
- 3 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり弱 ラミナ状に堆積する 灰色粘土を層状に僅かに含む
- 4 10YR6/4 に近い黄褐色 粘土 粘性弱 しまり強 酸化鉄を底状に多く含む 地山由来の堆積層

⑧15号溝・16号溝 (AK15区) 東西土層断面図



15号溝

- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 径1-5cm程の炭化物を僅かに含む 黄色粘土ブロックを底状に少量含む
- 2 10YR4/5 に近い黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 径1mmほどの炭化物を極僅かに含む
- 3 10YR4/4 褐色 シルト 部分的に黄色粘土を層状に含む
- 4 10YR5/6 黄褐色 粘土 細やかな黄色粘土ブロックを少量含む 地山の崩落土

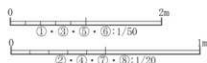
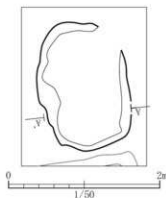
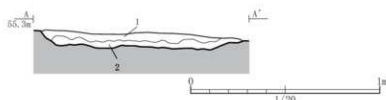


図44 1b~IIc期の遺構  
Fig.44 Features in phase 1b-IIc

①100号遺構平面図



②100号遺構土層断面図



- 1 10YR5/3 に近い黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを含む マンガン酸を含む 酸化は度に入る 炭化物が僅かに入る
- 2 10YR6/8 明黄褐色 粘土 粘性やや強 しまり中 地山土が変質し、やや白っぽくなった土 マンガン酸を少量含む 酸化鉄が度に入量する

図45 I b～III c期の遺構

Fig. 45 Features in phase I b - III c

深さは109号遺構と同様に0.46m程度となる。埋土は6層に分かれ、うち5層は褐色色を呈する粘土層で、その上面には繊維状の炭化した有機質物を確認している。

【15号溝】(図44-⑤・⑦・⑧) 調査区北東端のAJ～AL-15区に位置する南北方向の溝である。同時期の16号溝と重複し、16号溝より新しい。確認できた全長は4.45m程で、幅は1.10mあるが、どちらも調査区外に伸びる。北側で床面に凹凸がある。確認できた西壁は、底部より緩やかに立ち上がる。軸角度は167.38°西偏する。埋土は5層確認した。

【16号溝】(図44-⑥～⑧) 15号溝の西側のAK～AL-15区に位置する南北方向の溝である。同時期の15号溝と重複し、15号溝より古い。確認できた全長は4.39mで、幅は0.92mである。底面の幅は30cm程で、そこからやや急に立ち上がる。軸角度は176.32°西偏する。埋土は4層確認している。

#### ・ I b～III c期の遺構

【100号遺構】(図45) AT-19区に位置する楕円形の遺構である。その規模は1.70m、長軸長1.72m、短軸長1.23mとなる。底面は平らで、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は2層確認した。

#### ・ I c期の遺構 (図46)

【79号遺構】(図47) AT-BA-25-26区に位置するほぼ円形の遺構である。その規模は1.30m、長軸長1.58m、短軸長1.09mである。床面にはほぼ平らであり、東壁は緩やかに立ち上がるのに対して、西壁は垂直に立ち上がる。埋土は5層に分かれる。そのうち、中間の2層は礫・炭化物等を多量に含む。

【19号溝】(図48～図50-①～③) 調査区やや南側のAR-17～19、AR-AS-20～27区に位置する東西方向の規模の大きな溝である。その規模は、全長29.60m、最大幅は3.37m程ある。東側で10号溝、西側で1号池と接続する。軸角度は84.4°西偏する。AR-18区で段差となっており、10号溝と接続するAR-17区付近は0.4m程底面が高くなる。この高くなる部分付近に橋等の渡河施設があった可能性も考えられるが、その痕跡は全く確認できない。また、西側の1号池との接続部は、現代の擾乱で破壊されており判然としにくい。

#### ・ I c～II a期の遺構

【112号遺構】(図50-④～⑥) AT～BB-19区に位置する長方形の大型の遺構である。その規模は、面積6.05m<sup>2</sup>、長軸長5.79m、短軸長1.65mとなる。床面はほぼ平らであるが、中央で段を有する。北西部ピット状の落ち込みがある。埋土は、床面付近の2層と人為的な埋戻し土である1層がある。

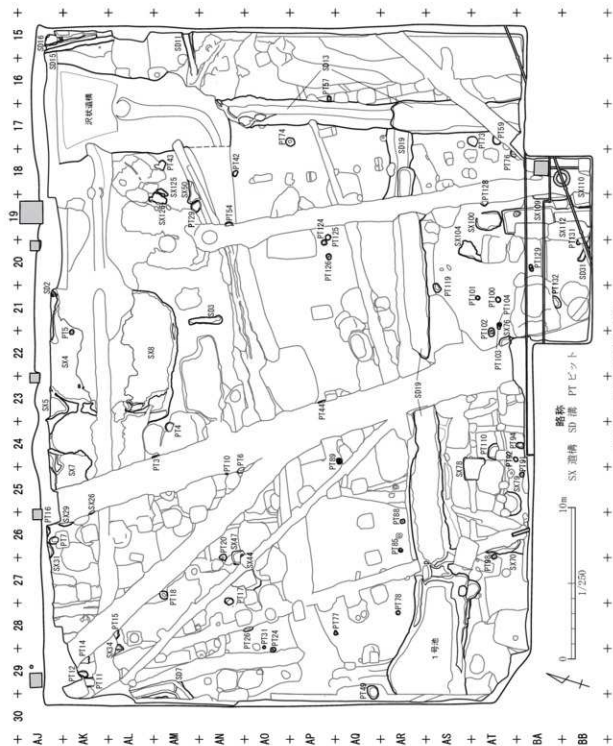
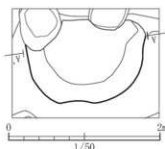


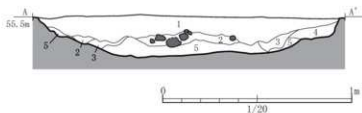
図46 1c期の遺構分布状況

Fig. 46 Distribution of features in phase Ic

①79号遺構平面図



②79号遺構土層断面図



- 1 10YR5/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト質粘土をまばらに含む 礫を少量含む
- 2 10YR6/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 埋土1層より灰色味が強い 明黄褐色土粒をまばらに含む 礫を多量に含む 炭化物を少量含む
- 3 10YR5/1.5 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色系のワミナ状堆積を下層に含む 上部は埋土2層に近似する
- 4 10YR5/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 埋土1層に近似する 炭化物を含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色粘土 (1-2mm) を多く含む 炭化物をまばらに含む

図47 Ic期の遺構 1

Fig. 47 Features in phase I c(1)

#### ・Ic～IⅡb期の遺構

【7号遺構】(図54-⑥・⑦) AJ・AK-24・25区に位置する遺構である。北側は調査区外に伸び、西側は規乱によって削平されているため、その形状は明確ではない。その規模は、面積5.72㎡、長軸長2.81m、短軸長2.74mとなる。西側に位置する4号遺構 (I c-Ⅱ c期) と接続する。北西部は一段緩やかに凹み、北東部では少し盛り上がる。埋土は3層確認した。

【1号池】(図13、図51～図54-①～⑤) AR・AS-27～29、AT-27区に位置する規模の大きな遺構である。その規模は、面積32.20㎡、長軸長7.92m、単軸長5.05m程である。AS-27区を境として西側では、石積みにて護岸した池として利用していたようである。当初の石積みは北東部を中心として遺存していたが、その他の地点の石積みは崩落していた。北・南壁では、段状に形成されており、底面壁際付近と段状にした平場に礎を置き、石積みとしている。裏込めの礎等は認められない。南東端には大きめの石を用いて階段を構築し、下まで降りられる様にしていたようである。

北西部では18号溝 (Ⅱ a-Ⅱ b期) と接続し、東側ではI c期に19号溝と接続する。この19号溝と接続時には東側の石積みが存在していたか不明である。Ⅱ a-Ⅱ b期には、19号溝は埋没しており、その上に1号池の埋土が伸びることになり、東端が91号遺構 (Ⅱ a-Ⅱ b期) と重複することになる。平面図 (図51・52) では、そのⅡ a・Ⅱ b期の状態を示している。

#### ・Ic～IⅡc期の遺構

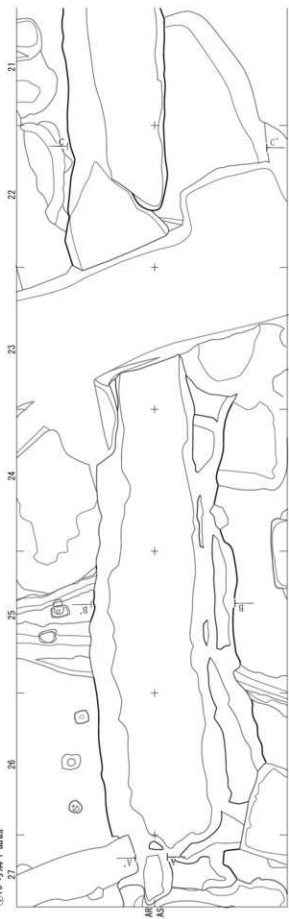
【4号遺構】(図55-①～③) AJ-21～24、AK23区に位置する遺構である。楕円形を呈するものと思われるが、南部を2号遺構 (Ⅱ d-Ⅲ c期) により削平されている。規模は、面積10.45㎡、長軸長6.81m、単軸長2.16mである。床面はほぼ平らであり、壁は緩やかに立ち上がる。西側で5・7号遺構と接続する。埋土は4層に分かれ、水平に堆積する。

【5号遺構】(図55-①・④・⑤) AJ・AK-23区に位置する遺構で、その大部分は調査区外へと伸びる。確認できた規模は、面積1.36㎡である。東側で4号遺構と接続する。床面は北側で緩やかに凹み、壁はなだらかに立ち上がる。

【8号遺構】(図56) AL・AM-21～23、AL-24区に位置する楕円形の遺構で、その北半は2号遺構により削平される。2号遺構を挟んで反対側に4号遺構が位置する。西側で9号遺構と接続する。規模は面積23.22㎡、長軸長8.67m、単軸長3.68mとなる。西側に礎が集中する箇所がある。埋土は南側から流れ込みにより堆積した様相が見受けられ、8層確認している。



①19号溝平面図



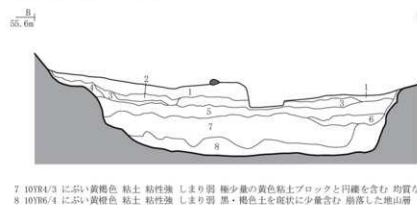
②19号溝 (AR・AS27区) 南北土層断面図



図48 I c期の遺構 2

Fig. 48 Features in phase I c (2)

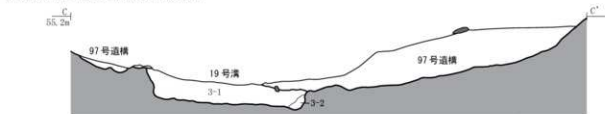
①19号溝 (AS24区) 南北土層断面図



- 1 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性中 しまり中 径5-10mm程の黄色粘土ブロックを底状に下部に多く含む 径3mm程の炭化物を少量含む 上部には径5cm程の礫を少量含む
- 2 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまり弱 同色の砂を多量に含む 径5mmの炭化物と円礫を少量含む
- 3 10YR4/1 褐色 粘土 粘性強 しまり強 径3cm程の炭化物を少量含む 黄色粘土ブロックを少量層状に含む
- 4 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄色の地山ブロックを多量に含む
- 5 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 径1-3cm程の黄色粘土ブロックと径5mm程の炭化物を少量含む
- 6 10YR2/3 黒褐色 粘土 粘性強 しまり弱 径1cm程の黄色粘土ブロックを底状に少量含む 径5mmの炭化物をやや多く含む

- 7 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 極少量の黄色粘土ブロックと円礫を含む 均質な層
- 8 10YR6/4 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 黒・褐色土を底状に少量含む 崩落した地山層

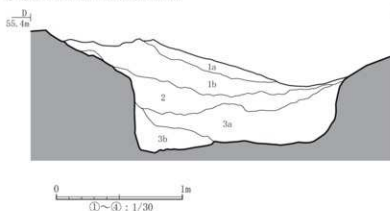
②19号溝 (AR・AS22区) 南北土層断面図



19号溝

- 3-1 層 10YR4/1 褐色 粘土 粘性弱 しまり中 灰黄褐色土、明黄褐色土をランダムに含む 底面には酸化鉄が層状に沈着
- 3-2 層 10YR5/4 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 明黄褐色土を少量含む 酸化鉄を含む

③19号溝 (AR20区) 南北土層断面図



- 1 土質は類似するが黄色粘土ブロックの分布状況等の細かな特徴により細分
  - 1a 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 径5mm程の黄色粘土ブロックを底状に少量含む 径3mm程の炭化物を僅かに含む
  - 1b 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 褐色砂を少し底状に含む 径3mm程の炭化物を僅かに含む
- 2 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄色粘土ブロックを壁面に多量に含む 中央部には黒色シルトを層状に含む 径1-3mm程の炭化物を少量含む
- 3 土質は類似するが細かな特徴により細分した
  - 3a 10YR4/1 褐色 粘土 粘性強 しまり中 径3-10mm程の黄色粘土ブロックを底状に少し含む 径1cmの小円礫を僅かに含む
  - 3b 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 径5mm程の黄色・褐色粘土ブロックを底状に多く含む 酸化鉄・マンガンの沈着が目立つ
- 4 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 地山の黄色砂を底状に多く含む マンガンが網目状に発達する

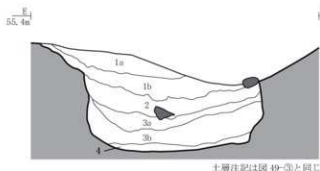
図49 Ic期の遺構3  
Fig.49 Features in phase Ic(3)

【2号溝】(図55-⑥・⑦) AJ-21区に位置する南北方向の溝跡で、4号遺構への接続部のみ確認している。その大部分は調査区外へと伸びるものと推測できる。確認できた全長は0.43mで、軸角度は、179.83°西偏する。

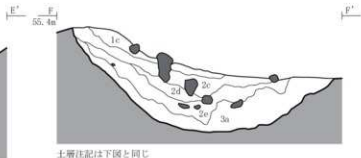
・Ic～Ile期の遺構

【44号遺構】(図57) AN・AO-27区に位置する遺構である。三方向を他の遺構や掘乱により削平されているが、長方形を呈するものと推定される。その規模は面積1.55㎡、長軸長1.74m、短軸長1.29mで、深さは30cm程ある。埋土は3層に分かれ、大きめの礫を多少含む。北側で緩やかな凹み、壁はやや急に立ち上がる。

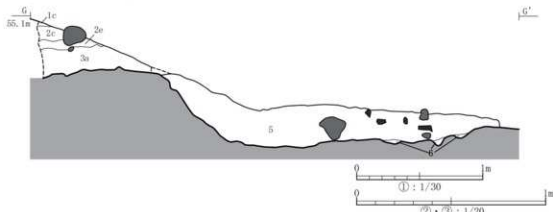
①19号溝 (AR19区) 南北土層断面図



②19号溝 (AR18区) 南北土層断面図

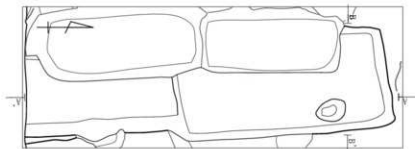


③19号溝 (AR18区) 東西土層断面図

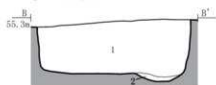


- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性なし しまり強 黄褐色土粒を僅かに含む 炭化物を含むは均質な層 円礫がやや多く入る
- 2 13号溝・19号溝接続部 (AR17区) 土層断面19号溝2層と対応する 黄褐色土の分布状況により細分した
- 2c 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 黄褐色土小ブロック・灰黄褐色砂のブロックがランダムに混じる 円礫が入る 炭化物が僅かに入る
- 2d 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 灰黄褐色砂ブロックがランダムに混じる 2a層に近いが黄褐色土がほとんど入らない
- 2e 10YR2/1 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 ややグライ化した層 黄褐色土小ブロックが僅かに混じるほかは比較的均質 小円礫を含む 瓦がみられる
- 3 13号溝・19号溝接続部 (AR17区) 土層断面19号溝3層と対応する
- 3a 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 黄褐色土小ブロック・灰黄褐色砂ブロックを多く含む 黄褐色土の量は埋土2c層より多く入り 5層より少ない 小礫を少量含む 灰黄褐色粘土が少量入る 底面は平坦に仕上げられている
- 5 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土・褐色土・灰黄褐色粘土がランダムに混じる層 円礫を含む 炭化物を含む 酸化鉄が現状に入るが部分的
- 6 10YR6/6 明黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 地山起掘の土が閉みに入ったもの

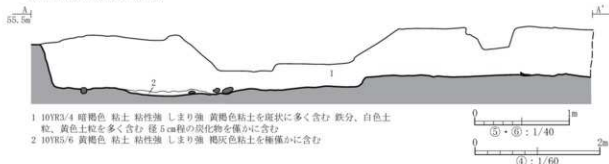
④112号遺構平面図



⑤112号遺構東西土層断面図



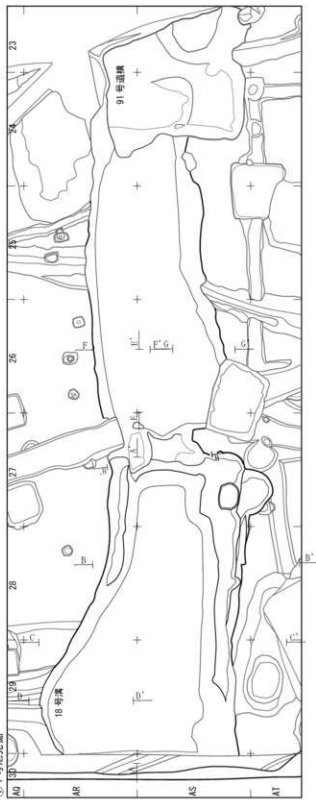
⑥112号遺構南北土層断面図



- 1 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土を斑状に多く含む 炭分、白色土粒、黄色土粒を多く含む 径5cm程の炭化物を僅かに含む
- 2 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 褐色粘土を稀薄に含む

図50 Ic期の遺構4、Ic~IIa期の遺構  
Fig.50 Features in phase Ic(4), Ic-IIa

① 1号池突張



② 1号池壁跡出

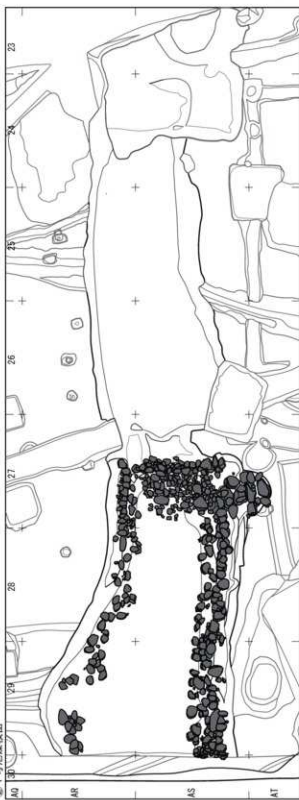


図51 I c~ II b期の遺構 1  
Fig. 51 Features belonging to phase I c - II b (1)



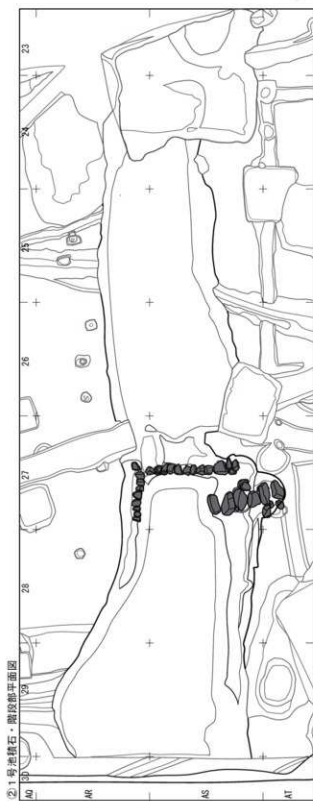
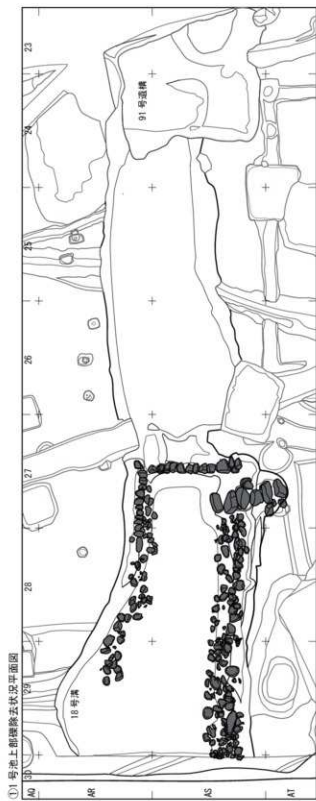


図52 1c~11b期の遺構 2  
Fig.52 Features belonging to phase 1c~11b(2)

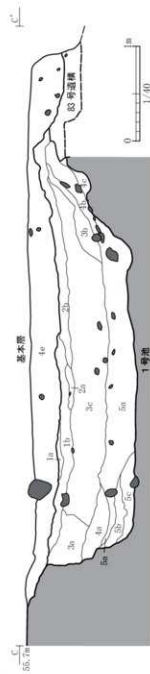
## ①1号池 (AS27 ~ 29区) 東西土層断面図



## ②1号池 (AR ~ AI28区) 南北土層断面図



## ③1号池 (AR ~ AI29区) 南北土層断面図



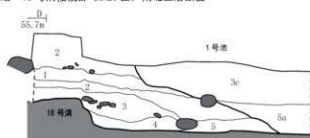
- 1 基本層 上部に新積する土層 土質の違いから細分した
  - 1a 10YR4/4 褐色 シルト 粘性强 しまり中 黄褐色粘土ブロックを多く含む 径1cm程度の炭化物を多く含む 径3cm ~ 5cm程度の礫を多く含む 白色土粒, 黄色土粒を含む
  - 1b 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性强 しまり中 径5~10mmの炭化物, 炭屑を含む
  - 1c 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性强 しまり中 径5~10mmの炭化物, 炭屑を含む
- 2 明るい黄褐色土層 土質の違いから細分した
  - 2a 10YR5/6 明黄褐色 シルト 粘性强 しまり中 10YR3/3 暗褐色シルトを層状に含む 径1mm程度の炭化物を層状に含む 径2~5cm程度の礫を備へに含む
  - 2b 10YR4/6 褐色 シルト 粘性强 しまり強 下部に10YR2/2の黒褐色シルトを質粘土と10YR3/3暗褐色シルトを含む 断面を含む 径2~5cm程度の礫を含む
- 3 全体的に広がる黄褐色粘土ブロック帯の層 土質の違いから細分した
  - 3a 10YR5/6 明黄褐色 粘土 粘性强 しまり中 砂を含む 白色土粒, 黄色土粒, 炭屑を含む
  - 3b 10YR2/3 暗褐色 シルト 粘性强 しまり中 黄色土粒を層状に含む 断面を含む 遺物 (IC) を含む
  - 3c 10YR5/3 に近い黄褐色 シルト 粘性强 しまり中 黄色土粒を層状に含む 断面を含む 炭化物を層状に含む

- 4 層間に堆積する土質の違いから細分した
  - 4a 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘在中 しまり中 砂を含む 黄色土粒, 断面, マンガンを含む
  - 4b 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘在中 粘在中 10YR4/2 黄褐色粘土を層状に多く含む 断面を含む 径10~40cm程度の礫を含む
  - 5 粘土質の砂を多く含む
  - 5a 10YR4/1 暗褐色 粘土 粘性强 しまり強 上部に断面を含む 炭化物を含む 土層はラミナ状に砂を含む
  - 5b 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性强 しまり強 断面を含む 土層はラミナ状に砂を含む
  - 5c 10YR4/2 黄褐色 粘土 粘性强 しまり中 砂をラミナ状に含む 黄褐色粘土ブロックを含む 断面を備へに含む
  - 5d 10YR5/5 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性强 しまり中 酸化鉄が多く入る 礫 (数cm) を含む 砂質のラミナが入る 黄褐色粘土ブロックを含む
- 6
  - 6a 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘在中 しまり中 砂を含む 明黄褐色粘土ブロックを層状に含む 断面を含む 石組跡あり
  - 6b 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性强 しまり中 黄褐色粘土ブロックを層状に含む 断面を含む 石組跡あり

## 図53 I c ~ II b期の遺構 3

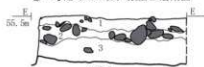
Fig. 53 Features belonging to phase I c ~ II b (3)

① 1号池・18号溝接続部 (AR29区) 南北土層断面



- 18号溝内部埋土
- 1 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 砂をフミナ状に含む鉄分を含む
  - 2 10YR4/2 灰黄褐色 砂 粘性なし しまり弱 粘土を薄くフミナ状に含む鉄分を含む
  - 3 10YR4/2 灰黄褐色 砂 粘性なし しまり弱 明黄褐色粘土ブロックを含む 傘大の礫を僅かに含む
  - 4 10YR4/6 褐色 砂 粘性なし しまりなし
  - 5 5Y4/1 灰色 粘土 粘性強 しまり弱

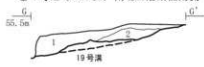
② 1号池 (AS26区) 東西土層断面



③ 1号池 (AR・AS26区) 南北土層断面北側



④ 1号池 (AS26区) 南北土層断面南側



- 1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 褐色砂を少量含む 径1-2mm程の炭化物を少量含む
  - 2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径1-30cm程の大きな礫を多量に含む 黄色粘土ブロックを塊状に多く含む 径5mm程の炭化物をやや多く含む
  - 3 1号池 (AS27～29区) 東西土層断面3c層に類似
- 火山灰 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 均質な土層



⑤ 1号池 (AS27区) 南北土層断面図



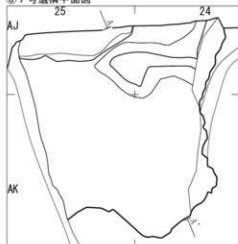
- 1号池
- 1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色土ブロックを塊状に含む 径5-10cmの礫を含む 径1cmの炭化物を僅かに含む
  - 2 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 白色土粒・黄色土粒・径2mm程の炭化物を僅かに含む
  - 3 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄褐色土小ブロックを塊状に含む 鉄分・白色土粒を僅かに含む

ピット84

- 1 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土小ブロックを塊状に含む 鉄分・白色土粒・径5mm程の炭化物を僅かに含む
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土小ブロックを僅かに含む



⑥ 7号遺構平面図



- 1 7.5YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 径1-3cmの炭化物を多く含む 白色土粒・黄色土粒を多く含む 径2-3cm程の礫を含む
- 2 7.5YR4/2 灰褐色 粘土 粘性強 しまり中 径1-2mmの炭化物を多く含む 鉄分を含む 明黄褐色粘土小ブロックを多く含む
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 褐灰色土小ブロックを含む 鉄分を含む

⑦ 7号遺構土層断面図

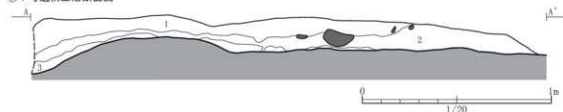
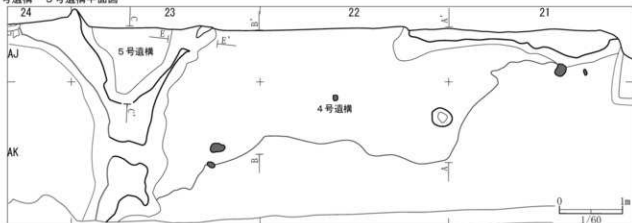


図54 Ic～Iib期の遺構4

Fig. 54 Features belonging to phase Ic-IIb(4)

①4号遺構・5号遺構平面図

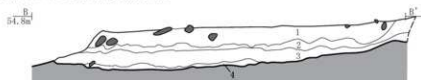


②4号遺構 (AJ・AK21区) 南北土層断面図



- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性弱 しまり中 黄色粘土ブロックを斑状に多量に含む 径2-3cm程度の硬を少し含む
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性中 しまり中 黄褐色粘土ブロックを僅かに含む

③4号遺構 (AJ・AK22区) 南北土層断面図



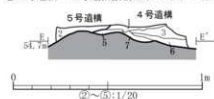
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 径2-3mmの小鉢と径3cm程度の硬を多量に含む 炭化物・遺物もまばらに含む
- 2 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 上部に炭化物を僅かに含む
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 下部に黄色粘土ブロックを斑状に含む 全体的に酸化鉄がまじる
- 4 10YR6/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 地山由来の砂を多く含む

④5号遺構 (AJ・AK23区) 南北土層断面図



- 1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄色粘土ブロックを斑状に含む 炭化物を少量含む
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 酸化鉄を斑状に多く含む 地山由来の黄色粘土を下部に多く含む

⑤4号遺構・5号遺構接続部 (AJ23区) 土層断面図



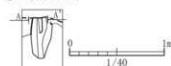
4号遺構

- 1 4号遺構 (AJ・AK22区) 南北土層断面1層と同じ
- 3 4号遺構 (AJ・AK22区) 南北土層断面3層と同じ
- 5 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄色粘土ブロックを僅かに含む
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 炭化物を極少量含む
- 7 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性中 しまり中 地山由来の層

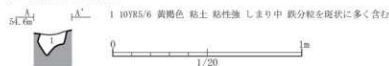
5号遺構

- 2 5号遺構 (AJ・AK23区) 南北土層断面2層と同じ

⑥2号溝平面図



⑦2号溝東西土層断面図



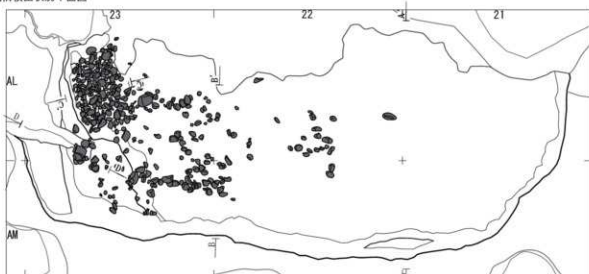
- 1 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 鉄分粒を斑状に多く含む

図55 Ic~Iic期の遺構1

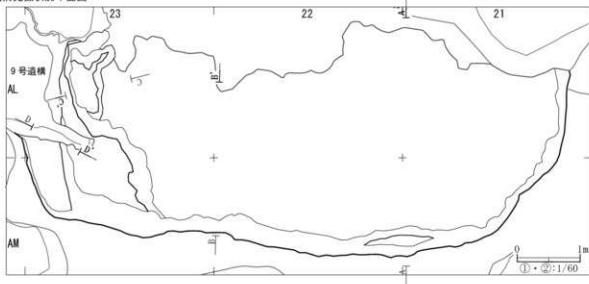
Fig.55 Features belonging to phase Ic~Iic(1)



① 8号遺構検出状況平面図



② 8号遺構完掘状況平面図



③ 8号遺構 (22列) 土層断面図



④ 8号遺構 (23列) 土層断面図



⑤ 8号遺構棟集中部土層断面図



⑥ 8・9号遺構連結部断面図



- 1 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径3-10mmの炭化物を少量含む 白色土粒を含む 酸化鉄が斑状に入る
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 炭化物少量含む 白色土粒を含む
- 3 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 地山起源の黄褐色土小ブロックを含む 23列は少なく全体に均質 22列はやや大まめのブロックが目立つ 炭化物を含む 白色土粒を含む 小円礫を少量含む マンガン粒を含む
- 4 7.5YR4/3 褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 炭化物を少量含む 地山起源の黄褐色土小ブロックを少量含む (22列はやや多い) 円礫を少量含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色 (22列はやや暗い) 粘土質シルト 粘性中 しまり中 暗褐色土小ブロック・黄褐色ブロックを含む 炭化物を少量含む 白色土粒を含む 23列では円礫が多く入る
- 6 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 酸化鉄粒・マンガン粒を含む 炭化物を少量含む 黄褐色土小ブロックを少量含む 埋土5層に類似するが、より均質な層
- 7 粘性中 しまり中 (①10YR4/4 褐色粘土質シルトと ②7.5YR4/6 褐色 (地山起源でくすんだ土) シルトがランダムに混じる層 22列の方が②の割合が多い 炭化物含む マンガン粒を含む 円礫少量入る
- 8 10YR5/6 明褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 地山起源の土 褐色土少量入る マンガン粒を含む

図56 I c~II c期の遺構 2

Fig.56 Features belonging to phase I c-II c(2)

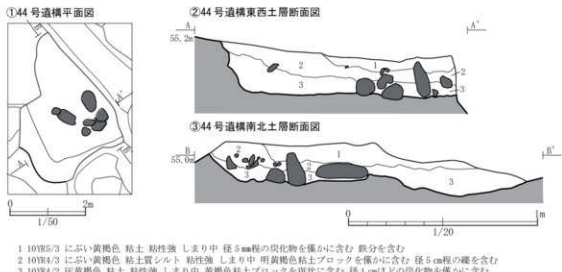


図57 I c ~ II e期の遺構  
 Fig. 57 Features belonging to phase I c ~ II e

### (3) II期の遺構

#### ・ II a期の遺構 (図58)

**【97号遺構】**(図59) AR・AS-21・22区に位置し、下部には19号溝(Ⅰc期)が存在する。不整楕円形を呈し、北西側が一段凹む。西側は擾乱により削平されており、その対岸には91号遺構(Ⅱa~Ⅱb期)が位置している。規模は、面積13.32㎡、長軸長4.47m、短軸長4.14mとなる。埋土は4層に分かれ、うち3層が細分される。その中には、炭化物を多量に含む層(3b層)もある。このような埋土、形態等を含めて確認を扶んで西側の91号遺構の下部と同一の可能性が高い。

#### ・ II a ~ II b期の遺構

**【91号遺構】**(図60) AR・AS-23・24区に位置し、下部に19号溝(Ⅰc期)が存在する。方形を呈しており、床面には段がある。東側は擾乱によって削平されており、対岸に97号遺構(Ⅱa期)がある。その規模は、面積10.75㎡、長軸長3.63m、短軸長3.45mとなる。埋土は16層確認しており、9層は炭化物を多量に含む。また、3層下面にて礫が密集して分布する。この礫の存在から、91号上部は擾乱を扶んで東側に位置する32号溝(Ⅱb期)と一連のものであった可能性が高い。また、91号遺構下部は、97号遺構と同一であることを考えると、その時期はⅡa期と推定でき、本遺構はⅡa~Ⅱb期に継続して存在していた遺構と考えられる。

**【18号溝】**(図61-①~⑥、図66-②) AP~AR-29区に位置する南北方向の溝である。全長3.94mで、最大幅は1.22mとなる。軸角度は、175.02°西偏する。東西壁際に礫を南北一列に並べ、その上に蓋石を置く。その周辺に礫を充填する。土層断面図では表現できていないが、土で埋めていることから暗渠として機能していたものと考えられる。石列の構築の際の北側では10号溝、南側では1号池と接続する。1号池との接合部は段差があり、18号溝の底面は1号池底面より約30cm程高い。また、1号池接続部では、側石がやや広くように石列が並ぶ。この石列は1号池の底面より高い位置に構築されており、1号池がある程度埋没してから構築されている。埋土は3層ある。

**【21号溝】**(図61-⑦・⑧) AQ-28・29区に位置する東西方向の溝である。西側は18号溝に接続し、東側は擾乱により削平されている。全長1.17m程しか遺存していない。軸角度は92.9°西偏している。

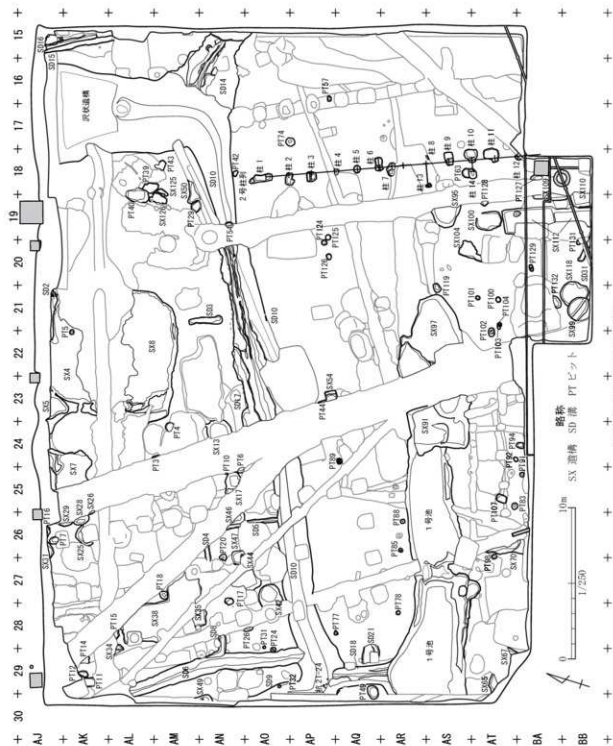
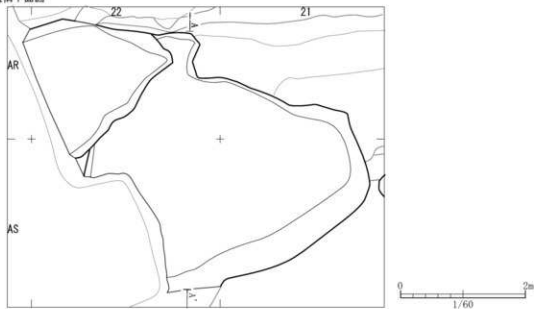


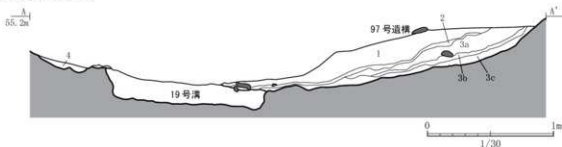
図58 II a期の遺構分布状況

Fig. 58 Distribution of features in phase IIa

①97号遺構平面図



②97号遺構土層断面図



- 1 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土粒、灰黄褐色土小ブロック、同土粒がランダムに混じる 炭化物と円礫を含む
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 ほとんど炭の純層 部分的に灰黄褐色土がラミナ状に入る
- 3a 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 褐色土粒、黄褐色土粒が南岸より多く含む 炭化物を含む 小円礫が少量入る
- 3b 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 炭の層 灰黄褐色土がラミナ状に入る
- 3c 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土粒小ブロックをやや多く含む 炭化物を含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 黄褐色土粒を含む 北側のみ分布 埋土3b層の下と思われるが明確でない

図59 II a期の遺構

Fig.59 Features of phase II a

#### ・ II a ~ II c 期の遺構

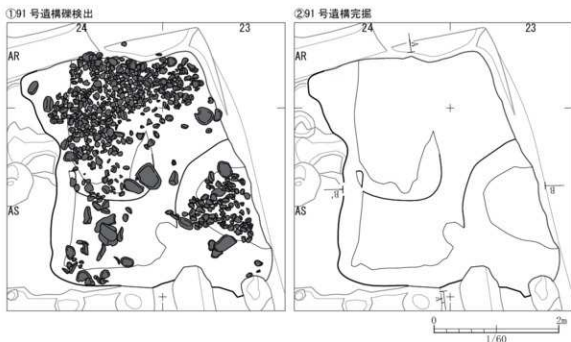
【13号遺構】(図62-①~③) AN-23・24区に位置する不整形の遺構である。その規模は面積1.50㎡、長軸長1.58m、短軸長1.13mとなる。東側は視乱によって削平されている。床面は平らで、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は5層確認している。

【25号遺構】(図62-④・⑤) AK-26区の円形を呈する遺構である。南側の大部分を視乱によって削平されている。残存している規模は、面積0.46㎡程度である。埋土は5層に分かれる。そのうち3層は褐灰色粘土であるが、その層の上下に瓦片等を含む。

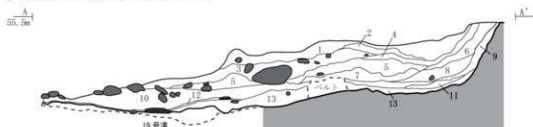
【95号遺構】(図62-⑥・⑦) AS-19区に位置する楕円形の遺構である。東半は視乱により削平されている。残存規模は面積1.90㎡、長軸長1.99m、短軸長1.36mとなる。埋土は8層あり、埋土上部には礫を多量に含んでいる。

#### ・ II a ~ II d 期の遺構

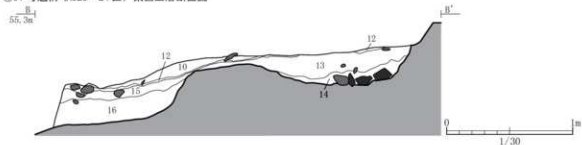
【4号溝】(図64-⑥・⑦) AN-26・27区に位置する南北方向の溝である。東西共に視乱などで削平されている。遺存している全長0.92m、最大幅0.32mとなる。軸角度は83.39°西偏する。埋土は1層のみである。底面は平らで、壁はやや急に立ち上がり箱状を呈する。



③91号遺構 (AR・AS24区) 南北土層断面図



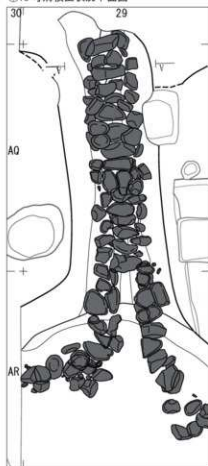
④91号遺構 (AS23・24区) 東西土層断面図



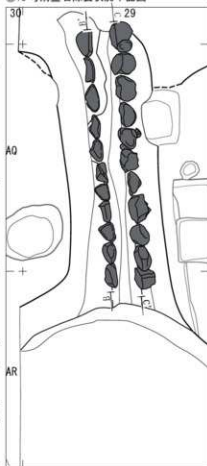
- 1 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 径5-10mmの炭化物を少量含む 径5mm程の白色・黄色粘土粒を少量含む 径5cm程の円礫を少量含む 褐色砂を少量含む
- 2 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト 埋土1部に多量の炭化物が混ざる層
- 3 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 径3cm程の炭化物, 黄色粘土ブロックを少量含む 礫を多く含む 面的に出土する礫はこの層に覆われる
- 4 10YR4/3 黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 層状に黄色粘土, 褐色砂を含む ラミナ状に堆積する
- 5 10YR5/3 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 白色・黄色粘土ブロック, 褐色砂を塊状に多量に含む 礫はこの面の上にある
- 6 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり弱 埋土5層に類似するが褐色粘土が多い
- 7 10YR4/2 灰黄褐色 砂 粘性中 しまり弱 黄・白色粘土ブロックを塊状に多く含む 埋土5層より砂が大きい
- 8 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり弱 同色の砂を層状に含む 埋土5-7層とは色調, 粘性からして異なる
- 9 10YR2/1 黒色 粘土 粘性強 しまり弱 間に褐色粘土をラミナ状に含む 炭化物を多く含む層
- 10 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり弱 灰黄色・灰色粘土ブロックを塊状に多量に含む 径3-5cm程の円礫を上部に多く含む 褐色砂を塊状に含む
- 11 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性中 しまり中 径3mm程の炭化物を少量含む層
- 12 10YR2/1 黒色 粘土 粘性強 しまり弱 部分的に褐色粘土を層状に含む
- 13 10YR5/3 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 径1-3mm程の炭化物を少量含む 下部は地山に近い
- 14 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄色粘土ブロックを塊状に少量含む 径10cm程の礫と瓦片を底部に含む 径5mm程の炭化物を少量含む
- 15 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 円形の黄色粘土ブロックを塊状に少量含む
- 16 10YR4/3 黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 埋土2・3層より黄色粘土ブロックを多く含む 褐色砂を塊状に多く含む

図60 IIa~IIb期の遺構1  
Fig.60 Features of phase IIa・IIb(1)

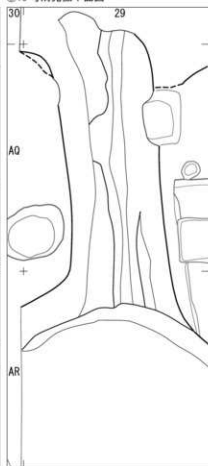
①18号溝検出状況平面図



②18号溝蓋石除去状況平面図

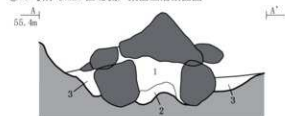


③18号溝完掘平面図



0 ①-③ : 1/50 2m

④18号溝(AQ29区北側)東西土層断面図



- 1 10Y86/2 灰黄褐色 シルト質粘土 粘性やや強 しまり中 明黄褐色皮を僅かに含む 炭化物を僅かに含む 下部に砂質部あり AQ29区南側土層断面1層(図66-②)にやや近い  
2 10Y85/3 に近い黄褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色・暗灰色の粘土ブロックが多く入る AQ29区南側土層断面3層(図66-②)に近似する  
3 AQ29区南側土層断面4層に同じ

0 1m  
1/20

⑤18号溝西側石組見通図



⑥18号溝東側石組見通図

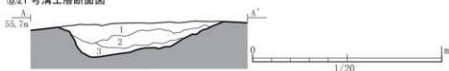


0 1m  
⑤・⑥ : 1/40

⑦21号溝平面図



⑧21号溝土層断面図



- 1 10YK3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 明黄褐色土ブロックを現状に含む 白色土粒を含む  
2 10YK4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり強 暗褐色土小ブロックを僅かに含む 黄色土粒・白色土粒を含む  
3 10YK2/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強 黄褐色土ブロックを現状に含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む

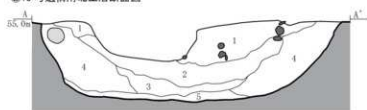
0 1m  
1/20

図61 II a~ II b期の遺構 2  
Fig.61 Features of phase II a~ II b(2)

①13号遺構平面図

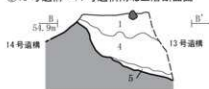


②13号遺構南北土層断面図



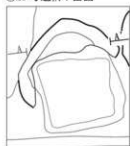
- 1 10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径5mm-3cm程度の炭化物を下部に僅かに含む 径2cm程度の小礫を少量含む
- 2 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 径5mm程度の炭化物を少量含む 黄色粘土ブロックを斑状に含む
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 径2cm程度の炭化物を含む マンガン粒を含む
- 4 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性中 しまり中 マンガン粒を多く含む 地山山灰の層
- 5 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 灰色粘土を層状に含む 南側は4層に類似する

③13号遺構・14号遺構南北土層断面図

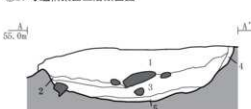


1・4・5 13号遺構 (AN24区) 南北土層断面 1・4・5層と同じ

④25号遺構平面図



⑤25号遺構東西土層断面図

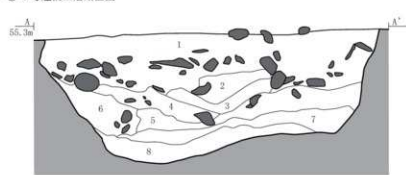


- 1 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり強 径3-5mm程度の礫を少量含む 鉄分を斑状に含む
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり弱 径5mmの礫と炭化物を少量含む
- 3 10YR4/1 褐灰色 粘土 粘性強 しまり弱 上部に灰色粘土を層状に含む 径3cmほどの礫を中央に含む
- 4 10YR4/6 褐色 粘土 粘性中 しまり強 炭化物を少量含む 地山崩落土
- 5 10YR6/3 にぶい黄褐色 砂 粘性弱 しまり強 地山砂に埋土3の粘土が混じる

⑥95号遺構平面図



⑦95号遺構土層断面図



- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 打ち割られた石の剥片を多く含む 径1-3cm程度の小礫を多く含む 黄色粘土ブロックを斑状に多く含む
- 2 10YR2/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色粘土を斑状に含む 径1cmの炭化物を含む
- 3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
- 4 10YR1/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土を多く含む
- 5 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 小礫、砂礫を含む 黒褐色土、白色土粒、黄色土粒を含む
- 6 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり中 径5mm程度の炭化物を含む 径2-3cmの礫を含む 黄褐色粘土ブロックを含む
- 7 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 黒褐色土を含む
- 8 埋土7層に類似 径1mm程度の炭化物を少量含む 黒色土を斑状にまばらに含む



図62 IIa~IIc期の遺構  
Fig.62 Features of phase IIa - IIc

①6号溝・9号溝掘平面図



②6号溝・8号溝・9号溝完掘平面図

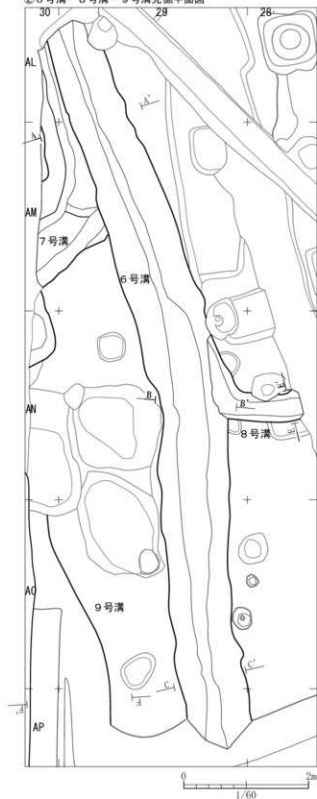
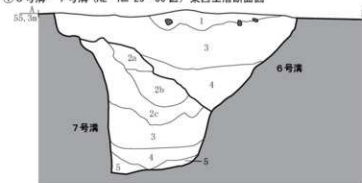


図63 IIa~II d期の遺構 1  
Fig. 63 Features of phase IIa - II d(1)



① 6号溝・7号溝 (AL・AM-29・30区) 東西土層断面図



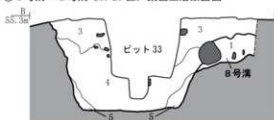
6号溝

- 1 10YR4/1 褐灰色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物と礫をまばらに含む
- 4 6号溝 (A029区) 東西土層断面 4層と同じ
- 3 6号溝 (A029区) 東西土層断面 3a・3b 層に相当する 10YR6/4 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強
- 4 6号溝 (A029区) 東西土層断面 4層と同じ

7号溝

- 2 グライ化の程度と部植物から細分した
- 2a 10YR5/1 褐灰色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 酸化鉄が斑に入る 6号溝 3層と近似
- 2b 10YR5/1 褐灰色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 酸化鉄が斑に入る 明黄褐色ブロックが入る 6号溝 3層に近似する
- 2c 10YR6/6 明黄褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 暗い酸化鉄を斑に多く入る 褐灰ブロックが斑状に入る
- 3 10YR5/2 灰黄褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 下層に黄褐色のラミナ有り
- 4 2.5G14/1 暗オリーブ灰色 粘土 粘性強 しまり中
- 5 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱

② 6号溝・8号溝 (AN-29区) 東西土層断面図



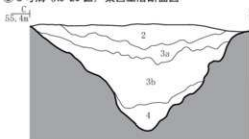
6号溝

- 3 6号溝 (AL・AM29・30区) 東西土層断面 3層と同じ
- 4 6号溝 (A029区) 東西土層断面 4層と同じ
- 5 5Y5/3 灰オリーブ色 粘土 粘性強 しまり強 灰色粘土を僅かに含む 鉄分含む

8号溝

- 1 8号溝 (AN28区) 南北土層断面理土と同じであるが、グライ化により 2.5V4/4 オリーブ褐色となる。また、にぶい黄色土粒・黄灰土粒を含む 鉄分・マンガンを含む 径 2cm 程度の礫を僅かに含む

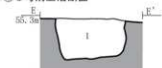
③ 6号溝 (AO-29区) 東西土層断面図



6号溝

- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 10YR5/4 にぶい黄褐色土粒を多く含む マンガン粒・白色土粒を含む 酸化鉄が若干入る 炭化物を少量含む 場所により礫が多く入る
- 3a 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 埋土 2よりやや暗く、黄褐色土粒が少ない マンガン粒・白色土粒を含む 炭化物を少量含む 酸化鉄が斑に多く入る
- 3b 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 聖沼いに地山起源の黄褐色土粒をやや多く含む 炭化物・白色土粒を含む 酸化鉄が斑に入る
- 4 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 地山のグライ化した土でグライ化の度合いで色に変化がある 炭化物を少量含む以外は含有物が少ない

④ 8号溝土層断面

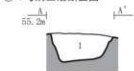


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強 黄褐色土粒・マンガンを含む 褐灰色土ブロックを僅かに含む

⑥ 4号溝平面図

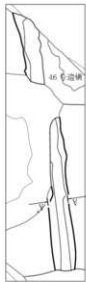


⑦ 4号溝土層断面図

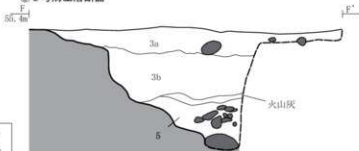


- 1 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性中 しまり強 径 1mm 程度の炭化物を多く含む 聖沼に地山由来の黄色粘土ブロックを含む

⑧ 5号溝平面図

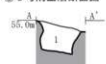


⑨ 9号溝土層断面



- 1 9号溝・10号溝接続部 (AP・AQ29区) 南北土層断面 3a層と同じ
- 2 9号溝・10号溝接続部 (AP・AQ29区) 南北土層断面 3b層と同じ
- 3 9号溝・10号溝接続部 (AP・AQ29区) 南北土層断面 5層と同じ
- 火山灰 10Y5/1 灰色 灰白 粘性なし しまり弱 火山灰

⑨ 5号溝土層断面図



- 1 5号溝・10号溝接続部 (A026区) 南北土層断面 5号溝 1層と同じ



図64 IIa~IIc期の遺構 2  
Fig.64 Features of phase IIa~IIc(2)

①10号溝平面図

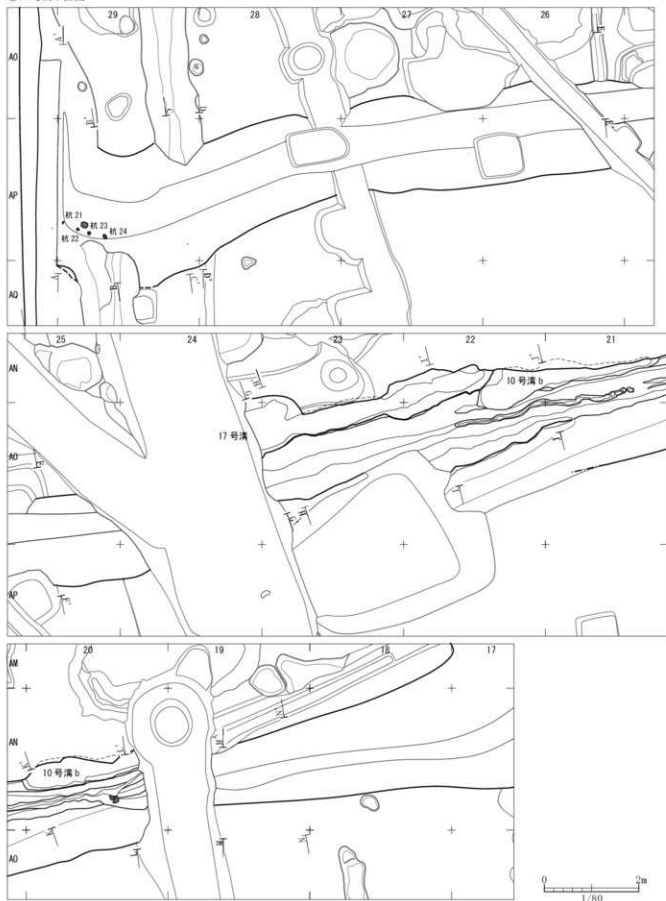
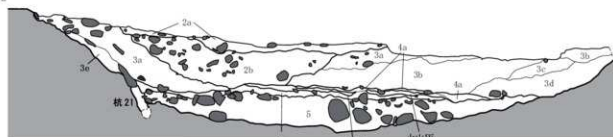


図65 II a~II d期の遺構 3  
Fig. 65 Features of phase II a - II d(3)

①9号溝・10号溝接続部 (AP・A029区) 南北土層断面図

55.4m

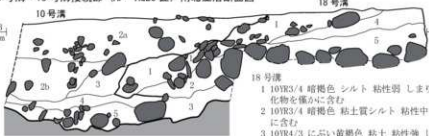


9・10号溝

- 2 A0・AP25区南北土層断面 2a・2b層と同じ
- 3 A0・AP25区南北土層断面 3層に相当する
- 3a AP29区南北土層断面 3c層と同じ
- 3b 3a層より黄色粘土小ブロックが多い
- 3c 10YR4/2 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
- 3d 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 オリーブ灰色粘土を塊状に含む 鉄分を含む
- 3e AP29区南北土層断面 3d層と同じ
- 4 AP29区南北土層断面 4a・4b層と同じ
- 5 A0・AP25区南北土層断面 5層と同じ
- 火山灰 AP29区南北土層断面火山灰と同じ

②10号溝・18号溝接続部 (AP・A029区) 南北土層断面図

55.4m

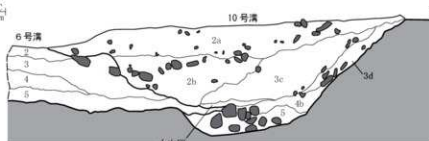


- 10号溝
- 2a・2b A0・AP25区南北土層断面 2a・2b層と同じ
- 3 AP29区南北土層断面 3c層と同じ
- 4 A0・AP25区南北土層断面 4層と同じ
- 5 A0・AP25区南北土層断面 4層と同じ

- 18号溝
- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 径5-10cmの礫を大量に含む 径1cm程度の炭化物を僅かに含む
- 2 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 褐灰色粘土を含む 黄褐色土を僅かに含む
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを含む
- 4・5 記録なし

③6号溝・10号溝接続部 (A0・A029区) 南北土層断面図

55.6m

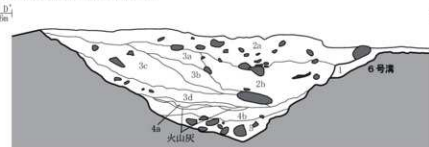


- 10号溝
- 2 A0・AP25区南北土層断面 2a・2b層と同じ
- 3 AP29区南北土層断面 3c・3d層と同じ
- 4 AP29区南北土層断面 4b層と同じ
- 火山灰 AP29区南北土層断面火山灰と同じ
- 5 AP29区南北土層断面 5層と同じ

- 6号溝
- 2-5 6号溝 (A029区) 東西土層断面と同じ

④10号溝 (AP29区) 南北土層断面図

55.6m



- 10号溝
- 2 A0・AP25区南北土層断面 2a・2b層と同じ
- 3 A0・AP25区南北土層断面 3層に相当する
- 3a 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 鉄分・白色土粒・黄色土粒を含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
- 3b 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 径2mm程度の炭化物を僅かに含む 白色土粒・黄色土粒を僅かに含む
- 3c A0・AP25区南北土層断面 3a層に対応する
- 3c 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 径5-10mmの炭化物を含む 白色土粒・黄色土粒を含む
- 3d A0・AP25区南北土層断面 3d層に対応する
- 3d 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 黄褐色土小ブロックを含む 径3mm程度の炭化物を含む 径5cm程度の礫を含む

- 4 中央に火山灰が層状に堆積することから上下 (4a・4b層) に区分した
- 4a 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中
- 4b 2.5Y3/2 暗黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄褐色粘土小ブロックを塊状に含む
- 火山灰 2.5Y7/4 淡黄色 火山灰層 粘性なし しまり弱
- 5 A0・AP25区南北土層断面 5層と同じ

- 6号溝
- 1 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを多く含む

0 1m  
①~④: 1/30

図66 IIa~II d期の遺構4  
Fig.66 Features of phase IIa~II d(4)

①5号溝・10号溝接続部 (A026区) 南北土層断面図



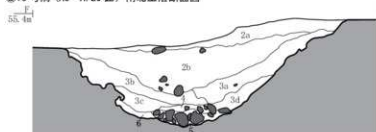
10号溝

- 2 A0・AP25区南北土層断面 2a・2b層と同じ
- 3 A0・AP25区南北土層断面 3b・3c層に相当 10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土ブロック・暗褐色土が混じる
- 4 A0・AP25区南北土層断面 4層と同じ 上面に火山灰層が薄く堆積する
- 5 A0・AP25区南北土層断面 5層と同じ

5号溝

- 1 10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土・暗褐色土の細かいブロックが混じる層
- 2 10YR4/6 褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土・暗褐色土を含むが暗褐色土が多く全体的に暗い

②10号溝 (A0・AP25区) 南北土層断面図

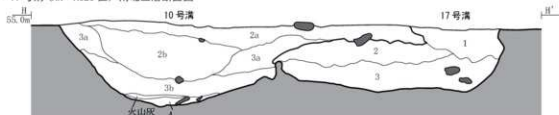


- 4 10YR4/1 褐色 粘土 粘性強 しまり強 鉄分・黄褐色土ブロックを含む 部分的に火山灰を層状に含む 10号溝 (AN19区) 南北土層断面 4層の上部にあたる
- 5 10YR3/2 黒褐色 砂 粘性無し しまり弱 径5-10cmの礫を多く含む 10号溝 (AN19区) 南北土層断面 4層の下部にあたる
- 6 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色土ブロックを多く含む

2 10号溝 (AN19区) 南北土層断面 2a・2b層に相当する

- 2a 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強 白色土粒・黄色土粒を含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
- 2b 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強 白色土粒・黄色土粒を多く含む 径5mm程度の炭化物を多く含む 黄褐色土小ブロックを含む 炭化物を僅かに含む
- 3 10号溝 (AN19区) 南北土層断面 3層に相当するが、細分した層は対応していない。
- 3a 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強 黄褐色土小ブロックを僅かに含む
- 3b 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 暗灰色粘土を多く含む
- 3c 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色土ブロックを多く含む
- 3d 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色土小ブロック・黒褐色土小ブロックを僅かに含む

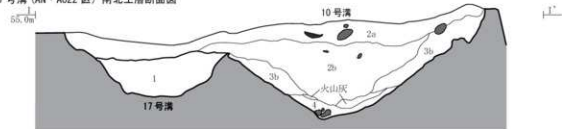
③10号溝・17号溝 (AN・A023区) 南北土層断面図



10号溝

- 2 AN19区南北土層断面 2a・2b層と同じ
- 3 AN19区南北土層断面 3層に相当する
- 3a 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色土ブロックを含む 径2-3mmの炭化物を多く含む
- 3b 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色土小ブロックを含む 黄色粘土土ブロックの混ざり方により細別が可能
- 3c 火山灰 AN・A020区南北土層断面火山灰と同じ
- 4 AN19区南北土層断面 4層に相当する 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり強 径5cm程度の礫を多く含む

④10号溝・17号溝 (AN・A022区) 南北土層断面図



10号溝

- 2 AN19区南北土層断面 2a・2b層に相当する
- 2a 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強 径1cmの炭化物を含む 白色土粒・黄色土粒を含む 礫の混を含む
- 2b 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 黄褐色土粒を多く含む 径1cm程度の炭化物を僅かに含む 暗灰色粘土を斑状に含む
- 3 AN19区南北土層断面 3b層に相当する 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土小ブロックを多く含む
- 4 AN19区南北土層断面 4層に相当する 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄褐色土小ブロックと径5cm程度の礫を僅かに含む

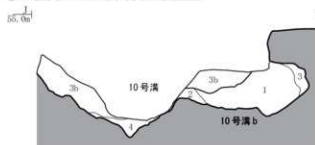
17号溝

- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色粘土ブロックを斑状に含む



図67 IIa~II d期の遺構 5  
Fig. 67 Features of phase IIa~II d(5)

①10号溝 (AN・A021区) 南北土層断面図



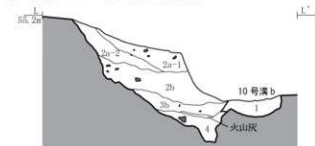
- 10号溝  
 3 AN19区南北土層断面3b層に相当する 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 褐色土を含む 黄褐色土小ブロックを僅かに含む  
 4 AN19区南北土層断面4層と相当する 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 砂をワミナ状に含む 径2-5cmの礫を含む
- 10号溝b  
 1 AN・A020区南北土層断面10号溝b1層と同じ  
 2 10号溝b A020区南北土層断面2層と同じ  
 3 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 灰黄褐色土を僅かに含む 聖蹟地山の崩落土

②10号溝 (A020区) 南北土層断面図



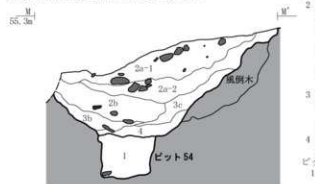
- 10号溝  
 2 AN19区南北土層断面2a・2b層と同じ  
 3 AN19区南北土層断面3b層と同じ  
 4 AN19区南北土層断面4層と同じ
- 10号溝b  
 1 AN・A020区南北土層断面10号溝b1層と同じ  
 2 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり中 灰黄褐色粘土を含む黄褐色粘土を含む

③10号溝 (AN・A020区) 南北土層断面図



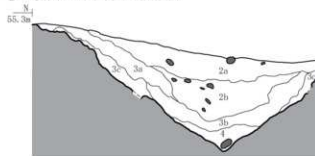
- 10号溝  
 2 AN19区西側南北土層断面2a-1・2a-2・2b層と同じ  
 3 AN19区西側南北土層断面3b層と同じ  
 4 AN19区西側南北土層断面4層と同じ  
 火山灰 10YR7/2 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 火山灰が層状に堆積
- 10号溝b  
 1 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり弱 明黄褐色粘土ブロックを含む

④10号溝 (AN19区西側) 南北土層断面図



- 10号溝  
 2 AN19区南北土層断面2a・2b層に対応する。2a層は主に粘土ブロックの分布状況から細分した  
 2a-1 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径1-5mm程の炭化物を少量含む 径5-20cm程の内礫を少量含む  
 2a-2 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄色粘土ブロックをやや多く含む 径1-10cm程の内礫を少量含む 径1mmの炭化物を少量含む  
 2b 10YR2/2 黒褐色 シルト質粘土 粘性弱 しまり強 黄色粘土ブロックを痕跡に少し含む 径1-3cm程の内礫を少量含む 径1mm程の炭化物を少量含む  
 3 AN19区南北土層断面3b・3c層と同じ  
 3b 10YR4/1 褐色 粘土 粘性強 しまり中 径1cm程の黄色粘土ブロックを少量含む グライ化が著しい  
 3c 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径1mm程の炭化物を少量含む 聖蹟の堆積層  
 4 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄色の砂をブロック状に多く含む 地山の聖蹟には径1mm程度の砂が多い
- ピット54  
 1 10YR4/1 褐色 粘土 粘性強 しまり弱 黄色の砂をブロック状に多量に含む 径1-5cmの礫を少量含む 10号溝4層より砂が多い

⑤10号溝 (AN19区) 南北土層断面図



- 1 沢状遺構埋土1層と同じ  
 2 沢状遺構埋土2a・2b層に対応する  
 2a 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 径1cm程の炭化物を僅かに含む 径3-5cmの礫を僅かに含む 褐色粘土ブロック・鉄分を含む 1号遺構埋土2a層に相当  
 2b 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 灰黄褐色 粘土を僅かに含む 径5cm程の礫を含む 1号遺構埋土2b層に相当  
 3 褐色土を基本として、黄色粘土ブロックや炭化物の含有状況により細分をしている。  
 3a 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土ブロックを多く含む  
 3b 10YR4/2 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄褐色土小ブロックを僅かに含む 間に砂礫含む  
 3c 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 灰黄褐色土ブロックを含む  
 4 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄褐色土小ブロックを僅かに含む

図68 IIa~IId期の遺構6

Fig.68 Features of phase IIa~II d(6)



【5号溝】(図64-⑧・⑨・図67-①・図71-⑦・⑧) AO-26区に位置する南北方向の溝である。南側で10号溝に接続する。北側は他の遺構により削平されているが、その部分を扶んで北側に伸びる。北側部分は、当初46号遺構として確認していた。46号遺構の方が新しい。全長3.37m、最大幅0.27mとなる。軸角度は170.1°西偏する。底面は平らで、壁は急に立ち上がる。その形状、規模は4号溝と類似する。

【6号溝】(図63、図64-①～③、図66-③) AL-30、AL～AP-29、AP-28区に位置する南北方向の溝である。中央付近で8号溝と接続し、西側に傾く。また、南側で10号溝と接続する。7号溝(1b～1c期)より新しい。全長11.81m、最大幅0.99m、軸角度は160.53°西偏する。8号溝接続部近辺は、床面が平らであり、壁はやや急に立ち上がる。その他の場所では、断面三角形の溝となる。埋土は5層ある。

【8号溝】(図63、図64-②・④) AN-28-29区に位置する東西方向の溝である。西側で6号溝と接続し、東側は掘乱により削平されている。規模は全長1.33m、最大幅0.45mであり、軸角度は92.01°西偏する。床面は平らで、壁は急に立ち上がり箱状を呈し、4・5号溝と類似する。

【9号溝】(図63、図64-⑤・図66-①) AO-AP-29-30区に位置する南北方向の溝と推定できる。10号溝との接続部近辺のみが確認されており、その大部分は調査区外へと伸びる。確認できた部分での最大長は7.67m、最大幅1.25mとなり、軸角度は169.98°西偏する。埋土は、接続する10号溝と同じであり、最下層5層上面に火山灰層がある。

【10号溝】(図65～図68) AN-17～23、AO-21～28、AP-24～29区に位置し、調査区中央を南北に区切る東西方向の溝である。その規模は面積57.89㎡、最大長37.32m、最大幅は2.36mとなる。軸角度は77.29°西偏する。東側では沢状遺構と接続し、5・6・9・18号溝と接続する。18号溝との接合部には底面近くに杭21～24を打ち込んでいた。また17号溝と重複しており、10号溝のほうが新しい。

西側(図68-⑤)では断面が三角形を呈し、中央付近では底面部分が鋭く尖る(図67-④、図68-①・②)、あるいは凹む(図68-③)。壁は緩やかに立ち上がる。一方、東側では底面は緩やかに湾曲しており、底面積も広くなる。

埋土は、基本的に5層に分かれる。このうち埋土4層上面には火山灰を層状に含む場合があり、西側のほうが厚くなる。埋土5層は東側にしか認められず礫を含むことが多い。埋土3層は壁際からの堆積土であり、埋土2層は中央に堆積する。埋土1層は断面図には示されていないが、沢状遺構埋土1層同様のものである。

【17号溝】(図65、図67-③・④) AN・AO-22-23区に位置し、10号溝より古い溝と判断した。規模は、全長5.27m、最大幅1.18m程ある。軸角度は76.44°西偏する。北側の壁がオーバーハングしている。なお、17号溝より東側には、10号溝bとした溝跡がある。17号溝とは軸がずれているため同一のものとはしなかったが、17号溝と同様に古い時代の溝跡である可能性もある。

## ・II a～II e期の遺構

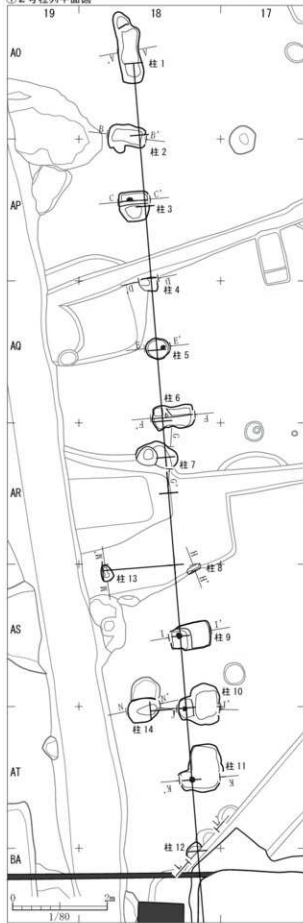
【2号柱列】(図69・図70) AO～BA-18、AT-17区に位置する南北方向の柱列である。軸角度は175.55°西偏する。間尺は5尺で、確認できた柱列の全長は17.59mとなる。柱8は大部分が削平されているが、部分的に残っている部分を柱穴とした。柱6と柱7の間尺は半分の2.5尺となる。また、柱10には控えとして柱14(2.5尺)、同様に柱8に柱13(5尺)がある。

【17号遺構】(図71-①・②) AN-2区に位置する楕円形の遺構である。規模は、面積1.00㎡、長軸長1.57m、短軸長0.91mとなる。底面はやや湾曲する。北壁はなだらかに立ち上がり、南壁は急に立ち上がる。埋土は4層に分かれ、上部には礫が多い。

【28号遺構】(図71-③・④) AK-26区に位置する楕円形の遺構である。規模は面積0.43㎡、長軸長1.07m、短軸長0.51mとなる。遺存していた南壁は緩やかに立ち上がる。埋土は2層に分かれる。

【38号遺構】(図72) AL-28、AM-27-28区に位置する長方形の規模が大きき遺構である。その規模は、面積

①2号柱列平面図



②2号柱列柱1土層断面図



1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黒色土と黄色土ブロックが斑に多量に混じる 地山の黄色粘土ブロックの方が大きくて多い 径1-3mm程の炭化物を少量含む

③2号柱列柱2土層断面図



1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 下部には褐色土を含む 礫が少量入る 炭化物を含む

④2号柱列柱3土層断面図



1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 褐色土粒・小ブロックを少量含む 柱頭埋土  
2 10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり強 暗褐色土が入る 瓶方埋土

⑤2号柱列柱4土層断面図



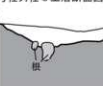
1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 黄褐色土粒・小ブロックを多く含み下部ほど多くなる 炭化物を僅かに含む

⑥2号柱列柱5土層断面図



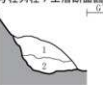
1 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 小礫入る 粗砂入る 黄褐色土粒少量入る 核もしくは柱頭跡  
2 10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 黄褐色土・暗褐色土粒・小ブロックを全体に多く含む 炭化物を僅かに含む

⑦2号柱列柱6土層断面図



1 10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり強 上部には暗褐色土を多く含む 炭化物を僅かに含む 礫を少量含む

⑧2号柱列柱7土層断面図



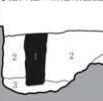
1 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 黄褐色土が層状に入り互層状になる 黄褐色土粒が全体に入る 炭化物が僅かに入る  
2 10YR3/3 暗褐色 泥炭質シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色土粒をやや多く含む 炭化物を僅かに含む

⑨2号柱列柱8土層断面図



1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土ブロックを多く含む 暗褐色土小ブロックを含む 炭化物が僅かに入る

⑩2号柱列柱9土層断面図

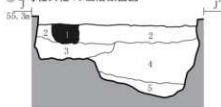


1 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 黄褐色土粒を含む 炭化物を少量含む 柱頭埋土  
2 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色砂質土ブロックを多く含み、間に灰黄褐色粘土・暗褐色土が入る 炭化物が僅かに入る 瓶方埋土

図69 IIa~IIe期の遺構 1  
Fig.69 Features of phase IIa~IIe(1)

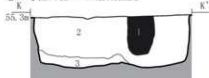


①2号柱列柱10土層断面図



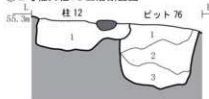
- 1 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまりやや弱 黄褐色土粒を含む 炭化物を僅かに含む 柱底埋土
- 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまりやや強 暗褐色土・明黄褐色砂質土の小ブロックを含む 掘方埋土
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色土が僅かに入る以外は比較的均質な層 掘方埋土
- 4 10YR2/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土ブロックが入るが上・下の層痕付面に多い 掘方埋土
- 5 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性弱 しまり中 地山の土がそのまま堆積したと思われる 乱入物はほとんどない 掘方埋土

②2号柱列柱11土層断面図



- 1 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土粒・ブロックをやや多く含む 柱底埋土
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト・10YR5/6 黄褐色粘質シルト 粘性弱 しまりやや強 10YR4/3 にぶい黄褐色シルトと10YR5/6 黄褐色粘質シルトが混じる 炭化物を少量含む 掘方埋土
- 3 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 地山起源の土で乱入物がほとんどない 掘方埋土

③2号柱列柱12土層断面図



- 柱 12
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強 地山由来の黄色粘土ブロックを斑状に多く含む 径1-3mm程の炭化物を少量含む

ビット 76

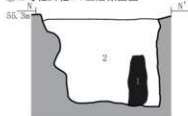
- 1 10YR4/4 褐色粘土 粘性弱 しまり強 黒色土を斑状に極少量含む
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり強 地山由来の黄色粘土ブロックを斑状に少量含む 径5mm程の炭化物を円形に極少量含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘土 粘性中 しまり中 黄色粘土土を斑状に含む 下部に多い ばばらに褐色砂を含む 径5mm程の炭化物を極少量含む

④2号柱列柱13土層断面図



- 1 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり強 地山土主体で黒色土がブロック状に混じる

⑤2号柱列柱14土層断面図



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 黄褐色土粒を僅かに含む
- 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまりやや強 黄褐色土と暗褐色土の小ブロックを全体に多く含む 炭化物を僅かに含む

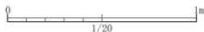


図70 IIa~IIe期の遺構 2

Fig.70 Features of phase IIa - IIe(2)

10.11㎡、長軸長5.94m、短軸長2.50mとなる。底面は平らで、壁はやや直に立ち上がる。埋土は4層確認しており、壁際に向かって緩やかに上がるレンズ状の堆積を示す。

【42号遺構】(図71-⑤・⑥) AN・AO-27区に位置する円形の遺構である。規模は、面積1.72㎡、直径1.47m程度となる。床面は緩やかに湾曲し、北壁はやや急に、南壁は緩やかに立ち上がる。埋土は3層に分かれる。

【46号遺構】(図71-⑦・⑧) AN-26区に位置する遺構である。その大部分を他の遺構・掘乱に削平されている形態は不明である。規模は0.38㎡、長軸長1.19m、短軸長0.46mとなる。当初は一つの遺構として調査したが、断面図と平面図の検討から、西側の段部は5号溝の一部とした。埋土は3層にわかれ壁際から堆積している。

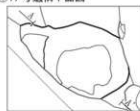
【49号遺構】(図71-⑨・⑩) AM・AN-30区に位置する遺構で、その西半分以上は掘乱によって削平されている。確認できた規模は、長軸長1.21m、短軸長0.36となる。埋土は2層に分かれる。

【54号遺構】(図71-⑪~⑬) AP・AQ-23区に位置する方形の遺構で、西側は掘乱によって削平されている。確認できた規模は長軸長0.97m、短軸長0.80mとなる。底面には、掘削痕跡が認められた。

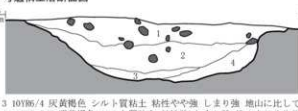
【65号遺構】(図73-①・②・④) AT-29区に位置し、西側は調査区外へと伸び、南側を掘乱によって削平されているため、その形状は不明である。確認できた規模は、長軸長1.01m、短軸長0.63mとなる。床面は平らで壁



①17号遺構平面図



②17号遺構土層断面図



- 1 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱  
しまり中 粒mm-3cmの炭化物をまばら  
に含む 径2-5cmの円礫をまばらに含む
- 2 10YR6/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性  
やや強 しまり中 黄褐色粘土ブロック  
を成不鮮明に含む 径2-3cmの円礫をま  
ばらに含む 炭化物を少し含む

- 3 10YR6/4 灰黄褐色 シルト質粘土 粘性やや強 しまり強 地山に比して灰色味を帯びる
- 4 10YR5, 5/5 明黄褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり強 地山よりやや汚れが入る

③28号遺構平面図



④28号遺構土層断面図

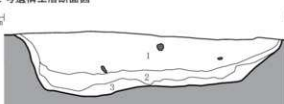


- 1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄色粘土・白色粘土ブロック  
を混状に含む 径5mm-1cm程の炭化物を少量含む
- 2 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土 粘性中 しまり中 地山由来の粘土を多く含  
む 径3mm程の炭化物を少量含む

⑤42号遺構平面図



⑥42号遺構土層断面図



- 1 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり強  
径1-5cmほどの礫を少量含む 部分的に同色  
の砂を含む
- 2 10YR4/1 暗灰色 粘土 粘性強 しまり弱 水  
性堆積層の種相を示す 部分的に黄色粘土が  
ブロック状に凝じる
- 3 10YR6/4 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり  
中 地山由来の黄色粘土・白色粘土ブロック  
が混在する 酸化鉄が部分的に多く入る

⑦46号遺構平面図



⑧46号遺構 (AN26区)・5号溝南北土層断面図



46号遺構

- 1 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱  
しまり強 径1-5cm程の礫をやや多  
く含む 径3-5mm程の炭化物を少量  
含む
- 2 10YR4/5 褐色 シルト 粘性弱 しま  
り強 黄色粘土ブロックをやや含む  
径1-2mmの炭化物を少量含む
- 3 10YR6/6 褐色 シルト 粘性中 しま  
り強 地山由来の汚れた堆積層 径  
1-2mmの炭化物を少量含む 径1-3mm  
の炭化物をやや多く含む

5号溝

- 1 10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径1-3mmの炭化物を少量含む 黄色土粒をやや多く含む

⑨49号遺構平面図



⑩49号遺構土層断面図



- 1 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 径2-5mmの炭化物を含む 明黄褐色粘  
土小ブロックを僅かに含む
- 2 10Y3/2 オリーブ黒色 粘土 粘性強 しまり中 黄褐色土ブロックを僅かに含む

⑪54号遺構平面図

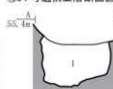


⑫54号遺構底面工具痕跡



(西から)

⑬54号遺構土層断面図

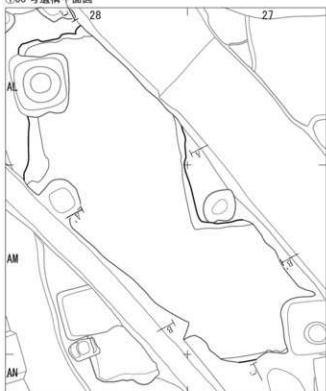


- 1 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性  
弱 しまり中 褐色シルトの  
ブロックがラジアルに凝る  
中間部分には黄褐色土が  
層状に広がる 礫を含む 底  
面近くは明黄褐色土も多い



図71 IIa~IIe期の遺構3  
Fig. 71 Features of phase IIa - IIe(3)

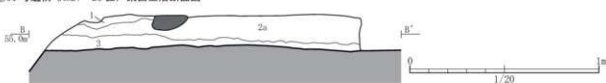
①38号遺構平面図



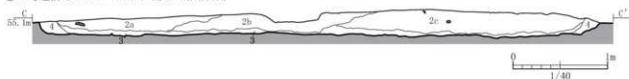
②38号遺構 (AL・AM28区) 東西土層断面図



③38号遺構 (AM27・28区) 東西土層断面図



④38号遺構 (AL-AN27・28区) 南北土層断面図



1 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径5mm程の炭化物を多く含む

2 混入物の差異により細分した

2a 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土ブロックを塊状に多く含む 径1cm程の炭化物を僅かに含む 鉄分を含む

2b 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土小ブロックをわずかに含む 径1cm程の炭化物を僅かに含む 鉄分を含む

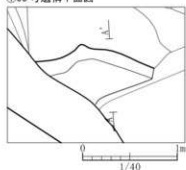
2c 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり強 大きめの明黄褐色粘土ブロックを多く含む 径1cm程の炭化物を僅かに含む

3 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄褐色土小ブロックを細から塊状に含む 鉄分・マンガンを含む

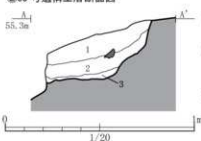
4 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 灰黄褐色粘土ブロック、黒褐色土ブロックを僅かに含む マンガンを含む

図72 II a~II e期の遺構4  
Fig.72 Features of phase II a~II e(4)

①65号遺構平面図



②65号遺構土層断面図

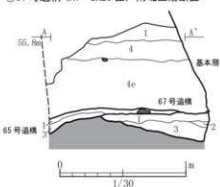


- 1 10YR6/2 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり弱 明黄褐色ブロックを全体に含む 全体にグライ化 円礫を少量含む
- 2 10YR5/1 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 酸化鉄斑をつづれ状に多く含む 凝灰岩らしき礫を少量含む 明黄褐色ブロックをまばらに含む
- 3 10YR4.5/1 褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色シルト質粘土 (地山由来土) をワミナ状に含む

③67号遺構平面図

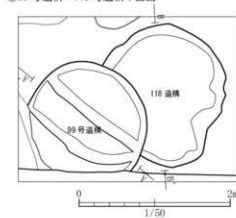


④67号遺構 (AT・BA29区) 南北土層断面図

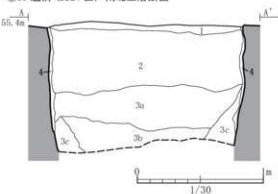


- 1 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 に近い 黄色小ブロックを僅かに含む 径3-5mmの炭化物を多く含む
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 黄褐色土小ブロックを斑状に含む 鉄分・径1cmの炭化物を僅かに含む

⑤99号遺構・118号遺構平面図

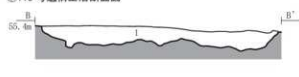


⑥99遺構 (BB21区) 南北土層断面図



- 1 10YR6/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土・炭化物をまばらに含む 1-2cmの礫を少し含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 中央やや右辺に明黄褐色シルト質粘土ブロック 炭化物をまばらに含む 1-2cmの礫を少量含む
- 3 暗い褐色土 土質の違いから細分した
  - 3a 10YR5/1.5 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
  - 3b 10YR4/1.5 褐色 シルト 粘性弱 しまり中
  - 3c 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト 粘性中 しまり中
- 4 10YR7/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり中

⑦118号遺構土層断面図

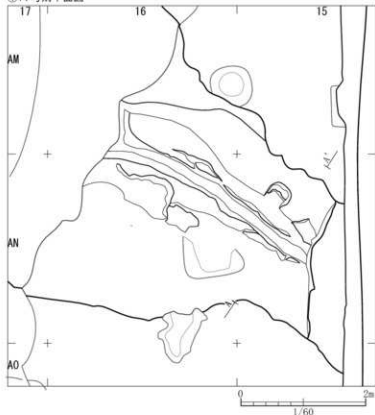


- 1 10YR5/3 に近い黄褐色 シルト 粘性中 しまり弱 炭化物 (数mm-1cm程度) と焼土 (数mm-数cm) を含む 塊土塊 (かたまり固い) には最大数cmのもの有り 明黄褐色粘土のブロック (数mm-数cm 地山由来) をまばらに含む 円礫 (1cm-2cm) を少数含む

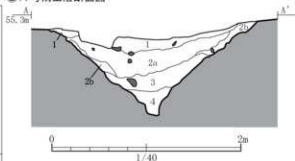
図73 IIa~IIe期の遺構5

Fig. 73 Features of phase IIa-IIe(5)

①14号溝平面図



②14号溝土層断面図

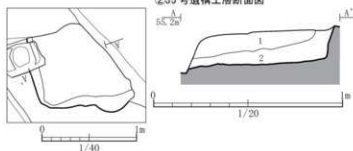


- 1 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 炭分を含む 径2-5 cm程度の礫を少量含む 炭化物を僅かに含む
- 2a 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり弱 炭化物を炭に多く含む 径5 cm程度の礫を僅かに含む
- 2b 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性中 しまり弱 暗褐色粘土質シルトを炭に含む
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土粒をまだらに含む 暗褐色土粒を僅かに含む
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘性中 しまり弱 細砂に粘土質シルトが混じる 地山起源の砂

図74 II a~II e期の遺構 6

Fig. 74 Features of phase II a - II e (6)

③35号遺構土層断面図



- 1 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 黄色粘土ブロックを斑状に含む 径1-3 mmの炭化物を少量含む
- 2 10YR4/5 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 径1-3 mm程度の炭化物を少量含む 下部に地山由来の黄色粘土ブロックを層状に含む

図75 II a~III a期の遺構

Fig. 75 Features of phase II a - III a

は緩やかに立ち上がる。埋土は3層確認している。遺構の位置、埋土の特徴から、同時期の67号遺構と一連の遺構である可能性もある。

【67号遺構】(図73-③・④) BA-29区に位置し、北側は擾乱、西側は調査区外へ伸び、その形状は不明である。確認できた規模は、長軸長0.69m、短軸長0.40mである。埋土は3層確認している。遺構の位置、埋土の特徴から、同時期の65号遺構と一連の遺構である可能性もある。

【99号遺構】(図73-⑤・⑥) BB-21区に位置するほぼ円形の遺構である。規模は、面積1.87m<sup>2</sup>、径1.63m程である。埋土は3層確認している。調査区壁際であることもあり、安全確保のため1m程掘削して底面までは掘削しなかった。形状等から素掘りの井戸である可能性が高い。118号遺構(II a-II e期)と重複し、本遺構のほうが新しい。

【118号遺構】(図73-⑤・⑦) BA-BB-21、BB-20区に位置する楕円形の遺構である。99号遺構と重複しており、99号遺構の方が新しい。その規模は、長軸長1.87m、短軸長1.17m程である。埋土は1層のみである。床面に

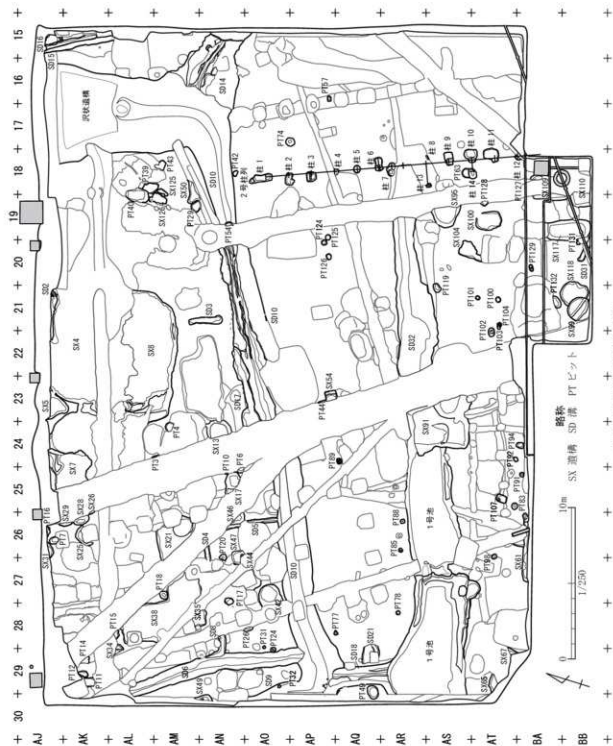
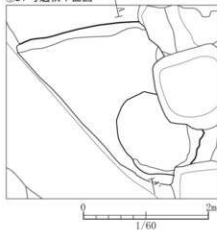


図76 IIb期の遺構分布状況  
Fig. 76 Distribution of features in phase IIb

①21号遺構平面図

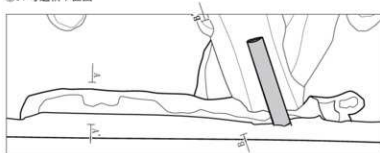


②21号遺構土層断面図

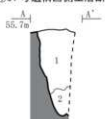


- 1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり強 径1cm程の炭化物を多く含む 明黄褐色土小ブロックを全体に含む 径2-5cmの礫を含む
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強 径0.5-1cmの炭化物と明黄褐色土小ブロックを僅かに含む 径1-2cmの礫を僅かに含む

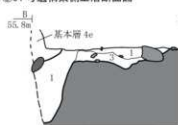
③61号遺構平面図



④61号遺構西側土層断面図

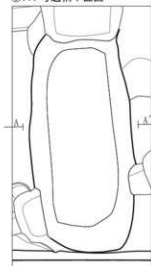


⑤61号遺構東側土層断面図

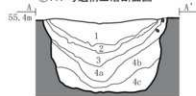


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色粘土ブロックを斑状に多く含む 径5mm程の炭化物を僅かに含む
- 2 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 褐色粘土を極僅かに含む
- 3 注記なし

⑥117号遺構平面図



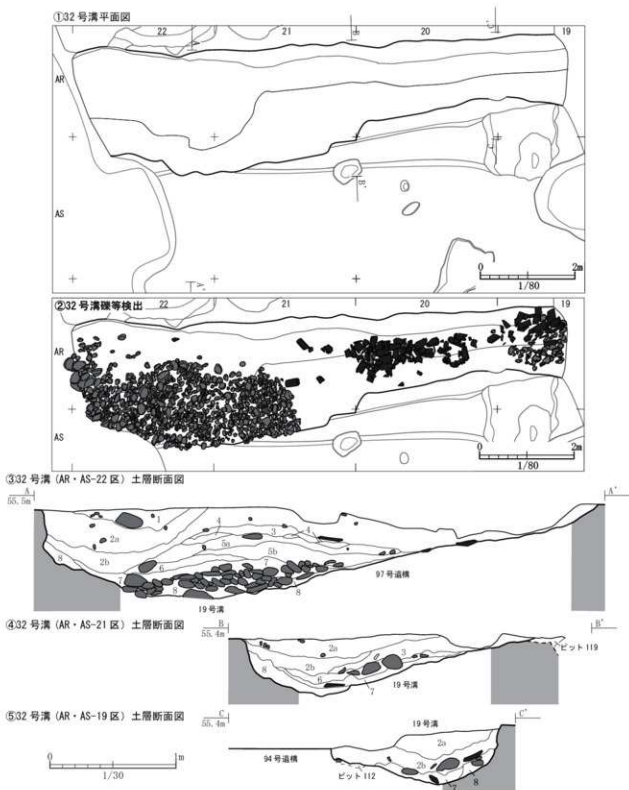
⑦117号遺構土層断面図



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色粘土粒を斑状に含む 径1-2cmの炭化物を僅かに含む
- 2 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 部分的ににぶい黄褐色土を含む
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 径1cm程の炭化物を僅かに含む
- 4 暗い褐色土層 土質の違いから細分した
  - 4a 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり弱 径1-2cmの炭化物を僅かに含む 4a層上面に繊維状有機物が一面に広がる
  - 4b 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 にぶい黄褐色粘土粒を斑状に多く含む 径5mm程の炭化物を僅かに含む
  - 4c 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 にぶい黄褐色土粒を含む 径1cm程の炭化物を極僅かに含む



図77 IIb期の遺構 1  
Fig. 77 Features of phase IIb(1)



- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色粘土小ブロック、径3-5mmの炭化物を僅かに含む
- 2 褐色土層 土質の違い等により細分した
- 2a 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径1-5cm程の円形状の黄色粘土ブロックを縦状に下部に多く含む 径5mm程の炭化物を少量含む
- 2b 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径1-15cm程の礫と瓦片を下部に含む 黄色粘土ブロックを含むが径1-15cm程大きい
- 3 10YR4/3 暗い黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土小ブロック、褐色土小ブロックを多く含む 径3-5mmの炭化物を含む
- 3 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 径1cm程の炭化物を僅かに含む 白色土粒、黄色土粒を僅かに含む 径2-3cmの礫を僅かに含む
- 4 10YR4/3 暗い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色粘土小ブロックを多く含む
- 5 暗い褐色の粘土質シルト層 土質の違いにより細分した
- 5a 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強 暗い黄褐色粘土小ブロックを含む 径2-3mmの炭化物を僅かに含む
- 5b 10YR2/3 黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 暗い黄褐色粘土小ブロックを含む 径5-10mmの炭化物を僅かに含む 鉄分を含む
- 6 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり弱 砂、小礫、風化した礫を多く含む
- 7 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまり中 径5mm程の炭化物を僅かに含む
- 8 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり中 斜面で地山由来の黄褐色粘土を多く含む

図78 IIb期の遺構 2

Fig. 78 Features of phase IIb(2)

は細かな凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。

【14号溝】(図74) AM・AN-15・16、AO-15区に位置する東西方向の溝である。全長4.30m、最大幅4.73mとなり、西に向かうに従って広がる。軸角度は、114.59°西偏する。断面形状は逆三角形を呈し、底部付近は箱形となる。緩やかに立ち上がる壁部には凹凸がある。埋土は4層確認した。

#### ・Ⅱa～Ⅲa期の遺構

【35号遺構】(図75) AM・AN-28区に位置する方形の遺構である。北・東側は掘乱によって削平される。確認した部分の規模は、長軸長1.00m、短軸長0.89mとなる。床面は平らで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は2層確認した。

#### ・Ⅱb期の遺構(図76)

【21号遺構】(図77-①・②) AM-26・27区に位置する方形の遺構で、東西方向を掘乱等により削平される。その規模は、面積3.85㎡、長軸長2.97m、短軸長1.71mとなる。埋土は2層に分かれる。南側の1層は炭化物を多く含む埋土であるが、この部分は円形の別の遺構の可能性が高い。

【61号遺構】(図77-③～⑤) AT-26、BA-26・27区に位置する遺構であるが、その大部分は調査区外の南側に伸びるため、形状等詳細は不明である。確認できた規模は、長軸長4.55m、短軸長1.03mである。壁は急に立ち上がり、深さは0.98m程ある。

【117号遺構】(図77-⑥・⑦) BA・BB-19・20区に位置する長楕円形の遺構である。その規模は面積3.37㎡、長軸長2.80m、短軸長1.35mとなる。床面は平らで、壁はやや急に立ち上がる。埋土下部は、中央部が凹凸自然堆積の様相を示す。4a層上部には繊維状有機物を確認したが、形状を保って取り上げることはできなかった。

【32号溝】(図78) AR-19～22、AS-21・22区に位置する東西方向の規模の大きな溝である。全長は10.26mで、最大幅は2.59mとなる。軸角度は84.55°西偏する。北壁は急に立ち上がるが、南側は緩やかに傾斜する。埋土は8層確認している。このうち7層下部に礫が集中して確認されている。また、東側の7層下の底面には完形に近い瓦が多数出土している。この32号溝の下部に、97号遺構、19号溝が存在する。また礫面の存在から西側に位置する91号遺構上部とは同一の遺構である可能性が高い。

#### ・Ⅱc期の遺構(図79)

【6号遺構】(図80-①～③) AJ-23・24、AK-23～25区に位置する不整形の遺構である。規模は、面積8.55㎡、長軸長4.33m、短軸長3.22mである。床面は平らで、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は5層確認している。東側で4号遺構(Ⅱc-Ⅱc期)と接続し、北側で未確認の遺構と接続するようである。また、南側は2号遺構(Ⅱd-Ⅲc期)により削平されているが、南側に位置する9号遺構(Ⅱc期)と同一の遺構である可能性が高い。

【9号遺構】(図81-①・②) AL-23～25区に位置する遺構で、不整形長方形を呈する。規模は、面積4.85㎡、長軸長3.98m、短軸長1.74mである。床面は平らで、壁はやや急に立ち上がる。西側は掘乱、北側は2号遺構(Ⅱd-Ⅲc期)により削平されているが、北側に位置する6号遺構と同一の遺構である可能性が高い。

【10号遺構】(図80-④・⑤) AL-23区に位置する不整形の遺構である。形も不整形で、非常に浅い。南側に位置する8号遺構あるいは9号遺構の一部である可能性もある。規模は、長軸長1.42m、短軸長0.95mとなる。

【18号遺構】(図80-⑥・⑦) AL-26区に位置する円形の遺構である。北・東側を他の遺構や掘乱により削平される。残存している規模は、長軸長1.48m、短軸長0.76mとなる。床面は軽く湾曲し、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は4層に分かれる。

【20号遺構】(図81-③・④) AL-25・26区に位置するやや規模の大きい長方形の遺構である。四方を他の遺構



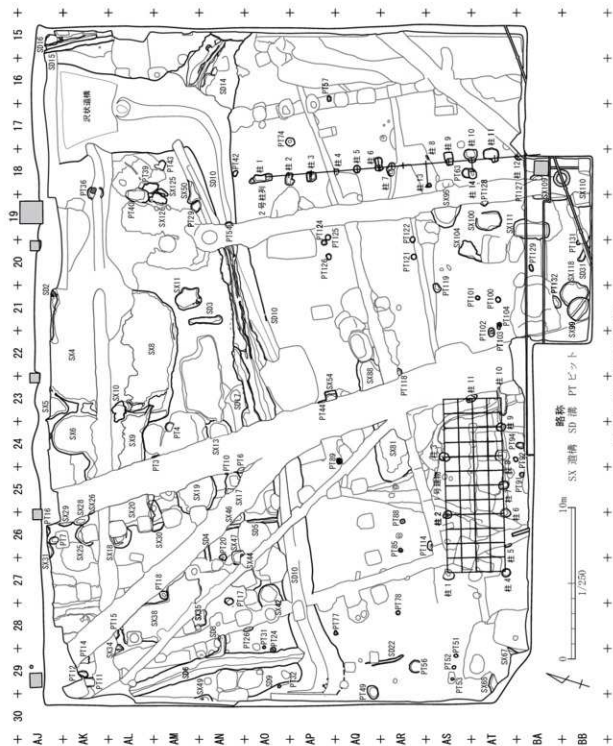
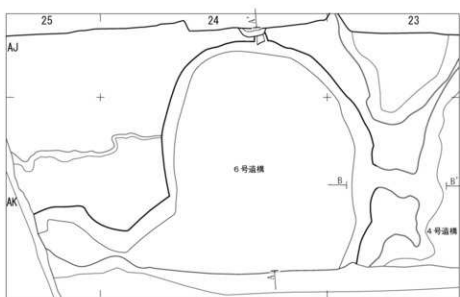


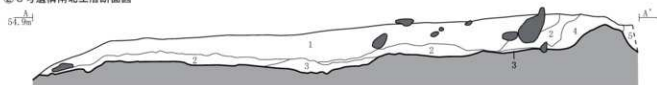
図9 IIc期の遺構分布状況

Fig. 79 Distribution of features in phase IIc

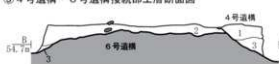
①6号遺構平面図



②6号遺構南北土層断面図

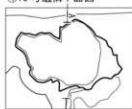


③4号遺構・6号遺構接続部土層断面図



- 1 10YR5/4 土に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 鉄分を現状に含む 径1-20 cm程度の礫を少量含む 径1-3 cm程度の炭化物を少量含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 上部に黄色粘土ブロックを含む 西側に炭化物を多く含む
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性中 しまり中 2層と類似する土が斑状に多く混じる
- 4 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性弱 しまり強 斑状に茶色ブロックが混じる
- 5 10YR5/8 黄褐色 粘土 粘性弱 しまり強 茶色粘土ブロックを斑状に多く含む

④10号遺構平面図



⑤10号遺構土層断面図

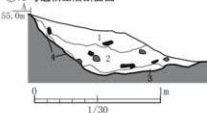


- 1 7.5YR4/1 褐灰色 粘土 粘性強 しまり強 径1-5 mmの炭化物を僅かに含む 径3-5 cm程度の礫を含む 鉄分を多く含む 白色土粒・黄色土粒を僅かに含む

⑥18号遺構平面図



⑦18号遺構土層断面図

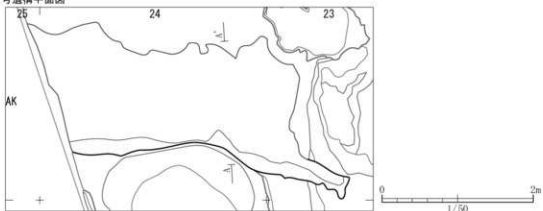


- 1 10YR5/4 土に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 やや大きな炭化物を含む 小礫を含む 酸化鉄が斑に入る
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 やや大きな炭化物を含む 小礫を含む 酸化鉄が斑に入る
- 3 10YR5/4 土に近い黄褐色 細砂 粘性中 しまり中 地山の砂質部分起源の土に灰褐色粘土が混じる
- 4 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中 地山の粘質土起源の土

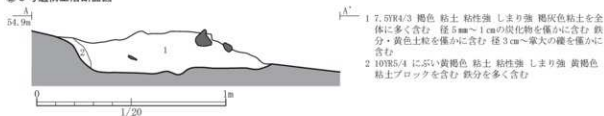


図80 IIc期の遺構 1  
Fig.80 Features of phase II(c)

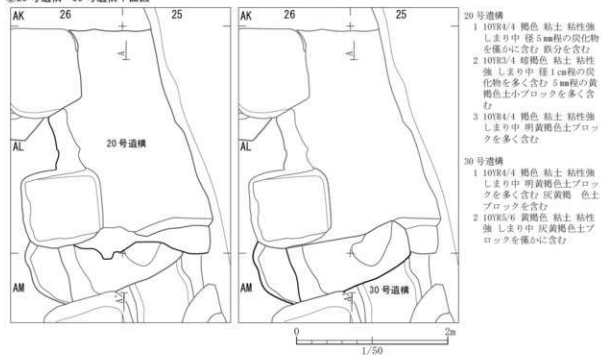
① 9号遺構平面図



② 9号遺構土層断面図



③ 20号遺構・30号遺構平面図



④ 20号遺構・30号遺構土層断面図

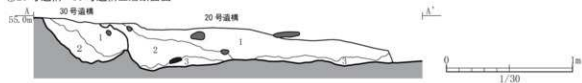
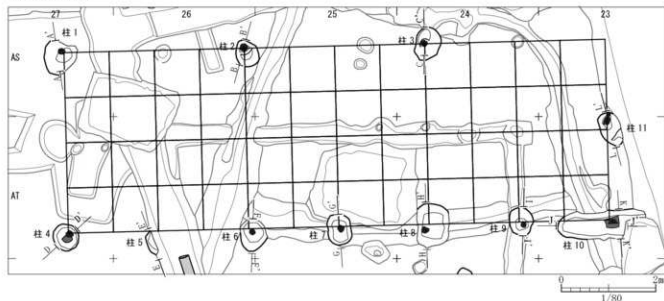


図81 IIc期の遺構 2

Fig.81 Features of phase IIc(2)

① 1号建物平面図



② 1号建物柱1土層断面図



- 10YK3/4 暗褐色 シルト 粘性弱  
しまり中 黄褐色土小ブロックを  
僅かに含む 柱痕跡
- 10YK3/3 暗褐色 粘土 粘性強  
しまり強 黄褐色粘土小ブロックを  
斑状に含む 鉄分・白色土粒・径5  
mm程の炭化物を僅かに含む 径3-5  
cmの礫を含む

③ 1号建物柱2土層断面図



- 10YK4/3 灰黄褐色 粘土  
粘性強 しまり中 径1-10cm  
の礫を多量に含む 褐色砂  
を少量含む
- 10YK3/4 暗褐色 粘土 粘性強  
しまり強 径1-2cmの礫を少  
量含む 径5-10mmの炭化物を  
少量含む 黄色粘土ブロック  
を少量含む

④ 1号建物柱3土層断面図



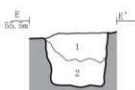
- 10YK4/2 灰黄褐色 砂質シルト  
粘性強 しまり中 径5mm程の  
小礫を多く含む 同色の砂を多  
く含む 下部には黒・黄色粘土  
が堆積する
- 10YK3/3 暗褐色 粘土 粘性強  
しまり強 径3mm程の黄色粘土  
を少量含む 下部には灰色粘土  
をやや含む

⑤ 1号建物柱4土層断面図



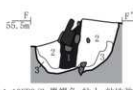
- 10YK3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱  
しまり強 径1-5cm程の礫を少量含む 褐色砂  
を多く含む 黄色粘土ブロックを少量含む  
柱痕跡
- 10YK3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強  
径1-5cmの円礫をやや多く含む 黄褐色粘  
土ブロックを大きく斑状に含む
- 10YK6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり強  
黒色土を円形に斑状に含む

⑥ 1号建物柱5土層断面図



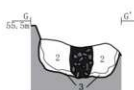
- 10YK3/3 褐色 シルト 粘性弱  
しまり中 黄褐色土ブロックを  
斑状に僅かに含む 白色土粒・  
黄色土粒・径5mm程の炭化物  
を含む
- 10YK3/4 暗褐色 粘土質シルト  
粘性中 しまり強 黄褐色粘土  
ブロックを多く含む 径5mm程  
の炭化物を僅かに含む

⑦ 1号建物柱6土層断面図



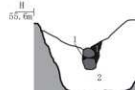
- 10YK2/3 黒褐色 粘土 粘性強  
しまり強 径3cm程の円礫と瓦を  
含む 径5mm-1cm程の黄色粘土  
ブロック斑状に含む 下部には粘土  
上部には茶色砂を多く含む
- 10YK3/3 暗褐色 シルト 粘性弱  
しまり強 径5mm-1cmの黄色粘土  
ブロックを角状に少量含む 径5  
mm-1cmの炭化物を少量含む
- 10YK5/6 黄褐色 粘土 粘性強  
しまり強 堆土1層の黒色土を斑状  
に少量含む 崩落した地山層

⑧ 1号建物柱7土層断面図



- 10YK3/2 黒褐色 粘土 粘性弱 しまり  
強 径1-3cm程の円礫を多く含む 黄色  
粘土ブロックをやや多く含む 上部  
には径5mm程の炭化物を少量含む
- 10YK3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱  
しまり強 径3-5cmの黄色粘土ブ  
ロックを多く含む 径5mm-1cm程の炭化物  
を斑状に含む 茶色砂を斑状に含む
- 10YK5/4 灰黄褐色 粘土 粘性強  
しまり強 1層山家の黒色土を僅かに  
含む 崩落した地山層か

⑨ 1号建物柱8土層断面図



- 10YK4/3 灰黄褐色 シルト 粘性弱  
しまり中 黄褐色土粒を含む 傘大の礫が入  
る 炭化物を少量含む 柱痕跡7埋土
- 10YK4/3 灰黄褐色 砂質シルトと  
10YK5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性なし  
中 しまり強中 この2種のブロックが混  
じる層 下部ほど黄褐色土ブロックが多  
く 暗褐色土小ブロックを含む 炭化物を僅か  
に含む



図82 IIc~IId期の遺構 1

Fig.82 Features of phase IIc - II(d)

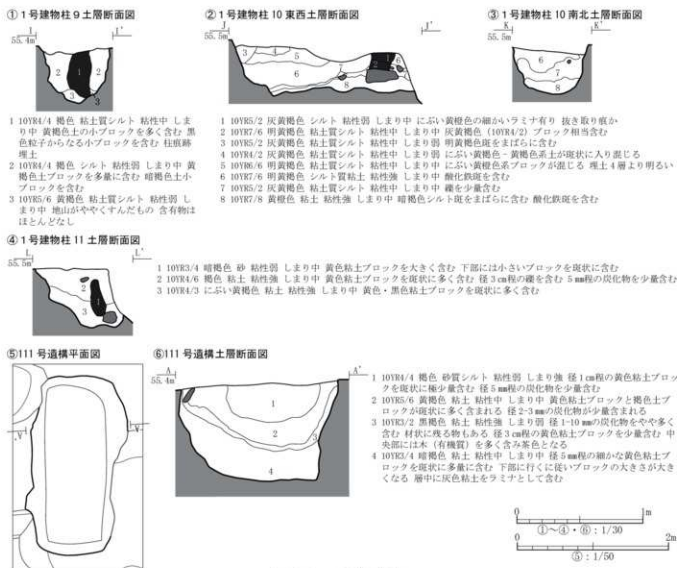


図83 IIc ~ II d期の遺構 2  
Fig. 83 Features of phase IIc ~ II d(2)

や擾乱により削平されている。残存している規模は、面積5.82㎡、長軸長3.72m、短軸長2.01mとなる。床面は多少の凹凸はあるが平坦で、壁はやや急に立ち上がる。埋土は3層確認している。南側に30号遺構と重複し、30号遺構の方が古い。

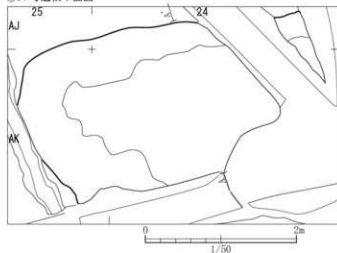
【30号遺構】(図81-③・④) AL・AM-25・26区に位置する楕円形の遺構である。長軸長は2.45m、短軸長は0.83mとなる。そのほとんどは重複する20号遺構により削平される。床面は湾曲しており、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は2層確認している。

#### ・ IIc ~ II d期の遺構

【1号建物】(図82、図83-①~⑥) AS・AT-23 ~ 27区に位置する建物跡である。間尺は6尺3寸で、その2倍の場所に柱を据える。確認された範囲内では2間×6間の建物となる。その規模は、長軸長11.84m、短軸長4.36mとなる。軸角度は91.22°西偏する。

【111号遺構】(図83-⑤・⑥) AT・BA-19区に位置する長楕円形の遺構である。その規模は、面積2.50㎡、長軸長2.35m、短軸長1.28mとなる。床面はほぼ平坦であるが、壁はやや急に立ち上がる。埋土は4層に分かれ、その中の3層は繊維状の有機物や材を含んでいた。4層中には灰色粘土をラミナ状に含んでおり、火山灰である可能性もあるが、微量であるためサンプリングできなかった。

①81号遺構平面図

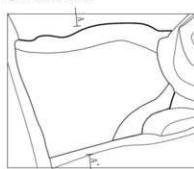


②81号遺構土層断面図

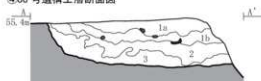


- 1 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 径3-10 cm程の炭化物を少量含む 黄色粘土ブロックを少量塊状に含む
- 2 10YR2/1 黒色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 径5-20 mm程の炭化物を多量に含む 遺物も非常に多い 黄色粘土ブロックをやや含む
- 3 10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 径1-5 mm程の炭化物を少量含む 径5 mm程の黄色粘土ブロックを塊状にやや多く含む 南側の炭化物が多い
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 径1-3 mm程の炭化物を少量含む 下部には白色粘土を多く含む 南側はグライ化し、灰色となる

③88号遺構平面図



④88号遺構土層断面図



- 1 褐色の土層 土質の違いから細分した
  - 1a 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強 径5-10 mmの炭化物を多く含む 黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む 白色土粒、鉄分を含む
  - 1b 10YR3/1 黒褐色 粘土 粘性強 しまり強 径1-2 cmの炭化物を多く含む 白色土粒、黄色土粒、赤色土粒を含む
- 2 10YR3/1 黒褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土小ブロックを多量に含む 径1-2 cmの炭化物を多く含む
- 3 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性極めて強 しまり強 黄褐色粘土、褐灰色粘土を塊状に含む

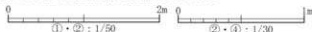


図84 IIc～Ⅲa期の遺構

Fig.84 Features of phase IIa - IIIa

#### ・IIc～Ⅲa期の遺構

【81号遺構】(図84-①・②) AQ・AR-24・25区に位置する楕円形の遺構である。東側と南側を掘乱によって削平されている。その規模は面積5.71㎡、長軸長3.46m、短軸長2.14mとなる。床面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。埋土は4層に分かれ、そのうち2層は多量に炭化物を含む。形状や埋土の特徴から、東側の掘乱を扶んで反対側の88号遺構と同一の遺構である可能性が高い。

【88号遺構】(図84-③・④) AQ-22・23、AR-23区に位置する遺構である。西・南側を掘乱によって削平されているため詳細は不明であるが、楕円形を呈すると推定できる。その規模は、面積2.65㎡、長軸長1.82m、短軸長1.54mとなる。床面は平らで、壁はやや急に立ち上がる。埋土は基本的に3層に分かれ、埋土2層は炭化物を多量に含む。形状や埋土の特徴から、西側の掘乱を扶んで反対側の81号遺構と同一の遺構である可能性が高い。

#### ・IIc～Ⅲc期の遺構

【11号遺構】(図85-①～③) AM・AN-21区の不整形を呈する遺構である。その規模は長軸長1.58m、短軸長1.42mとなる。底面は平らで、埋土は浅い。埋土は2層にわかれる。

【19号遺構】(図85-④～⑥) AM-25・26、AN-25区に位置する円形の遺構である。東側が掘乱に削平されており、残存している規模は、長軸長2.63m、短軸長2.02mとなる。床面は細かな凹凸はあるが、ほぼ平坦となり、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は3層に分かれる。

【22号溝】(図85-⑦・⑧) AQ・AR-29区の南北方向の溝である。最大長2.18m、最大幅は0.19mとなる。軸角度は164.74°西偏する。床面は平らで、壁は急に立ち上がり箱状を呈する。埋土は1層のみである。

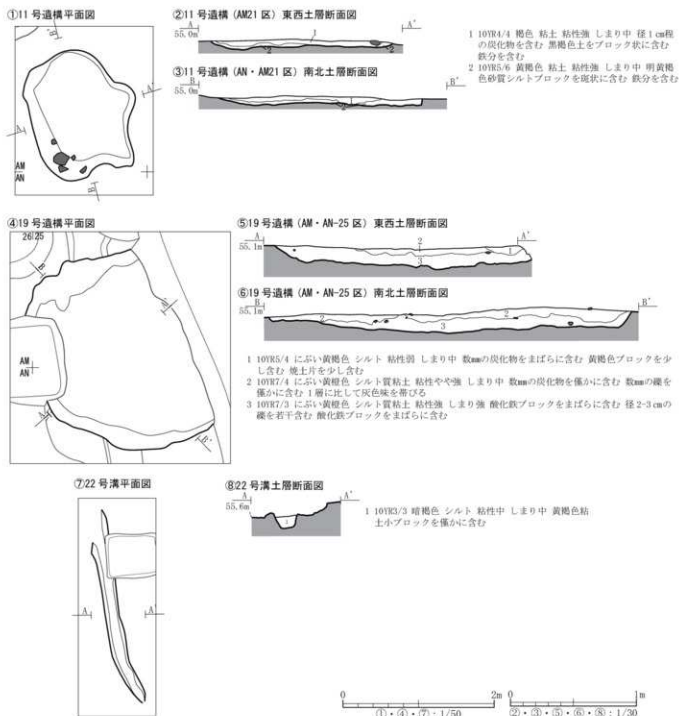


図85 IIc~IIIc期の遺構  
Fig. 85 Features of phase IIc - IIIc

・ II d 期の遺構 (図 86)

【27号遺構】(図 87-①・②) AJ-AK-28 区に位置する長方形を呈する遺構である。その規模は長軸長 2.46m、短軸長 1.73m となる。床面は多少の凹凸がある。埋土は 4 層確認した。その形態等から、南東方向に存在する溝状部分は別遺構の可能性もあり、本遺構も南北方向の溝である可能性もある。

【51号遺構】(図 87-③・④) AM-19-20 区に位置する円形の遺構である。底面北側はオーバーハングする。規模は、長軸長 1.12m、短軸長 1.07m である。底面はほぼ平らで、壁は垂直に立ち上がる。埋土は 3 層確認している。3号遺構 (II d ~ III c 期) と類似する特徴を有している。

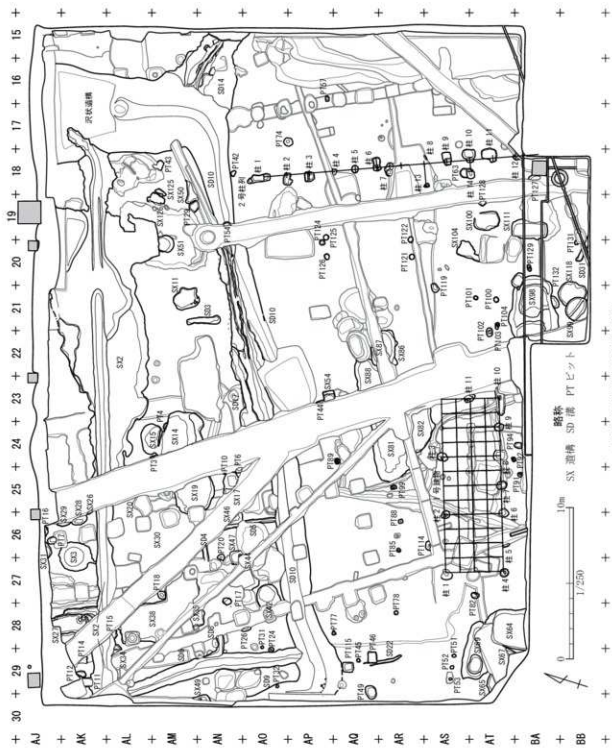
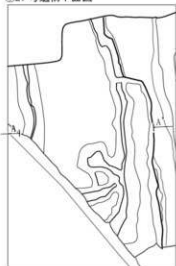


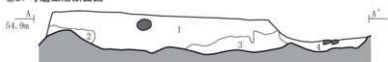
図86 II d期の遺構分布状況  
 Fig.86 Distribution of features in phase II d



①27号遺構平面図

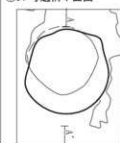


②27号遺土層断面図



- 1 10YR5/4 におい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄色粘土・黒色粘土を現状に多く含む 径 3cm 程の礫と径 3mm の炭化物を少量含む
- 2 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性中 しまり中 地山由来の黄色粘土に黒色粘土が現状に混じる
- 3 10YR5/8 黄褐色 粘土 粘性中 しまり強 理上 2 と特徴は同じ
- 4 10YR4/1 褐色 粘土 粘性中 しまり強 径 1-2cm 程の礫を少量含む 径 1-3mm 程の炭化物を少量含む

③51号遺構平面図

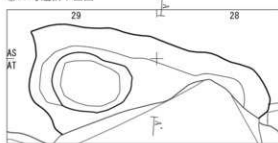


④51号遺構土層断面図



- 1 10YR5/3 におい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径 5cm ほどの礫を北側に多量に含む
- 2 10YR4/3 におい黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 黄色の砂を層状に含む 炭化物を少量含む
- 3 10YR4/4 褐色 砂 粘性弱 しまり弱 灰色の粘土を層状に含む 最下部にマンガンを含層状に含む

⑤69号遺構平面図

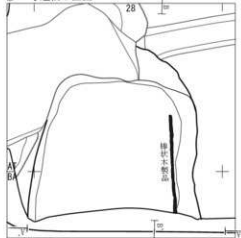


⑥69号遺構土層断面図



- 1 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり強 径 1cm 程の炭化物を多く含む 白色土粒・鉄分を含む 径 3-5cm の礫を僅かに含む
- 2 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 明黄褐色粘土ブロックを含む

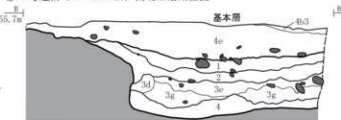
⑦64号遺構平面図



⑧64号遺構 (BA27-29 区) 東西土層断面図



⑨64号遺構 (AT・BA28 区) 南北土層断面図



- 1 10YR3/1 黒褐色 粘土 粘性強 しまり弱 径 1cm の炭化物を多く部分的に層状に含む 黄褐色土小ブロックを僅かに含む
- 2 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり中 径 5mm 程の炭化物を僅かに含む 鉄分・黄褐色土ブロックを僅かに含む
- 3 黒・灰褐色の粘土を主体とする土層で、その特徴から細分した
  - 3a 10YR3/1 黒褐色 粘土 粘性きわめて強 しまり強 明黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む
  - 3b 2.5Y4/1 暗灰黄色 粘土 粘性強 しまり強 砂を含む 鉄分を含む
  - 3c 2.5Y4/1 黄灰色 粘土 粘性きわめて強 しまり強 径 5mm 程の炭化物を僅かに含む
  - 3d 地山由来の黄褐色粘土を主体とする土層で 4 層に細分する
  - 3e 10YR4/3 におい黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 ラミナ状に砂を含む 径 5mm 程の炭化物を僅かに含む 黄褐色土小ブロックを僅かに含む
  - 3f 2.5Y4/2 暗灰黄色 砂 粘性無し しまり弱 ラミナ状に砂を含む
  - 3g 2.5Y3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む 径 5mm 程の炭化物を僅かに含む 鉄分を含む
- 4 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 褐色粘土小ブロックを僅かに含む 針葉樹状の植物を埋土中に含む 鉄分を含む



図87 II d期の遺構

Fig. 87 Features belonging to phase II d

【64号遺構】(図87-⑦～⑨) AT・BA-28・29区に位置するやや規模の大きな長方形の遺構である。北側は視乱によって削平され、南側は調査区外へと伸びる。規模は、面積5.40㎡、長軸長2.74m、短軸長2.56mとなる。床面は平坦で、壁は、底面から急に立ち上がり、上部はやや緩やかになる。埋土は4層に分かれる。埋土3・4からは遺物が多く出土しており、4層直上には棒状木製品を確認している。また、底面には繊維状の有機物を面的に確認している。

【69号遺構】(図87-⑤・⑥) AS・AT-28・29区に位置する不整楕円形の遺構である。その規模は、面積3.81㎡、長軸長3.83m、短軸長1.73mとなる。埋土は2層に分かれる。底面に楕円形の窪みがある。下部には83号遺構(Ⅰb期)が存在している。

#### ・Ⅱd～Ⅲa期の遺構

【14号遺構】(図88-①・②) AM・AN-23・24区の遺構で、不整楕円形を呈する。北側で15号と接続する。床面は平らで壁は緩やかに立ち上がり、南側には段を有する。規模は、面積5.85㎡、長軸長2.72m、短軸長2.51mとなる。埋土は7層に分かれ、埋土5層に炭化物を多く含んでいる。また埋土1層は15号遺構と共通となる。

【15号遺構】(図88-①・③) AL・AM-24区に位置し、楕円形を呈する。南側で14号遺構と接続する。床面は緩く湾曲し、壁はやや急に立ち上がる。規模は、面積2.02㎡、長軸長1.95m、短軸長1.22mとなる。埋土は3層にわかれ、埋土1層は14号遺構と共通である。

【82号遺構】(図88-③・④) AR・AS-24区に位置する不整形の遺構である。規模は、面積3.03㎡、長軸長3.02m、短軸長1.63mである。91号遺構(Ⅱa-Ⅱb期)の北側上部に位置し、本遺構の底面で91号遺構に伴う礎面を確認している。壁はやや急に立ち上がる。埋土は2層に分かれ、遺物も多く含まれている。なお視乱を挟んで北側に位置する81号遺構(Ⅱe-Ⅲa期)とは、埋土の特徴が異なることから、別の遺構と判断している。

【86号遺構】(図88-⑤・⑥) AR-21・22区に位置する遺構である。半分以上が視乱により削平されているため不明であるが、不整円形を呈する。床面はほぼ平坦で、壁はやや急に立ち上がる。その規模は、長軸長2.45m、短軸長0.82mとなる。埋土は3層に分かれる。視乱を挟んで北側に位置する同時期の87号遺構と同一の遺構と考えられる。

【87号遺構】(図88-⑦・⑧) AQ-22区に位置する遺構で楕円形を呈するものと考えられる。南側を視乱によって削平されているが、南側に位置する同時期の86号遺構と同一の遺構と考えられる。残存規模は長軸長1.26m、短軸長0.33mとなる。埋土は3層に分かれるが基本的に86号遺構埋土と同じである。

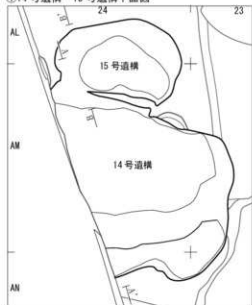
#### ・Ⅱd～Ⅲb期の遺構

【98号遺構】(図89) AT-21・22、BA-20～22区に位置する楕円形を呈する遺構である。西側は調査区外へと伸びる。その規模は、面積9.99㎡、長軸長3.90m、短軸長3.26mとなる。床面には緩やかに凹む箇所が2箇所ある。埋土は4層に分かれる。

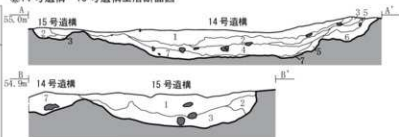
#### ・Ⅱd～Ⅲc期の遺構

【2号遺構】(図90～図92) AJ-21・22、AK～AL17～30、AM-19・20区に位置する規模の大きな遺構である。この遺構は、基本的には東西方向の溝であるが、調査区中央部付近ではその溝を中心として南北に広がる。とくにAL-19・20区近辺では不整形に南側へと広がる。AK-19・20区付近では池状に凹む。また、埋土は7層確認しており、底面付近で礎群を確認している(図91-①)。総面積は100.04㎡で、全長35.86m、最大幅5.76mとなる。AK-26・27区では3号遺構。東側では沢状遺構と接続する。西側は調査区外へと伸びる。なお、21列北側で遺構かどうか不明な掘り込みを確認している(図91-⑤)。

①14号遺構・15号遺構平面図



②14号遺構・15号遺構土層断面図



14号遺構

- 1 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 径5mm程度の炭化物を僅かに含む 明黄褐色粘土ブロックを下部に僅かに含む マンガンを多く含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土ブロック・褐色ブロックを斑状に含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
- 3 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む 鉄分・マンガンを多く含む
- 5 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 径1cm程度の炭化物を多数含む
- 6 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 径5mm程度の炭化物を僅かに含む 灰黄褐色粘土小ブロックを斑状に含む
- 7 10YR5/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを斑状に多く含む 鉄分を多く含む

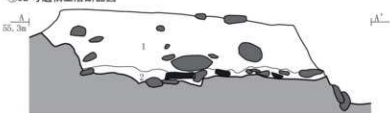
15号遺構

- 1 14号遺構埋土1と同じ
- 2 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 褐色土ブロックを僅かに含む
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む

③82号遺構平面図

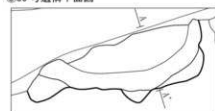


④82号遺構土層断面図

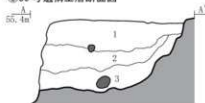


- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 径5-10cm程度の礫を少量含む 径1-5cm程度の炭化物をやや多く含む 黄色粘土ブロックを斑状に含む
- 2 10YR3/2 暗褐色 粘土 粘性強 しまり弱 炭ざりのない粘土層 砂はその下と中から出る 南側に褐色の砂をまばらに含む

⑤86号遺構平面図

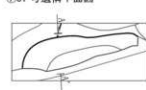


⑥86号遺構土層断面図



- 1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 黄褐色土粒を少量含む 炭化物を多く含む 円礫数cmから拳大を含む
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土粒小ブロックをやや多く含む 炭化物を含む 小円礫を含む
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土粒小ブロックを多く含む 炭化物を僅かに含む

⑦87号遺構平面図



⑧87号遺構土層断面図

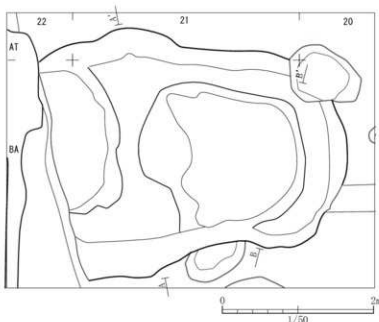


- 1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 黄褐色土粒を少量含む 炭化物を含む
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土粒小ブロックをやや多く含む 炭化物を含む 小円礫を少量含む
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土粒をやや多く含む 炭化物を僅かに含む

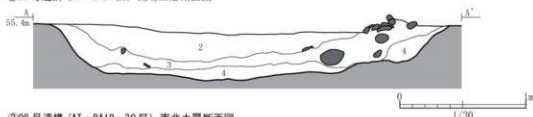


図88 II d～III a期の遺構  
Fig.88 Features of phase II d - III a

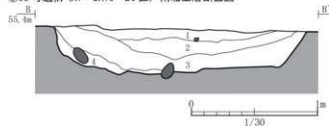
①98号遺構平面図



②98号遺構 (AT・BA21区) 南北土層断面図



③98号遺構 (AT・BA19・20区) 南北土層断面図



- 1 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 径1-2cmの炭化物を多く含む 3cm<sup>2</sup> 華大の礫を多く含む 黄褐色粘土粒、鉄分を僅かに含む
- 2 2.5Y3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 明黄褐色 粘土小ブロックを斑状に多く含む 径5mm程の炭化物を僅かに含む 鉄分を含む
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 径5mm程の炭化物を極僅かに含む 明黄褐色粘土小ブロックを部分的に僅かに含む
- 4 2.5Y7/4 浅黄色 粘土 粘性強 しまり強 に近い黄褐色 粘土小ブロックを僅かに含む

図89 II d～III b期の遺構

Fig. 89 Features of phase II d - III b

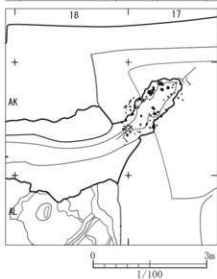
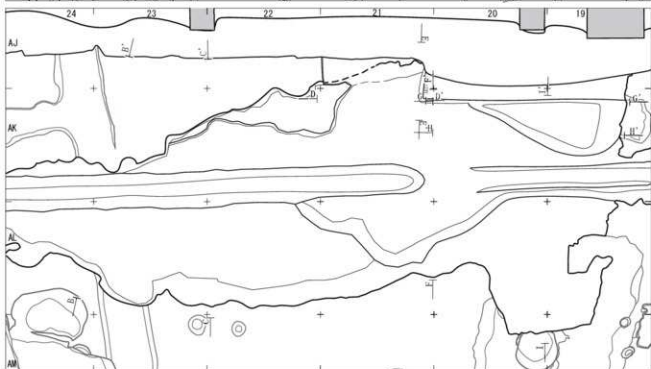
【3号遺構】(図90) AJ-AK-26-27区に位置する円形の遺構である。その規模は、面積3.26㎡、長軸長2.52m、短軸長1.92mとなる。南側で2号遺構と接続する。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。埋土は5層確認している。51号遺構(II d期)と類似する特徴を有している。

・II e～III a期の遺構(図93)

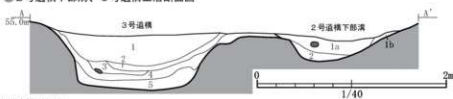
【93号遺構】(図94-①・②) AQ-21-22区に位置する不整形円形の遺構である。底面には細かな凹凸があり、東部に段を有する。壁はやや急に立ち上がり、北側はややオーバーハングする。その規模は、長軸長1.68m、短軸長1.42mとなる。埋土は2層に分かれる。

【1号溝】(図94-③・④) AJ-28、AK-27-28区に位置する南北方向の溝である。全長2.94mで、最大幅は0.94mとなる。軸角度は176.61°西偏する。床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。途中から分岐し、それぞれ埋土は1層のみである。

① 2号遺構・3号遺構平面図



② 2号遺構下部溝、3号遺構土層断面図



2号遺構下部溝

- 1a 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 鉄分をやや多く含む 径1cm程度の炭化物を僅かに含む  
 1b 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 地山由来の黄褐色粘土小ブロックを含む  
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性きわめて強 しまり強 鉄分を含む 径2-5mm程度の炭化物を僅かに含む  
 底面に鉄分が薄く層状に沈着

3号遺構

- 1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり中 径2cm程度の黄褐色粘土を少量含む 径1cm程度の炭化物をやや多く含む 酸化鉄を底に僅かに含む  
 2 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱 炭化物を中央付近に非常に多く含む 径3cm程度の黄褐色粘土ブロックを僅かに含む  
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり弱 径1cm程度の炭化物と準大の礫、酸化鉄粒を僅かに含む  
 4 10YR5/4 地灰色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 酸化鉄を底に少量含む 径1cm程度の礫を僅かに含む  
 5 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまりやや弱 準大の礫と径1-3cmの黄褐色粘土ブロックを僅かに含む 酸化鉄粒を底に少量含む

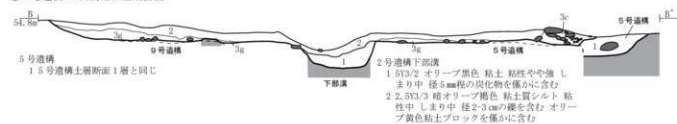
図90 II d~III c期の遺構 1

Fig.90 Features of phase II d - III c(1)

① 2号遺構群確認状況



② 2号遺構 24 列南北土層断面図



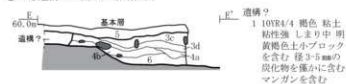
③ 2号遺構 23 列南北土層断面図



④ 2号遺構 21・22 列東西土層断面図



⑤ 2号遺構 21 列南北土層断面図



⑥ 2号遺構 21 列南北土層断面図

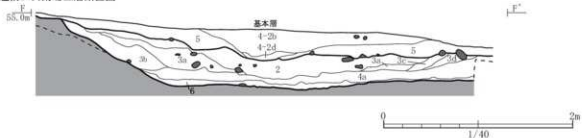
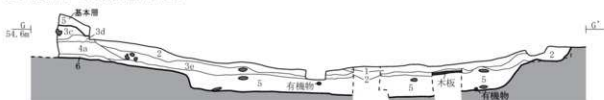
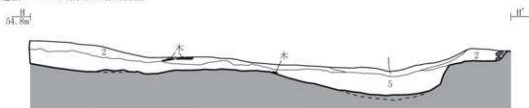


図91 II d～III c期の遺構 2  
Fig.91 Features of phase II d - III c(2)

① 2号遺構 19・20 列東西土層断面図



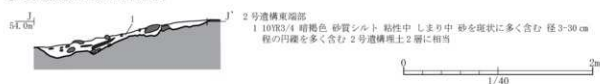
② 2号遺構 19・20 列南北土層断面図



③ 2号遺構 20 列南北土層断面図



④ 2号遺構東端部東西土層断面図



2号遺構

- 1 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 径1cm程の炭化物を多く含む 木の枝、木製品など有機物を非常に多く含む 酸化鉄を斑に少量含む
- 2 10YR/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 鉄分を多く含む 径1cm程の黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む 径2-3mmの炭化物を僅かに含む 白色土粒を含む
- 3a 7.5YR/4 暗灰色 粘土 粘性強 しまりやや強 華大の礫を少量含む 径1-3cm程の炭化物を僅かに含む 白色粒を少量含む 砂を斑に僅かに含む 酸化鉄を雲母片状に多く含む
- 3b 10YR/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 径1cm程の酸化鉄粒を斑に多く含む
- 3c 2.5Y/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強 径1cm程の礫を非常に多く含む 華大の礫を少量含む 酸化鉄を斑に多く含む
- 3d 10YR/1 暗灰色 粘土 粘性強 しまりやや強 華大の礫を僅かに含む 炭化物粒を僅かに含む 径1cm程の酸化鉄粒を斑にやや多く含む
- 3e 10YR/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 径3cm程の礫を少量含む 有機物を少量含む 酸化鉄を斑に極僅かに含む 径1-3cm程の炭化物を極僅かに含む
- 3f 10YR/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや強 径3cm程の礫を僅かに含む 径1cm程の黄褐色粘土ブロックを僅かに含む 酸化鉄を斑にやや多く含む
- 3g 10YR/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 白色土粒、マンガンを含む 径0.5-1cmの炭化物を僅かに含む 鉄分を僅かに含む
- 4a 10YR/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性極めて強 しまり強 径5mm程の酸化鉄粒を斑に少量含む 径1cm程の炭化物粒を少量含む 華大の礫を僅かに含む 腐食した木炭を含む
- 4b 10YR/4 褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色土小ブロックを含む 鉄分、マンガンを、白色土粒を含む
- 5 10YR/3 黒褐色 粘土 粘性極めて強 しまり強 砂を斑に極僅かに含む 華大の礫を極僅かに含む 径1cm程の有機物を極僅かに含む
- 6 2.5Y/4 暗黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強 径1-3cm程のオリブ褐色粘土をやや多く含む 酸化鉄を斑に少量含む 径1cm程の礫を僅かに含む
- 7 10YR/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや強 マンガン粒を斑に僅かに含む 径1cm程の黒褐色粘土を僅かに含む 酸化鉄粒を僅かに含む

図92 II d~III c期の遺構 3

Fig.92 Features of phase II d~III c(3)

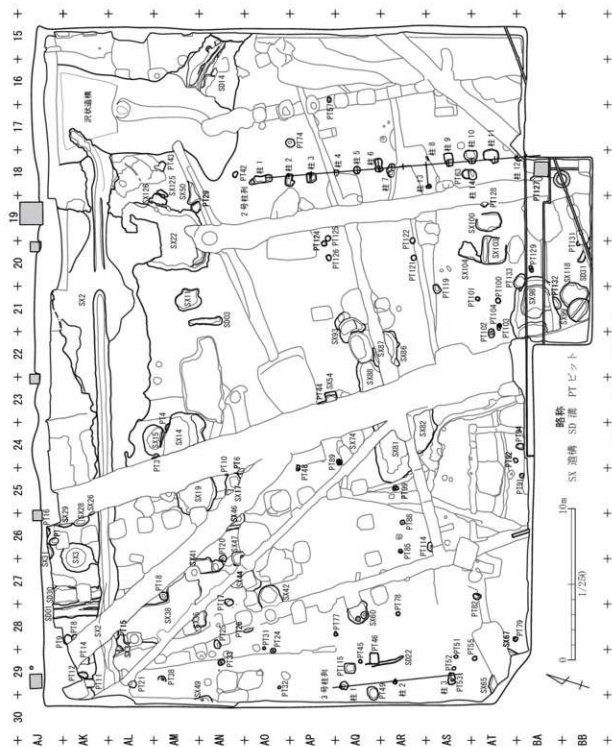
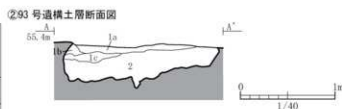
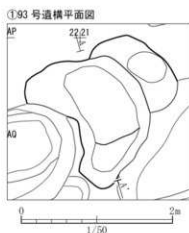
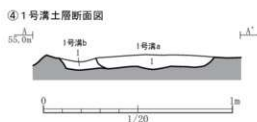
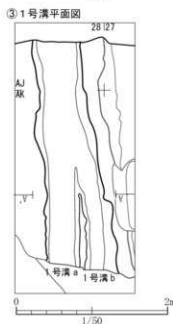


図93 IIe期の遺構分布状況  
Fig. 93 Distribution of Features in phase II e





- 1 黄色粘土ブロックを含む褐色土層 土質の違いにより細分した  
 1a 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強 径5mm~3cmの炭化物を多く含む  
 黄褐色粘土ブロックを含む  
 1b 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり強 暗褐色粘土を含む  
 1c 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土小ブロックを含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む 壁面に黄色粘土ブロックを多く含む  
 2 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土小ブロックを部分的に含む 径1~2cmの炭化物を僅かに含む



- 1号溝 a  
 1 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 鉄分をやや多く含む 地山由来の黄褐色土粒と径1~2mmの炭化物を僅かに含む  
 1号溝 b  
 1 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 鉄分を僅かに含む 径0.5~1cmの炭化物をやや多く含む 地山由来の黄褐色土粒をやや多く含む 灰黄褐色粘土ブロックを僅かに含む

図94 II e~III a期の遺構

Fig. 94 Features of phase II e - III a

#### ・ II e ~ III b 期の遺構

【22号遺構】(図 95) AL・AN-19-20 区に位置する長方形の遺構である。北側は2号遺構によって削平される。残存規模は、面積 15.16m<sup>2</sup>、長軸長 5.23m、短軸長 4.05m となる。床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は3層に分かれる。

【60号遺構】(図 96-①~④) AQ-27-28 区に位置する円形の遺構である。長軸長は 1.33m、短軸長 1.15m となる。床面は凹凸があるがほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。床面には2基のピットを確認している。

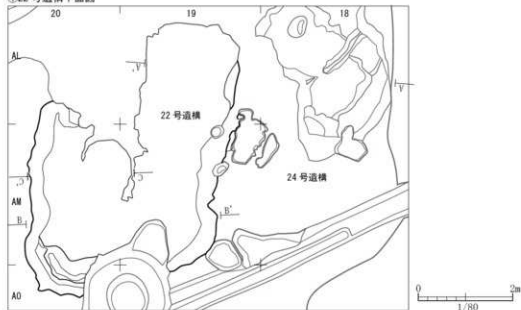
【103号遺構】(図 96-⑤・⑥) AT-19-20 区に位置する長方形の遺構である。床面はほぼ平らであるが、北側は一段下がり、壁は緩やかに立ち上がる。その規模は、長軸長 1.86m、短軸長 1.59m となる。埋土は2層ある。床面近くで材を確認している。

【30号溝】(図 96-⑦~⑩) AJ・AK-27-28 区に位置する南北方向の溝である。中央部を擾乱により削平されている。その規模は全長 3.14m、最大幅 1.26m となる。軸角度は 176.24° 西偏する。床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は2層確認している。

#### ・ II e ~ III c 期の遺構

【3号柱列】(図 97-①~④) AQ ~ AS-29 区に位置する南北方向の柱列である。間尺は 12 尺で 2 間分確認し

①22号遺構平面図



②22号遺構 (AL18・19区) 東西土層断面図

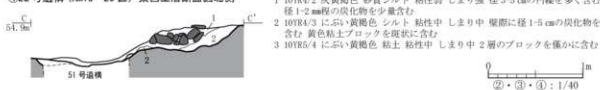


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質粘土 粘性中 しまり強 径1-5cm程の炭化物を少量含む ③・④の1層に対応
- 2 ③・④の2層に相当する 黄色粘土ブロックの大きさ等から細分した
- 2a 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり強 黄褐色粘土ブロックを斑状に含む 径5mm程の炭化物をやや含む
- 2b 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 2a層と特層は同じ 黄色粘土ブロックがやや大きい
- 3 10YR6/8 明黄褐色 粘土 粘性中 しまり中 灰色粘土をまばらに含む

③22号遺構 (AM19・20区) 東西土層断面図南側



④22号遺構 (AM19・20区) 東西土層断面図北側



- 1 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 径3-5cmの凹縁を多く含む 径1-2mm程の炭化物を少量含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 壁際に径1-5cmの炭化物を含む 黄色粘土ブロックを斑状に含む
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性中 しまり中 2層のブロックを僅かに含む

図95 IIe~IIIb期の遺構 1

Fig.95 Features of phase IIe~IIIb(1)

ている。全長は7.61mで、軸角度は172.17°西偏する。

【41号遺構】(図97-⑤~⑦) AM-27、AN-27-28区に位置する不整長方形の遺構である。その規模は、長軸長2.18m、短軸長0.97mとなる。床面は緩やかな凹凸があり、壁も緩やかに立ち上がる。埋土は3層確認しており、そのうち埋土1層は隣接する37号遺構(III a-III c期)と同一のものである。

#### (4) III期の遺構

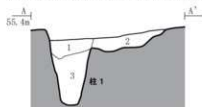
##### ・III a~III b期の遺構 (図98)

【2号建物】(図99) AS-AT24~26、BA-24-25区に位置する建物跡である。西側は他の遺構や掘乱等により削平されているため不明で、南側は調査区外へと伸びる。調査区南端に東西方向の溝状の部分があるが、本遺構に伴

①60号遺構平面図



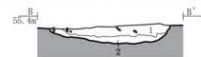
②60号遺構 (AQ29区) 南北西側土層断面図



④60号遺構 (AQ29区) 柱2南北土層断面図



③60号遺構 (AQ29区) 南北東側土層断面図



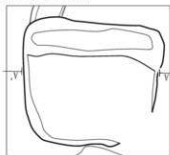
60号遺構

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 径1-2 cmの炭化物を多く含む 明黄褐色粘土ブロックを僅かに含む 径5 cm程の礫を僅かに含む
- 2 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 暗灰色粘土を含む
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 にぶい黄褐色土を含む 径1 cm程の炭化物を僅かに含む 柱1

60号遺構柱2

- 1 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 暗灰色粘土を含む 鉄分を含む

⑤103号遺構平面図

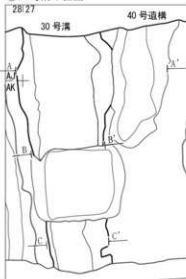


⑥103号遺構土層断面図



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 にぶい黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む 鉄分を含む 径1 cm程の炭化物を含む 木片を多く含む
- 2 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 砂を薄い層状に含む 浅黄褐色粘土小ブロックを多く含む 径1 cm程の炭化物を僅かに含む

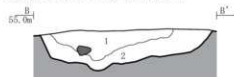
⑦30号溝平面図



⑧30号溝 (AK27区) 東西土層断面図

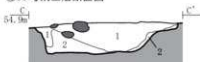


⑨30号溝 (AK27区) 東西土層断面図



- 1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり強 中央部に径1-5 cmの礫を含む 中央部に漆器有り 径1 mm程の炭化物を少量含む
- 2 10YK3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強 黄色粘土ブロックを斑状に多く含む 径3-5 mmの炭化物を少量含む

⑩30号溝土層断面図



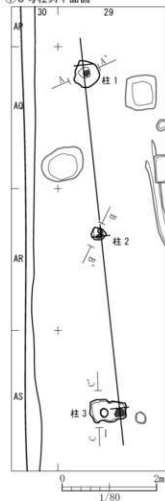
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性弱 しまり中 径5 cm程の礫を少量含む 地山由来の黄色粘土ブロックを斑状に細かく含む
- 2 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性中 しまり中 地山由来の粘土により構成される 部分的に1層の土を含む



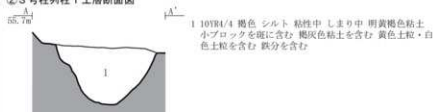
図96 IIe~IIIb期の遺構2

Fig. 96 Features of phase IIe~IIIb(2)

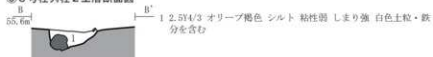
①3号柱列平面図



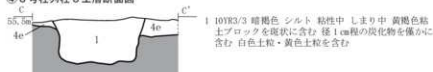
②3号柱列柱1土層断面図



③3号柱列柱2土層断面図



④3号柱列柱3土層断面図



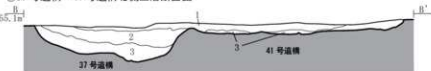
⑤37号遺構・41号遺構平面図



⑥37号遺構・41号遺構南側土層断面図



⑦37号遺構・41号遺構北側土層断面図



37号・41号遺構

1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 径1cm程の炭化物を含む 鉄分・径2-3cmの礫を含む

37号遺構

2 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 鉄分・マンガンを多く含む

3 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土ブロックを僅かに含む 鉄分を含む

41号遺構

2 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土ブロックを僅かに含む 鉄分を含む

3 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性きわめて強 しまり中 黒灰色土ブロックを含む

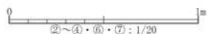


図97 Ⅱe~Ⅲc期の遺構  
Fig.97 Features of phase Ⅱe~Ⅲc

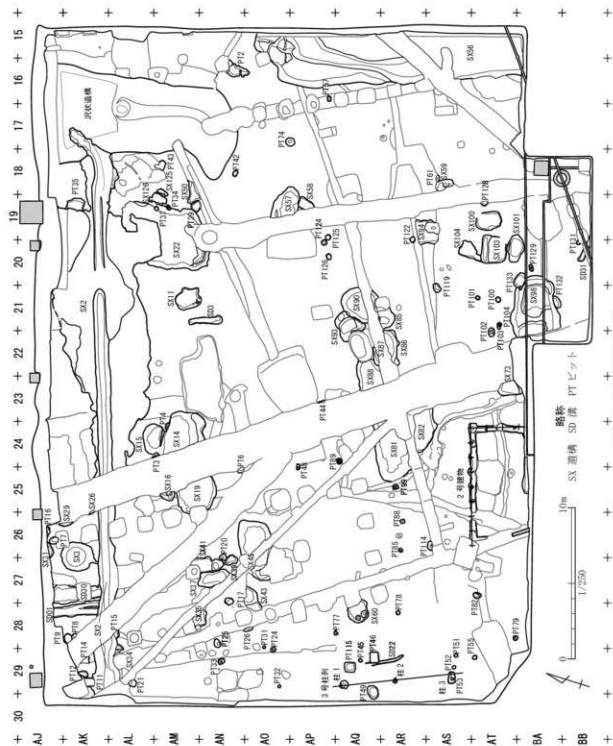
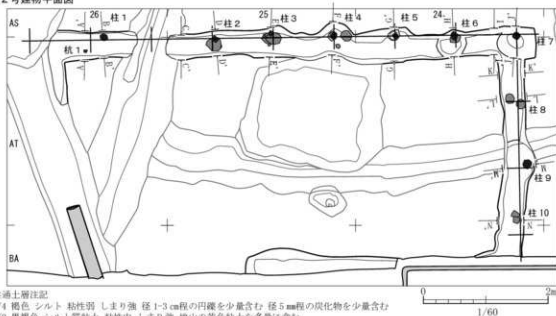


図98 Ⅲa期の遺構分布状況

Fig. 98 Distribution of Features in phase IIIa

① 2号建物平面図



② 2号建物杭 1 土層断面図



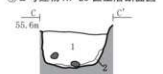
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性弱 しまり強 径5 mm程の炭化物を少量含む 下部には黄色粘土ブロックを含む  
 4 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄色砂をブロック状に含む 杭の根跡

③ 2号建物柱 1 土層断面図



- 3 ②の3層と同じ  
 4 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性中 しまり強 径5-10 mmの黄色砂を多く含む 柱根跡

④ 2号建物 AT-25 区土層断面図



⑤ 2号建物柱 2 土層断面図



- 3 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり中 径5 mm程の黄色粘土ブロックを少量含む 径1-3 mm程の炭化物を少量含む

⑥ 2号建物柱 3 土層断面図



⑦ 2号建物柱 4 土層断面図



- 3 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土 粘性中 しまり強 径5-10 mmの黄色粘土ブロックを少量含む 径1-5 mm程の円礫を含む

⑧ 2号建物柱 5 土層断面図



- 3 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強 径1-3 mm程の黄色粘土ブロックを極少量含む

⑨ 2号建物柱 6 土層断面図



- 3 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄色粘土ブロックを塊状に少量含む 径5 mm程の炭化物を少量含む

⑩ 2号建物 AS・AT24 区土層断面図



⑪ 2号建物柱 7 土層断面図



- 3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 埋土 1層に類似する黄色粘土ブロックが少ない 径1-3 mmの炭化物を少量含む

⑫ 2号建物 AT24 区土層断面図



⑬ 2号建物柱 8 土層断面図



- 3 10YR4/3 に近い黄褐色 砂質シルト 粘性中 しまり強 とくに下部に黄色粘土ブロックを層状に多く含む

⑭ 2号建物柱 9 土層断面図



- 3 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり中 下部に黄色粘土ブロックを多く含む 径1-3 cm程の円礫を少し含む 径5 mm程の炭化物を少量含む

⑮ 2号建物柱 10 土層断面図

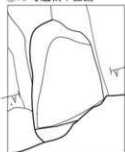


- 3 10YR1/4 褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄色粘土ブロックを少量含む 径3-5 mm程の炭化物をやや多く含む



図99 IIIa~IIIb期の遺構 1  
 Fig. 99 Features in phase IIIa~IIIb(1)

①73号遺構平面図

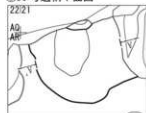


②73号遺構土層断面図

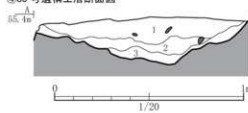


- 1 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 明黄褐色粘土ブロックを現状に含む 径1cm程の炭化物を含む
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 白色土粒・黄色土粒を多く含む 径1cm程の炭化物を含む 鉄分を含む
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり弱 灰黄褐色粘土を層状に含む
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 褐色粘土を層状に含む にぶい黄褐色粘土を多く含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 にぶい黄褐色粘土を多く含む 埋土4層との境に黒褐色土を薄い層状に含む

③85号遺構平面図

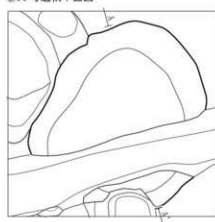


④85号遺構土層断面図



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土小ブロックを含む 炭化物を多く含む 遺物はほとんど1層から出土小円礫を含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土小ブロックを多く含む 炭化物を含む 小円礫を少量含む
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 にぶい黄褐色土が底に入る 地山起源の土が汚れた層 炭化物が少量入る

⑤90号遺構平面図



⑥90号遺構土層断面図



- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色土粒小ブロックを含む 部分的に黄褐色土ブロックが多い所がある 人頭大・拳大の円礫がやや多く入る 小円礫を含む 炭化物を含む
- 2 10YR5/8 黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 暗褐色土が僅かに入る



図100 IIIa~IIIb期の遺構 2

Fig.100 Features in phase IIIa - IIIb(2)

うどうか不明である。本遺構は、布掘りに掘方を掘削した後に柱を据える。床面への掘込や、礎盤石を有するものもある。掘方は、底面が平坦で、壁は急に立ち上がる。間尺は、東西方向が3尺5寸、南北方向が3尺2寸となる。確認できた東西方向の全長は7.70m、南北方向は3.63m程である。軸角度は、89.94°西偏する。

**【73号遺構】** (図100-①・②) AT・BA-23区に位置する楕円形の遺構である。西側は掘乱で削平され、南側は調査区外へ伸びる。確認できた長軸長は1.39m、短軸長は0.95mとなる。底面は平坦で、壁はほぼ直に立ち上がる。埋土は5層確認している。

**【85号遺構】** (図100-③・④) AQ・AR-21区に位置する楕円形を呈すると推定できる遺構である。断面は三角形で、壁は緩やかに立ち上がる。北・東方向を掘乱や他の遺構により削平されている。残存している長軸長1.48m、短軸長は1.08mとなる。埋土は3層確認している。

**【90号遺構】** (図100-⑤・⑥) AQ-21区に位置する楕円形の遺構である。南側の一部は掘乱によって削平されている。その規模は、面積2.72㎡、長軸長2.40m、短軸長1.43mとなる。床面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。埋土は2層のみ確認した。

### ・ III a ~ III c 期の遺構

**【16号遺構】** (図101-①・②) AM-25区に位置する円形の遺構で、東側は掘乱によって削平されている。その

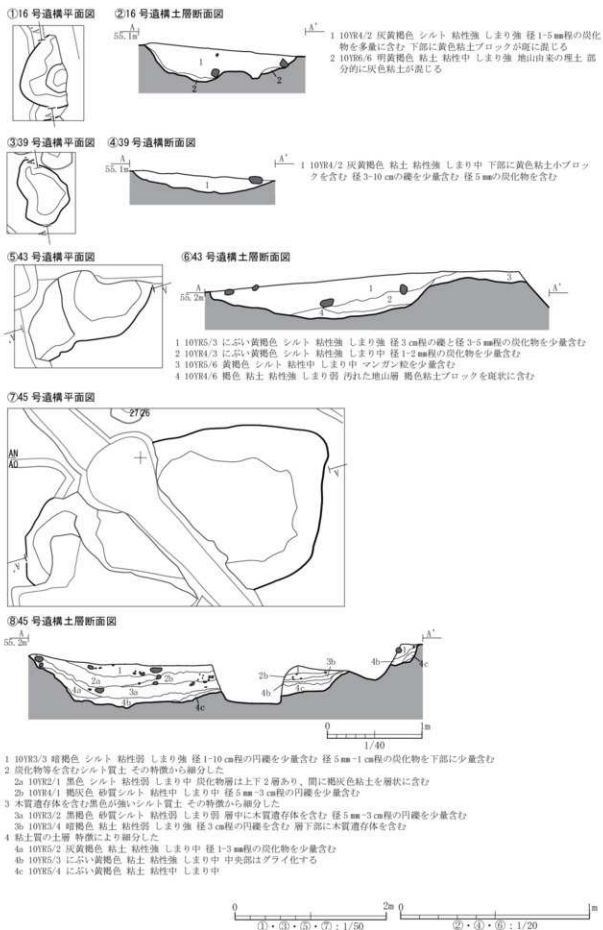


図101 IIIa~IIIc期の遺構 1

Fig.101 Features in phase IIIa - IIIc(1)



規模は長軸長 0.95m、短軸長 0.64m となる。床面には凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は 2 層のみ確認した。

【37号遺構】(図 97-⑤～⑦) AM・AN-27 区に位置する楕円形の遺構で、南西部を擾乱によって削平されている。その規模は、面積 1.63㎡、長軸長 2.22m、短軸長 1.02m となる。床面は平らで、壁はほぼ直に立ち上がる。埋土は 3 層確認しており、そのうち埋土 1 層は 41 号遺構(Ⅱ e-Ⅲ c 期)と同一である。

【39号遺構】(図 101-③・④) AN-26・27 区に位置する不整形形の遺構である。その規模は、長軸長 0.91m、短軸長 0.56m となる。断面形は皿状となる。埋土は 1 層のみ確認している。

【43号遺構】(図 101-⑤・⑥) AN-27、AO-27-28 区に位置する不整形形の遺構である。四方を他の遺構、擾乱により削平されている。残存している規模は、面積 1.19㎡、長軸長 1.78m、短軸長 0.97m となる。床面は緩やかに凹凸しており、西側は一段高くなる。埋土は 4 層確認している。

【45号遺構】(図 101-⑦・⑧) AN-26、AO-26-27 区に位置する楕円形のやや規模の大きな遺構である。中央部を擾乱によって削平されている。床面は皿状を呈し、西側は一段高くなり、壁は緩やかに立ち上がる。規模は、面積 4.81㎡、長軸長 3.88m、短軸長 2.16m となる。埋土は大きく 4 層に分かれ、2 層は炭化物層となる。3 層には木質遺存体を多く含んでおり、床面では木材等も確認している。

【56号遺構】(図 102) AO～BA-15・16 区に位置する規模の大きな長楕円形の遺構である。その規模は、面積 46.60㎡、長軸長 17.69m、短軸長 3.64m となる。床面は、北側で段状、溝状になる部分もあり、起伏に富む。南側では平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、オーバーハングする部分もある。埋土は大きく 7 層に分けることができる。

【57号遺構】(図 103-①・②) AO・AP-19 区に位置する楕円形の遺構である。西側は擾乱によって削平されている。残存している規模は、長軸長 2.05m、短軸長 1.64m となる。床面は緩やかに凹み、壁南側は垂直に立ち上がり、北側はやや緩やかに立ち上がる。埋土は 4 層確認している。南側で 58 号遺構と重複し、本遺構の方が新しい。

【58号遺構】(図 103-③・④) AP-19 区に位置する楕円形の遺構である。西側を擾乱、北側を 57 号遺構により削平される。残存規模は、長軸長 1.08m、短軸長 0.75m となる。底面は平らで、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は 1 層のみである。

【94号遺構】(図 103-⑤・⑥) AR・AS-19-20 区に位置する方形の遺構である。南北を擾乱によって削平されている。残存規模は、長軸長 1.53m、短軸長 1.50m となる。床面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は 3 層に分かれる。

【101号遺構】(図 103-⑦・⑧) AT・BA-19-20 区に位置する楕円形を呈する。規模は、面積 1.48㎡、長軸長 1.84m、短軸長 1.12m となる。床面は平らで、壁は垂直に立ち上がる。埋土は 3 層に分かれる。底面近くでは薄板状の植物質遺存体を確認している。

### ・Ⅲ b 期の遺構 (図 104)

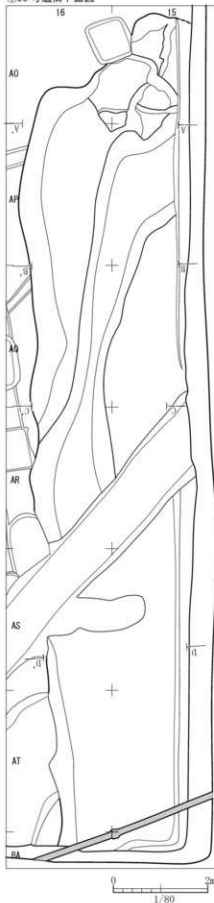
【3号建物】(図 105) AM～AO-28-29 区に位置する間尺 6 寸の建物跡である。2 間四方を確認している。軸角度は、82.04°西偏する。柱穴は断面方形を呈している。

【12号遺構】(図 106) AM-22・23、AN-22～24 区に位置する不整形長方形の遺構である。埋土に礫と瓦片を多数含んでいる(図 106-①)。その規模は面積 12.55㎡、長軸長 5.72m、短軸長 3.17m となる。床面は平らで、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は 4 層に分かれ、炭化物を多く含む層もある。

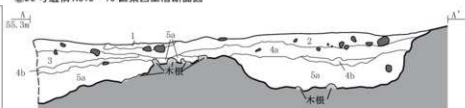
### ・Ⅲ b～Ⅲ c 期の遺構

【36号遺構】(図 107-①・②) AM-27・28、AN-27 区に位置する楕円形と推定される遺構で、西側を擾乱によ

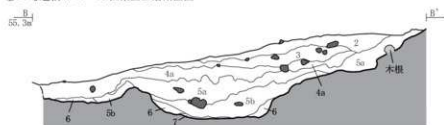
①56号遺構平面図



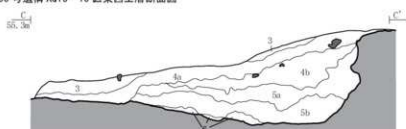
②56号遺構 A015・16区東西土層断面図



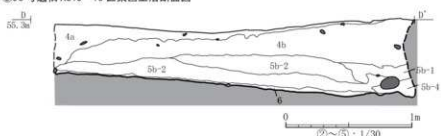
③56号遺構 AP15・16区東西土層断面図



④56号遺構 AQ15・16区東西土層断面図



⑤56号遺構 AS15・16区東西土層断面図

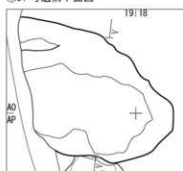


- 1 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色の小さな土粒が多く混じる 黄褐色土粒も少量混じる
- 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性なし しまり中 黒褐色・黄褐色土粒を部分的に少量含む以外は均質な層 炭化物を少量含む 小礫を少量含む
- 3 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色・黄褐色土粒および小ブロックを多く含む 小礫をやや多く含む 炭化物を少量含む
- 4 10YR5/3 に近い黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土粒・小ブロックを少量含む以外は均質な層 グライ化した層で酸化鉄が斑に入る 土質によって細分した
  - 4a 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土小ブロックを少量含む 炭化物を僅かに含む 小礫を少量含む グライ化している
  - 4b 10YR5/4 に近い黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 4a層より黄褐色土を多く含む層
  - 4c 10YR5/4 に近い黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 5a層より黄褐色土の割合が多くやや明るい
- 5 褐色シルト中心の土層で、土質の違いから細分した また南側のAS区では5b層がさらに細分される
  - 5a 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土小ブロックを多く含む 黄褐色土の入り方はランダムで不均質 炭化物がやや多く含む 礫を少量含む
  - 5b 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土小ブロックを含む 炭化物をやや多く含む
  - 5b-1 10YR4・5/2 灰黄褐色シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒を若干含む
  - 5b-2 10YR6/2 灰黄褐色シルト 粘性中 しまり中 酸化鉄をつれ状に含む 礫をまばらに含む 焼土粒を若干含む
  - 5b-3 10YR6/1・5 赭灰色粘土質シルト 粘性やや強 しまり弱 酸化鉄が斑不鮮明に入る 礫を含む
  - 5b-4 10YR7/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまり中 10数cmの円礫を隙間に多量に含む 焼灰ブロックをまばらに含む 5b層の中に含めだが、地山崩壊土と考えられる
- 6 10YR5/8 明黄褐色シルト 粘性弱 しまり強 地山起源の明黄褐色土薄く層状になる部分が多く、間に薄く粘土が層状に入る
- 7 10YR5/3 に近い黄褐色粘土 粘性強 しまり弱 6層の一部の可能性も考えられる

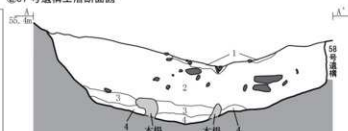
図102 IIIa~IIIc期の遺構2

Fig.102 Features in phase IIIa - IIIc(2)

①57号遺構平面図



②57号遺構土層断面図



- 1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物を多量に含む 径1-5 cmほどの円礫を含む 遺物も多い 直上には30 cm程の隙もある
- 2 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり強 1-3 cmほどの角状の炭化物をやや多く含む 南側埋土1層の下部はグライ化する層には黄色土(地山)をやや含む 径1-5 cm程の円礫を含む
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性中 しまり中 地山黄色ブロックを斑状に多量に含む
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性中 しまり強 黒色粘土を斑状に少量含む

③58号遺構平面図



④58号遺構土層断面図

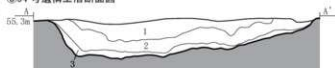


- 1 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径1-3 mm程の炭化物 土師質土器を多量に含むが、土師質土器は摩耗が著しく、B962できず

⑤94号遺構平面図

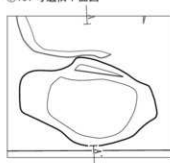


⑥94号遺構土層断面図

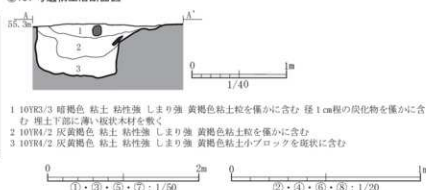


- 1 7.5YR6/4 にぶい橙色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 炭化物を部分的に含む 灰色味の強い部分と黄色味の強い部分が入り混じる 酸化鉄斑が入る
- 2 10YR5/2 灰黄褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 酸化鉄斑が入る 黄褐色斑がまばらに入る 全体に灰色味が強い
- 3 10YR7/6 明黄褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 地山に近似する 灰黄褐色の部分が若干有り

⑦101号遺構平面図



⑧101号遺構土層断面図



- 1 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土粒を僅かに含む 径1 cm程の炭化物を僅かに含む 埋土下部に薄い板状木材を敷く
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土粒を僅かに含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土小ブロックを斑状に含む

図103 IIIa~IIIc期の遺構 3

Fig.103 Features in phase IIIa~IIIc(3)

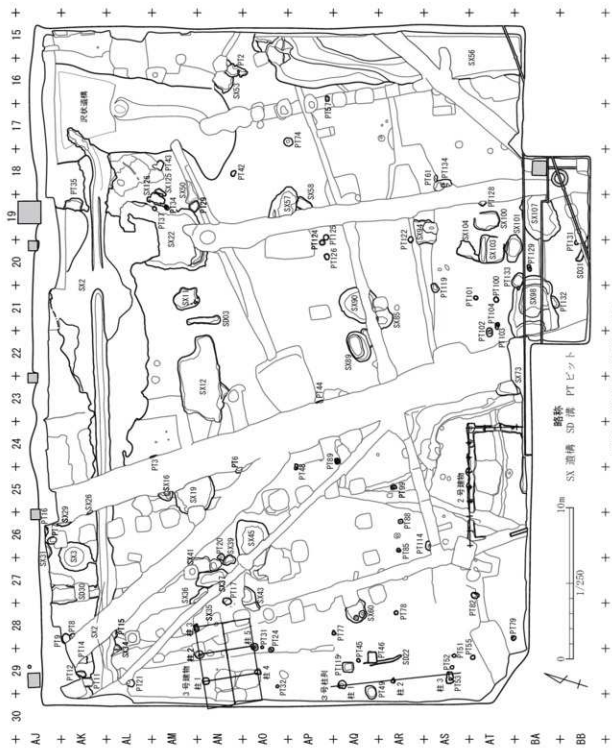
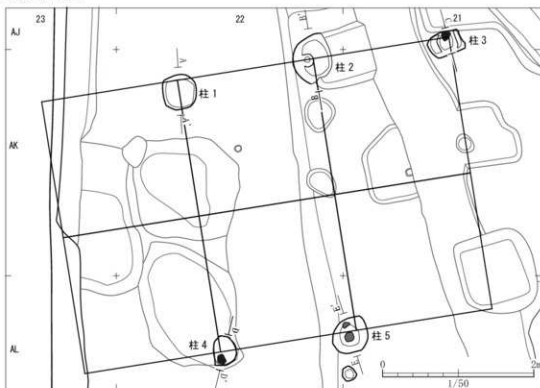
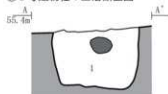


図104 Ⅲb期の遺構分布状況  
 Fig.104 Distribution of Features in phase IIIb

① 3号建物平面図

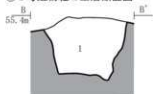


② 3号建物柱1土層断面図



土層注記なし

③ 3号建物柱2土層断面図



1 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 灰黄褐色粘土ブロックを塊状に含む 鉄分を含む

④ 3号建物柱3土層断面図



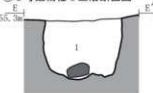
1 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性強 しまり中 下部に白色粘土のブロックを含む 柱痕跡  
2 10YR4/4 褐色 粘土 粘性弱 しまり強 地山由来の黄色粘土ブロックを塊状に含む 径1mm程度の炭化物を少量含む

⑤ 3号建物柱4土層断面図

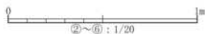


1 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり弱 褐灰色土ブロックを塊状に含む 柱痕跡  
2 10YR5/4 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 灰オリーブ粘土ブロックを含む 鉄分を含む

⑥ 3号建物柱5土層断面図



1 10YR4/4 褐色 粘土 粘性中 しまり中 鉄分を僅かに含む

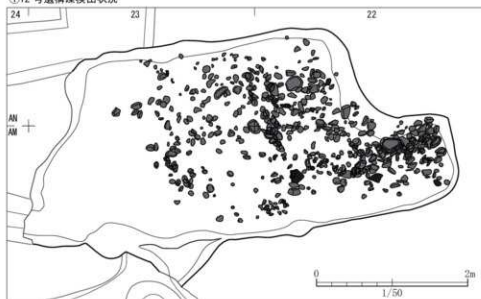


②~⑥ : 1/20

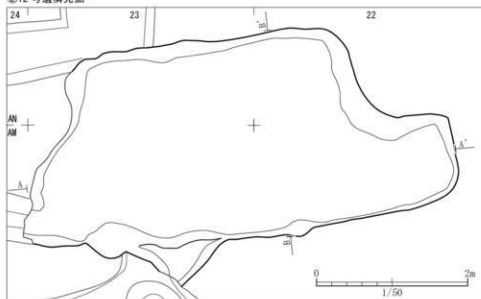
図105 IIIb期の遺構 1

Fig.105 Features in phase IIIb(1)

①12号遺構検出状況



②12号遺構完掘



③12号遺構 (AN22・23区) 東西土層断面図



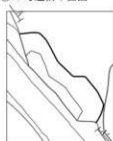
④12号遺構 (AN・AM2区) 南北土層断面図



- 1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性強 しまり弱 炭化物を多量に含む 径1-20cm程度の礫を多量に含む 遺物も多い
- 2 10YR5/4 に近い黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 径3cm程度の礫を少量含む 炭化物を上部に少量含む 植物の根による鉄分を含む
- 3 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 地山由来の埋土 植物の根による鉄分を含む
- 4 10YR5/8 黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 地山由来の埋土 径1-3cm程度の炭化物を多く含む

図106 IIIb期の遺構 2  
Fig.106 Features in phase IIIb(2)

①36号遺構平面図

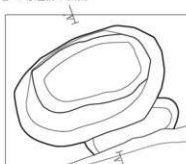


②36号遺構土層断面図

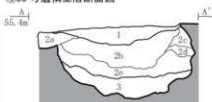


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 径1cm-5cmの炭化物を多く含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 鉄分を多く含む
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 明黄褐色粘土ブロックを多く含む 鉄分・マンガンを多く含む
- 4 10YR4/4 褐色 粘土 粘性きわめて強 しまり中
- 5 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 にぶい黄褐色粘土ブロックを僅かに含む

③89号遺構平面図



④89号遺構土層断面図



- 1 10YR3/3 黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強 灰黄褐色粘土、黄褐色粘土を僅かに含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
- 2 黄色粘土ブロックを含む褐色土層 土質の違いにより部分した
- 2a 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む 径1cm程度の炭化物を僅かに含む
- 2b 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土小ブロックを多く炭状に含む 鉄分を含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
- 2c 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土小ブロックを炭状に多く含む
- 2d 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む 径1cm程度の炭化物を僅かに含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 径2-3cmの礫を僅かに含む にぶい黄褐色粘土を僅かに含む 鉄分、径1cm程度の炭化物を僅かに含む

⑤107号遺構平面図



⑥107号遺構土層断面図



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり強 黄褐色粘土 小ブロックを僅かに含む
- 2 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土ブロックを含む
- 3 2.5Y2/1 黒色 粘土 粘性強 しまり弱

図107 IIIb-IIIc期の遺構

Fig. 107 Features in phase IIIb-IIIc

て削平されている。規模は長軸長1.51m、短軸長0.45mとなる。北側で38号遺構（II a-II e期）と重複し、本遺構のほうが新しい。床面は緩やかに凹凸し、断面形は皿状を呈する。埋土は5層確認している。

【89号遺構】（図107-③・④）AQ-22区に位置する楕円形の遺構で南側を掘乱によって削平されている。底面には段があり、南側上部にも段がある。北側壁はオーバーハング気味に立ち上がる。面積は1.67m<sup>2</sup>、長軸長1.69m、短軸長1.23mとなる。埋土は大きく3層に分かれる。

【107号遺構】（図107-⑤・⑥）BA-19-20区に位置する楕円形の遺構である。東側を掘乱によって削平される。その規模は、面積4.02m<sup>2</sup>、長軸長2.45m、短軸長1.87mとなる。床面はほぼ平らで、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は3層確認でき、最下層の3層は黒色の粘土で木材等を含む。

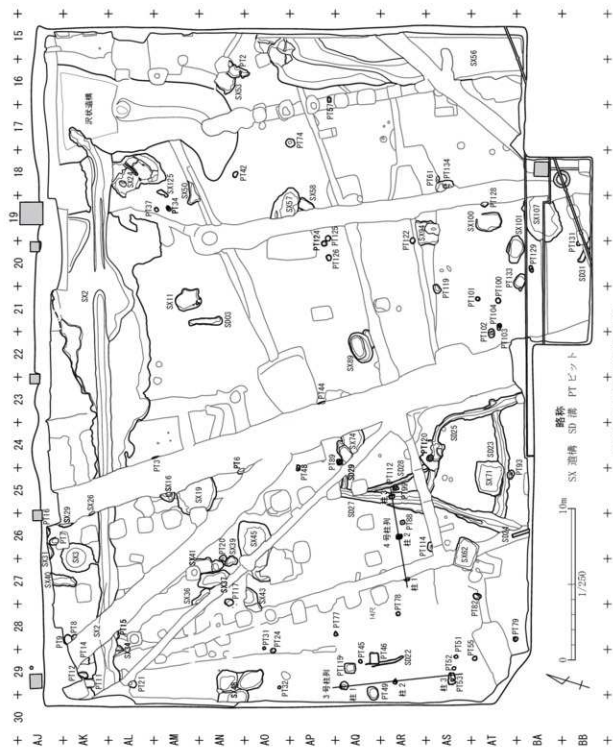
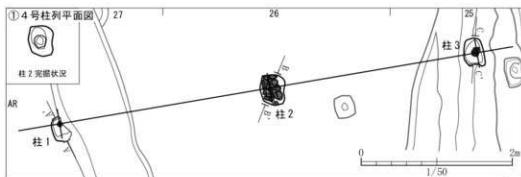


図108 IIIc期の遺構分布状況  
 Fig.108 Distribution of features in phase IIIc



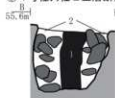


②4号柱列柱1土層断面図



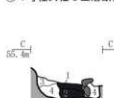
- 1 10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり弱 黄色粘土ブロック 黒色粘土ブロックを斑状に多く含む 黄色砂を多少含む 柱痕跡
- 2 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 径1-3cmの円礫を南側に多量に含む 径1-3mmの炭化物を少量含む

③4号柱列柱2土層断面図



- 1 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり強 灰黄褐色粘土。にぶい黄褐色粘土を斑状に含む 柱痕跡
- 2 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり中 砂を含む 灰黄褐色粘土を含む 径5-15cmの根固石を多く含む

④4号柱列柱3土層断面図



- 1 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり弱 黄色粘土、砂を斑状に含む 柱痕跡
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄色粘土ブロックを下部に斑状に含む 径1-2mm程の炭化物を含む 柱痕跡
- 3 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄色粘土ブロックを斑状に多く含む 径5mm程の炭化物を少量含む
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄色粘土ブロックを斑状に少量含む 褐色砂を少量含む

⑤24号遺構平面図



- 1 10YR4/6 褐色 シルト 粘性強 しまり強 径5cm程の炭化物を斑状に含む 径5cm程の礫を少量含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 鉄分(根)を斑状に含む 径1-5cm程の円礫をやや含む
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 径20cm程の礫を含む 径1cm程の黄色粘土ブロックを斑状に含む 径5mmの炭化物を少量含む
- 4 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性中 しまり中 径5cm程の炭化物を少量含む 底部に体積した粘土
- 5 10YR5/6 明褐色 粘土 粘性強 しまり中 灰色粘土を僅かに含む
- 6 10YR4/6 褐色 粘土 粘性中 しまり中 黒色ブロックを僅かに含む

⑥24号遺構東西土層断面図



⑦40号遺構平面図



⑧40号遺構土層断面図



- 1 10YR4/2 灰褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄色粘土ブロックを斑状に少量含む 径5mm程の炭化物を少量含む



図109 IIIc期の遺構 1  
Fig.109 Features in phase III(c)

・Ⅲ c 期の遺構 (図 108)

【4号柱列】(図 109-①~④) AR-25~27区に位置する東西方向の柱列である。間尺は9尺3寸で、2間分確認している。軸角度は79.86°西偏する。全長は10.16mである。柱穴の状況から、礎を充填させ柱を固定していたようである。

【24号遺構】(図 109-⑤・⑥) AL-18・19、AM-18区に位置する不整楕円形の遺構である。床面には段や凹み等が多数確認できる。北側は2号遺構に削平されている。その規模は、面積6.60㎡、長軸長3.52m、短軸長2.74mとなる。埋土は4層確認できる。

【40号遺構】(図 109-⑦・⑧) AJ-AK-27区に位置する楕円形の遺構である。西側で33号溝と重複し、本遺構のほうが新しい。長軸長1.62m、短軸長0.72mとなる。断面形は皿状となる。埋土は1層のみである。

【48号遺構】(図 110-①~③) AN-AO-29・30区に位置する不整形の遺構である。床面には凹凸があり、内部で分かれる。西側は調査区外へと伸びる。規模は、面積5.02㎡、長軸長3.55m、短軸長2.36mとなる。埋土は2層のみである。

【62号遺構】(図 110-④・⑤) AS-AT-26・27区に位置する長方形の遺構である。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がり箱状を呈する。規模は、面積2.51㎡、長軸長1.92m、短軸長1.42mとなる。埋土は3層に分かれる。最下層の埋土3層は炭化物を多く含まれ、遺物や植物質遺存体等を多数確認している。

【71号遺構】(図 110-⑥~⑧) AT-24・25区に位置する方形の遺構である。南側で23号溝と接続する。その規模は、面積3.56㎡、長軸長2.19m、短軸長1.86mとなる。床面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。埋土は5層に分かれ、埋土1層は23号溝埋土1層と同じである。

【74号遺構】(図 111-①・②) AQ-24区に位置する不整形の遺構である。床面は南側は平坦であるが、北側は溝状となる。規模は、面積2.48㎡、長軸長1.89m、短軸長1.57mとなる。埋土は3層に分かれる。

【23号溝】(図 110-⑥~⑧) AT-23~26区に位置する東西方向の溝である。中央で71号遺構、西側で24号溝、東側で25号溝と接続する。全長7.07mで、最大幅は0.85mとなる。軸角度は87.44°西偏する。埋土は1層のみである。床面は平らであるが、南北壁で段を有する。

【24号溝】(図 111-③・④) AS-AT-25・26、BA-26区に位置する南北方向の溝である。全長5.81m、最大幅1.02mとなる。軸角度は18.14°西偏する。南側は調査区外へと伸び、東側で23号溝と接続する。北側は、視乱で明確ではないが、25・27号溝と接続するものと考えられる。断面形は逆台形状を呈する。

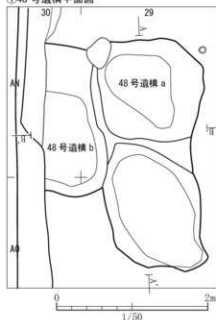
【25号溝】(図 111-⑤~⑨) AR-24・25、AS-23・24・25、AT-BA-23に位置する南北方向の溝である。北側で西側へと曲がる。全長8.74m、溝部最大幅0.63mとなる。南北方向の軸角度は164.85°西偏する。西側へ曲がった後にやや広くなり2方向へと分岐する。北側は28号溝、西側は24・27号溝と接続するものと考えられる。断面形は基本的に逆台形状を呈する。

【27号溝】(図 112-①~③) AQ-AR-25区に位置する南北方向の溝である。全長5.32m、最大幅1.41mとなる。幅が広がる部分は段状になる。軸角度は、5.5°西偏する。断面形は基本的には逆台形状となる。埋土は2層に分かれる。東側北部で29号溝、その南側で28号溝と接続する。また、南側は24・25号溝と接続するものと推定される。

【28号溝】(図 112-④・⑤) AQ-AR-25区に位置する南北方向の溝である。全長3.25m、最大幅0.33mとなる。軸角度は70.94°西偏する。底面は緩やかに湾曲しており、壁は西側が垂直、東側は緩やかに立ち上がる。北側で27号溝と接続し、南側で25号溝と接続していたものと考えられる。埋土は1層のみである。

【29号溝】(図 112-⑥・⑦) AQ-25区に位置する東西方向の溝である。全長0.88m、最大幅0.38mとなる。軸角度は、97.56°西偏する。断面形は逆台形状となる。西側は27号溝と接続し、東側は視乱によって削平されている。埋土は1層のみである。

①48号遺構平面図



②48号遺構 (AN・A029区) 南北土層断面図



③48号遺構 (AN29・30区) 東西土層断面図



48号遺構 a

- 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 径 5mm程の炭化物を僅かに含む にぶい黄褐色粘土小ブロックを含む 径 2cm - 人頭大の礫を含む 鉄分を含む
2. 5Y5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 暗灰色粘土を全体に含む 径 5mm程の炭化物を僅かに含む

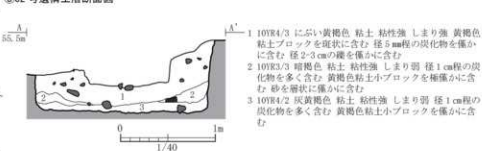
48号遺構 b

- 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 径 5mm - 1cmの炭化物を含む 鉄分を含む 下部はグライ化する
2. 5Y4/2 オリーブ灰色 粘土 粘性強 しまり中 黄灰色粘土を含む 鉄分を含む

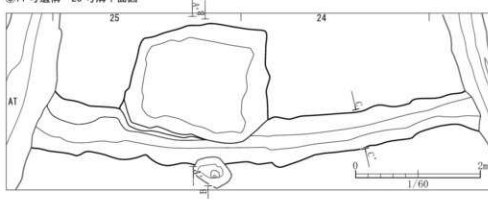
④62号遺構平面図



⑤62号遺構土層断面図



⑥71号遺構・23号溝平面図

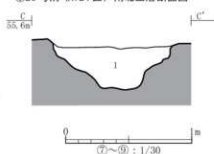


- 10YR4/4 褐色 粘土 粘性中 しまり強 径 5mm - 2cm程の炭化物をやや多く含む 径 1-5mmの円礫を少量含む
- 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまり中 径 1-2mmの炭化物を少量含む 径 3cmの円礫を僅かに含む
- 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり弱 径 2mm程の炭化物を僅かに含む 黄色粘土ブロックを少量含む
- 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄色粘土ブロックを多量に含む 径 1cm程の円礫を僅かに含む
- 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 しまり中 黄色粘土ブロックを多量に含む 径 5mm程の炭化物を少量含む 層と類似する

⑦71号遺構・23号溝 (AT25区) 西側南北土層断面図



⑧23号溝 (AT24区) 南北土層断面図

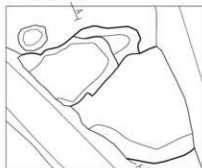


⑧71号遺構・23号溝 (AT25区) 東側南北土層断面図

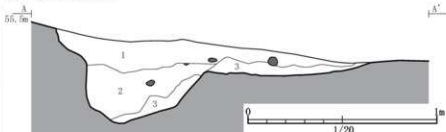


図110 IIIc期の遺構 2  
Fig. 110 Features in phase IIIc (2)

①74号遺構平面図

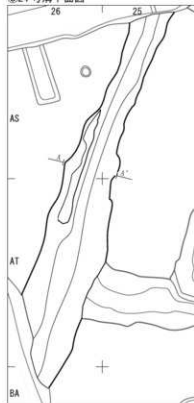


②74号遺構土層断面図



- 1 10YR5/2 灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 明黄褐色シルト質粘土と礫をまばらに含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 明黄褐色シルト質粘土とブロックを多く含む 礫を少量含む
- 3 10YR6/6 明黄褐色 シルト質粘土 粘性やや強 しまり強 灰黄褐色シルト質をまばらに含む

③24号溝平面図



④25号溝平面図



④24号溝土層断面図



- 1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 径5mm程の炭化物を僅かに含む 白色土粒を多く含む 埋土下部に僅かに黄褐色粘土小ブロックを含む

⑤25号溝土層断面図



- 1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり中 径5mm程の炭化物を含む 白色土粒・黄色土粒を僅かに含む 23号溝埋土と同じ

⑦25号溝 AR・AS24・25区土層断面図



- 1 26号溝 (AR・AS-25区) 南北土層断面埋土と同じ

⑧25号溝 AR・AS25区土層断面図



- 1 10YR4/3 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 径3-5mm程の炭化物を僅かに含む 白色土粒・黄色土粒を含む

⑨25号溝 AR・AS-24区南北土層断面図



- 1 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 径5-10mmの炭化物を僅かに含む 白色・黄色土粒を含む
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 砂を僅かに含む 径5-10mmの炭化物を僅かに含む
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり中 径5mm程の炭化物を多く含む 黄色土粒を含む

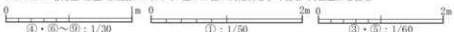
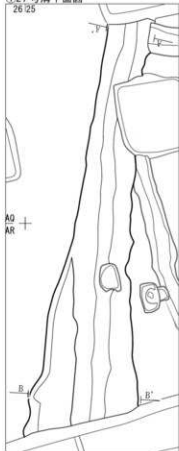


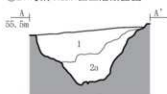
図111 Ⅲc期の遺構3

Fig.111 Features in phase Ⅲc(3)

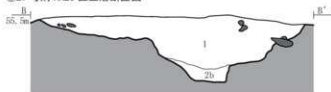
①27号溝平面図



②27号溝 A025 区土層断面図

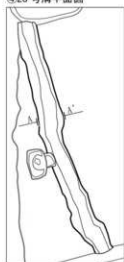


③27号溝 AR25 区土層断面図



- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり中 径5mm程の炭化物を少量含む 径2-5mm程の黄色粘土を円形に少量含む  
 2 黄色粘土の分布状況等により細分した  
 2a 10YR1/4 褐色 シルト 粘性強 しまり強 径3-5mm程の炭化物を少量含む 黄色粘土を斑状に多く含む  
 2b 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 黄褐色・褐色土小ブロックを含む 下部は暗褐色砂が層状に入る 底面には小礫が入る 炭化物をやや多く含む

④28号溝平面図



⑤28号溝土層断面図

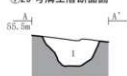


- 1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり強 径1-3mm程の炭化物と白色・赤色土粒をやや多く含む 白色粘土を斑状に少し含む

⑥29号溝平面図



⑦29号溝土層断面図



- 1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土小ブロックを少量含む 小礫を僅かに含む 炭化物を僅かに含む 接続する27号溝埋土1層より若干明るく黄褐色土小ブロックをやや多い



図112 IIIc期の遺構4

Fig. 112 Features in phase IIIc(4)

#### 4. 江戸時代以前の遺構 (図 113)

【23号遺構】(図 114-①~④) AM-18-19、AN-19区に位置する遺構で楕円形を呈する。基本的に落とし穴と考えられる土坑があり、上部の埋土1層は凹みに堆積したものと考えられる。落とし穴の規模は、長軸長1.51m、短軸長1.00m、深さ1.22mとなる。底面に逆茂木を設置したと考えられる小ピットを1基確認している。

【105号遺構】(図 115-①・②) AQ-29区に位置する楕円形の遺構である。東側は18号溝によって削平されている。長軸長1.29m、短軸長0.88m、深さ1.02mとなる。埋土は3層確認している。23号遺構と同様に底面に小ピットを1基確認していることから、落とし穴と考えられる。

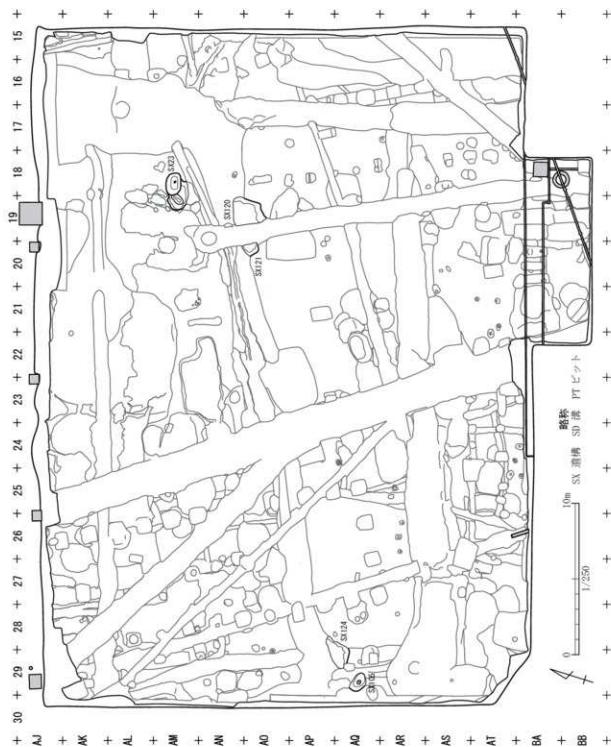
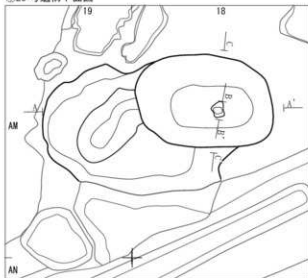
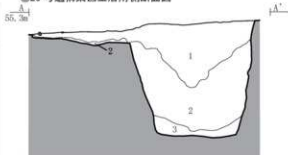


図 113 江戸時代以前の遺構分布状況  
Fig. 113 Distribution of features before the Edo period

①23号遺構平面図



②23号遺構東西土層南側断面図

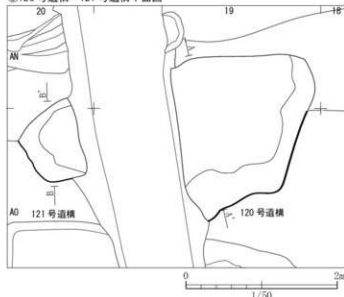


③23号遺構下部ピット南北土層断面図(④23号遺構南北断面図)

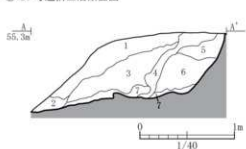


- 1 10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱  
しまり強 黄色粘土ブロックを僅かに  
含む 径3mm以下の炭化物を少量  
含む
- 2 10YR5/6 明褐色 砂質シルト 粘性弱  
しまり強 埋土1層よりやや明るい  
マンガン粒を多く含む
- 3 10YR6/6 明黄褐色 シルト 粘性中  
しまり強 マンガン粒を少量含む
- 4 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり  
中 地山由来の砂を多量に含む

⑤120号遺構・121号遺構平面図

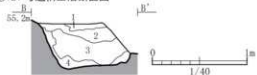


⑥120号遺構土層断面図



- 1 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性弱 しまり強 マンガン粒を少量  
含む
- 2 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土 粘性強 しまり強 黒色土を斑  
状に少量含む
- 3 10YR5/8 黄褐色 粘土 粘性弱 しまり強 やや明るい黄色粘  
土ブロックを斑状に少量含む マンガン粒を少量含む
- 4 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黒色土を斑状に  
多量に含む 径5mm程度の炭化物を多量に含む
- 5 10YR4/6 褐色 粘土 粘性弱 しまり強 マンガン粒を少量含  
む
- 6 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性弱 しまり強 やや明るい黄色粘  
土ブロックを少量含む
- 7 10YR6/6 明黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 地山土のやや  
明るい黄色粘土を多く含む

⑦121号遺構土層断面図



- 1 10YR6/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 褐灰色  
(10YR4/1) 粘土質シルトが境不鮮明に入る
- 2 10YR6/4 に近い黄褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり中 褐灰色斑が上  
部に少し入る
- 3 10YR5/4 に近い黄褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり強
- 4 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強 しまりやや強

図 114 江戸時代以前の遺構 1

Fig.114 Features before the Edo period (1)

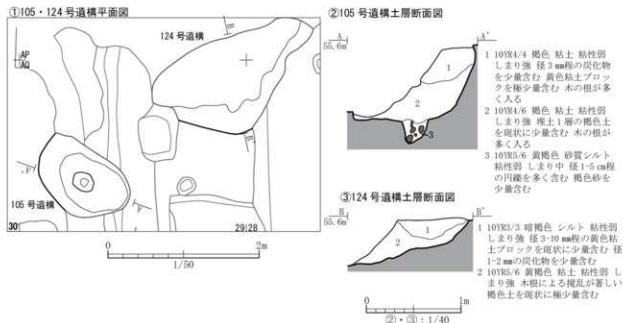


図 115 江戸時代以前の遺構 2  
Fig.115 Features before the Edo period (2)

【120号遺構】(図114-⑤・⑥) AN・AO-19区に位置する不整形の遺構である。北側を2号遺構、西側を擾乱によって削平されている。その規模は、面積3.07㎡、長軸長2.18m、短軸長1.90mとなる。埋土は、地山土を起源とする黄色土で7層に細分した。この埋土の特徴から、時期不明の風倒木の可能性もある。また、西側擾乱を扶んで反対側に121号遺構が位置しているが、形状や埋土の特徴等から同一の遺構である可能性もある。

【121号遺構】(図114-⑤・⑦) AN・AO-20区に位置する方形の遺構である。北側を2号遺構、西側を擾乱によって削平されている。その規模は、面積0.65㎡、長軸長1.13m、短軸長0.87mとなる。埋土は4層に分かれるが、その特徴は120号遺構と同じであることから、時期不明の風倒木の可能性もある。

【124号遺構】(図115-①・③) AP・AQ-28・29区に位置する不整形の遺構である。北側を10号溝、西側を18号溝に削平されている。その規模は、面積1.87㎡、長軸長2.32m、短軸長1.27mとなる。埋土は2層確認した。上部の埋土1層は炭化物等でやや黒い。埋土等は120・121号遺構と同様の状況を示しており、時期不明の風倒木の可能性もある。

## 5. 小結

本調査区で確認された江戸時代の遺構はI～III期に区分した。I期は17世紀代と考えられるが、溝と池が中心となって展開する配置状況となる。とくに沢状遺構-13号溝-19号溝(1号池)という一連の接続する遺構群は、西側山部からの排水を行うと共に、武家屋敷地内の区画を示すものと推定できる。また、Ic期において調査区北側に出現する4・5・7・8号遺構は、明確な証拠がないため単なる「遺構」として取り扱っているが、4・5号遺構の接続関係等を踏まえるならば、これらも連続して接続する池群である可能性も考えられる。

18世紀代のII期には柱列・建物跡が登場するとともに、調査区中央を区切る10号溝とそれに接続する北側溝群、調査区北部を横走る2号遺構の存在は、I期とは異なった土地利用のあり方を示しているものと考えられる。そして、19世紀代のIII期は、これまでの大規模遺構群が無くなり、小規模な溝や遺構群が目立つようになり、そのまま明治期(IVa期・IVb期)の遺構群へと続くことになる。

これらの遺構群の性格や位置づけ等については、遺物の検討を含めた上で、第2分冊にて考察したい。



## 引用・参考文献

東北大学埋蔵文化財調査室・仙台市教育委員会の報告書に関しては、直接引用したものを以外は省略した。

### 【東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書関連】

- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1992 『東北大学埋蔵文化財調査年報』4・5  
東北大学埋蔵文化財調査委員会 1993 『東北大学埋蔵文化財調査年報』6  
東北大学埋蔵文化財調査委員会 1994 『東北大学埋蔵文化財調査年報』7  
東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997 『東北大学埋蔵文化財調査年報』8  
東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1998 『東北大学埋蔵文化財調査年報』9  
東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2006～2010 『東北大学埋蔵文化財調査年報』19 第1～5分冊  
東北大学埋蔵文化財調査室 2011 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点』  
東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1  
東北大学埋蔵文化財調査室 2016 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点』  
東北大学埋蔵文化財調査室調査報告5  
東北大学埋蔵文化財調査室 2017 『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2015

### 【仙台市教育委員会刊行報告書関連】

- 佐藤 淳ほか 2008 『若林城跡-第5次発掘調査報告書-』仙台市文化財調査報告書323  
佐藤 淳ほか 1985 『仙台城三の丸跡』仙台市文化財調査報告書第76集  
金森安孝・渡部 紀 2009 『仙台城跡第1次調査 第1分冊 本文編』仙台市文化財調査報告書349  
佐藤 淳ほか 2010 『若林城跡-第8次・第9次発掘調査報告書-』仙台市文化財調査報告書377

### 【その他の報告書・論文等 (50音順)】

- 阿刀田合造編 1930 『仙台萩』無一文館  
阿刀田合造 1976 (初出1936) 『仙台城下絵図の研究』斎藤報恩会博物館図書部研究報告4 東洋書院  
小林清春監修 1994 『絵図・地図で見る仙台』今野印刷  
笠谷悠子 2011 『仙台城下絵図にみる屋敷拝領者変遷と階層性-川内地区の事例に基づいて-』『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点』東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1 東北大学埋蔵文化財調査室 pp.266-298  
仙台市科学館編 1985 『仙台市地形区分図』仙台市科学館  
平 重道責任編集 1973 『伊達治家記録』二 宝文堂  
平 重道責任編集 1974 『伊達治家記録』四 宝文堂  
吉岡一男編 2005 『絵図・地図で見る仙台 第二輯』今野印刷

RESEARCH REPORTS  
IN ARCHAEOLOGY ON THE CAMPUS OF TOHOKU UNIVERSITY  
No.9 MARCH 2024

The Archaeological Research office  
On the Campus, Tohoku University  
2-1-1, Katahira, Aoba-ku Sendai-shi, Miyagi,  
980-8577, JAPAN

Summary

On the campus of Tohoku University, an array of archaeological sites is acknowledged. Among them, Sendai Castle stands out as the most renowned and expansive. The southern part of the Kawauchi campus is predominantly situated on the Castle's secondary citadel area, while the northern part is positioned on the site of samurai residences.

In Japan, when alterations to existing conditions are required within known archaeological sites, excavation research on the buried cultural properties becomes requisite. The Archaeological Research Office at Tohoku University primarily specializes in performing salvage excavations of archaeological sites within its campus.

This report delves into the findings from the salvage excavations of BK15 (Loc.15 of samurai residences positioned adjacent to the north outer moat of Ninomaru, i.e., the Secondary Citadel of Sendai Castle) on the Kawauchi campus, conducted by the Office in 2012 and 2016.

As the result of the excavation, numerous structures including ponds, ditches, colonnades, and buildings dating back to the Edo period were uncovered. These features of structure are classified into temporal phases I-III.

Phase I is the stage at the 17th century

Phase II is the stage at the 18th century.

Phase III is the stage from the early to the middle of 19th century.